

らる。社領は八箇分限額に二百九十八石二ノ宮領と見え、古來公武の尊卑厚く近世に及びては、寛文十一年社殿の修造ありて、一ノ宮に次ぎてその結構を誇りしも、明治九年火災に罹りて社風灰燼に歸す。社賣中、太刀・刀・豊浦宮法樂和歌紙本墨書、の三點は國寶。例祭、十二月十五日。なほ七月には教法庵と稱する祭儀あり。〔豊功神社〕大字豊浦に鎮座。祭神、毛利秀元・同光廣・同元矩、同國廣・同國政以下一族ノ柱。もと豊浦藩主毛利元敏の祖先を祀り、明治十年の創建。秀元は元就の第五子藤井田備中守元清の子にて輝元に養はる。天正十八年に從四位下左京大夫、のち正三位參議となり、慶長二年二十萬石に分封、關ヶ原役に西軍に屬して滅封され、のち此地に移り慶長三年七十二にて卒す。嫡子光廣嗣ぎて和泉守となり國持格に準ぜらる。爾來相嗣ぎて元矩に至り封除され、其後區廣つぎしが寛延四年宗家絶え、區教入りて襲ふ。例祭、十一月七日。〔乃木神社〕。縣社。國民崇徳の的たる故陸軍大將乃木希典を祀る。將軍は受府毛利藩士乃木十郎の子として生れ、當社の社地は實に其の舊邸の跡なり。社領に狭隘なるその故宅ありて、以て乃木將軍幼時の生活一轍を彷彿するを得べし。〔龜山八幡宮〕大字神宮町龜山に鎮座。祭神、神功皇后・神皇天孫・應仁天皇・仁德天皇・神功皇后。前面關門海峡に臨み、社殿は大内義

隆の修造するところ。例祭五月一日より三日間。古式により五穀祭ありて股盛を極む。〔中山神社〕。舊川上村被褥木宇將ヶ原に鎮座。縣社。幕末に際し、回天の偉業を畫策せる明治維新の元勳の一人、故關四位中山忠光を祀る。文久三年八月十八日の京都の政變後、三條實美以下七朝の長藩へ奔れるや、之に従ひ、尋いで大和に義兵を擧げ各地に義兵と戦ひ、敗れて長藩に至り畫策中、翌元治元年同藩俗論議のため豊浦郡田井村にて刺殺さる。年二十二。遺體を將ヶ原に葬る。〔櫻山招魂社〕市の西方、上新地町にあり。元治元年正月高杉晋作在世の時、外艦砲撃の際の戦死者の墳墓を設け、慶應二年七月更に四境戦に戦死せる騎兵隊、報國隊の諸士を合祀し、のち更に吉田松陰・高杉晋作等志士の靈をも祀る。明治五年明治天皇行幸の禮、侍位を遣はされて金幣を賜ふ。碑あり、その銘は山縣有朋公の撰にかゝる。〔明治天皇墓〕尾山小休所址。指定史蹟。大字松野字萩ノ尾にあり。明治三十五年十一月明治大帝陸軍特別大演習御統載に熊本殿下に行政あらせられ、還幸の御途次同月十六日、府行在所より火の山砲臺へ行幸、御召更のため御小休遊ばせられ、周囲に櫛を繞らし中央に記念碑を建つ。〔明治天皇府行在所〕指定史蹟。毛利元敏邸にあり。明治三十五年熊本行幸の際、十一月九日及び十五日御泊せられ給ひし聖蹟にして、

舊蹟よく保存せらる。明治天皇行幸所六達島燈臺。指定史蹟。明治五年、天皇近畿中國九州行幸の際、六月十二日下關大倉波止場より御乗船し六達島燈臺を御巡覽あらせらる。因に六達島燈臺は明治四年十一月の設置にて、白色圓形石造、燈質四白光毎十五秒一閃色、先達距離十丈・五哩に及ぶ。〔長門鐘所址〕指定史蹟。覺苑寺境内及び隣接地に於て、鐘錢基と呼ぶ小山の東麓傾斜面に位置し、地下約六〇釐の箇所より和銅開寶をばしめ、土製錢范、埴埴、埴埴等の破片、灰及び木炭小片、多量出土す。即ち和銅以來の鐘錢所(鐘錢司)遺址たり。〔六達島の雲母玄武岩〕指定天然記念物。下關の西北約五海里なる六達島にあり。島は第三紀層及び之を貫きて噴出せる玄武岩の熔岩凝り成る。此地の玄武岩は多孔質にして、その空腔内に雲母の一種なるアノイマイトの美晶を産す。該雲母は玄武岩の一部分をなせるものにして六角の薄き鱗狀結晶をなし、結核角の二三點を以て僅に空腔の側壁に附着せる狀頗る奇なり。また空腔内に雲母の外、黒色角閃石の美晶なる針狀結晶を有することあり、共に玄武岩として甚だ稀に見る現象にして世界的に其の名を知らる。〔横野柿原樹〕指定天然記念物。史蹟。安岡町横野の新井氏邸内にあり。樹は住宅の傍、竹藪内に立ち、根廻り約二米。地上一米半の周圍約一米半、地上凡そ二米七にして

東西の二支幹に分かれ、樹高約一米。本樹と少しく離れて東方の塲内になほ一株の柿樹ありて、また横野柿の原樹なりといふ。傳ふる所によると、この原樹は百餘年前より現在地にあり、晩熟の良果を産するを以て知られ、遠近に栽培されるに至れりといふ。〔滿珠樹林・干珠樹林〕指定天然記念物。滿珠及び干珠は豊浦の神合にある二小島にて、兩島とも樹林を以て蔽はれ、前者を滿珠、後者を干珠といふ。干珠は滿珠に比して幅員大きく草木の種類亦多し。樹種は暖地のもの最も多く、はまねんたん・ばくちのき・はまびば・いすのき・くろかねもち・ほるとのき等に依りて代表せられ、樹下は暖性の灌木、草木繁茂す。蔓植物また多く、はまにんどう・なしがら・さくらんぼ・さかきがら・おほつづらぶち・ふうとうがらの類樹幹に巻き着きて繁殖す。〔埴之浦〕市の東部長府町に通ずる海岸道路に沿ふ浦浦一帯にして、對岸は門司市の和布刈と相對し、急潮矢よりの迅き早瀬海峡に面す。古くは浦浦又は浦浦とも書く、昔この海邊に豊浦關及び下關關ありしに由りて、地名を關と呼び、轉じて、埴の浦と書せしものと思はる。壽永の昔、二位尼が美和の帝を奉じて入水せる海は御雲龍川の注が附近といはれ、この川は今もなほ其の河跡を存し石碑を以て之を示せり。或は曰く、石碑の位置は古へのものと異れりと。また元

治元年、長藩の高杉晋作が率ゆる騎兵隊が命を奉じて美・米・佛などの聯合艦隊を遊撃せし處も此の地に屬す。〔日和山〕下關縣前にある山邱公園。大正十五年五月皇太子殿下行啓記念として市によつて設けらる。山上樹多し、眺望絶佳、單に花季のみならず、四季の遊覽に佳し。今また高杉晋作の銅像を設けす。〔外浦遊園地〕長府町の海岸白砂青松の間にあり。該地は一帶に遠淺にして、海水浴場たるに適す。この南端の小邱は圓見臺と呼ばれ、もと長府藩使の別荘なりしが、山陽電氣會社これを借用して外浦遊園地とし、公衆に開放せり。娛樂一切の設備あれば、子女の來遊するもの頗る多し。〔城山〕市公會堂のあるところ。豊臣秀吉征韓の軍を出せし時、ここに城櫓を築きしといはる。邱上に芭蕉の「夏草やつばものどもの夢のあと」の名句を刻せる碑あり。〔武久海水浴場〕市の西北方玄海灘に面せる武久町の海岸に設けらる。白砂青松の海濱にして、風光極めて美しくまた遠淺にして最も海水浴に適す。市費にて浴場の設備整ひ、夏期には浴客の來集多し。〔大内義長の墓〕上記、功山寺の後山にあり。五輪塔を残存すれど、銘なし。義長は弘治三年、且山城陥り、功山寺に入りて自殺し、ここに埋葬せらるるといふ。〔平家の墳墓〕赤間宮より紅石山に上る處に十四基の墳墓あり。自然石に青苔の深く蔽ひし古色蒼然たるものに

して、二位尼・平教盛・加盛・教經・經盛・實盛・有盛・清經・忠孝(一説に忠房ともいふ)・登俊・清顯・景經・忠光・家長の墓とす。平家滅亡の際、埴の浦にて入水せし平氏一門の主なるを敢め此處に墳墓を建てしものといふ。〔長門城址〕長府町にあり。二城址ありて共に天智天皇即位三年に築く所。その一は大唐橋、他の一は小唐橋といひ南北相對す。後代に至り、文治元年土肥實平は後者に陣取りて平氏の餘類を誅し、同年三月二十四日源平埴之浦の決戦後、源義經は前者に陣取り、以て平氏の殘黨を追捕せりと傳へらる。〔土肥山城址〕侍町の西字土肥山にあり。埴之浦の戦後、土肥實平この山を居城すといはれ、觀應の頃に厚東太郎武道の據る所となり、永和四年八月、相良遠江守武盛等の爲に攻略せられしより、爾來、遂に廢墟に歸すといふ。〔埴崎城址〕宇宮崎にあり。もと埴山といひ、また其地は埴崎八幡社の存するため、一にこれを埴崎城とも稱す。貞和五年、黒川近江守貞信在城し、その後大内氏の區、内藤隆春、また之を居城とす。慶長七年毛利秀元の長府に入るや、再築して居城とせしも、同十一年一國一城の制となりしを以て城を廢し、爾來、長府藩侯の居館その跡に設けらる。舊城の石礎、今なほ各所に殘存す。〔春帆樓〕阿彌陀寺の西に隣り、下關一流の旅館建築なり。今は太平山公園と共に林平

四郎氏の寄附行爲によつて財團法人共榮會に提供し、請負方法によつて經營せらる。位置高臺を占め水陸の眺望に富む。明治二十八年一月日清講和談判場たりしところにして、同年四月十七日下關條約(被免の全權委員に李鴻章・伊藤博文・陸奥宗光等、春帆樓に會して折衝、同四月に至り清國の朝鮮獨立保證、遼東半島その他割譲・楊子江沿岸開港等十條の條約を結び、亦いで五月七日批准書の交換を終る)は當旅館に於て締結せらる。今なほ毎年四月十七日には記念のため市に於て保存せる當時使用の器具一切を當時のまま装置展示し、一般の觀覽に供す。大正十五年五月には、皇太子殿下當館に行啓、親しく古覽あらせらる。眺望甚だ佳花月夕の好遊地とす。〔外經砲臺場址〕文久三年幕府攘夷の令を布くや同五月、山口藩は米・佛・蘭の艦船を下關に擧擧し、翌月米・佛・軍艦の反撃に會ふ。幕府その責を避けて解決せざる約一歳。英佛米蘭の四國は遂に自力脅威を決定し元治元年八月、聯合艦隊を以て關門に迫り砲臺を悉く破じ、爰に於て同十四日和を講じ、賠償金支拂その他條件を締結して局を結ぶ。世にこれを下關事件といふ。この事件に於て毛利本藩及び長府藩が施設せる海岸砲臺は、長府・下關・彦島等に亘りて十有餘箇所の多きに達す。その長府に於けるものは當町の西南海岸にあり。當時藩兵及び騎兵隊砲臺

の跡を認ぶを得べし。〔小門〕下關縣より西約三軒、伊勢町の盡くるところにある。壽永の昔、平知盛の城を築きたりといふ天城山の背ひ、翠峰の如き彦島と僅かに二〇〇米を隔てて相對し、奇岩突兀、兩岸相迫り、潮流一時間に四湮餘、干潮時には急激岩を阻んで玄海灘に注ぐ光景壯觀を極む。夏秋の月なき夜、漁舟を出して松明を焚き火光に集まる魚類を網すること、當漁戶の名物にして世に之を「小門の夜燈」といふ。最近已に漁戶を埋めしかば、この一名物も失はれんとするに至れり。〔四王河山〕一に四王寺山とも書す。長府町の西北に聳ゆる高峰にして、茲に厚東氏の城址あり。正平年間大内・厚東兩氏の古戰場なりといはる。山上に毘沙門天を祭る。古來靈驗あらたかりとて參拜者多し。〔國分寺址〕長府町の西北、宇田中にあり。崇武天皇天平九年の開創に屬し、後醍醐天皇の御宇、また伽藍再興せられ、大内氏の時これを祈願所となし、毛利氏に至り、歴代また崇敬篤かりしが、今は寺址を残すのみとなる。〔覺苑寺〕黄檗宗の名刹。開山は唐僧悅山和尚なり。寺地に櫻樹多し。花季には櫻の障道と稱し、遊覽者多し。〔永福寺〕觀音崎町にあり。後醍醐天皇の御宇、嘉暦年中、京都南禅寺第三世慈均禪師の草創に係り、應仁元年には官命を帯びて明に使ひせし桂庵禪師も茲に住せりといふ。寺内に室町時代の佛師、雲

慶所作の千手観音を本尊とせる観音堂あり。その堂宇、國寶に昇格し、作といはれ、室町初期時代の構造手法にして、輪奐の美を呈す。(福泉寺) 眞言宗高田派。豊前田町にあり。行基菩薩所作の聖師如来を安置す。境内に桃樹多く花季行樂の名所とす。(功山寺) 長府町の土肥山にあり。淨土宗。もと谷長福寺といひ嘉暦二年の創建にかゝる。臨濟宗に屬せしが、慶長年間毛利秀元は現宗に屬せしめ、秀元卒去の後、その法流を取つて功山寺と改稱し、爾後、世々毛利氏の菩提所たり。佛殿は四百餘年の古建築にして特別保護建築物として指定さる。當寺は三條實美以下の七轉落、及び高杉晋作の義兵などに關し、種々の歴史を護せり。寺境には見事なる枝垂櫻あり。櫻花の頃には市民の杖を曳くもの甚だ多し。(専念寺) 西南郡町にあり。時宗。長樂山と號す。寺傳に推古天皇十九年百濟聖明王第三子琳聖太子の開基に係る。應永七年尊親法親王諸國遊化の途、此處に遷去あり、仍て當寺に御廟を營む。のち大内・毛利兩氏寺額を寄せ堂宇を改修する等其保護厚し。寺寶中木造藥師如来立像一軀は國寶にして藤原初期の作に係る。(引接寺) 外濱町にあり。淨土宗。圓龜山と號す。文祿三年忠譽徳一の開創に係る。三十一世禮譽、萬里小路家驥子となり華頂宮より院家の稱を賜ふ。明治二十八年日清協和の調停使李鴻章等の泊所に充て

らる。(下關海峡) 關門海峡・馬國海峡ともいふ。中國と九州との間にある狭水道。東北—南西に走る地盤の斷層に沿ひて行はれし海蝕作用に原因し、長さ約一三軒、可航部の幅約二〇〇米に過ぎざる所あり。東口は中國の串崎と九州の部崎との間に於て幅約三軒餘、西口は彦島・巖波島等浮びて關門を塞ぎ、更に彦島により南北の二海峡を分ち南を大瀬戸、北を小瀬戸といふ。最後所は下關市境ノ浦と門司岬との間の早瀬の瀬戸にてその幅僅に六〇〇米にすぎず。瀬戸内海の西の狭水道なるため大潮時には七海里、小瀬戸にても三海里の激潮を起す。海底の地質は中國側にては中世代に屬する赤間關領石層にて頁岩・砂岩・凝灰岩・砂岩等互層をなし、また九州側にては主として花崗岩發達す。この兩岩質の境界線に沿つて石英斑岩噴入し、その中に粉岩の岩脈貫入す。これ等の諸地層は斷層破砕作用によりて帶狀の凹地を作り、この凹地が關門海峡に相當する地質學上一種の地溝と稱すべきものなり。なほ地層を對比すれば海峡と同一方向に延ぶる大小數多の斷層發達し、その發達は斷層角礫岩の軟弱地帯を生ず。北岸に下關市、南岸に門司市の雙児都が渡場町的都市として繁榮す。關門連絡船は毎日數十回往復し、その他朝鮮・支那・印度・歐西等との内外の重要航路ここを通過し船隻常に輻輳す。而して客貨の増加率は逐年等比數數

的となり、船舶の交錯による危険を防除するため省線は下關より彦島に渡り海底に隧道を穿ち、對岸門司市大里町にて鹿兒島本線に直接通ずる關門連絡鐵道トネルは昭和十一年より五箇年計畫にて工事が進められ、更に最も狭き早瀬瀬戸に海底隧道計畫を立て内務省は昭和十二・十三の兩年その關門連絡鐵道トネルを調査中なり。

字殿村は下保の本郷にして昔は茶・櫻草・桑・綿を産せり。(天正寺) 臨濟宗妙心寺派。徳島山と號す。開山燈外宗普和尚は丹波普賢の三男にして瑞林寺雲叔和尚の徒弟たり。初め一草庵なりしが、加藤清正深く和尚に歸依し寺額を寄す。豊臣秀吉天正の二字を賜ひ徳島山天正寺と號す。秀吉征韓の軍を起すや和尚從軍し船中にて參禪し備後瀬の津に設す。のち衰頹せしが、瑞林寺七世傳宗和尚之中興す。本尊聖觀音は靈驗顯著なりとて賽者多し。(日龍寺) 古義眞言宗。高澤山と號す。當國世三所中第廿五番札所、俗に高澤觀音と稱す。仁徳天皇の朝、飛騨國野寶の巖窟より出生せる兩面四手の聖人當地深山に棲む神龍を征伏す。此事上聞に達し、勅して一字を削じ日龍と號せしめ給ふといふ。後年僧行基來りて之を造營す。降りて建久年間鎌倉幕府政子之を修復して八十町の地を寄す。のち兵亂に遭ひて堂宇悉く炎上し今は僅に多寶塔・國寶のみ昔日の面影を残す。現に高野末たり。

同十年十月秋田縣に合併せらる。同十七年官廳戸長を置き役場を長濱村に設け、同二十三年六箇村を合し下濱村と稱し、役場を羽川に移轉し現在に至る。羽川橋あり應仁年代羽川次郎なる者此の地を領せり。天正十六年赤尾津九郎の所領となる。羽川の如意山球林寺の開山は道元禪師にして今より四百數十年前なり。山上に金比羅宮あり、境内は村里を離れ、古木々々として繁り畫境暗く、三十三番の觀音は山門脇にあり、長濱觀音あり、本堂は十一面觀音にて一層上人御影の折、濱の寄木に佛像を彫刻せしものといふ。觀音は産婦の乳に効驗あり、嘗て龜田藩主岩城公の乳母乳袋を奉り祈禱せしに非常に効ありしかを以て、濱三反歩を獻ぜらる。本殿寺・成辰役古戦場等あり。

有す。此地は木曾川の作れる尾北扇狀地の一部にして南部には木曾川西流し、扇面は砂地に於て扇型に利用せられ、水田はその間に挿入し、蔬菜の産額多し。木曾川沿岸には幾重なる堤防築かれ堤外地は扇園となる。東海道本線村の西部を南北に通じ木曾川鐵橋を渡す。此地は和名抄葉栗郡河沼郷に屬し木曾川の卑濕地なりしもの如し。大字圓城寺は藥師寺の東にありて門前庄といふ。專養寺は圓城山と號して淨土宗西山派に屬す。稱名寺は淨土宗東本願寺の直木寺にて河野九門使の一なり。河野九門使とは慶應二年羽軍郡の農民九人稱上人に歸依して薩髮して僧となる。上人は親覺上人の眞筆を一幅つづ九人に賜ひたるに起ると。文明二年蓮如上人伏屋に草庵を結び祖師の像を安置し、九門使に命じて輪番たらしむ。其後門使は離散し東西二派となる。祖師の像は印食の専光寺に安置し西派となる。また西徳寺も東本願寺の直木寺にして、河野九門使の一なり。また野々垣源兵衛代々圓城寺奉行として木曾川川並筏等を支配せり。川並方手代同心約甘名附屬し番所を守る。役宅は吉田・鶴沼・神明津・北方の四箇所にあり、下役船番船改めをなす。館址は鐵橋の北二三町木曾川に沿うて存す。川中島・河田島の二枝郷あり。米野の地には米野の渡ありて庚子の役にも池田顯政この渡津を奪ひて北上せり。江川の地は米野の西にあり、

慶長十一年六月三日の大水に江川・平島邊にて堤が決潰し、同十七年四月二十九日にも所々崩れ、元和五年にも切れ、慶安三年九月には江川邊にて大いに崩る。之を枝廣大水といふ。承應二年にも切れ非常に水害の多き所なり。

接す。東端に國見山(一一二米)ありその山腹下に延び小分水嶺をなし、雜物川の一小流は國見山の南斜面に發して東南に流れ、東南山地に發する鮎川は丘陵を浸蝕し西北に流れ日本海に注ぎ、沿岸に僅に低地ありて耕地拓く。地質は第三紀層に屬し凝灰岩よりなり、中に含油層なる砂質凝灰岩を介在す。田地・山林は各各半し、原野甚だ大なり。自作農多し全農業戸數の三〇%を占む。海岸に面するも漁業専業者は只一を算するのみにして漁獲高も僅かに三千圓に過ぎず。従つて本村は海岸地帯を占むるも漁業に依存することなく農業によりて生活を支持す。農産物は米の外麥(大麥・裸麥・小麥・燕麥)共に行はるるも小事最も多し。甘藷・西瓜・苜蓿の栽培も行はれ、麥類と共に秋田縣に於ける特色ある産物なり。大根其他の野菜の生産もあり。大正八年頃本村北西部海岸の大字桂根部落の約二軒東方より噴油、由利油田の一にて日本石油會社の經營に屬し、相當の産額を示せる。漸時衰へ、今は昔の面影を止めず産額も微量となる。海岸沿ひに南北に省線羽越本線を通じ、大字羽川に下濱驛(大正九年設置)を置き、酒田街道また之に沿うて走り秋田市にパス通す。本村はもと羽川・長濱・桂根・名々澤・八田・楡田の六箇村にして由利家の所領たり。その後赤尾豊前守及び本田上野守、岩城家の藩領に屬す。明治四年廢藩置縣により龜田縣となり、

同十年十月秋田縣に合併せらる。同十七年官廳戸長を置き役場を長濱村に設け、同二十三年六箇村を合し下濱村と稱し、役場を羽川に移轉し現在に至る。羽川橋あり應仁年代羽川次郎なる者此の地を領せり。天正十六年赤尾津九郎の所領となる。羽川の如意山球林寺の開山は道元禪師にして今より四百數十年前なり。山上に金比羅宮あり、境内は村里を離れ、古木々々として繁り畫境暗く、三十三番の觀音は山門脇にあり、長濱觀音あり、本堂は十一面觀音にて一層上人御影の折、濱の寄木に佛像を彫刻せしものといふ。觀音は産婦の乳に効驗あり、嘗て龜田藩主岩城公の乳母乳袋を奉り祈禱せしに非常に効ありしかを以て、濱三反歩を獻ぜらる。本殿寺・成辰役古戦場等あり。

同十年十月秋田縣に合併せらる。同十七年官廳戸長を置き役場を長濱村に設け、同二十三年六箇村を合し下濱村と稱し、役場を羽川に移轉し現在に至る。羽川橋あり應仁年代羽川次郎なる者此の地を領せり。天正十六年赤尾津九郎の所領となる。羽川の如意山球林寺の開山は道元禪師にして今より四百數十年前なり。山上に金比羅宮あり、境内は村里を離れ、古木々々として繁り畫境暗く、三十三番の觀音は山門脇にあり、長濱觀音あり、本堂は十一面觀音にて一層上人御影の折、濱の寄木に佛像を彫刻せしものといふ。觀音は産婦の乳に効驗あり、嘗て龜田藩主岩城公の乳母乳袋を奉り祈禱せしに非常に効ありしかを以て、濱三反歩を獻ぜらる。本殿寺・成辰役古戦場等あり。

紀勢西線通じ、芳養野(昭和七年設置)あり。中世は湯淺氏の所領たり。芳養野の内なり。治城址あり湯淺氏の居城なり。

シモハヤカワ 下早川村 新田郡越後國西頸城郡の中郡。早川の下流に沿ひ、糸魚川町の東方約七軒。東南は上早川村に、西北は大和川村を距て日本海に近し。飛騨山脈の北端部。焼山山塊の西北山裾を占む。早川は東より西北に流れ、下流の谷は多少の沖積平野をなす。河岸の段丘状の傾斜地及び平地は田地よく折れ末を産す。谷沿ひの區道は北陸道より分れ、湯川内方面に至るものなり。省線北陸本線尾根敷驛は西北方約四軒にあり。古くは和名抄、頸城郡沼川郷に属せしものか。中世以降上早川村と共に単に早川谷と稱せらる。

シモハヤマ 下牛山村 高知縣土佐國高岡郡の中郡。北は尾川村、東は牛賀野村を隔て佐用町に對し、東は多ノ郷・上分の二村を隔てて須崎町に對し、西は大野見・上半山の二村に界す。西北隅の高約一〇〇米餘の山地を始め北部は東西に互り高峻なる山岳連なり。中央部に向つて急斜し、南部も數百メートルの山岳連なりして中央部に向つて傾斜す。兩山地間の谷は東西に連り新田川流れて流域に平地を開く。山地は林産物豊富にして用材・薪炭材の外製紙の原料として三極・楮を産す。平地は田畑よく折けて米麥及び蕎麥を出し、山麓は牧場をなす。

シモハラダ 下原田村 岐阜縣美濃國惠那郡の南端。土岐郡多治見町の東方約二三軒、北は上村に、南は愛知縣北設樂郡稻橋村に、西は中原村に夫々相隣接す。花崗岩より成る木曾山地が連なり、斷層によつて南北が切れ、上村よりは上村川が西南方に流れ、本村中部にて直角に南東に方向を轉じ、また根雨川は稻橋村より西北方に進み、本村南端にて直角に西南方に轉じ境界をなす。兩川は皆斷層谷と思はる。根雨川と上村川は南部にて合流したる名倉川と合す。流域には僅かに耕地・桑畑が開け米・蕎麥・木村の外に木炭・藁藁等を産す。根雨川の谷には飯田街道、上村川の谷には岩村街道通じ、明知町に出づれば省線明知線の明知線あれども、交通はなほ未だ不便なるを免れず。此地は和名抄、惠那郡下郷村名は漆原村・下村・小田子村三村合併し各村の一字をとり下原田と稱す。漆原に

新田川左岸に並行して東南方須崎町より縣道より西隣上牛山村にゆく。縣道に沿ふ山崎郡落石村の中央部にあり主邑をなす。此地は延喜年間藤原經高が津野庄の領主となりし以來、慶長五年親忠の滅亡に至る迄二十餘代六八〇年間津野氏本據の地となり、この地方文化政治の中心地たり。明治二十二年飯野々・新土居・三間川・糠川・西谷・久保川・永野・貝川の八箇村(いま何れも大字)合して本村を置く。津野氏の城は大字飯野々にあり。この土居を主城とし須崎城を支城とす。津野氏は藤原氏琵琶大臣仲平の裔、仲平の子新左衛門經實、元慶三年越前國今立郡山内に居り山内を氏稱す。經實の子津野藤人經高延喜十三年伊豫國に配せられ浮穴郡川上山内に居す。のち土佐國に來り牛山土居を治めここに居城す。吉野時代武家方に屬し日下の三宮氏等と共に各所の官方と戦ひしこと古文書に見ゆ。永正十四年津野元實・一條氏と戸波村惠良沼に戦ひ死せしこと最も著る。のち數次の戦闘を経て天文十五年津野基高途に一條氏に降る。元龜二年定勝に赤井長曾我が元親に降り、次いで元龜の三男親忠を養子とせしむ。慶長五年親忠横死し津野氏亡ぶ。分限領によれば家臣に分與せし領地牛山・楊原等に及ぶ。山麓に御乳屋敷・帶刀屋敷・鞍馬屋敷・下元屋敷・千丸丸屋敷・橋本屋敷・御弓場・西丸屋敷・長深井波守屋敷等の別荘の邸地字名清水といふ。

シモハ——シモフ

に渡り、山上には高濑・殘臺の地存す。「春日神社」大字永野に鎮座。郷社。祭神、建御賀豆智命、伊波比主命、天兒屋根命、比賣大神。傳説に宮部羽山(の城主津野家の祖先山内藤原經高宿願のこゝとありて奈良の春日神社を勧請創祀せしものといふ。例祭、五月十四日。「三島神社」大字飯野々に鎮座。郷社。祭神大山積大神。例祭、六月二十八日、十月二十八日。「片岡孫五郎」本村の郷士。勤王の志を有し文久二年武市瑞山に同盟し同三年前主客堂に講し學問を論ず。元治元年長州に滑りし、七朝に講し藩情を告げ、其の間家産を蕩し、同志の奔走を助け窮を救ふ。贈正五位。

シモハラ 下原 〔下原村〕岐阜縣飛騨國益田郡の南端。岐阜市の東北方約四一軒、北は中原村に東は加茂郡佐見村に、南は西白川村に、西は武儀郡金山町、郡上郡東村に接す。古生層より成る美濃山地の中央にありて東境には高天良山(九〇八米)聳え、村の中央を益田川(飛騨川)曲流し南に下る。この益田川の谷は飛騨路として唯一の交通路にて、益田街道は此谷を通り、高山本線は此地にては左岸を走り、本村大字大船渡に飛騨金山驛(昭和三年設置)を置く。産業としては農業は根はす林業に依存し、木材・木炭を産す。本村附近は和名抄、益田郡秋秀郷の地にて、中世は下原郷と稱せられ、今の上原・中原及び下

シモヒサカタ 下久堅村 長野縣信濃國下伊那郡の中郡。天龍川の左岸。飯田市の南東方約五軒。東北は高木村、東南は上久堅村、南は能仁村、西は天龍川を境に能仁村・松尾村に各隣接す。東方は現山・卯月山(一一〇二米)の西北の山裾を占め、河岸の段丘上には桑園多く養蠶を主産業とす。飯田市より村内に入る二條の縣道あり、隣村上久堅村にて合し、東南方に走り秋葉街道となる。對岸を社線三信鐵道北經通じ、我科驛に近し。本村はもと上久堅村と共に一村にして久堅村と稱せしが、のち上下の二村に分る。いま下久堅(虎岩の二大字)となる。大字虎岩は諏訪知久氏の族、額高を祖とせる虎岩氏の出でし所。「文永寺」新義眞言宗智山派。南原山密乗院と號す。龜山天皇の御宇感疫流行の際、文永元年此地に勅使下向あり。陸奥法印に命じ、一寺を創し年號を賜ひ寺號となし勸願所とせらる。のち本郡神の峯城主知久信貞に勅し寺田若干と永錢千貫文を賜ふ。圓宗教度勅して之を修葺または再建せしむ。慶安二年徳川幕府より草高七十五石並に

〔春日神社〕大字永野に鎮座。郷社。祭神、建御賀豆智命、伊波比主命、天兒屋根命、比賣大神。傳説に宮部羽山(の城主津野家の祖先山内藤原經高宿願のこゝとありて奈良の春日神社を勧請創祀せしものといふ。例祭、五月十四日。「三島神社」大字飯野々に鎮座。郷社。祭神大山積大神。例祭、六月二十八日、十月二十八日。「片岡孫五郎」本村の郷士。勤王の志を有し文久二年武市瑞山に同盟し同三年前主客堂に講し學問を論ず。元治元年長州に滑りし、七朝に講し藩情を告げ、其の間家産を蕩し、同志の奔走を助け窮を救ふ。贈正五位。

原村の地を含み、村名はその遺稱なるべし。明治頃も下原村と呼び更に以上三村に分割せらる。此地の益田川の谷は中山七里といはれ、絶景を以て天下に喧傳され、奇岩怪石立並ぶ。金山驛の北にけ渡水區域八軒に互る一大人造湖あり、これ岐阜電力金山發電所の取水口のダム湖にして夏は遊覽客多し。ダム湖北岸には小學校あり。この地は天正年中領主金森法印長近が京師へ参觀の往復に宿泊せる旅館跡たり。又この附近には御番所の松と云へるあり。これ徳川時代飛騨の明喚を扼する地なりしため御番所を設け、地役人を定番に命じ通行の人物を改むるは勿論、國産に對しては運上を納めしむ。廢藩置縣の際に引揚げ今はこの老松により僅かに名残りを留むのみ。無頼長蛇の如き飛騨街道の難所難所として入る遊り石重疊する所を眺め、中原村に入る遊りは驚愕と呼ばれ、紅葉の名所として知らる。所謂驚愕の紅葉は富地方自生の楓とは異りその葉が極めて細く新緑の美げ固より紅葉時は絶叫といふべく、正に南嶺の山紫水明の地たり。「八幡神社」大字中津原に鎮座。郷社。祭神應神天皇。社傳によれば往古仁德天皇の御宇六十五年當國の賊兩宿禰征討として、藤波根子武熊の勳を奉じて之に赴くに及び、過ぐる所の官道處々に先帝の尊靈を奉祀す。蓋し中津原は當時の官道なるが故に其なるべしといふ。例祭四月五日。「玉龍

〔下原村〕岐阜縣飛騨國益田郡の南端。岐阜市の東北方約四一軒、北は中原村に東は加茂郡佐見村に、南は西白川村に、西は武儀郡金山町、郡上郡東村に接す。古生層より成る美濃山地の中央にありて東境には高天良山(九〇八米)聳え、村の中央を益田川(飛騨川)曲流し南に下る。この益田川の谷は飛騨路として唯一の交通路にて、益田街道は此谷を通り、高山本線は此地にては左岸を走り、本村大字大船渡に飛騨金山驛(昭和三年設置)を置く。産業としては農業は根はす林業に依存し、木材・木炭を産す。本村附近は和名抄、益田郡秋秀郷の地にて、中世は下原郷と稱せられ、今の上原・中原及び下

シモヒロカワ 下廣川村 福井縣越前國八女郡の西北部。久留米市の南方約四軒に位し、西南は羽大塚町に接し、南は岡田村に隣り、東は廣川村に界し、北は三井郡上津波本村に、西は三井郡荒木村に接す。面積八・七八方軒。北部に五〇米程の臺地ある外は筑紫平野沖積低地東部を占め土地平坦にて中央に筑後川支流西北流す。本村よく折げ肥後米の産多く、麥・粟・甘藷・黍・稗等をも産す。街道西境に沿ひ北方久留米市より南方羽大塚町を経て西南方瀬高町方面へ通じ、之より道路沿れて東南方へ向ふも數軒あり。西隣荒木村に省線鹿兒島本線南北に走り西北約三軒に荒木驛あり。此地は上廣川・中廣川二村と共に和名抄上妻郡太田郷の地なるべし。明治四十四年秋奉特別大演習の際、明治天皇陛下に於て十一月十四日大字藤田の地に行幸あらはれ親しく御馳馬遊ばさる。いま明治天皇藤田御立所として指定史蹟たり。「石人山(石神山)古墳」大字一條にあり。丘陵を利用して築かれたる前方後圓墳にて西面す。長さ約八五米、土壘及び障址遺存せり。後圓部の頂上より二米餘の下部に家形組合せの石棺半ば發掘露出す。長さ約二・五米、幅一米、高さ一米餘あり、蓋の前後に各突起を有し、其前面の一箇に獅子頭と稱せらるる人面様の彫刻あり。後面の屋根傾斜面に直弧線の彫刻

が現れ、石室のへぞ石の壁に存す。棺身の前面に方形の窓状入口を開き、中央くびれ部の遺體堂のうちに圓體石人一箇立つ。この墳にありし石人の多くは福島城築造に當り運び去らるると傳ふ。古來若戸山古墳と共に福島天皇の朝、誅せられし筑紫國造勢井の墳墓ならんといふ。

シモフカワ 下深川 廣島縣安佐郡深川村の大字。省線備前線の一驛。下深川驛(大正四年設置)あり。

シモフクシマ 下福島 大阪府西成郡にありし村。明治三十年大阪市北區に入る。

シモフナカ 下府中村 神奈川縣相模國足柄下郡の東北部。國府津市の西隣にして酒匂川の東岸にあり。北は上府中村、西は豊川村、南は酒匂村と隣る。面積三・一五平方軒の小村。酒匂川流域平野の一部を占め全村水田多し。米の外に蕎麥・蕎麥の産あるも其類多からず。國府津町に縣道を通じ、また省線東海道本線南部を西走し鴨宮驛(大正十二年設置)を置く。此地は近世足柄下郡成田庄、今の大字下福・矢作・鴨宮・上新田・中新田・下新田等に屬す。及び海鏡郡三ノ宮庄(大字中里これに屬す)の内。大字下福は永正十六年北條早雲が蒲原社領に寄附せし地にして、のち貞享三年より大久保加賀守忠貞の所領たり。大字矢作は北條氏の頃に菅孫兵衛知行し、のち大久保加賀守忠貞の所領となりし地。大字鴨宮は往

が現れ、石室のへぞ石の壁に存す。棺身の前面に方形の窓状入口を開き、中央くびれ部の遺體堂のうちに圓體石人一箇立つ。この墳にありし石人の多くは福島城築造に當り運び去らるると傳ふ。古來若戸山古墳と共に福島天皇の朝、誅せられし筑紫國造勢井の墳墓ならんといふ。

時傳の老樹多あり故に郷下と稱せしことあり、北條氏に加茂宮郷とあれば永祿の頃は既に改稱し正保の頃より鳴宮の字を用ひしといふ。北條氏割據の頃は加茂宮式部少輔直勝の所領なりしが、貞享年間は大久保加賀守忠貞の所領たりし處。大字上中下新田は鳴宮の内なりしが萬治以前に開墾され、共に大久保氏の所領たり。大字中里は中里郷と稱せし地に於て、初め幕領なりしが一部を寛永十年に伏見勘解由に、他を元祿十一年倉橋總左衛門に賜はり子孫傳いて領せり。

シモフナト 下船渡

【下船渡】 省領大船渡線の一驛（昭和九年設置。岩手縣氣仙郡大船渡町にあり。【下船渡村】 新潟縣越後國中魚沼郡の中郡。信濃川の右岸。十日町より約一四軒上流にあり。北及び西は外丸村、南は蘆ヶ崎村・中深見村、東は倉俣・田澤兩村と界す。信濃川の河岸段丘上にあり、東北は清津川、西南は中津川、西北は信濃川にて區切らる。河岸には多少の田地あり。各季節雪深く、近時寒暑差甚なり。信濃川に沿ふ谷街道は、こゝより段丘上を通り十日町に至る。鎌倉時代、城氏・佐々木氏こゝをこの地を領せしも、その後室町時代には上杉輝虎・同輩勝相次いで領したり。

シモフナノ 下富良野 北海道石狩

國空知郡富良野町の大字。根室本線の一驛（明治三十三年）にして、富良野線の起

點。富良野町はもと下富良野村といひしが、大正八年町制施行の際改めしもの。シモフリヤマ 霜降山 ↓厚東村（山口縣）

シモフナカミヤマ 下分上山村

徳島縣阿波國名西郡の西部。東は神領村に、東北は河野村に、西は上分上山村に界し、北は麻植郡東山・中枝の二村、南は勝浦郡福原村と隣る。石鏡山脈東部の北斜面にあり、高瀬百米の山地より成り、中央に東西に走る結城川の谷ありて流域に少しの耕地あり農業を營む。山地は森林にて木村・木炭を産す。川に沿ひ村道走り、稻原・安吉の聚落あり。此地は古へ大栗山の内にいて二分し上分上山村と分れる。また古くより上山郡辰市あり、本村の人衆は辰市に、仁志長左衛門兩名の創始に係り、正徳元年十一月五日始めて之を開き左右内儀に國中領指の相授を領すと共に御旗石には農具市を開市し、遠近より來るものにて盛況を極む。爾後毎年十一月初辰の日に催し、享保十五年寺久保宗任八幡神社境内に移す。上分上山村風神神社の町市と共に上山郡辰市の市として知らる。（宇佐・幡神社）大字下分上山に鎮座。神社。祭神。應神天皇・神功皇后・仁德天皇・仲哀天皇・多紀理媛命・多紀姫命・市杵島姫命。創建年代不詳。永正四年藤原右京進再興す。例祭、十月十五日。（麓山寺）大字左右内にあり。古義高宮宗。摩盧山

シモヘイ 下閉伊郡

岩手縣十三郡の一、北は九戸郡に、西は岩手郡に、南は上閉伊郡に各隣接し、東は太平洋に臨む。北上山地の中部東側に位し、西境に北より遠別嶺（二四一・米）三果子岳（一八二・米）七明神山（一一八・米）大森山（二〇五・米）御大森山（一九六・米）阿部山（二一八・米）岩神山（一一〇・米）洞ノ木津山（二〇九・米）毛無森（二四二・米）等連りて主分水嶺をなし、南境に北上山地の最高峯早池峯山（一九一四・米）を始め遠別嶺（六四四・米）又野山（一一八四・米）高瀬嶺（一一六〇・米）石板嶺（五七三・米）草木山（二二六・米）等聳立し、北境に遠島山（二六三・米）高森（七〇二・米）等ありて、一般に東に傾斜す。從つて川は西境山地に發して東流し北部の水は小本川に集められ、南部の水は宮古川となり宮古灣に注ぐ。その外小溪流また東流し海に朝するも、郡内山岳起伏し海岸及び河川の沿岸にも沖積地の發達する平地に乏し。海岸は前屈曲に富

シモホージョー 下北條村

島取縣伯耆國東伯耆郡の北岸。倉吉平野の西部を占め倉吉町の北約三軒、東は中北條村及び其南の上北條村に、南は瀬手村に、西は大城村に界す。西南に一七七・米の山あり東南隅に約一〇〇・米の低き山地ある外は平坦なる沖積低地にして北部海岸に砂丘發達し、海岸線は極めて不直なり。沖積地は米を産しまた製鹽行はれ生絲・蠶の産あり。其他長十郎梨も出す。中央には山陰道東西に貫き其南に省領山陰本線東西に走り西方約三軒に由良驛あり。本村は中北條村と共に和名抄、久米郡下神郷の地なり。

シモホキタ 下穂北

宮崎縣兒湯郡にありし町。大正十三年改稱す。

シモホクラ 下保倉村

新潟縣越後國東頸郡の西北隅。保倉川の中流に跨る。北・西は中頸郡、東より南に安塚

村に界す。全村殆んど二百米臺の丘陵をなし、保倉川村のほぼ中央を東西に貫流し沿岸に多少の平地あり。米を産す。傾斜地は概ね樹林なり。直江津町より社線頸城鐵道を通じ、飯賣・下保倉（以上は大正三年設置）浦川原（大正五年設置）の三驛を設く。保倉川に沿ふ一條の鐵道又之より分れて北に走り海岸に出づる驛道あり。往古の事は以て微すべきものなし。【圓重寺】 眞宗大谷派。永祿三年教秀和尚の開創に係る。もと眞言宗たりしが元龜二年現宗に改む。觀覽上人作と傳ふる聖徳太子木像を堂内に安置す。俗に之を夜光または鼻取の女子といふ。

シモマキ 下牧村

岐阜縣美濃國武儀郡の中部。北は郡上郡葛田村、東は美濃郡安野野村及び本郡洲原村、東見村、大矢田村、西は上牧村に接す。美濃山地の中央部。板取川の左岸に位し、北部には狐ヶ岳（一六三・米）、西境には今瀬ヶ岳（一〇四八・米）矢坪ヶ岳（八七三・米）あり。板取川右岸は天王山（五三八・米）及び巖生山（五〇二・米）の北斜面を占む。板取川は曲流をなして流れ一部には段丘を作

シモマシキ 下益城郡

熊本縣（肥後國）十二郡の一。縣の中部に位し、九州山脈の西斜面を占め八代灣の東北隅に面す。北及び東は上益城郡に接し、西北は熊本市、西は宇土郡、南は八代郡に界す。面積三一四・六七方軒。東部は高き山地をなし殊に東南部に高く西北部及び西部は熊本平野及び八代平野の平坦なる低地に移行す。即ち郡の南部には九州山脈に屬する日丸山（一三四一・米）京ノ丈（一四七三・米）那保岳（一三二五・米）白山嶽（一〇七八・米）大行司山・權現山（七四二・米）等崛起して略東西に連り、東境

八郡の中に於て紙・糸・茶石等を産す。古城址は村の南の山の上において、堀土居の形跡り古瓦を掘出せるも何人の住みしか不詳。藤生も牧溪八郎の一にして、書院紙・小菊半紙を産し、佐倉洞には船を産し寛政二年越前國より金銀を呼寄せ置りせしも、費用倒れとなり止むと云はる。樹王神無上人は當地の人にして幼にして美濃町の清泰寺深源禪師に學び更に京都妙心寺大徳院に赴き、宗學を專修す。のち京都の臨濟宗の大本山妙心寺の初代管長となり、上人は尾州大山の瑞泉寺の尼庵せるを嘆き同寺中興に力め堂塔伽藍を改造す。かくて管長在職中妙心寺にて入寂す。

シモマツクマ 下松求麻村

熊本縣肥後國八代郡の西南部。九州山脈西南部の北斜面に位し球磨川に跨る。八代町の東南約六軒にあり。西北は高田村に接し、北は宮地村・種山村・河俣村に隣り、東は球磨郡五木村、南は上松求麻村に界し、東南部は南へ延びて五木村と上松求麻村との間に突入し其東南部は山江村に接す。東南方の仰鳥帽子山より延ぶる山嶺東境を八〇〇・九〇〇・米の高さを連れて北走し更に東北より西に向ひ北境

には萬坂山（六〇四・米）河原岳（七五三・米）等聳つ。郡の中央部には略南北の方向を有する狀の丘陵起伏し、これ等丘陵の間には盆地狀の低地南北に細長く續き、丘陵中には西山（二七四・米）、城山（二八二・米）、高嶽山（一五一・米）等聳立し、小流は丘陵を間折して若き地形を示す。またこの丘陵の西部は八代斷層崖に當り明瞭なる新層崖を示して八代海岸平野に臨む。兼川は東北境を流れて有明海に注ぎ砂川・大野川は八代海に朝し各河川流域には廣大なる沖積地あり、今なほ河口附近には盛に堆積が行はれつつあり。北部の餘川沖積地は、熊本平野に、大野川・砂川の沖積地は八代海岸平野の一部をなす。平地は氣候溫和、灌溉の便多く水田よく拓け良米を産し粟の産額も多く養蠶も盛なり。其他種・小麥・菜種・糖・大豆等多様な農産物を産しまた山地より木村・薪炭を出す。鹿兒島街道は熊本より西北に西に延びて八代町方面に至り、これより分たると道は中央を東西に貫き東北部より上益城郡に入り中部にて之より西北部熊本平野へ向ふ一途ありて鹿兒島街道に連れる。また省領鹿兒島本線は西部の熊本平野及び八代平野を南北に貫貫す。この郡はもと益城郡の内なりに分る。※益城

シモマスタ 下増田村

宮崎縣南國多良郡の東部。増田町の東南に隣り。東は太平洋に臨む。仙臺平野の南部に位し土地低平なるも海岸一帯は砂堆連る。増田川及びその支流は西部平地を潤して東北部の廣浦に注ぎ貞山嶺は東部砂堆中を南北に流通す。砂堆は松林をなすも西部低地は水田開く。本村は牛鹿半池の形をなし西部低地は主産從漁、海岸地方は主産從農なり。農産物は米・麥の外に白蜜の産出多く、蠶麥の特産あり。砂堆の内側を南北に、西南境を増田町に至る街道あり。更に貞山嶺は船運を助く。本村は往古増田郷に属し、先に下増田・砂ヶ袋の二箇村に分れたりしが、維新の後に至り融合して一行政區となり。その後明治十七年更に増田・田高・下増田・砂ヶ袋を融合せしが、町村實施にあたり分離して、下増田・砂ヶ袋の二箇村を合併して下増田村を建つ。

シモマツクマ 下松求麻村

熊本縣肥後國八代郡の西南部。九州山脈西南部の北斜面に位し球磨川に跨る。八代町の東南約六軒にあり。西北は高田村に接し、北は宮地村・種山村・河俣村に隣り、東は球磨郡五木村、南は上松求麻村に界し、東南部は南へ延びて五木村と上松求麻村との間に突入し其東南部は山江村に接す。東南方の仰鳥帽子山より延ぶる山嶺東境を八〇〇・九〇〇・米の高さを連れて北走し更に東北より西に向ひ北境

を限り北境中央に八峰山(五七四米)、西  
北境に八丁山(三七六米)あり。全體に西  
方へ傾斜し西部には五〇〇米の八龍山あり。  
南方より来る球磨川その東麓に迂回  
しつつ流れて八丁山の西より西北方へ出  
て約三軒先にて西に向ひ五軒餘にて八代  
海に注ぐ。平地少く僅に米を産するも生  
業は林業に依存す。球磨川右岸に沿ひて  
一路走り之より分れて北・東・南隣村へ  
延ぶるもの数條あり。同じく球磨川右岸  
に省線肥薩線走り段驛(昭和六年設置あ  
り。もとは上松求麻村と共に、單に松隈  
「松求麻」と稱せらる。地は球磨川の兩岸  
に亘り、人吉口の明瞭に當る。「古田阿  
蘇神社」大字古田に鎮座。郷社。祭神、  
健甕龍神・阿蘇神・熊神・熊御子神。聖  
武天皇天平年間創建と傳ふ。天正中兵  
變に罹りて社殿幾失せしを以て、慶長年  
間國主加藤清正之を再建せしむ。例祭九  
月二十三日。

シモツヤマ

下松山 島根縣那賀  
郡にありし村。昭和九年松山村と共に廢  
し松川村を置く。

シモミ

【霜見】 武藏國(埼玉縣)の古地名、和名  
抄に幡羅郡霜見郷あり、之毛美と訓す。  
その地今詳かならざるも大里郡三尻村・  
藤澤村の邊に當るか。一に妻沼町・長井  
村の邊に當るともいふ。

【霜見】 相模國(神奈川県)の古地名。和  
名抄に餘綾郡霜見郷あり、其地今の中郡

二宮町の邊に當るか。大同類聚方に「餘  
綾郡人、霜美郡高部」とあり、曾我物語  
に五郎は六郎前に出づ、霜見・古宇津を  
過ぐとあり、霜見は霜美の轉訛せるもの  
なり。

シモミイト

下御糸村 三重縣伊勢  
國多氣郡の東北端。飯川河口に跨り伊勢  
海に臨む。松阪市の東方約八軒。宇治山  
田市の西北約一軒にあり。西は東黒部  
村に、南は上御糸村に、東は大淀町に界  
し、西南部は飯南郡檜原村に接す。面積  
七・八四方軒。伊勢平野沖積系の一部を  
占め中央に飯川曲流しつつ北へ流れ河口  
北岸に四方より狭小なる砂嘴を造り、海  
岸は極めて平滑なる砂嘴をなして東西に  
連り東境より東は東南へ方向をかへて延  
ぶ。主生業は農業・水産業なり。中央を  
東西に一道路走り西部にて之より分れて  
南方へ延ぶるものあり。西南約六軒に省  
線多氣線と鄰あり。古くは和名抄、多  
氣郡霜見郷の内に、神宮に奉仕し聖布  
の神衣を織れる麻織氏の居りし所。大字  
根倉の依左江神社は大神宮遷幸の時の行  
宮址なり。大字北藤原に御炭山と呼ぶ小  
丘あり、舊宮の御堂を製して獻じたる處  
なりと。

シモミカタ

下三方村 兵庫縣播磨  
國宍粟郡の西端。姫路市の北方約三〇軒。  
北は三方村に、東は神崎郡長谷村・寺前  
村に、南は染河内村・神戶村に、西は西  
谷村に接す。中國山地の南斜面にありて

シモミサキ

下御村 福井縣越前國  
丹生郡の西端。越前町の東北部に在りし、  
東は殿下・萩野二村に隣り、西は日本海、  
南は四箇浦、北は越前の兩村に界す。全  
村殆ど山地にして山中に水仙の産特に多  
く、遠く關西地方に移出す。城有・赤坂  
屋敷・濱北山・ハッ後の五區は海岸線に  
沿うてならび悉く農・養蠶業に従事し薪  
炭をも出す。村名は四箇浦村の上卿と共  
に越前卿より起る。城有の字殿居場は本  
田廣孝の城址あり。越前名勝志に「當村  
に左右衛門と云百姓あり朝野時代よりの  
百姓にて家も其時代の家に一丈五尺に  
二丈七尺なり清水の井有り當御代々御代  
代御巡行の節は水を指上る也」とあり。  
家は既に幾失せしも下右衛門の子孫は村  
内唯一の豪農として存す。

シモミナガ

下三水村 廣島縣安藝  
國賀茂郡の北部。西は郷田村に、西南は

シモトベ

下六人部村 京都府  
丹波國天田郡の中部。由良川の支流土師  
川に跨る。福知山市の東に隣り、北は西  
中筋村に接し、東は上六人部村及び中  
六人部村に界す。東北は何處郡中筋村に  
隣り、西南は兵庫縣水郡竹田村なり。  
東北境に高嶺(四一六米)の山地あり、北  
部は其西麓に當り高さ約一〇〇米の大野  
原臺地をなし、西南境にも二〇〇米程度  
の丘陵あり。中央部に土師川西北に流れ  
て流域に廣く沖積地を造る。低地は耕地  
廣く米・麥を産し、養蠶も行はる。山陰  
街道村の中部を東南より西北に延びて福  
知山市に通じバスの便あり。上六人部・  
中六人部と共に古くは六部郷と呼べり。  
〔善光寺〕 大字多保市にあり。曹洞宗。

シモムラ

下村 省線宇和島線の一驛  
(大正五年設置)。愛媛縣宇和島市にあり。  
大字長田の地に創建する所と傳ふ。天正  
七年兵火に罹りて講堂烏有に歸す。寶巖  
之か中興す。

シモモンジュ

下文殊村 福井縣越  
前國足羽郡の中部。福井市の南約六軒。  
省線北陸本線に沿ふ。北は六條村、東は  
東郷村・上文殊村、西は麻生津村に界す。  
面積六・六二方軒の小村。福井平野の一  
部を占め、南端に文殊山(三五〇米)あり。  
平地は水田よく拓け、米作を主とす。福

シモヤカ

下宅 肥後國(熊本縣)の古  
地名。和名抄に玉名郡下宅郷あり、その  
地今詳かならざるも玉名郡の八喜村の邊  
に當るか。一に梅林村はもと下村と稱せ  
しにより梅林村の邊かといふ。

シモヤカワ

下八川村 高知  
縣土佐國吾川郡の中部。北は小川村に、  
東北は上八川村に、東は三瀬村に、西は  
明治村に界す。高知市北方を東西に通る  
笠尾山脈の西部にありて村内高峻なる山  
地より成り、中央を南北に峽谷とほり東  
西南山地は谷に向つて傾斜す。仁淀川の  
上支この峽谷を流れ流域に狭く少しの平

状の山脈より新潟縣に、東より南へか  
けて千曲川を境に下高井郡に、西南の  
一部は上水内郡に界す。面積二三・三・三  
方軒にて縣内最小の郡。信越國境山脈東  
南の急斜面を占め千曲川を内氣とせる三  
日月形を呈す。平地はほぼ中部千曲川の  
彎曲部に稍廣く、他は河岸に狭小なる沖  
積地を見るのみ。首邑飯山町はこの平地  
の南端に在り、飯山街道・社線飯山街道  
の中心地。平地には水田・桑園あり、養  
蠶を主としその産額著しくこれにより生  
計をたつ。黒倉火山塊一帯の斜面は縣下  
第一の積雪地、近時スキーヤーの憧れの  
的となり、此の地方を潤はせり。郡内飯  
山町外九箇村、社線飯山街道、飯山街道  
は千曲川左岸を貫通し信越を結び、飯山  
町より西北方に至り荒川の谷に沿ふ縣道  
は新潟縣中頸城郡新井町に出で北國街道  
と合す。其他峠を越えて越後の國に出づ  
る小道數條散在して西北へ通じり。本郡  
は明治十三年水内郡を上水内・下水内の  
二郡に分ちて併ししもの。〔水内(郡)〕

シモミヤ

下宮村 岐阜縣美濃國安  
八郡の東北端。大垣市の北約二軒。北は  
神戶町、東は揖斐川を以て揖斐郡川合村  
及び本巣郡川崎村と境し、南は和合村及  
び中川村に、西は南平野村と接す。濃尾  
平野の北部を占め、東部には揖斐川流れ  
大垣輪中に南接す。農業を主とし養蠶を  
副業とす。また古來竹細工盛にして製品  
は日當家庭に使用するものを主とす。本

シモミヨシ

下次 備後國(廣島縣)  
の古地名。和名抄、三次郡下次郷あり。

主として基性硬成岩より成り、中部を西  
南へと三方川開折して流れ神戶村にて引  
原川と合し揖斐川となり南流す。三方川  
の谷に沿うて豊岡街道通じ、交通は山間  
のため便ならず。南方新宮町に出づる外  
なし。産業は三方川の谷には僅かに米を  
作り、山地よりは薪炭を産し、鐵道の長  
谷・寺前兩村に亘る球美鐵山よりは磁鐵  
礦を取る礦石を産す。尙東南部は一部陸  
軍の演習場となる。三方村・養蠶村・染  
河内村一帯と共に古くは和名抄、宍粟郡  
三方郷の地に屬す。

シモミナカ

下三水村 廣島縣安藝  
國賀茂郡の北部。西は郷田村に、西南は

シモトベ

下六人部村 京都府  
丹波國天田郡の中部。由良川の支流土師  
川に跨る。福知山市の東に隣り、北は西  
中筋村に接し、東は上六人部村及び中  
六人部村に界す。東北は何處郡中筋村に  
隣り、西南は兵庫縣水郡竹田村なり。  
東北境に高嶺(四一六米)の山地あり、北  
部は其西麓に當り高さ約一〇〇米の大野  
原臺地をなし、西南境にも二〇〇米程度  
の丘陵あり。中央部に土師川西北に流れ  
て流域に廣く沖積地を造る。低地は耕地  
廣く米・麥を産し、養蠶も行はる。山陰  
街道村の中部を東南より西北に延びて福  
知山市に通じバスの便あり。上六人部・  
中六人部と共に古くは六部郷と呼べり。  
〔善光寺〕 大字多保市にあり。曹洞宗。

シモムラ

下村 省線宇和島線の一驛  
(大正五年設置)。愛媛縣宇和島市にあり。  
大字長田の地に創建する所と傳ふ。天正  
七年兵火に罹りて講堂烏有に歸す。寶巖  
之か中興す。

シモモンジュ

下文殊村 福井縣越  
前國足羽郡の中部。福井市の南約六軒。  
省線北陸本線に沿ふ。北は六條村、東は  
東郷村・上文殊村、西は麻生津村に界す。  
面積六・六二方軒の小村。福井平野の一  
部を占め、南端に文殊山(三五〇米)あり。  
平地は水田よく拓け、米作を主とす。福

シモヤカ

下宅 肥後國(熊本縣)の古  
地名。和名抄に玉名郡下宅郷あり、その  
地今詳かならざるも玉名郡の八喜村の邊  
に當るか。一に梅林村はもと下村と稱せ  
しにより梅林村の邊かといふ。

シモヤカワ

下八川村 高知  
縣土佐國吾川郡の中部。北は小川村に、  
東北は上八川村に、東は三瀬村に、西は  
明治村に界す。高知市北方を東西に通る  
笠尾山脈の西部にありて村内高峻なる山  
地より成り、中央を南北に峽谷とほり東  
西南山地は谷に向つて傾斜す。仁淀川の  
上支この峽谷を流れ流域に狭く少しの平

井市と共に對し重農業も行はる。省線北  
陸本線は西部を貫通し、南方新江町に至  
り、本村に大土呂驛(明治二十九年設置)  
を置く。三代實録、貞觀二年の條に當國  
二上神授位の記事あり。一に大字二上にあ  
る祠ならんとも、二上とは文殊山の舊稱  
にして二上神は文殊山にありしものなら  
んといふ。文安六年醍醐三寶院所領目録  
に越前國河北庄とあるは大字河北(いま  
上河北・下河北となる)の地にして、ま  
た東寺文書、天慶元年足利郡本田庄とあ  
るは大字太田の地ならん。〔平兼寺〕 大  
字太田にあり。舊宗本願寺派。妙徳山と  
號す。往古奉法法師の開ける文殊山五山  
の一たりしが、のち衰廢せり。文明年中  
朝倉敬堂當國を領するに及び其族神野小  
左衛門道清、蓮如上人に歸依して道林と  
號し本寺を興し眞宗道場となす。

井市と共に對し重農業も行はる。省線北  
陸本線は西部を貫通し、南方新江町に至  
り、本村に大土呂驛(明治二十九年設置)  
を置く。三代實録、貞觀二年の條に當國  
二上神授位の記事あり。一に大字二上にあ  
る祠ならんとも、二上とは文殊山の舊稱  
にして二上神は文殊山にありしものなら  
んといふ。文安六年醍醐三寶院所領目録  
に越前國河北庄とあるは大字河北(いま  
上河北・下河北となる)の地にして、ま  
た東寺文書、天慶元年足利郡本田庄とあ  
るは大字太田の地ならん。〔平兼寺〕 大  
字太田にあり。舊宗本願寺派。妙徳山と  
號す。往古奉法法師の開ける文殊山五山  
の一たりしが、のち衰廢せり。文明年中  
朝倉敬堂當國を領するに及び其族神野小  
左衛門道清、蓮如上人に歸依して道林と  
號し本寺を興し眞宗道場となす。

井市と共に對し重農業も行はる。省線北  
陸本線は西部を貫通し、南方新江町に至  
り、本村に大土呂驛(明治二十九年設置)  
を置く。三代實録、貞觀二年の條に當國  
二上神授位の記事あり。一に大字二上にあ  
る祠ならんとも、二上とは文殊山の舊稱  
にして二上神は文殊山にありしものなら  
んといふ。文安六年醍醐三寶院所領目録  
に越前國河北庄とあるは大字河北(いま  
上河北・下河北となる)の地にして、ま  
た東寺文書、天慶元年足利郡本田庄とあ  
るは大字太田の地ならん。〔平兼寺〕 大  
字太田にあり。舊宗本願寺派。妙徳山と  
號す。往古奉法法師の開ける文殊山五山  
の一たりしが、のち衰廢せり。文明年中  
朝倉敬堂當國を領するに及び其族神野小  
左衛門道清、蓮如上人に歸依して道林と  
號し本寺を興し眞宗道場となす。

シモヤ—シモヤ

地をつくる。村内森林よく繁茂して、三...

シモヤク

下屋久村 鹿兒島縣大隅...

シモヤ

久・種子二島の沿海に出漁し、漁獲高の...

シモヤクノ

下野久野村 京都府...

シモヤクノ

下矢部村 熊本縣肥後...

シモヤ

部に小低地あり、東北隅濱町より西方松...

シモヤマ

下山 山梨縣甲斐國南巨摩郡の東部...

シモヤ—シモユ

源氏加賀美大館源光の男孫山太師光朝の...

の上人と法論を試みて敗れ、以来僧服を...

京都に於て城外に神代佛閣を築き、當...

同。同市の東南約一五村、北は松平村...

シモヤマ

下山 山梨縣甲斐國南巨摩郡の東部...

シモユ—シヤカ

葉等なり。縣道は村内を丁字形に通じ、東は...

シモユ—ベツ 下湧別村

海道北見國紋別郡の東北部。網走支廳管下...

シモユイ 下油井

高山本線の一駅。昭和三年設置。岐阜縣加茂郡西白川...

シモヨシタ

村にあり。昭和三年吉田町と改稱す。岐阜縣美濃...

シヤカ—シヤク

シモヨシタ

村にあり。昭和三年吉田町と改稱す。岐阜縣美濃...

シモヨネタ

下米田村。岐阜縣美濃國加茂郡の西部。北は上米田村、東・南...

シモリョウケ

下領家。廣島縣甲奴郡にありし村。大正元年他の二村を...

シヤカナイ

釋迦内村。秋田縣秋田郡北秋田郡の東北部。大館町の北に隣...

シモワチ

下和知。京都府丹波國船井郡の西北部。由良川上流に...

シヤ

志尾村。廣島縣安藝國高田郡の西部。北は刈田・郷野二村、東は井原...

シヤ

志尾村。廣島縣安藝國高田郡の西部。北は刈田・郷野二村、東は井原...

シヤク

石神井。もと東京府北豊島郡の村なりしが昭和七年東京市板橋区に入り其の町...

シヤク

石神井。もと東京府北豊島郡の村なりしが昭和七年東京市板橋区に入り其の町...

シヤク

石神井。もと東京府北豊島郡の村なりしが昭和七年東京市板橋区に入り其の町...

シヤク

石神井。もと東京府北豊島郡の村なりしが昭和七年東京市板橋区に入り其の町...

シヤク

石神井。もと東京府北豊島郡の村なりしが昭和七年東京市板橋区に入り其の町...

シヤク

石神井。もと東京府北豊島郡の村なりしが昭和七年東京市板橋区に入り其の町...

田河(石神井城)初め豊島右馬九郎親の四代の孫、三郎兵衛泰盛城主となり、泰盛卒し、その子朝泰幼なりしかば泰盛の弟左近大夫堂村、元弘年間に遺領を継ぎ在城して朝泰を守立て、成長の後所領を返し富城を譲れり、朝泰の八代の孫勘解由左衛門泰經は文明九年弟の泰明と長尾景春に一味し管領上杉定正に背き、太田道灌と戦ひ、泰經・泰明等敗れ一族みな戦死し城遂に陥る。

【石神井川】東京市板橋區上石神井町二丁目三寶寺池より出づる川。或は東京府北多摩郡小金井町の北より出づといふ。東流して田柄川(田無用水)を合せ練馬・板橋を経て王子橋現と豊島山の間を田で王子町を流れ荒川に入る。長約一六浬。或は略して石神川といふ。里八丈村・九ノ一三(和泰三政本は、唯唯と叫びて、路を討めて逃んとしたる、歩行時き小龍原、折から月雲に覆て、黒白を別ぬ男女ひとしく、急流者高き石神川の岸階崩し流れて、浮つ沈みつ流れしが、俱に溺れて死にけり。

シヤクシヨ一 尺丈山 阿武隈山脈の一峯。栃木縣那須郡大内村、茨城縣那珂郡那珂村と久慈郡上小川村の三村境上に在り。標高五一・二米。南西方は烏帽子掛峠最高點を経て笠子山に連り、北方は境ノ明神峠最高點に接す。

シヤクシヨ一 錫杖 錫杖(錫杖ヶ岳) 日本北アルプス 飛騨山脈

の一峯。岐阜縣古城郡上賣村に屬し、標高二一六三米。北は笠ヶ岳(二八八八米)に連り、東方は高原川一上源蒲田川を距て穂高連峯に對す。南麓蒲田川のほとりに蒲田温泉湧く。山頂には信州側梓川の畔、上高地(神垣内)方面よりは中尾峠にて信濃國境飛騨山脈を越え、蒲田川の畔に降り川を廻りて連す。飛騨側よりは駒尾、上賣村まで自動車便あり。それより蒲田川を廻りして至る。

【錫杖岳】鈴鹿山脈の一峯。津市の北西方約一七浬、三重縣安濃郡河内村、鈴鹿郡加太村、河島郡明村の三郡境上に在り。標高六七七米。山體は片麻岩より成る。北麓は鈴鹿川、南麓は安濃川に隔る。

シヤクセシ 鶴川面 朝鮮全羅南道康津郡の北部。東は長善面、北は鳴川面、西は城川面、南は郡東面に各相隣接す。北西部は小山丘陵起伏すれど其他は土地極めて低平にして地味肥え、耽津江これを灌溉し水田よく發達す。農産物には米・大麥・大豆・粟等を出し、生牛の産もあり。又明鮑・綿織物を産す。東方長興へ一〇浬、北方靈巖へ一五浬にして兩地を結ぶ二等道路に近く交通比較的便なり。兼落は散して散村型を成し其主なるものに内基里・龍祥里・君子里・坪里・三堂里・坪基里等ありて、面事務所坪里に在り。

シヤクド一 笏洞 山口面(朝鮮 鮮海邊道安郡)

シヤクベツ 尺別

シヤクベツ 尺別 北海道釧路國支庁白糠郡にありし村。大正十一年特別村と改稱。いま特別村に根室本線の尺別驛(大正九年設置)あり。

シヤクボク 若木面 朝鮮慶尙北道津谷郡の西部。大邱府の西北二五浬、東は洛東江を隔てて後浦面及び石積面と相對し、北は北三面、西は星州郡月恒面、南は同郡南面に各相隣接す。城内花崗岩丘陵性山地を成せども東部及び北東部の洛東江沿岸地帯には稍廣き低地を見る。概して地味肥え灌溉の利に富み農産物豐富なり。住民は一般に淳朴にして農業に従事し務ら探新を副業とする者多し。産物には米・大麥・大豆・朝鮮紙・綿布・人参等あり。鐵道京釜本線は西の東北部を横斷し、若木驛(明治三十八年設置)あり、之によれば東南後浦へ七浬、大邱府へ二五浬、西北金泉へ三六浬あり、京釜一等街道亦鐵道と並行して通じ交通便なり。福星洞に面事務所を置き、其他郵便所・警察官駐在所及び陸軍三・八の日に開く市場ありて面内及び北三面を商圖とし活氣を呈す。

シヤクマ 含熊 北海道天鹽國増毛郡増毛町の大字。留萌本線の含熊驛(大正十年設置)を置く。

シヤク 遮湖線 朝鮮總督府鐵道局成鏡線の一。成鏡線(利原郡南面)より分れ同面の東南方日本海岸の遮湖驛に至る。北

シヤコ一 車黄面

シヤコ一 車黄面 朝鮮慶尙南道山淸郡の東北部。都邑山淸の北東約七浬。東は陞川郡住會面及び大井面、北は居昌郡神院面、西は格釜面、西南は山淸面、東南は新等面に各相隣接す。東北境には黄梅山(一一〇四米)聳え其餘勢東牛部を隔して山地帯を成し、西境また松巖山(六三九米)聳えて西境を劃し、中央部に南北に狭長なる通谷横はる。耕地は主として此地域に分布し、畑作卓越す。産物は大豆を第一とし大麥・粟・小豆其他雜穀類・紙・生牛・竹細工等あり。僻道に位置せるを以て幹線道路なく、地方的等外路網比較的密なるも車を通ずるものなし。兼落は長村里・三互里・上中里・陽谷里・長位里・新基里等が主なるものとし、新基里は面事務所の所在地にして又警察官駐在所及び陸軍二・七の日に開く市場ありて薪炭・雜穀・日用品・生牛等の取引行はるるも年取引額二萬餘圓に過ぎず。

シヤコ一 社口 中埔庄(臺灣)

シヤコ一 舍谷面 朝鮮慶尙北道義城郡の東部。都邑義城の東南約七浬。東は青松郡西面、北は玉山面及び點谷面、西は義城面・金城面、南は春山面に各相

隣接す。西南境に飛風山(六七二米)の聳ゆる他は著しきものなく、老年期の丘陵地帯を成し耕地は多其く斜面に分布す。洛東江の一支渭川東部山地に發源するも灌溉用水に乏しく、従つて畑作農業卓越す。住民の多数は農業に従事し副業として養蠶・養鶏等を爲す。産物は大豆を第一とし大麥・米・粟・棉花・麻・煙草・莞草等にして大麥は良質を以て市場に著はる。道路は義城より青松郡に通ずる自動車道路ある外は里道にして交通便ならず。

シヤコタン 積丹 〔積丹半島〕北海道日本海岸最大の半島。後志支廳に屬し、古平・美國・積丹・古字の四郡と半島頭部は余市・岩内兩郡の一部に互る。小樽市の西方約一五浬の余市灣頭と、その西南約三〇浬の岩内灣とを結ぶ一線を半島頭部の幅とし、西北に突出すること約四〇浬、その間殆ど幅員を減ぜず全體として矩形を呈するも先端部に於て鋭く細まり、西北に神威岬、北に積丹岬、牛角岬に突出す。火山岩の臺地狀を呈し、高度八〇〇米内外、先端部は積々高く余別岳(二九八八米)・積丹岳(二二五五米)・ボンネアンチ山・環内嶽等の一〇〇〇米を越ゆる山連る。北岸に余別川・積丹川、東北岸に美岡川・古平川、西南岸に古字川等注入するも、何れも短小にて見るべきほどの氾濫原發達せず。従ひて農耕は重要とせざるも、

近海に鱈・鱈等の豊漁地なるため漁業兼落が沿岸の小四地を選定し點在す。東北岸の余市・古平・美國、北岸の入割・余別、西南岸の環内・神威内・泊・岩内等その代表的なるものなり。海岸は迂曲曲折、奇岩怪石點綴し大小數十の灣道を穿ち時景より勝景に續きたる饒漁旺盛時代の豪壯なる設備を曾見す。この半島の突端神威岬の西北端の海中に神威門あり、高さ約四一米、古平西岬岬の開口にしてこの岬より以北を神地となし婦女の通行を許さず、妻子を伴ひし移民はこれより北に進入し得ず。俗語「忍路高島及びもないが!」未練あるのか御神威様よなげに女の足とめる。はこの間の事情を物語る。安政二年蝦夷地再び幕府領となるに及び箱館奉行この慣習を無視せる移民獎勵の建書を出し、同三年奉行下役元締梨太彌五郎宗谷に赴任に際し妻子を伴ひこの岬を通過してより禁制自づと解くといふ。神威岬の西北端には神威岬燈臺(明治二十一年設置)あり、燈色紅白色にて紅白互光し光達距離四二・六浬。

シヤコタン 斜古丹 北海道根室支廳色丹郡にありし村。昭和八年色丹村と改稱。

シヤコフ 社 臺灣臺東廳臺東郡の善社。大竹高溪の南方にあり、高砂族の部落にして、バイサン族の大麻里蕃に屬す。

シヤシ 者只島 港門島(朝鮮)

シヤシツ 遮日 〔遮日峯〕朝鮮咸鏡南道北青郡にある山。赴嶺嶺山脈の支脈中に在り、郡の西北部、上車書面・泉登面の地に聳立す。標高一六六三米。北麓は希沙峰(二一七米)等に連り、東南に傾斜して日本海に臨む。西北側は南大川の支流車書川發し山麓を東南に洩流しこの豁谷に沿うて三等道路

通す。山中に木村・金銀を産す。

〔遮日峯〕朝鮮咸鏡南道平康郡の山。郡の西北、平安南道寧邊郡の境に在り、標高一七四三米。北大東山脈中に在り、北麓は劍山嶺(最高點一一二七米)を経て東白山(二〇九六米)・小白山(二一八四米)等、南麓は白山(一八三七米)・劍山嶺(最高點一一二四米)・泗水山等に連り、東麓に金津川流れて東朝鮮灣に注ぎ、西麓には大同江の上流流る。前記南北の兩劍山嶺は、いづれも道境にある重要交通路をなし、特に北の劍山嶺には成興より平安南道新安州方面に至る二等道路通じて自動車便あり。山の東側には金・銀・銅・鉛・亞鉛等の礦床廣く分布して探掘せらる。

〔遮日峯〕朝鮮黃海道鳳山郡の山。郡の中南部にありて、西鳳山脈中の一峯をなし、標高六〇六米、郡中第一の高峯なり。北に瑞興江、南に銀波川を分つ分水嶺をなし、西は此等二川及びそれが合流するところの載寧江のつくる廣大なる載寧平原に臨む。山上よりは南に長壽山、西方は平野を隔てて九月山を指し得て展望雄大なり。

シヤシヨ一 車城庄 臺灣高雄州恒春郡三庄中の一。本庄は恒春郡の北端に在り、東部北部は郡下の蕃地に在り、中央山脈の餘勢に延びて、鳳母山・五重溪山・四林格山等の山々聳え、西には臺灣海峡の怒濤岸を洗ふ。南は保力溪を隔



シヤシ——シヤス

てて恒春庄に接す。北の車城溪、南の保力溪共に西流して海に注ぐ。地勢は東西低にて河川沿岸に水田開く。農を主とし米・大豆・落花生・甘藷・甘蔗を産し他に熱帯果實の産多し、龍眼・椰子(マニョー)・蓮霧・芭蕉・椰子類・檳榔・柑類を産し管外に輸出さるるもの多し。牛・豚・羊の飼養も盛なり。海口港を中心し水産業盛なるも未だ沿岸漁業の域を脱せず。鐵道の便なきも自動車の運行より、海上交通と共に物資の搬出入に便なり。海口港は漁船の根據地・避難港として大正十一年港内浚渫・防波堤の築造等を行ふ。此地は大正九年の地方制度改正前には阿羅漢の興文里・成昌里及び德里中の射寮庄に分れし地。古はパイワン族の麴居せし所。漢人にも古より麴居の名にて知られ、また西紀千六百年代和蘭人にもその名を知らる。大字車城は明末鄭氏が此地を開墾せし時の上陸地。康熙末年以來に編入こゝを開拓す。大字保力は廣東人により開かれし、華人の墾殖を受くること甚しく、車城も四周に木欄を建て防ぎ、嘗て此地を築城と呼びしは之に基く。大字新街・四重溪は咸豐年間ともに廣東人の拓きし所。大字射寮は乾隆年間編入により開かれ、また明治七年我が征臺軍の上陸地に當り、其南西の小丘凌龜山はその本營の置かれし所なり。(凌龜山民墓)大字車城にあり。明治十四年琉球宮古島の帆船、高麗

結の宮古郡官吏を乗せ那覇港を出帆せし、のち暴風に遭ひ漂流し本郡高州庄宇九瀬の八瑤灣に漂着す。乗組員は船を棄てて上陸し、人家を求め暮れ地を徘徊し、牡丹社番人の爲め乗組員中五四人は殺され、残餘の一二人は幸じて清國福州を経て那覇に歸るを得。明治七年征臺の役、俗に云ふ牡丹社征伐は茲に端を發す。墳墓は土偶頭型の本島式塚にて、前面に高さ〇・三米、幅〇・二七米の赤煉瓦を嵌入す。墓碑は墳墓の直前に建てられ、厦門産花崗岩を用ひ、高さ約一・五米、幅約〇・四四米、昭和八年史蹟に指定さる。(龜山本營之址)大字射寮にあり。明治七年牡丹社討伐の際、我本營の置かれし所。西郷都督の五月廿二日此地に上陸してより同年十二月三日凱旋に至るまで幕營す。昭和十年記念碑を中心として史蹟に指定さる。(石門戰蹟)大字四重溪にあり。此地は五重溪・風母の兩山斷崖をなして東西に通り、中に四重溪の隘峽を開き恰も關門の狀をなす。明治七年五月二十二日、陸軍中佐佐久間左馬太の一隊は此地にて敵番の猛進なる射撃を受けしも之に應戦し、牡丹社頭目阿祿父子以下一六人を斃し他を潰走せしむ。昭和十年史蹟に指定さる。(四重溪遺蹟)大字四重溪にあり。粘板岩の製磚中に出出す。明治二十八年恒春岩兵屯所高橋憲兵曹長の發見する所といふ。畜場の開設は同三十一年なりしも畜害等のため經營意

の如くならず、昭和二年高雄州にて公共畜場を建設經營するに至りて畜畜額に増加せり。泉質は弱アルカリ性反應を呈し一時間の湧出量七〇石に達し、温度は攝氏四七度。附近の風景甚だ明麗にして、警察官への訪客は殆ど其歸途一日の清遊を此の温泉に於てなすを例とす。此近くを流るる四重溪には幾の産多し此地の名物とす。附近に明治七年我が征臺役當時の石門の戰蹟あり。(車城灣)一に麴瑤湖とも稱し、鼻仔頭と南方龜山との間に抱かる小湖なり。往時は魚房港と稱し、明末鄭氏據臺の折、恒春地方の開屯されし時の上陸地に當り、また乾隆五十一年林爽文、亂を作して一敗地に墮れその部將此地方に逃げし時、官軍の番福康安を統帥とする征討軍の上陸せし事あり、歐人によりては、Takelithabayの名を以て知らる。

シヤジン 舍人

〔舍人町〕朝鮮平安南道順川郡の西南隅。平壤府の北東三五軒。東境には喜茂山(二八六米)・蘇射山(三五四米)・百足山(三九四米)等並んで東境を劃し、西境山岳多し相連り、中央部は南北に稍狭長なる低地帯に大同江支流龍川これを流漑す。農産物には大豆・馬鈴薯・大小豆・黍・棉花・入幕等あり。又工藝品に綿・絹布・紙等あり。總督府鐵道京義西線は京義本線西浦驛(大同郡西川面)より來り、面の略中央を北走し、舍人場(昭和二年

三六

設置)・風鶴(同三年設置)の兩驛あり。南方平壤府より來る二等道路は之に對峙して北方寧遠に通じまた西方順安邑、東方了波に通ずる三等道路等ありて之等は何れも面の中央舍人場を核として四通し交通便なり。面邑舍人場には警察官駐在所あり。また防勝二・七の日に開く市場ありて、薯蕷・穀類・雜貨等の取引盛んなり。

〔舍人面〕朝鮮黃海道風山郡の西北隅。穀寧江の右岸。東境には正方面(四八〇米)を始め幾多の山嶺峯々として築え、東中部は山地帯を成せども西中部は穀寧平野の東部を成し、地味肥沃にて農業盛に行はる。農産物は米を第一とし、大豆・粟・棉花・烟草等、東部には馬鈴薯・粟・蕎麥等あり。鐵道京義本線は略中央を南北に貫し桂東驛(大正十二年設置)あり。南方沙里院驛に近く、京義街道は鐵路に並走し、交通比較的便なり。聚落は多く西部の平野に分布し其主なるものに桂東里・安谷里・内苑里・龍峴里・風裏里・月山里・劍川里・明神里・萬和里・大龍里等あり。商事務所を桂東里に置く。北境の正方面中に成佛寺の古刹あり。

シヤジンジョー 舍人場 朝鮮總督府鐵道平安西線の一驛(昭和二年設置)。朝鮮平安南道順川郡舍人面にあり。

シヤスコタン 捨子古丹島 シヤスコタンといふ。中部千島の北東部に

ある一火山島。振宰支廳占守郡に屬す。春本古丹島と並列岩との間に位し、西北に近く瀧湯島浮ぶ。二火山が北東・南西に連る蛇形をなし、東北より西南に延び約二四軒、中央部の最狭幅八〇〇米。北の赤嶽(八九八米)と、南の硫黃嶽(八二九米)の兩火山が結合せるものにて、海崖著しく發達し、聳入乏しき島の中部隆れて地味をなし、その西側の乙女灣は北に越湯島を控へ唯一の濱地となる。硫黃嶽は圓錐火山にて山頂部に東方に開く火口を有し、南・北兩硫黃嶽はこの火口の周壁に相當す。この火山の北西腹に北西向の馬蹄形爆裂火口ありて硫黃を噴出す。南硫黃嶽山頂北寄りの一地點より白煙を噴出し昭和二年に小活動す。島の北東側の黒嶽(九三四米)・赤嶽は北方に開く爆裂火口を有する主體火山の火口壁上に噴出し二鐘狀丘なり。黒嶽の山頂よりは硫黃を噴出す。

シヤセキリョー 謝厝寮

〔謝厝寮〕 ↓麻豆街(臺灣臺南州曾文郡) ↓謝厝寮 ↓日湖庄(臺灣臺南州北港郡) 郡白老村の大字。臺灣本線の社寮驛(明治四十二年設置)を設く。

シヤダイ 社臺

臺灣臺南州白老村の大字。臺灣本線の社寮驛(明治四十二年設置)を設く。

シヤト 社頭庄

臺灣臺南州員林郡一街八庄中の一。郡の主要員林街の南隣に位し、東西(約七・三軒)・南北(約七軒)ほぼ同じ長さの不正四角形をなす。東は八卦山脈の低き丘阜を以て南

シヤセ——シヤト

投郡下南投街及び名間庄と界を接し、西は水端・田尾の二庄に、南は田中庄に、それぞれ隣接す。地勢は東邊の小部分丘陵地帯をなすも、漸次西方に傾斜し、西部はすべて平坦となる。面積二・三四三五方里。平地は地味肥沃にして住民は大部分農民にして純農村を形成し、耕地は水田多し(一千七百餘町)、畑は少し(七百餘町)。水田は總て八條圳の灌漑區域に屬す。東部丘陵地帯は緩傾斜地多し、漸次開拓せられて園藝地と化し、パイナップル・李・龍眼・柑類等の栽培盛なり。併し米・果物類・甘藷・甘蔗・蔬菜類を主要農産物とし、米は農産物の大宗にして品質優秀、所謂員林米と稱せられ、特殊の廉價を有するのみならず、生産額莫大にして、年産優に百萬圓に達す。果物は種類産額共に多く、パイナップル・蜜柑・バナナ・李・龍眼等主要なるものにして、員林蜜柑・員林バナナの名を以て知らる。他に黄麻・煙草の特産物を出し農業に依る年生産額百四十萬圓に達す。畜産は養豚・養鶏を主要なるものとし、特に養豚は農家副業の主眼にして、改良豚令漸次普及し、一面採肥上の利益と相俟つて農家經濟の一支柱となり、漸次發展の趨勢に向ひつつあり。商工業は擧げて算ぶべきものなほ、木製品・竹細工・竹笠を産出す。林業としては保安林五百八十餘甲ある外、造林を行はず、林産物の産出甚だ微々たり。金融機關として社頭

信用購買利用組合・善徳仁土地利用販賣購買組合を有し、利用者多く地方の産業經濟上に貢献する所頗る大なり。財政は農産物盛なるため比較的豊かにして、昭和十二年度の豫算額九一、七四五圓に上る。教育方面に於ては公學校二を有し、本島人兒童の就學歩合男女平均四十五%程度なり。社會教化施設の主なるものは部落振興會・教化委員・青年團・國語講習所等の設置にして、時勢の進運に伴ひて、社會教育の發展大に見るべきものあり。大字社頭には消費市場を設けられ、製糖には興信和村を建設し、許厝寮には天寶河所有を有す。臺灣鐵道は西部を南北に貫通し、大字社頭に社頭驛(明治三十八年設置)を有す。臺中輕鐵株式會社經營の軌道(手押電車)は北部大字溝雅より員林街員林に至る。道路の主要なるものは鐵道鐵道と併行する員林・田中間の産業道路にして、局營バス(中部線)の便を有す。他に保甲道路・部落道路よく發達し、交通至便なり。本庄の内、浦底・張厝の二大字はもと武西條に他はすべてもと武東條に屬し、往時は當地第一帶平埔蕃族アリタン部族のマイダークマ(大武郡)社の占居地たりしより、初め康熙六十年代に於て武東・武西兩條を併せ大武郡條を建てしが、雍正十二年大武郡東條及び大武郡西條に二分し、乾隆年間各々省略して武東條・武西條となる。管内の初めて開墾せられたるは乾隆年間

武西條に屬せる部分に主として廣東人により、武東條に屬せる部分に泉州籍の人員自ら魁首となりて開け、大字枋橋頭の部落は當時建てられたるものにして、乾隆二十九年に成りし臺灣府志(續修)に枋橋頭街とあるに據れば、此の時只前一街肆を形成ししを知らる。嘉慶年間大字社頭の部落發達して市場を爲すと共に之に代るに至る。因みに社頭の名稱は舊社(大武郡)の社頭に建てられしよりむしろ、明治二十八年帝國領臺以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、自治制施行と同時に、清領時代より存続し來りし堡は廢止せられ、前記の九大字(もと各々庄と稱す)一括せられて新に社頭庄となり、臺南州員林郡に編入せられ庄役場を大字社頭に置き、現在に至る。(清水廳)大字許厝寮の山麓に在り、社頭驛を去る東方一里、寺は乾隆初年、住僧の募りて建てしものに係り、三寶佛・十八羅漢の像を祀る。彰化縣志に曰く、崖の左右青嶺環繞し、樹木陰翳し、曲徑幽に通じ、邱嶽の蹊、恍として畫圖に似たり。春和し、景明に、野花散かに發けば土女巖に到りて遊覽す。巖として香國中に入りぬる如し」と。即ち一の遊覽地たるを失はず。崖頭に清水を湧出するを利して小ブールの施設あり。

シヤト 蛇島

朝鮮總督府鐵道惠山線の一驛(昭和八年設置)。朝鮮咸鏡北道吉州郡鳴社面にあり。

シヤナ——シヤリ

シヤナ

【紗那村】北海道千島国紗那郡。根室支... 紗那郡の中心に位置し、東北は釧路郡、...

【紗那郡】 北海道千島国紗那郡。根室支... 紗那郡の中心に位置し、東北は釧路郡、...

シヤハツ

【沙伐面】 朝鮮慶尙北道尚州郡の東部。郡邑尙州の北東約五軒。東...

【紗那郡】 北海道千島国紗那郡。根室支... 紗那郡の中心に位置し、東北は釧路郡、...

シヤマニ

【模似村】 北海道日高国の東南部。模似郡全部を占む。西南は太平洋に面し、浦...

【紗那郡】 北海道千島国紗那郡。根室支... 紗那郡の中心に位置し、東北は釧路郡、...

シヤリ

【紗那郡】 北海道千島国紗那郡。根室支... 紗那郡の中心に位置し、東北は釧路郡、...

【紗那郡】 北海道千島国紗那郡。根室支... 紗那郡の中心に位置し、東北は釧路郡、...

シヤリ——シヤリ

東方約四〇軒。北はオホキツク海に面し... 西に小清水村、南に根室国日置郡・標津...

【紗那郡】 北海道千島国紗那郡。根室支... 紗那郡の中心に位置し、東北は釧路郡、...

【紗那郡】 北海道千島国紗那郡。根室支... 紗那郡の中心に位置し、東北は釧路郡、...

【紗那郡】 北海道千島国紗那郡。根室支... 紗那郡の中心に位置し、東北は釧路郡、...

那人の稱呼によりしものクララン島 (Kralang) と記せり。而して社寮島と云へる最初のものは光緒五年 (一八七九) に成りし夏嶽輪船監修の全寮界圖にして、同治九年 (一八七〇) 淡水廳誌には尙ほ未だ鴉片と記すより見れば、社寮の稱呼は同治末、光緒初年に起りしものなるべし。蓋し時代下るに従つて海外の小島を一般に鴉片島 (基隆島) と稱するに至りしより、彼等の混同を避けて改名せしものなるべく、社寮とは島内に平地に属する自稱島嶼社 (大鴉片島) の社寮存するによるものなり (大正九年を改めて察す)。此島に番人の住せし事は古より蘭・漢何れの史料にも見えしが、つい最近まで番番の住する者あり、大正九年調査の際には約百名を数へしも現在は一老婦 (雙溪口新社より移住) を残すのみにて殆ど絶滅せり。

シヤロロ 射寮

【車嶺】 朝鮮江原道・忠清北道・忠清南道にある山脈。大白山脈中の五臺山 (一五六三米) より分岐せる山脈にて、西南の方向に走り忠清北道の北部を過ぎ、忠清南道に入りて道の略々中央を東北より西南に走り、奇夷山 (三二九米) にて終る。全長約二百軒、その間に於ける主なる山嶺は江原道の桂芳山 (一六七七米)、白雲山 (一三五〇米)、忠清北道との境に白雲山 (一〇八七米)、九鶴山 (九九五米)、

忠北に入りては國望・加葉の諸山あり。忠南との境には萬嶺山 (六二二米)、忠南には廣徳・金龜等の諸山あり、山脈全體が削割の結果老年期の地貌を呈し耕地も發達し墾荒も少からず。而して嶺南の地方と嶺北の地との交通は古來多く峠が利用され、公州より北方京城に出づる街道の車嶺及び公州より北西の洪城に出づる車嶺の兩車嶺を始め、忠清北道の忠州の東なる心頂嶺、江原道白雲山西麓の門時 (の如きはその主要なるものなり。本山脈中には金・銀・黒鉛等の埋蔵多くして有望視せらる。)

シヤロロ 車嶺

【車嶺】 朝鮮江原道・忠清北道・忠清南道にある山脈。大白山脈中の五臺山 (一五六三米) より分岐せる山脈にて、西南の方向に走り忠清北道の北部を過ぎ、忠清南道に入りて道の略々中央を東北より西南に走り、奇夷山 (三二九米) にて終る。全長約二百軒、その間に於ける主なる山嶺は江原道の桂芳山 (一六七七米)、白雲山 (一三五〇米)、忠清北道との境に白雲山 (一〇八七米)、九鶴山 (九九五米)、

シヤロロ 周王山

朝鮮慶尙北道青松郡の山。益徳郡との境に近く、府東面の北邊に聳立ち、標高九一〇米。一に石屏山又は大蓋山と稱す。半邊川の upper 龍川その西南麓に發源す。溪流の兩岸には巨巖奇石起伏し、老樹鬱葱として、金容峰・玉蓮峰・蓮花峰・鶴皇臺・周王宮・青潭潭等の佳景あり。朝鮮八景の一に推さる。山麓には高嶺土を産す。古く東晋の周顛八世の孫周鏞、壯士百餘人と共に新羅に入りて自ら後周王と稱し南陽に據りしが、唐貞元十五年唐將郭子儀に破られ逃れて周王山に入る。のち数年、唐王新羅王を賣むるに周王の事を以てす、仍て新羅王兵を誘して鏞を攻め之を擒にす。鏞の子大興力戰せしむ父の捕へらるるや割愛し、鹿を結び名づけて遊跡といふ、大蓋の名これより起るといふ。

シヤロロ 周王山

一五萬處に達す。平壤發嶺嶺東西に走り等洞驛 (明治四十四年設置)・美林驛 (大正七年設置) あり。また平壤より電車寺洞驛通ずる外、更に平壤議政府間に二等道路及び平壤より晚津面に至る三等道路通じ、大同江は船運の便多く、交通便利なり。

シヤロロ 秋乙美面

朝鮮平安南道大同郡の東部。大同江中流の左岸に沿ひ、平壤府の東方にて、これと大同江面を隔て、南は栗里面、東は靑龍面と江東郡晚津面に接し、北は大同江を境として栗里面・林原面に對す。東西約一二軒、南北二四軒、栗浪平原の一部を占め、江東郡より来る南江中部を西北に貫流して大同江に注ぎ、其右岸即ち面の東北部に高さ一〇〇米内外の丘陵あるを除けば面内至る所平坦にして耕地に適し、麥・粟・高粱等の農産を出し、また隣接の大同江面・栗里面と共に平壤炭礦の礦區に當り、西部の寺洞里には海軍燃料廠平壤炭礦所あり。無煙炭の年産

シヤロロ 秋乙美面

日と同日なるの故を以て近來十六日に改めらる。祭典には奉納演劇等ありて、甚だ盛大に行はる。

シヤロロ 車路城

【車路城】 臺灣縦貫線の一驛 (明治二十三年設置)。臺南驛の南、臺南州新豐郡水奉庄にあり。

シヤロロ 沙崙後

【車路城】 臺灣縦貫線の一驛 (明治二十三年設置)。臺南驛の南、臺南州新豐郡水奉庄にあり。

シヤロロ 沙崙後

【車路城】 臺灣縦貫線の一驛 (明治二十三年設置)。臺南驛の南、臺南州新豐郡水奉庄にあり。

シヤロロ シュウ

嶺地には水田、山麓に桑畑柑柿・葡萄を主産す。霞陽地方より白雲火山麓を経て山形地方に至る二街道は何れも本村をその起點とす。一は白雲火山の南麓、東置郡吉野村小瀧を経て南村山郡本深村長谷堂を過ぎて山形に至る小瀧街道にて、他は白雲火山の西及び北麓の白雲村を過ぎ南村山郡柏倉門村を経て、山形に至る狐越街道なり。この地は江戸時代に移藩の八ヶ森組足輕が霞陽地方より白雲火山麓を経て山形地方に至る二街道警備のため居住せしことあり、明治三十五年白雲村の大字十王を分割獨立せしめ本村を置く。蓋し十王とは村内の稱名寺に十王十體堂あるによる。(稱名寺) 新義眞言宗豊山派。光明山と號す。天平二年行基菩薩の開創に係り、當時法相宗に屬し寺内に六坊を有せしが至徳年中現宗に改め六坊隨つて廢滅す、寺境にはいま阿彌陀堂及び岩崎財天祠あり。なほ境外佛堂として十王堂あり、富塔安置の十王像は行基菩薩の作と傳ふ。また所藏のキリスト聖刺の十字架は、潜伏切支丹の多く存せしと稱せらるる覺成の奥、最上川岸の佐野原より納められしものなり。

シヤロロ 秋花面

海州郡の東端。東は花陽江を以て延白郡と境を、西は御史川を以て津東・東城・日新の各面と境を、南は海に瀕す。海州邑の東約一五軒。地形東西に狭く南北に長し。地勢は北境に周昌山 (一八六米) 等の

シヤロロ 州外面

低山あり、南に傾斜し、城内散れ平地にして謂ゆる青丹平野を成し、地味肥沃なり。滅惡山脈中に發する前記二川南流して海に注ぐ。されど河川に水量大ならざれば灌溉水利に缺くところあり、農事に不便を感じ來りしが、近年に至り水利組合事業の發達と共に、南半は延海水利組合の、北半は黄海水利組合の便利地域に屬してより、大いに美田を増加し、農事經營は著しく面目を改むるに至れり。海岸は極めて遠くにして泥堆露出し、舟楫の便なし。産業は農業を主とし、一部は資本家により經營行はる。米の産最も多く、麥 (小麥) ・大豆 ・小豆 ・綠豆 ・棉花等これに次ぎ、大麻 ・青麻 ・苧草等も少からず。副業として改良吠・蓬の製造盛に行はる。交通、京義本線土城驛 (京畿道開豊郡) より分岐する朝鐵黄海線は面の中央を横断して西方海州邑に達し、青丹驛あり、海州・同城間二等道路これと並走し、また海州より新溪方面に至る二等路線北部を掠めて何れもバスを通じ、交通便なり。墾荒は散村型にして、鐵道沿線の月鶴里は面の中心をなす。月鶴里は青丹驛に近く、面事務所・金融組合・郵便所・小學校等あり。

シヤロロ 州外面

清南道公州郡の中央部。北より西は錦江を境として長岐面・牛城面に對し、その北部に公州邑を圍み、東は反浦面、南は鶴龍面・木洞面に臨る。地東西に長く面

シヤロロ 州外面

清南道公州郡の中央部。北より西は錦江を境として長岐面・牛城面に對し、その北部に公州邑を圍み、東は反浦面、南は鶴龍面・木洞面に臨る。地東西に長く面

シユー——シユー

積約五四方軒。東境に明徳山(三七七米)中部にも高度三〇〇米級の山地あり、これら山地の間に東部に一條の低地ありて東北に延び、西南境にも一條の低地ありて東西に延ぶ。これらの低地と徳江の南岸には耕地よく拓け、農産に米・黍・豆類・棉花・煙草等あり。また南部の香浦嶺山、東部の道徳嶺山より金・銀を産す。本浦・京城間の一等道路に當り、また公州邑に近きを以て交通不便ならず。

シユーガクイン 修學院

シユーガクイン 秀岩面 朝鮮京城道始興郡の南部。西南は君子面の東南に連入せる江華湖の支流に突出す。東境中部に秀岩嶺(三七三米)ありてその脈南北に延び一五〇米内外の丘陵となり、北境中部に雲興山(約一八〇米)あり、その南方の中央部に麻山(二四五米)、南部にば光徳山(約二〇〇米)等の丘陵性山地あり、東境の丘陵との間には南北に長き低地あり、中部麻山の北より西北部にも低地ありて番よく拓く。農産に米・黍・大豆・棉花等あり。南岸は一部に干潟地にて埋立て畑田となれる處多し。食糧を産す。また淺邊嶺山ありて金・銀を出す。三等道路東部の低地を南北に通ずるも交通なほ比較的便ならず。

シユーカン 縦貫線 臺灣鐵道。臺灣本島の大關門基隆を起點とし、南部の重要港高雄を終點とする。

る本島の幹線。島内の主要市街は殆どその沿線に在り、産物の大部分またその沿線に集中す。全長四〇五・九軒。明治三十二年度以降十箇年繼續事業として、豫算總額二千八百八十萬圓を以て、基隆・新竹間百軒餘の既設線の改良及び新竹・高雄間建設工事に着手し、明治四十一年四月全線の開通を見た。本線は當初竹南より苗栗・臺中を經由して玉田に至る間はゆる山嶺を經由せしが、其後、社會經濟の著しき發展に依り、苗栗・臺中間の急勾配線の甚だしき鐵道輸送能力を減殺するに鑑みて、大正八年度以降四箇年繼續事業として、總經費千五百萬圓を以て、竹南より分岐し大甲・清水を経て玉田に達する海岸線建設の工を起し、大正十一年十月竣成と同時に之を縦貫本線とし、前記山嶺を縦貫線より區別して之を臺中線と改稱せり。

シユーカン 住巖面

麗南道順天郡の西北端。面積約七七平方軒。小白山脈南部の地に當り、西境には南嶺に母后山(九一九米)、中部に雲嶺(六八二米)、北部に老積嶺(三九〇米)の山地あり。東境の南端に曹溪山(八八七米)、中部に接嶺(二六一米)その北に四〇〇米級の山嶺つづきまた山地をなすも、鶴津江の支流義城江南嶺松光面より來りて西の中部を北流し東西山地よりの支流を合し木寺洞洞に出づ。川と支流の谷に沿ひ巾狭き谷地あり、特に北部の左岸に

はや、廣き平坦地ありて面の主要農産地域をなす。農産は米を主とし黍・甘藷・棉花等を出す。順天・和順・光州間の二等道路は中部を略東西に、寶城・谷城間の三等道路は寶城江に沿ひて南西に通じ交通不便ならず。

シユーケン 集賢面

南道晉州郡の中部北端。南は晉州邑・道洞面・平居面に接し、西は鳴石面、東北は美川面、大谷面に隣り、東南は琴山面と南江によりて隔てらる。面積五〇方軒餘。北境に集賢山(約五四〇米)より東西兩端に高さ二〇〇米内外の丘陵性山地南方に延び、南部の中央にも一〇〇米級の丘陵あり。ただ中部南北に狭長の平地あり、南流して南江に注ぐ小流あり、その谷と東南部の南江沿岸に耕地拓け、米・黍・大豆・棉花等の農産あり。晉州・興川間の三等道路南北に通じバスの運輸ありて交通不便ならず。

シユーコハマ 十五濱村

京城府南陽郡西生部の東端。北は道徳嶺を以て本吉郡に對し、西南は牡鹿郡に隣接す。東北境の明神山(三四七米)の山腹東に延びて牛島嶺突起となり尖端に富士山(三〇八米)聳え、北には南に漸入する名振嶺ありて道徳嶺に續き、南には雄勝湖の湖入あり。西南の雄勝湖(四二五米)の山嶺も東に及びて石投山(四五七米)・高梨山を起す。海岸はかく雄勝・名振の二大湖始め小島曲・岩礁多くアラ式海岸

三四

の特色を示し、山地直に海に迫りて海岸平地に乏し。耕地は小溪流沿ひに僅にもあるも漁業に依存すること多く雄勝湖奥の大宇雄勝はその中心地たり。縣道は雄勝より西境の釜谷峠(二〇一米)を越え石巻市に至りバスを通過す。この地は和名抄、桃生郡修戸郡の内なるべく、大字名振、小濱附近より種々の化石を出し、また本村より出づる石は皆に雄勝石または雄勝スレートと稱せられ、三疊紀黑色粘板岩にして、大村は石碑、小村は瓦代用・数石・硯石に用ひらる。本邦のスレートの産地は本地方を除き他に無きため其限は日本全土に及ぶ。(石神社)大字大濱に御座。イシガミノヤシロとも、イマシヤとも稱す。村社。祭神、多伎都比賣命。式内社。祭日、三月九日・二十日。

シユーコラン 秀姑巒

秀姑巒山 臺灣臺中州新高郷。花蓮港廳風林郡の境界にある山。中央山脈に屬し主として千枚岩と結晶片岩より成る。新高山(三九五〇米)の東北約一〇軒に聳え、秀姑巒溪の上流なるラタラ溪は、東斜面に源を發す。標高三八三三米。(秀姑巒溪) 臺灣東海岸にある川。關山(三七一五米)の東麓に源を發して東流し臺東廳關山郡池上庄に至り卑南大溪と合流して臺東廳谷を北流し、秀姑巒山より發し清水溪を合せるラタラ溪と花蓮港廳玉里郡玉里庄附近にて合流し、丹大山

(三三六一米)の東斜面に發するマヒラ溪等をも合せ、同風林郡瑞穂庄に至りて東に屈折し臺灣東海岸山脈の中央部を横谷をなして突破し大港口にて太平洋に注ぐ。流程約九〇軒。この川が臺灣東海岸山脈を突破する横谷は長蛇行をなす峡谷にしてその兩端に段丘を形成す。これは近き地質時代に隆起し地盤の隆起運動の結果、河流が何れも著しく覺醒し以前の曲流に沿うて更に下割せしもの。即ち臺灣東海岸山脈の浸蝕するに從ひ中部海岸に注ぎし河流を奪ひて勢を増し以前の曲流を更に下割しつつ流路を保ちしものなり。なほ河口附近には岩礁が点在するため舟運不便なり。

シユーサイカ 秀才窩

シユーサン 舟山面 朝鮮京城道扶安郡の中部。面積約二五平方軒。西南境に舟山(二三一米)の丘陵あり北に延びて寶山(二〇六米)の丘陵に續く外は概ね平坦、殊に東半部は東嶺白山面の西

〇九米)等の山嶺の丸味を帯びし山地あり。村内殆ど高度三〇〇―四〇〇米級の高原をなし、東部・中部・西部に小流ありて巾狭き低地をつくり、何れも南流して村の東南境を回流する大堰川に合す。低地には田畑折々米産の産あり、また藁藁行はる。山地よりは林産を出す。小濱街道東部の谷に沿ひて南北に通じ、これより西南方へ走りて八木町方面へ向ふ。省營バス、京郡驛より此の地を通りて鶴ヶ岡に至る。古くは和名抄、桑田郡有頭郷の内にて、中世の吉富荘に屬す。もと郡役所の所在地なり。周山の山頂に天正年間明智光秀の築ける城塞の跡を遺す。周山の名は光秀己を周武に比し、主君信長を股村に比せしより起ると傳ふ。

シユーサン 十三湖

牛島の西海岸にある潟湖。湖岸は西津輕郡十三村及び北津輕郡相内村・内湯村・武田村に亘る。津輕平野の北端にありて岩木川及び田光沼の支流がこれに注ぎ、周囲二〇數軒。西部は砂嘴に築止められ、三角形をなし岩木川の埋没なき土砂の堆積により著しく湖底が増積され、また下流にアルムの發達著しく此潟湖を縮小せり。古くは田光沼と相連り岩木川下流の平原に氾濫し一たび潟湖を形成し、水深も深かりしこまは舟を運ぶことも能はざる程淺し。日本海に續く湖口は砂嘴南

北より出で、その間極めて狭く激浪は海砂を吹きて往々その口を閉す事あり。この砂嘴の内側は水深比較的深く最深點は約三米。ここに常に流速があり沖積物の堆積を許さざるため溝狀の深き區域を存す。湖水は海水の流入により鹹水なるも岩木川の注水の及ぶ所は淡水なり、從つて魚類は淡水水の兩種棲息す。冬季凍寒の際にはその表面全く氷結す。なほ鎌倉時代までは完全なる潟湖をなし、日本七海の一に數へられ、米・木材の移出盛なりしと云ひ、いま僅に十三池(十三村)・福島の故城(相内村)に昔日の面影を認ぶのみ。

シユーサン 十三湖

青森縣陸奥國西津輕郡の最北端。十三湖の日本海に入る湖口に位置し東は十三湖、西は日本海に挟まれし地、南は車力村に接し、北は十三湖の湖口に

所より舟の便あり。田村郡陸奥の東に際し、江流開郡に千坊の寺院を建立し土人を懐柔し教化を企てしことあり。本村海邊寺は其の一なりと言ひ傳へらる。津輕侯の祖先を秀榮と云ひ藤原秀秀六世の孫修理大夫清清の子清衡その子權五郎基衡の次子なりしが、父より與へられたる所領十三の海に福島島を築き土民を治め、逝去の際に増林寺に葬らると傳へられ、村社神明宮は増林寺の形蹟と稱せらる。斯く津輕侯創設の名色として往昔天下に名を馳せたりしも、今を去る四百三十年前大海嘯ありてその繁榮を奪はれたり。然も藩制當時は木材・米穀等物賣の集散地として重きをなし其の名蹟傳さるる所ありしが、今日往昔の遺を止めざるに到る。近く十三湖水戸日改修完成の上は貨物の集散昔日に復するを期待されつあり。

シユーサンハマ 十三濱村

宮城縣陸奥國本吉郡の東南部。道徳湖の南岸を占め、北は戸倉村に西は桃生郡に界す。西南境に北上川の流れ道波川東に流れて海濱に注ぎ、東北角十三濱(一名神割崎)に至る汀約一五軒、北境を東

西に連る三百餘米の山地の山脚は直に道... 波瀾に迫り、且つこの海岸は沈降海岸な... ため平地に乏しく僅に道波川岸に水田... ありのみ。村民は漁業を主とし牡蠣・鮑... の養殖その他の雑魚を産出し、山間部... ては木炭焼を業とす。兼務に北部山地... 開拓する小波瀾の河口海に注ぐ所に發達... し、街道はこれ等兼務間を海岸に沿うて... 走るも交通便ならず。此地は和名抄、桃... 生郡餘戸郷の内なるべし。本村の神別殿... (神別殿といふ)は竹堂海瀾記によれば... 初め七瀨(今の戸倉村)と十三瀨村と界を... 分ち、彼是相争ひて決せず、一夜海崖自... ら裂け宛も境界の狀を成す、故に名づく... とあり、その下に潮水奔注し、或は石に... 激し懸上すること数尺、蓋し絶壁なり。

シユーシ 椒子面

道濟州島の一画。濟州島本島の北方約一... 二軒、珍島郡島西の東南海上約一〇軒... 濟州海峡にある椒子諸島より成る。上椒... 子島・下椒子島を初め、其北方に浮ぶ水... 嶺島・秋浦島・黒劍島、横千島、南方に... 列ぶ水嶺島・青島その他の小嶼、岩礁を... 含み、面積約八・四万軒。下椒子島・上... 椒子島は面の主要部をなし、何れも高さ... 一〇〇米程度の山地をなすも海岸に沿ひ... て小低地あり農・漁業行はる。上椒子島... 東岸の大西里は嶺地をなし、濟州邑・島... 島への定期船寄港す。

シユーシヤマ 十四山村

愛知縣尾張國海部郡の西部。桑名市の東北... 度より着手せらるものにして、集々・水裡... 坑間固有鐵道(集々橋)の沿岸にあり、同... 鐵道は往年無斷開墾に依る土砂崩壊のた... め交通杜絶すること頗々たりし、造林... 施行以來かゝる鐵道事故皆無となる。民... 行造林は見るべきものなきも、一般民有... 林野中混農林業的施設を要すること頗る... 急なるもの多きに鑑み、之が指導獎勵に... 努め、社子方面に於て芭蕉畑内に混農林... 業的施設として、銀合歡・桐・ダケル... キヤシツツ等を帯狀に造林せしめ、成績... 良好なるものあり、之が實施に依り一般... に傾斜地利用上土砂・表土の流出防止せ... らるるに至る。林産物は薪炭・用材・竹... 材・山黄麻・筋等を主要なるものとす。

シユーシヤマ 集々

海淡水の北岸流域に位置し、日月潭を中心... とする魚池庄の西・南二面を圍繞す。

仰ぎ主要農産物を担付け工場擴張を爲す等... 製造能力頗る増大し、生産額亦漸次増... 加して島内各地に輸出せらる。臺灣電力... 株式会社の日月潭電力工事は門牌坑(大... 字社子に屬する)に第一發電所、水裡坑... (同上)に第二發電所を設置す。地方庶民... 金融機關は集々信用販賣購買利用組合・... 共和金融公司・集々郵便局(水裡坑に出... 張所を設置)等にして、殊に集々信用組... 合は施設便宜に適し、業務成績甚だ良好... なるため、優良組合として表彰せられた... ることあり。農林産業の開墾等に貢献す... るところ尠からず。共和金融公司是芭蕉... 生産者と對象とする下級金融機關なり。

財政方面にては基本財産として現金・土... 地を有し、財政収入年額一千四百餘圓に... 上り昭和十二年度預算額九八、四四六圓... なり。教育方面に於ては高等小學校一、... 公學校二を有し、本島人兒童の就學歩合... 男女平均五〇%前後に達するも、地勢上... 村落の多くは山間に點在し教育に恵まれ... ざる部落なほ尠からざる現況なり。由來... 本庄は其の位置偏在したるのみならず、... 大部分は山嶽重疊し交通上遺憾の點尠か... らざるため、他地方に比し著しく文化に... 遅るる所あり。民衆亦一般に低く教育に... 對する關心極めて薄かりし、近時交通... 施設の發達に伴ふ文化の流入・社會教化... 運動の進展・日月潭電力工事の影響等に... 因る地方民の覺醒は延いて向學心の向上... となり、就學兒童ために微増せり。社會

郡中寮庄、一部同郡名間庄に、北は一部... 魚池庄に、一部能高郡埔里街に、更に一... 部中寮庄に各々界を接し、南は濁水溪を... 隔てり。管内は大部分山岳丘陵地帯に屬... し、殊に東部高くして山嶽重疊し、北部... は概ね低き丘陵をなす。北端に三角嶺、... 西北端に集々大山(四七〇九尺)、東端に... 土地公穀嶺、河川は南境濁水溪の外... 同溪の一分流たる水裡溪及び集々諸水溪... あり、前者は源を東隣魚池庄の北部山地... に發し、峡谷となりて集々大山及び水裡... 山等の山間、即ち管内の略々中央部を南... 下して、終に濁水溪に合す。後者は集々... 大山に發源し林尾に於て濁水溪に注ぐ。

培は本庄に於ける新興産業に屬し、大正... 十年特買人を以て組織する元南投果物同... 業組合の手に依り、集々に芭蕉糖市場を... 經營せるに始まり、當時は集々を中心と... する一部小面積に栽培せられたるに過ぎ... ず、産地として殆んど其の存在を認めら... れざりしも、大正十三年生産者組合たる... 臺中州青果同業組合組織せられ、州下芭... 蕉産業の統制成るや、諸機構の一新と共に、... 生産の獎勵と相俟つて其の栽培年を... 延うて普及し、今日に於ては全山芭蕉を... 以て栽培するの盛況を呈するに至り、今... や州下の先進産地殆んど廢類を告ぐるの... 目せらるるのみならず、消費地に於ける... 寵兒として集々・水裡坑・臨寮の三検査... 所ありて品質を吟味し益々聲價を擡しつ... つあり。畜産物は牛・豚・山羊及び家禽... にして、産業上極めて重要な地位を占... むるも、何れも品種の改良迄くして進... まず、且つ飼養管理粗放の域を脱せざる... 現況にして、將來改善の餘地多し。農事... 助成機關として、農業組合・農協和會... (支會)を設置して、新業の發達助長に資... す。林業に就き見るに、管内には廣汎な... る林野面積を擁し、官行造林に屬するも... のには集々大山一帶に於ける營林所造林... 地、大字社子に於ける國營造林地、社子・... 柴橋頭・洞内に於ける土砂并止保安林の... 内の交通局委託造林地等あり。何れも成... 績良好なり。交通局委託造林は昭和七年

地公の小祠を建立せしより土地公穀嶺と稱せらるるは早く乾隆五十三年代より小路を通じて、道光四年王守榮及び陳坑なる者輩首となりて今の魚池庄方面の開拓を企つるや先づ資を投じて嶺路を改修し、集々地方との交通を便にせり。光緒年代に至り、富地方に於ける製糖業の勃興に伴ひ、更に山地の開拓を促進せし。現在に於ては製糖業地に移る。明治二十八年帝國領事以來數次行政上の變遷を経て、大正九年十月に至り、自治制施行と共に諸領時代より存続し來りし嶺は廢せられ、前記六字(もと各々庄と稱す)一括せられて集々庄と稱す。大字集々は本庄西部平地の略々中央、濁水溪流域の北岸近くに於ける小市街。乾隆四十年代この地方に於ける漢人の拓殖、其の緒に就き、林尾・柴橋頭の二聚落先づ成り、即ち其の中間に肆店街の形づくりを爲せしより、初め半路店と稱せしが、次いで同四十五年に至り、漸く小市街を爲し、集々街と稱す。蓋し四氏集來の意に採るといふ。同街に在る土地公祠は同四十年肆店街の創始と同時に建てられ、燭照廟は五十八年に建てられしものなり。風に著界の要地として發達し、道光十二年に成りし彰化縣志に「民蕃交易の所、山に入るの要路となす」と記せり。光緒年間より我が領臺後に至るまで、富方面一帯に産出する樟腦の集散地たりし、現時は米・バナナその他、農産物の集散地にして、本

庄の中心地たるのみならず、郡の主邑たり。郡役所を始め、庄役場・信用組合・郵便局・芭蕉検査所・消費市場・小公學校・公園等あり。北方は中寮庄を経て南投街との間に軌道(手押臺車)を通じ南方は濁水溪を超えて竹山庄との間に集合自動車線を有す。我が領臺後事務署を置かれしことあり、現行制度施行までは支廳の所在地なり。「集々公園」集々驛より〇・九軒、市街の北方、集々清水溪畔にあり。面積一甲四分にして北隅に新高社あり。附近溪上に釣橋を築し、又陸軍憲兵砲臺跡・大家墓園・集會所等園内に散在す。中央に樟の老樹あり、樹齡六百年に達するといふ。其の掩ふ所東西十六間半、南北十九間に及び樹冠均齊を保ち樹容優美なり。「神石」二あり。一は集々驛より西二・二軒、一は東一・六軒の地點にありて、各々巨石に前者は「開闢鴻荒」、後者は「化及蠻貊」の四字を刻す。傳説に依れば明治二十年(光緒三十年)の頃、雲林縣の知縣たりし陳世烈が富地方に居住せる番人を歸郷せしめ、開發に盡したる功績を讃へて後人これを遺せりといふ。

【集々大山】臺灣中州にある山。南投縣(中寮庄)の東南、新高(集々庄)の西北境の交界上に聳立す。高さ一四二四米。【集々嶺】臺灣中州新高郡の古地名。もと集々大山以南、濁水溪北岸以北に互る區域。いま集々庄の内、集々・林尾・柴橋頭・社子の四大字を合したる地域に相當す。初め木沙連堡(雍正十二年建)に屬せしが、光緒元年分立せり。我が領臺後依然存続せしが、大正九年十月地方官官制の改正に依り廢せらるる。【集々驛】臺灣總督府鐵道臺中線の一。縱貫鐵道二水驛(臺中州員林郡二水庄)を起點とし、概ね濁水溪の北岸に沿ひ、二本庄の東隣開庄(同州南投郡)を経て、更にその東隣集々庄(同州新高郡)の外車驛に終る。その延長二九・七軒。初め臺灣電力會社が日月潭水電工事用材その他の運搬用として敷設し、大正十一年一月より營業線として一般鐵道營業をなし來りしが昭和二年四月、三百七十三萬八千圓を以て總督府交通局に買収せられ今日に至る。日月潭・埔里方面への最も主要なる交通機關をなす。

【集々驛】臺灣總督府鐵道臺中線の一。縱貫鐵道二水驛(臺中州員林郡二水庄)を起點とし、概ね濁水溪の北岸に沿ひ、二本庄の東隣開庄(同州南投郡)を経て、更にその東隣集々庄(同州新高郡)の外車驛に終る。その延長二九・七軒。初め臺灣電力會社が日月潭水電工事用材その他の運搬用として敷設し、大正十一年一月より營業線として一般鐵道營業をなし來りしが昭和二年四月、三百七十三萬八千圓を以て總督府交通局に買収せられ今日に至る。日月潭・埔里方面への最も主要なる交通機關をなす。

を占め、他に蔬菜類・豆類・果物類等ありて、農業による年生産額二百二十五萬圓に上る。農家の副業として豚及び家禽の飼育亦盛に行はる。天恵に當ること多きが故に住民は一般に富裕にて、平和の觀あり。富豪は五萬圓以上の者七、十萬圓以上の者四を算し、庄の昭和十二年度産額一〇七五九一圓に及ぶ。秀水信用購買賣利用組合(出資金三一六六〇圓)は地方唯一の金融機關としてよくその機能を發揮し、産業經濟開發に貢獻する所甚大なり。教育狀況を見るに公學校二、同分教場一を有し、本島兒童の就學率は、男女平均四十五%を示す。社會教化施設としては、教化委員・部落振興會・國語講習所・青年團等を設置し、社會教育の振興によりて民心の啓蒙に努む。汎仁社は社會事業團體として昭和四年設立され、窮民救助及び就學獎勵を主要事業となし、年々相當の成績を擧げつつあり、衛生状態は土地風土の關係上一般に良好にて、傳染病の流行殆どなく庄内一圓に公共井戸五十箇所を設置す。交通は比較的便利にて、大日本製糖株式會社經營の私設鐵道は大字馬鳴山(庄の北部)を東西に横斷し、馬鳴山・崎瀧子(明治四十四年設置)・三塊厝(昭和九年設置)の三驛を置く。また道路よく備はり、指定道路たる彰化龍潭道路は馬鳴山を横斷する他、保甲道路龍潭發達し、彰化―鹿港間及び彰化―溪湖間の集合自動車は何れ

も管内を經由して、交通網の主幹線を爲す。本庄の内、秀水・陝西の二大字はもと燕霧上流に屬し、昔蕃薯園區の一部をなせり、其他の六大字は總てもと馬芝堡に屬し、昔馬芝堡を形成せり。往昔は平埔蕃族たるボアゴサマ部族のマアチイ(馬芝堡)の所在地にして、馬芝堡の名稱より起る。鹿港が明末鄭氏の時代に於て既に漢人の寄航上陸地たりし關係上その隣接たる本庄管内の開墾亦早くより着手せられ、乾隆初年頃には馬鳴山の部落を形成せられたり。雍正三年即ち今より百二十餘年前、福建省泉州府南安縣の王姓・余姓、晉江縣の陳姓及び漳州府の馬姓の人鹿港方面より移住し、土地の開墾に従事せしより、爾後移住氏陸續として來住し、乾隆年間より漸次村落を形成するに至る。帝國領臺後數度行政上の變遷を経て、大正九年十月に至り、自治制施行に伴ひ、清領時代より存続し來りし嶺は廢され、八大字(もと八庄を爲せり)を合して新に秀水庄となり、庄役場を大字安東に置く。

【集々驛】臺灣總督府鐵道臺中線の一。縱貫鐵道二水驛(臺中州員林郡二水庄)を起點とし、概ね濁水溪の北岸に沿ひ、二本庄の東隣開庄(同州南投郡)を経て、更にその東隣集々庄(同州新高郡)の外車驛に終る。その延長二九・七軒。初め臺灣電力會社が日月潭水電工事用材その他の運搬用として敷設し、大正十一年一月より營業線として一般鐵道營業をなし來りしが昭和二年四月、三百七十三萬八千圓を以て總督府交通局に買収せられ今日に至る。日月潭・埔里方面への最も主要なる交通機關をなす。

【集々驛】臺灣總督府鐵道臺中線の一。縱貫鐵道二水驛(臺中州員林郡二水庄)を起點とし、概ね濁水溪の北岸に沿ひ、二本庄の東隣開庄(同州南投郡)を経て、更にその東隣集々庄(同州新高郡)の外車驛に終る。その延長二九・七軒。初め臺灣電力會社が日月潭水電工事用材その他の運搬用として敷設し、大正十一年一月より營業線として一般鐵道營業をなし來りしが昭和二年四月、三百七十三萬八千圓を以て總督府交通局に買収せられ今日に至る。日月潭・埔里方面への最も主要なる交通機關をなす。

曹洞宗。明白山または瀧谷山と號し、當國洞家四刹の隨一。應永十年神戶太郎最重の開基に傳り、楠氏所出(正成の遺子といふ)の傳授能勝を岡山とす。第二世顯宗慶字大いに寺門を興隆す。近世寺領百石を有し、現に新潟・福島兩縣下に末寺約二百箇寺を統ぶ。本尊の阿彌陀佛は泰澄の作。寺寶として後鳥羽天皇宸翰・楠正成の經・同遺狀等を藏す。諸堂宇整備し、遠城老杉天日を蔽ふ幽邃地なり。寺側に不動の瀧あり。眼病に靈驗著しとて寒者多し。

ジューゼン

十禪師社(シヅカ) 京都市東山区粟田口の地名。三條通と廣道との交叉點といふ。名稱はもと粟田口青蓮院の講守たりし十禪師社はこの社(東)北にありしより出づ。十禪師はまた十善寺(二水記)・十禪寺(義經記)にも作り、便俗十蓮寺ともいふ。

シユー

周桑郡(シウ) 愛媛縣伊豫國四市十二郡の一。東は新居郡に、南は上野穴郡に、西は温泉郡に、西北は越智郡に界し、北東は愛媛に面す。面積二九三・五九方軒。西北は高麗山地の東斜面の地にあり、中央の東三方ヶ森(一二三三米)を中心に南北に一〇〇〇米餘の連嶺ありて東に急傾斜す。南部は石鏡山脈の最高峰(九八一米一石鏡山)を東南隅に有し、南境の二ノ森(一九三〇米)・堂ヶ森(一六九〇米)・青龍山(一三〇四米)等を始め廣く山岳嶺として高峻なる地形

シウトク

修徳(シウ) 朝鮮地骨府鐵道平元西部線の一驛(昭和六年設置)。朝鮮平安南道順川郡新倉面にあり。

シウトク

崇徳里(シウ) 臺灣の古地名。明末鄭氏の時代に建てられ、清領後これを廢さしが、光緒十四年東西の二里に分つ。先に拓殖の緒に就きたるは西里にして、その區劃は現臺灣州新豐郡歸仁床の内、大苓・林子邊・割猪厝・大潭の四大字及び關廟庄の内、龜洞・布袋尾の三大字を合したる地域に相當し、東里は現高雄州岡山郡寮庄の内、狗窟・古亭坑の二大字を合せし地域に相當す。我が領臺後依然存續し、大正九年十月地方官制の改正に依り廢止せられ、前記三庄に分割せらる。

シウナイ

州内(シウ) 朝鮮平安北道義州郡の西部。鴨綠江下流の中洲と左岸の平地を含み、西南は新義州府との間に成化面を隔て、東北に義州邑を抱き、西北は江を隔てて滿洲國安東省安東縣と相對す。鴨綠江中の中洲には北部に於赤島・勝文島、中部に野田島、南部に冬智島あり、江岸の地と共に低平にして所々に潤葉樹林あるも、大部分は畑地にして粟・稗・大豆・馬鈴薯等を産し、香次第に拓がる。義州邑・新義州府間の道路に當り、交通不便ならず。

シユー——シユー

をなし中央に向つて下る。兩山地の間は切れて三角形の溝入ありしも、西南より東北方にむけて流る中川及び沿岸湖沼等によりて廣く沖積平野拓げ、肥沃なる耕地をなす。米・麥・蕎麥等の農産盛んに行はれ外甘藷・果實等を産す。また山地からは三極・楮等を出し和紙の原料多し。東方高松市より來たり北方今治市にゆく省線鐵道本線は北部及び北東部の平野を通り小幡町壬生川町・三芳村に各々驛を設く。其他、四國街道は小松町より南部山地の北麓を西南に走り兩山地の狭谷を中山川に沿うて温泉郡に出で、松山市に至る。また今治市に至る數條の縣道は北西方に走り交通は頗る發達す。小松町・壬生川町・丹原町はそれぞれ主要なる都會なり。人口約五萬餘。本郡は明治三十年周布・桑村の二郡を合併して置けるもの。◎周布(郡)・桑村(郡)

ジュー

十三(シウ) 大阪府淀川區の町名。新淀川の右岸。社線阪神急行電鐵線の神戸行・東線行の分岐點にして社線新京阪電車線もまた此處に一支線を出す。好色二代男・三・安部野の風車、森の早百合、三津寺の夏草、十三川原の撫子(心中二枚折草紙・中十三、川原島、北南の長柄で、男といはれたる善次郎ちやが何と見た)

ジュー

重藏(シウ) 棒太の東南、中細床の別稱。西方遙に西能登呂(近藤)と相對して亞底灣を抱く。

周智郡(シウ) 京都府丹波國船井郡中部の西南偏。同郡町の西北部に接し、西南には兵庫縣多紀郡大牟田に接す。全體に北方へ彎曲し馬蹄型をなす。西南境の一隅に榎ヶ岳(五八二米)あり、それより東南方へは並行せる二條の山地ありて村の南と西の境をなし其間は稍廣闊なる谷合をなして小流東北に流れ東境に美女山(四八二米)、これと南境より中部に延びし丘陵との間を高屋川北しその兩岸に沖積地をつくる。低地には田地、傾斜地には畑地を耕作す。山地は、米麥の産あり。養蠶も行はれ、山地より薪炭を出す。東部低地を山陰街道同郡町より來て北へ走り、中部臺地の北を繞りて西北方へ向ふ。北部一遺これより分れ高屋川に沿ひて北に通じ、省線山陰本線の下山驛(高原村)内に連る。古へは須知郷に作る。和名抄に船井郡須知郷あり、而して郷境は高屋川をもち含めるものにして、是利の頃、周知景基、市森城に據りて近郷を統一せり、其後天正七年明智光秀の攻略す所となる。明治廿四年町制を布く。(何鹿神社) 大字官倉御領。郷社。祭神、大山祇命・品陀別命・彦狭知命。天武天皇御宇自鳳十二年の創立と傳ふ。式内出石鹿野神社これなりといへど確かならず。正和二年何鹿神社と稱し、永祿十二年・文化五年等に改造す。

シウチ

須知町(シウ) 京都府丹波國船井郡中部の西南偏。同郡町の西北部に接し、西南には兵庫縣多紀郡大牟田に接す。全體に北方へ彎曲し馬蹄型をなす。西南境の一隅に榎ヶ岳(五八二米)あり、それより東南方へは並行せる二條の山地ありて村の南と西の境をなし其間は稍廣闊なる谷合をなして小流東北に流れ東境に美女山(四八二米)、これと南境より中部に延びし丘陵との間を高屋川北しその兩岸に沖積地をつくる。低地には田地、傾斜地には畑地を耕作す。山地は、米麥の産あり。養蠶も行はれ、山地より薪炭を出す。東部低地を山陰街道同郡町より來て北へ走り、中部臺地の北を繞りて西北方へ向ふ。北部一遺これより分れ高屋川に沿ひて北に通じ、省線山陰本線の下山驛(高原村)内に連る。古へは須知郷に作る。和名抄に船井郡須知郷あり、而して郷境は高屋川をもち含めるものにして、是利の頃、周知景基、市森城に據りて近郷を統一せり、其後天正七年明智光秀の攻略す所となる。明治廿四年町制を布く。(何鹿神社) 大字官倉御領。郷社。祭神、大山祇命・品陀別命・彦狭知命。天武天皇御宇自鳳十二年の創立と傳ふ。式内出石鹿野神社これなりといへど確かならず。正和二年何鹿神社と稱し、永祿十二年・文化五年等に改造す。

シウトク

周徳面(シウ) 朝鮮忠清北道忠州郡の西南偏。東は利川面を隔てて忠州邑に近く、南は槐山郡佛頂面及び陰城郡蘇伊面に界し、面積約四七方軒。南北兩境には丘陵地山地あり。南境の最高點は御來山(三九五米)、北境も亦これに伯仲し共に高度幾流川東流して之を潤し沓田よく拓げ畑地亦少からず。米を主とし麥・豆類・棉・煙草等の農産を出す。また南部山地は寺岩嶺山の嶺内に當り命・銀を産す。社線朝鮮鐵道忠北線南東部を走り、東部に大召院驛(昭和三年開業)を設け、また忠州・長湍院間の一等道路は中部を東西に横きりてバスを通過

京城府の北方約二〇軒、榮電面の北に接し、西は白石面、北は楡泉面に隣り、東は抱川郡蘇屹面に界し東西一〇軒内外、南北四六軒の地を占む。東境には天寶山(三七八米)、西境に佛國山(三六一米)あり、中央北部にも低き丘陵ありて、その西には南流する漢川(漢江の一支流)、其東には北流する漢川の一支流上流の小平地あり、麥・大豆・粟及び楊州果等の産あり。また標亭嶺山の嶺内に當り、マングステンを出す。議政府・鐵原間の道路南北に通じ交通不便ならず。

シウ

朝鮮京畿道坡州郡の中央部。郡邑汝山(臨津)の東南隅にて、南と西は汝山川を境として月徳面に隣り、東北は坡州面、東は泉鏡・廣津の二面に接す。東境に鳴鶴山(二二二米)、その西方面の中央部に鳳棲山(二二五米)あり、また南境近くには高さ一〇〇米内外の丘阜ありてその間に位する低地に、面の西部を南北に續く汝山川右岸の平地に連る。農を主業とし米・大豆・野菜等を出す。京義街道・京義本線並行して西部の平地を南北に走り、面の西北部は後者の汝山驛(臨津面汝山里)に近く交通不便ならず。

シウ

朝鮮京畿道驪州郡の首邑。郡の略中央部に位し、漢江の左岸に沿ひ、江を隔てて北は北内面、東は廣川面に對し、東南は占東面、西南は加南面、西は陵西面に隣接す。面積約五七方軒。南境に神通山(約二八〇米)、西南境に大抱山

古來、中丹波山内の庄の一宮と稱され庄内の尊崇深し。(玉雲寺) 大字市森にあり。曹洞宗。雲樹山と號す。初め大和國補光寺の太智梵清、諸國巡錫の途、當地に草庵を結ぶ。時に領主須知景吉、太智に歸依し、當地の殿屋料に一字を立て太智を請じ開祖となす。以後寺運隆盛なりしが天正七年領主須知景光、明智光秀との兵燹に罹りて烏有に歸せしを以て翌八年、光秀再興し、現在の地に移せり。

シウ

秀天(シウ) 岡山縣兒島郡にありし村。明治三十六年、本村及び上加茂・下加茂の二村を合併し、莊内村を建つ。

シウト

期頭(シウ) 小梅東(臺) 時代の領地のための城址あり、周圍一二軒に及ぶ。その大部分は崩壞せるも往時の規模を遺憶するに足る。城址中に成佛寺あり。(正方面城) 正方面にあり。慈悲山脈の盡くる所に屹立する正方面は附近諸山の宗にして、標高四八〇米、西方に載寧江流域に屬する大平野あり。城址は山内にあり周圍約一二軒、面積約二〇〇ヘクタール。高麗時代に節度使の下に別荘を配置し遺蹟に任せしめたるも李太王三十二年(明治廿八年)守城を廢す。城址の大部分は崩壞し荆棘徒に茂るも何ほ往時の規模を遺憶するに足る。城内山紫水明にして幽邃なり、また杏花の名所として著聞し、遊覽の人多し。(成佛寺) 朝鮮佛教。三十一本山の一。新羅孝恭王二年、道鏡國師の開創に係ると傳ふ。堂宇中、極樂殿及び應真殿は保存建物に指定せらる。また五重塔あり。門外の杏林も亦著名なり。

シウ

從南面(シウ) 朝鮮平安北道江界郡の東北部。江界邑の東北隅にして、北東は厚昌郡南新面に、東南はその七坪面と咸鏡南道長津郡郡内面とに界す。東西は一〇一二軒、南北は約二〇軒の地に互る。芝蔴嶺山脈中に位し、東境には南に舍龍峯(二七八七米)、北に白三峰(二五五六米)、北境には寺徳山(二三五五米)、金把山(二三八八米)等峙ち、その山脚内に延びて山地重疊す。秀魯江の支流北川、北部山間に發して西南流し、

シウ

朝鮮平安北道義州郡の西部。鴨綠江下流の中洲と左岸の平地を含み、西南は新義州府との間に成化面を隔て、東北に義州邑を抱き、西北は江を隔てて滿洲國安東省安東縣と相對す。鴨綠江中の中洲には北部に於赤島・勝文島、中部に野田島、南部に冬智島あり、江岸の地と共に低平にして所々に潤葉樹林あるも、大部分は畑地にして粟・稗・大豆・馬鈴薯等を産し、香次第に拓がる。義州邑・新義州府間の道路に當り、交通不便ならず。

シユー——シユー

東部・東南部より来る諸水を容れて江界...

シユーニカイシタ 十二階下...

シユーニカアラ 十一箇村...

シユー——シユー

頭) 藤(六九頭)・輪(四一頭)・家...

シユーニリ 十二社...

シユーニチヨ 十二町村...

シユー——シユー

シユーニケン 十二軒...

シユーニサト 十二里村...

シユーフ 周布村...

シユー——シユー

シユーフ 秋富面...

シユーフ 周布村...

シユーフ 周布村...

シユー——シユー

する處なりしが、明治二十二年町村制...

して兵備を撤せり。風土略記に十二所...

はしくシユーニチヨ 十二町村...

に属する流り、即ち東京市電一の橋...

シユー——シユー



シユー——シユー

通の便なほ開けず。

シユーフー 秋風嶺 朝鮮慶尚北道と忠清北道との境にあり。小白山脈に属する徳裕山脈の息むところ。北方俗...

シユーホ

シユーホ 周浦面 朝鮮忠清南道保寧郡の中部西岸。東南は大川面に隣り、西南は大川面の西南部との間に泥海...

シユーホ

シユーホ 柔浦面 朝鮮咸鏡北道豊城郡の西北隅。朝鮮の最東北端に當り、西と北はこれを回流する豆満江を境...

シユーホ

シユーホ 州北面 朝鮮咸鏡南道咸州郡の略中央部。咸興府の北隣にて、底邊を北に有する二等邊三角形の如...

シユーホ

シユーホ 秋芳洞 秋吉臺(山口) 朝鮮咸鏡南道咸州郡の略中央部。咸興府の北隣にて、底邊を北に有する二等邊三角形の如...

シユー

附近町村の米穀も此處に集まり陸續として東京市場に貨車輸送せらる。十文字の地名は大小の道路は古來此處に集まりし...

シユーリキ

シユーリキ 十里木越 靜岡縣富士・駿東二郡の境にある坂路。富士山と愛鷹山との間の鞍部。富士郡吉原町より...

シユーリン

シユーリン 修倫面 朝鮮慶尚北道星州郡の南部。昭和九年四月青坡面・善志土面を合併して置ける面にて、地形は馬鞍状をなし、東南は高麗雲水...

シユーワ

シユーワ 十和村 英城縣富津國氣波郡の西南部。小貝川の東岸。面積九・五〇平方軒。全村平地にて西境より西南の一部を貫き、小貝川南流し、水田...

シユーイ

シユーイ 朱伊面 朝鮮咸鏡南道定平郡の中部東邊。地西北より東南に延び、西南は府内西、西北は高山面に接し、東北は咸州郡川西面、東南は同郡朱地面に隣接す。面積約九七方軒。北西地上の市老山(七五五米)の山嶺は北境を東方に連り...

シユーツオン

シユーツオン 朱乙温 朝鮮咸鏡北道の中流を流る河。鏡城郡の北境、小長白山脈に属する渡正山(二二〇一米)の南側に發源して東南流し、朱乙温堡を過ぎ、下流朱乙温場附近に於て冠帽峯に發して東南流する一支を併せ、更に南東流すること五軒にして、日本海に注ぐ。流域四二軒餘に過ぎざるも本道重要河川の一にして、下流々城に廣く平野拓け米・麥・豆類等を多く産す。沿岸の朱乙温堡・龍湖洞・市上洞に温泉湧出し、朱乙温堡は陸軍の療養所に...

シユーロク

シユーロク 十六 利根川下流の砂洲の稱。利根川・横利根川・北利根川等の泥濘せし時に運び來れる土砂によりて生ず。砂洲は利根川下流の改修工事前にはその發達著しかりしも今は殆ど見られず。之等により生ぜし洲は肥沃なる沖積地なるため直に浸水を防ぐ堤防を築き、中に耕地を開き墾殖を生ず。かくて利根川沿岸に生ぜし十六の墾殖を、十六島と稱するに至れり。即ちその地域は英城縣富津郡本新島村の六角・船佐・上ノ島・中島・西代・ト枕の六墾殖及び千葉縣香取郡神崎町の松崎・佐原町の長島・中洲、新島村の八筋川、大島・三島・境島・扇島・加藤洲、磯山の十墾殖に及ぶ。土地低濕にして縱横に割割が通じ兩側に堤防を築く。堤防の高き兩岸の上に繁る柳・ゴブア、さては眞...

シユー——シユー

シユー

シユー 高知縣土佐郡にありし村。昭和三年四月本村を廢し朝倉村・鏡村・吾川郡伊野町及び神谷村に分割編入す。

シユー

シユー 高知縣土佐郡にありし村。昭和三年四月本村を廢し朝倉村・鏡村・吾川郡伊野町及び神谷村に分割編入す。

シユー

シユー 高知縣土佐郡にありし村。昭和三年四月本村を廢し朝倉村・鏡村・吾川郡伊野町及び神谷村に分割編入す。

シユー

シユー 高知縣土佐郡にありし村。昭和三年四月本村を廢し朝倉村・鏡村・吾川郡伊野町及び神谷村に分割編入す。

シユイ——シユク

指定せられ、龍洞湖のカネタ温泉と共に...

【朱乙温泉】朝鮮咸鏡北道鏡城郡の中部。東北は格村面、南は朱北面、西南は朱南面...

シユオツ

朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(大正十年設置)。咸鏡北道鏡城郡朱乙温泉にあり。驛より約三軒にカネタ温泉あり。

シユカクイン

修學院(シユカクイン) 京都市左京区の町名。名稱は播磨守佐伯公行が僧勝算に深く歸依し、一寺を創して修學院と名づけしに始まり、後同寺の荒廢によりて愛宕郡の村名となる。江戸時代に五里に幕府は後水尾上皇のために離宮を此處に營み奉り、今に至るも洛北の名苑たり。明治六年、村は京都市に入り左京区の町名となる。

シユキユー

樹牛島(シユキユー) 朝鮮慶尙南道の西南部、南海島の東にある島。統營郡遠望面に屬す。近海は太刀魚・鱈・...

シユシユイ

酒々井町(シユシユイ) 千葉縣下總國印旛郡の中部。印旛沼の東南岸にあり。西は佐倉町、北は公津村、東は富里村、南は八街町・和田村と隣す。町内殆ど丘陵地にして森林あり。南部を西流する小流附近の細き低地と、西北部の印旛沼沿岸とは水田あり。縣道は佐倉町より來りて町の中央を北走し、北隣公津村を経て成田町に通じ、省線成田線及び京成電氣軌道線これに沿ひ、成田線は酒々井驛(明治三十年設置)を設く。また省線總武本線は南端をかすめて東南に走り、町内には南酒々井驛(大正三年設置)を設く。この地は和名抄、印旛郡印旛郷の内にして、もとは佐倉城市の一市場たり。成田街道に沿ひ、旗舎茶店軒を並べ、町民の大半は旅人によりて生業を營み、股販の地たりしと鐵道の開通後は衰はず。なほ鐵道開通の際、停車場を設置する時、町民の反對に遺り舊宿場を置く十數町の現位置に設置せしため舊宿場は置き去られし状態となり、今や町の中心は停車場附近に移る。町内に將門山・根古屋城址(本佐倉城址) 酒々井等の名所あり。また明治十四・十五年の二回明治天皇千葉縣下に行幸の際は本町に御小休あらせらる。〔本佐倉城址〕大字本佐倉將門山にあり。平將門の創築する所と傳ふ。のち千葉轉風改築して千葉猿蓑臺より移り居る。相承して重胤に至る。重胤坊にして小田原北條氏に質たるを以て、原胤成は

シユサ——シユシ

は甘藷・稗黍を産すれど村民の生活は水産にありて鯉・鮎・鱒・鰯・鰯等の漁獲あり。また眞珠の養殖も行はる。南部を東西に走る道路あれど交通の多くは水運による。古くは和名抄、美濃郡船越郷に屬す。もと神宮領にして守護不入の地たり。村名は宿浦・田曾浦の二村を合併して町村制施行の際命名せるもの。
珠山面(シユサン) 朝鮮忠清南道保寧郡の最南端。東は順山面、北西は熊川面、南は舒川郡東面・鹿仁面及び西面に各相隣接し、西は海に面す。東北方に聳ゆる峨嵋山(六四五米)の餘脈域内に及び東境及び西北境は丘陵性山地を以て割し中央及び南部は稍開けて低地横たはる。地味一般に瘠薄にして農産物に乏し。氣候は冬季稍寒冽を感ずれども暑氣酷しからず比較的適き易し。産物は米・苧麻・麻・大麻にて、水産物に比目魚・石首魚・貝類等あり。社線朝鮮京南鐵道は郡の東部を縦走し時時・珠山の兩驛(何れも昭和六年設置)あり、道路は郡邑大川より來る二等道路これと並走して南方鹿仁・舒川に通じ兼合自來車の便あり。兼落は長峙(金岩里)を中心として、大部分は中央低地に分布し、倉岩里・三谷里・野龍里・珠野里・柳谷里等あり。長峙は面事務所の所在地にして、警察官駐在所・陰曆四・九の日に開設の市場ありて穀類・綿布・麻布・雜貨品・賞品等の取引行はれ年額二萬圓に上る。

シユク

あなご・たご等の好漁場なり。
椒島(シユク) 朝鮮黄海道松林郡の島。豊海面に屬し、椒島水道を隔てて陸地に對す、其間約一〇軒。最高點三五二米、面積一八四平方軒に及ぶ大島にして、西海岸航行の船舶が大同江口を識別する好目標たり。島の南西側に一千出帆あり、河口は南東に面し、附近は小形帆船の假泊に適す。又島の南東側に相浦、北東側に蘇沙の二干出帆あり。地勢西方に傾斜し兼落に蘇沙里・泥岬里あり。住民は農・漁業に従事し、沿海はいかなる漁場として有名なり。島の北西角、蒼々鼻(帆掛岩崎)の北西に西島あり。頂上に西島燈臺(明治四十年設置)あり、閃光光にして毎二〇秒に一閃光を發し、光達距離二四哩。霧笛は四十五秒を隔てて五秒吹鳴す。

シユクシ

宿仁面(シユクシ) 朝鮮黄海道金川郡の東南端。北は月城面及び外柳面、西は合禮面、東は京畿道連川郡北面に、南は同長嶺郡江上面及び連川郡西南面に各相隣接す。老年期の丘陵地帯を成し平地は僅かに東境の臨津江沿岸の段丘上に見るに過ぎず。耕地は丘陵面上に分布し灌溉不便のため主として農業行はる。住民は農を主業とし傍ら家畜・林業の飼育を爲す者あり、また採薪に従事す。産物は大豆を主とし雜穀・薪炭及び人参等あり。僻地に位置する爲に道路の改修行はれず僅に東部に議政府街道走りてバスを

シユクセン

通するのみにて、交通概して便ならず。兼落は散村形態の分布を成し、兼落密度極めて疎なり。
肅川面(シユクセン) 朝鮮平安南道平原郡の路中央。東は公禮面に、北は東松面、西は檢山面及び朝雲面に各相隣接す。東境に降龍山(四四六米)聳えその餘勢域内に及び東部は山地を成せども、西部は低平にして肅川これを灌溉し地味肥沃にして農産物に富む。其主なるものに米・麥・粟・小豆・黍等あり其他草鞋・麻布等の産あり。鐵道京義本線は面の西境を縦走し北部に肅川驛(明治四十一年設置)あり。道路は此地を中心として京義一等街道及び成川への二等道路を岐ち其他等外路線を放射狀に出し交通頗る便なり。兼落は主として西部平地帯に分布す。肅川は面政の中心にして四日・一里・三里の三市場ありて一箇年取引額約一五萬圓に達す。郵便局・金融組合・學校組合・小學校等あり。

シユクタリ

宿田曾村(シユクタリ) 三重縣伊勢國度會郡の東南端。志摩半島南部に深く刻みこめる五ヶ所灣の東の灣口に位し西は五ヶ所灣に南は熊野灘に面す。東北は神原村及び其南の志摩郡濱町に界す。面積五・三一方軒。中央に一五〇米程度の山地あり、周囲の海岸に低くなりて追り、海岸は岩石海岸をなし岬曲多く、西南端長く突出し尖端を三崎と言ふ。その北部及び東部に僅かに低地あり。沿岸に

假に城代となる。天正十八年徳川氏領東に封ぜらるゝに及び、胤成開き去る。同年三浦重次に賜はる(一萬石)。文祿元年武田萬千代(後、五郎信吉)之に封ぜられ(十萬石)、前を大塚(本佐倉の内)に移し居る。慶長七年常陸國水戸に移封。此處松平千代(忠輝)に賜はる(四萬石)。同八年信濃國川中島に徙り、同十四年土井大炊利勝の封ぜらる。食邑五萬石。乃ち新に鹿島山に築き、同十六年起工、七年にして成り元和元年移りて之に居る。即ち後の佐倉城これなり。本佐倉城ここに於て城代となる。(酒々井) 圓福院の境内にあり。古く此地に三人の孝子あり父酒を嗜む孝子勞苦して之を購ひては父に薦め、その飲ぶを見て樂しみたりしが遂に酒を得る道に窮したり。其時、古井に醇酒の湧出するを發見し、喜びて之を掲げて父に薦めたりと。即ち天、孝子の徳に感じ此の賜ありしと傳ふ。いま僅かに一介の石碑を留むるのみ。(大佛頂寺) 下岩橋にあり。新義眞言宗智山派。岩橋山就成院と號し佐倉五大寺の一刹たり。往昔弘法大師が大佛頂を修したる舊蹟と稱す。天正十九年徳川家康寺領十石の朱印を寄す。のち災厄に遭ふこと三度、堂宇舊記等灰燼に歸し、其沿革を明かにせず。(吉祥寺) 本佐倉にあり。新義眞言宗智山派。佛母山と號す。御摩耶坊と號し摩耶夫人の像を本尊とす。中興開山は實運法印なり。往昔は伽藍壯麗を極めた

り、雖も、天保年中災上し、再建成るも遠く舊觀に及ばず。(觀音寺) 本佐倉にあり。顯本法華宗。如意山と號し康治二年國主千葉介平常胤の創建に係り、もと眞言宗を奉ぜしが大永元年日僧は現宗に改む。元祿元年、佐倉城主戸田山城守忠昌、寺田若千を附す。(淨泉院) 伊藤にあり。曹洞宗。佛林山と號し常陸國多賀郡杉室村大雄院に隸す。延徳二年栗飯原豊後守胤光の開基に係り、臨江周思和尚を開山とす。(勝藏院) 馬場にあり。新義眞言宗智山派。本町本佐倉根古吉野寺本たり。元祿十二年、戸田能登守忠實の開創に係る。本尊は不動明王。(清光寺) 本佐倉にあり。淨土宗。龜澤山と號し月峯和尚の開創に係る。天文年中二世無算和尚、三州より大樹寺殿源廣忠(家康の父)の眞骨を携へ來りて山内に埋葬す。天正十九年家康狩獵の途夫本寺に一宿し、寺領二十石を附し、其墓上に厚朴樹を栽植したりといふ。(東光寺) 新義眞言宗智山派。大廣山と號し、舊佐倉五箇寺の一刹なり。建長六年知恩院俊譽上人の開創に係る。元祿二年災厄に遭ひて堂宇舊記等を失ふ。現堂宇は其後の再建なり。(東傳院) 黒村にあり。曹洞宗。永正元年の創建。松岩周鶴を開山とす。弘法大師像を本尊とす。境内に寶曆三年山崎清兵衛の創建に係る觀音堂ありて勇頭觀世音を安置す。(妙風寺) 本佐倉にあり。日蓮宗。中山法華經寺に屬し、正

シユシ——シユセ

安元年の創建に係り、上行院日輪上人を...

シユシヨ——主尚面

尙南道居昌郡の略中央。郡邑居昌の北方...

シユシヨ——壽城面

尙北道連城郡の東端。大邱府の東南に隣...

言八

には未を第一とし大豆・大豆・大豆につぎ...

シユシヨ——備城面

尙南道大徳郡の西部。大田府の西方約一...

シユシヨ——朱川

朝鮮全羅北道鎮安郡の西北端。東は龍潭...

シユシヨ——酒村面

朝鮮全羅北道蔚山郡の中央。東は金海邑、北は北二面...

シユシヨ——朱地面

朝鮮咸鏡南道咸州郡の西南端。咸興府の南方約一〇軒。東は女清川...

シユシヨ——シユチ

路は等外線のみにして險峻なれば不便なる所あり...

シユセ——シユチ

て、此處よりバスの便あり。桂川を挟みて...

シユセ——シユチ

同年間弘法大師の發見に係ると傳ふる獨...

シユセ——シユチ

往時の子院八を有せしも今僅かに二院を遺すのみ...

シユセ——シユチ

シユツ——シユツ

なほ成興府等に移出す。又果樹の栽培に...

シユツコー 出礦坑油田

臺灣新竹苗栗郡にある油田。公館庄の...

シユツコー 出礦坑油田

師二人を聘し、機械鑿井を試み、好結果...

シユツコー 出礦坑油田

四十軒を自噴し、翌十五年一月には著し...

シユツコー 出礦坑油田

つ。岩蔵川(郡) 島根縣出雲國蔵川郡の東部...

シユツセー 出精村

陸奥國西津郡の中郡。水産町の北にお...

シユツトー 出東

古の出雲(出雲) 出雲國(島根縣)の古郡名...

シユツトー 出東

坂田・三分市・悪目・中酒・沖酒の五箇...

シユツトー 出東

シユナン 朱南面 朝鮮咸鏡北道鏡...

シユセー——シユヒ

シユフ—シユリ

つ山岳地帯に位置せるを以て道路の改修未だ行はれず、路面險悪にて車を通ずるものなく交通運送は主として人肩・馬背に依る。乗務極めて少なく中部の發見洞に事務所を置く。(七寶嶺山) 面の北境近くあり。銀・銅・亞硫酸等を出し、特に亞硫酸を出すこと多きを以つて著し。朝鮮亞硫酸鐵業會社の所有に屬し、歐洲大戦以後久しく休業状態にありしが昭和十年四月再び事業に着手す。

シユフ 鷲峯山

↓東和東村(京都府)

シユフ 鷲峯山

↓東和東村(京都府)

鷲峯山の略中央、東西四〇軒、南北一〇乃至一五軒の幅を有する廣大な地域を占め、北は米乙温面、西及び南は米南面に各相隣接し、東南は長瀬湖を隔て、漁郎面に相對し、東は日本海に面す。西境に五務徳峰(二二八米)聳立し、餘部東方に延びて北境には白砂峰(一〇七九米)・釜原里峰(七二二米)・熊子嶺(六二二米)を順次觸れし遂に東岸に達して陣峰徳山(五四二米)を隆起せしめ終に海に没す。南境は前者に比し一般に高度減ずるもなほ煙臺峰(八六七米)を始め五〇〇米前後の山嶺相連り之等兩山地に發源せる米北川路中央を東流し日本海に朝す。海岸は砂浜弓状を成して相連り、極めて單調なり。住民は一般に淳朴にして農を主要とし、沿海の接玉洞・龍中洞・雨川洞等に於ては漁業に従事し又牛糞牛漁の香あり。産物は栗・梓・大豆・麥・蕪菜等

シユヨ—首陽

【首陽】朝鮮神戶府鐵道平元西部線の一驛(昭和四年設置)。朝鮮平安南道順川郡殷山面にあり。【首陽山】朝鮮黃海道南部にある山。道の南部を東西に走る斷崖山脈たる首陽山脈の主峰にして、花崗岩より成り、標高(八九九米)。その北麓を雲龍峰といひ標高九四五米あり。それ等の山は海州郡の任汪中央を占據して海州邑及び錦山・西席・羅德の各面に跨る。山容の支那達西にある首陽山に似たるを以て名づくとす。山中に廣石川發し海州邑の東部を廻り海州灣に注ぐ、湧瀾に翠嶽映じその風景耶馬溪に似る。右岸に沿ひて瀬熟亭・志觀亭・五層塔・四美亭・釜淵等の書蹟佳景あり。左岸には有名な清聖廟あり、伯夷叔齊を祀る。山の西側、西席面内には神光寺の名刹あり。山より石材を多く出し、また石細工行はる。

シユリ—首里市

【首里市】沖縄縣沖繩島の南部に位置し、那覇市の東北約四軒に在り。北は中頭郡西原村、東・西・南の三方は島尻郡の南風原・眞和志の西村に接し、東西二・三軒、南北二軒、面積二・四四方軒の小都市なれども、琉球開闢の祖天孫氏(年代不詳)が都城をこの地に相して以來歴朝の居城地となり、最後の尚國王朝のみにても約四百餘年を経たり。現在の都市は同王朝第二尚國王時代に創設せられたるものにして、平均高度一〇〇米

シユリ—シユリ

へし、丘陵上に位置して交通不便なる當市より那覇市に移動せんとする傾向あり。されば明治初年には三萬人を超えたる人口も、昭和十年十月現在には一九・三〇五人に激減し、全國諸都市の末尾に居る。本縣の主要交通機關たる沖繩鐵道線道は那覇市に起りて中頭・島尻兩郡の諸町村を通り、獨り本市を避け、幾に那覇市との連絡に任じたりし沖繩電氣鐵道ありしも、これまた營業不振のため廢せられて、今は個人經營の乗合自動車が兩市間の連絡運輸に當るのみとなれり。【首里城】市の南方最高丘上にあり。東西約四〇九米南北約二七三米に達し、石垣は天文十三年の増築になり高さ一五米厚さ六米周圍約九〇〇餘米に及ぶ。城の内外には老樹鬱蒼として互幹を交へ、晝尚暗く幽邃の氣溢る。築城法はすべて日本式なれども門樓はすべて支那風に造る。正門・歡會門は尙國王時代の建築にて上に入母屋造の檼あり、門前左右に唐獅子の石像安置さる。門内右に古來中山第一と稱せらるる瑞水あり四時清冽なる水を湛へ常に御龍橋と呼ばれ、石龍頭は尙國王時代大永三年支那より持ち來りしものといふ。其の上方左右に歡會の大文字の石碑ありて之を讀せり。瑞泉門を入れば石壁圍繞し急に眼界狭められ、次で漏刻門跡を上りたる左に昔の日時計臺石保存さる。それより奉神門に至る迄にありし門樓・石欄等悉く破壊せられ古への壯大

にて、水産物には食鹽・明太魚等あり、ことに大豆と明太魚とは重要移出品を成す。鐵道は成鏡本線海岸近く南北に通じ會文驛あり。之に平行して一等道路開通し東部海岸地帯に交通便なるも西部山間地方との交通便ならず。乗務は散村形式のもの多く西部山中に金谷洞・南河洞・鐵店洞等ありて隔絶地帯を形成し、東部海岸地帯には前記龍海集落の他雲谷洞・榮南洞・斗南洞・花谷洞・利龍洞・龍淵洞等ありて面事務所を斗南洞に置く。【シユマリナイ】朱耨内 北海道石狩國南稚内郡加内町の大字。省線稚内線(朱耨内線)の昭和七年設置)を置く。【シユモクマチ】檣木町(シユリ) 京都市伏見區の町名。江戸時代ここに遊廓ありて名高し。諺りてシユモク町ともいふ。續留・五ノ楯木町の遊女、手づまりし時、響紙を賣に賣くこそなかしけれ、特色一代男・一「新靴とよみし伏見の里へ、菊月十日の夕暮、きのふ酌し、酔のまぎれに、唐物屋の入相、程なくしく町、このさす所は爰也。」山崎與次兵衛等の門松・上ノ都島原上林の高橋に、金造うて髪斷らせた、伏見檣木町樹屋の高尾に、又したたか這うて、心中に生爪を放してくれた、御所堀川用夜討、五ノ花の都は歌で和む敷島原に、勤めする身は誰と伏見の盛業、煩悩菩提の檣木町より、蘇波四節へ通ひ

を認ぶ能はず。奉神門の下の通り廣野の前面にある正殿にもと椽葺なりしが寛文十年瓦葺とす。四十年後に改築の制にして、現重層の建物廣さ十一艘二九米、深さ一七・一米、高さ一六・三米、前に五艘一面の突出部あり、更に三艘一面の向拜附加せらる。外観は重層なるも内面は三層となり弘化三年の建築に係る。(首里城歡會門) 國寶。當道三丁目にあり。首里城大手の厚く且高さ石牆の一部略々圓形を畫して大きく凹入せる最奥部の一口の拱門を開き、拱門上更に層層入母屋造本瓦葺の木造建築を重ね上下二者を合して一構の拱門を形成す。かゝる拱門式城門は支那朝鮮には其例多きも我國には全く見る能はざるものなり。本門は首里城の正門にて尙王朝初期尙國王の創建に係り爾來數代の修繕を経たるものと傳ふるも、木部の構造手法並に拱門を有する石牆の積み方等は能く當時の特質を具備す。特に門の左右に配せし石彫の獅子一對は尤も技巧の妙を表はせり。(首里城守門) 國寶。當道町にあり。首里城正面大路には元二棟の坊門あり、第一門たる中山門は南材大破し明治四十一年に撤去し、いま第二門たる守札門のみを残す。守札門は明の嘉靖六年(我が大永七年)の創立にて、爾後、數代の修理を経たり。本名を特寶門又は首里門と稱せしも、清の康熙二年(我が寛文三年)以後「守札之邦」の扁額をその額間に常掲する

を超える隆起瓊瑤塵上の丘陵地に、明の帝都を模し城を中心として造營せらる。市の南部は特に高く、海拔約三〇〇米の丘上に周圍約一軒の舊王城が聳え、市街は市の中央を東西に貫く縣道を基幹としてその西方より北方にかけて展開す。首里城は厚さ六米、高さ一五米餘の石垣を繞らし、中央に正殿あり、これに續く大小の殿閣は今なほ多く残存す。縣社神樂神社は首里城正殿を拜殿としてその後方に鎮座し、大正十三年の創建に係る。城の北に接して沖繩三大寺の一に數へられたる古刹圓覺寺と市役所とが相並び、その西に通ずる轉門大通に沿つて記念運動場、尙家の墳墓たる靈御殿・安國寺等あり。市内にはこの他尙王朝時代の營造物にして史蹟名勝紀念物として保存せらるるもの少からず。市街も又城下町の當として石垣を繞らせる舊家を主とす。本市は廢藩置縣後一時本縣行政の中樞たりしことありしも、明治十四年縣廳を那覇市に移されて以来市勢とみに不振に陥り、大正十年五月には市制を布きたるも其勢を支ふべくもなく、現在は師範學校・中學校・工業學校ありて縣下に過ぎず、工業の如きも市内三箇(赤田・崎山・島小堀の三ヶ字)を中心し營まれつゝある泡盛の醸造(年産二百萬圓程度)を除けば他には琉球バナナ・首里納等あれど何れも云ふに足らず、而もこの唯一の産業さ

置に移建せり。(國比原武御石門) 國寶。首里城より一丁目にあり。古より當地には拜所と稱し、大槓性石等を神とし崇拝するの風習あり。國比原武御殿は拜所の一にして懸崖たる樹林を本體とす。石門は即ち拜所正門なり。其前に掲げた扁額に「首里の王おきやかいかなし」の御代に於て申儀正徳十四年(我が永正十六年)己卯十一月二十八日と書かれし由傳ふるも今廢滅し判然せず。但し門の構造形式は能く尙朝初期の特質を具備する所より考ふれば、所傳のおきやかまいかなし、門は比較的の規模にて木扉を除く外全部石造平唐門なるが斬断に現はし、大槓の中央に寶珠兩端に雲吻及び鬼瓦を飾る等により木造瓦葺の形態を表し、而も概快にして雄健なる風格を示せり。(首里城白銀門) 國寶。當道町三丁目にあり。創建は傳ふるところ區々にして頼るべきものなきも意匠及び技法等より恐らく歡會瑞泉二門と相照る意からざる時代の建立に係るものならん。門は石積の城壁中に一口の拱道を貫き、其直上の部分を一段高くして其上に入母屋造の石造屋根を冠せるものにして、石拱上に「白銀門」と大書す。規模大ならざるも屋根の勾配緩にして軒口を薄く削り、大槓及び軒先には輕き反りを持たせ、軒裏には隔木形を刻む等石造物としては頗る



なさん、後には親の残る。老木の  
老いの世は、順慶町も景ごとや、安  
堂寺町も子故の園に、迷はせません子孝  
の御、女殺油地獄中、進な弟に似心、  
順慶町の兄河内屋太兵衛、用ありげにも  
浮かぬ願つき

シホンコ 順興面

尙北道榮州郡の北部。即ち榮州の西北約  
一〇軒。東及び北は丹山面、西南は豊基  
面、南は安定面、西北は忠清北道丹陽郡  
佳谷面に各相隣接す。小白山脈の東斜面  
に位置し、西北境には山脈の主峰小白山  
（國望峰、一四二二米）聳え、その餘勢城  
内に及び西半部は壯年期の山地を形成  
し、樹木よく繁茂し、山中に湧き出る洛  
東江上流川は東南流し東半部は低地開  
け、地味肥沃にして農業に適す。住民の  
大部分は農業に従事し副業として養蠶・  
織蓆に従ふもの少なからず。産物は米・  
大豆・大麦・陶器・紙・木綿・綿糸等あ  
り。南方榮州より自動車道路通じ南部は  
比較的交通便なり。順興は古く及密郡・  
炭山郡・興州等と稱し李朝時代には順興  
府を置かれ、大正三年榮州郡に合併まで  
は一部を成し順興邑は郡政の中心なりし  
所にて兩班多く今なほ地方中心を成し、  
郵便所・警察官駐在所及び陸軍三・八の  
日に開く市場ありて蕪炭・穀類・生牛・織  
物・雜貨等の取引額三萬餘圓に達す。  
北部の内竹里に福修書院あり、高麗高宗  
朝の福僧にして大教育家として名高く東

方理學の師と崇められし安裕（晦軒と號  
す）を祀り兼て士子讀書の所とせられし  
ものにして、李朝中宗の時、豊基郡守周  
世勳の創建に係り、李朝に於ける書院の  
創始と稱せらる。内竹里にまた錦城大君  
李瑜を祀る錦城壇あり。

シホンサイ 蕪炭沼

龜田郡七飯村にある沼。大沼公園中、小  
沼より小沼を隔てて北にあり、駒ヶ嶺  
の泥流に堰止されて形成されしもの。海  
抜一五六米、湖岸は屈曲多く面積〇・七  
五平方軒、湖岸線は七・二五軒、深度五  
米。水温は夏季表面二五度、底部二三度  
冬は底部三度となり厚き氷に覆はる。水  
は褐色にて濁り透明度は一米前後なり。  
固形物一立中七〇懸、溶解性酸素は夏季  
の兩倍濃縮ともかなり減少す。沼中蕪炭  
を産すること多く沼名これより出づ。本  
沼は悪臭変化せし蕪炭型に屬せるもの  
の如し。沼の東岸には指定史蹟「明治天  
皇蕪炭沼御小休所」あり、明治十四年九  
月、奥羽北海道御巡幸の際に同月六日森  
村行在所より函館に向ふ途上の御小休所  
に充てられし宮崎重兵衛宅にて、草葺の  
當時の儘の建物を遺存す。

平地乏しけれども山腹及び山間には比較的  
よく開墾され農業行はる。産物は大豆・  
大豆・粟・棉花・除蟲菊・煙草等にして  
大畧は品質優良なり、道路は僻地に位置  
せるため改修未だ行はれず坂坂多く交通  
不便なり。商事務所を玉井洞に置く。邑  
の西方五軒水沢洞には金及び銅の産あ  
り。洞の後山に水穴あり。蟻々たる岩石  
の下に方丈の地孔あり盛夏に水を見る。  
シホンジョー 春照

シホンジョー 淳昌

【淳昌郡】朝鮮全羅北道の南端にある  
郡。道管内二府十四郡の一。北は任實・  
井邑の兩郡に、東は南原郡に、西と南は  
全羅南道の谷城・潭陽・長城各郡にそれ  
ぞれ隣接す。面積四九八平方軒にして、沃  
沛・扶安兩郡に次ぎて狭小なり。西北部  
及び北部は嶺南山脈連貫して平地に乏し  
きも、東南部は嶺南江の上流赤城江等の  
流域にて、地味肥沃、耕地よく發達す。  
氣候概して温和にして嚴寒一月の候と雖  
も零下一度を下らず。住民は農業を主生  
業とし、米・麥・豆類・棉を主産し、其  
他蠶桑・大麻・莞草等の産も多く、畜産  
やや多く、工業に綿布・苧布・朝鮮紙等  
あり。交通は二等道路南原を東西に走り  
て東は南原、西は潭陽方面に通じ、三等  
道路數條あるも坂路多くして便ならず。  
行政上、淳昌面はか一〇面に分ち、郡廳  
を淳昌面に置く。本郡の地は百済の道寶

郡にして、新羅に至り淳化と改稱し、高  
麗に至り淳昌と改め南原郡に屬す。忠肅  
王の時に郡となし郡守を置き十八面を管  
せしめしが、大正三年の改革に際し任實  
郡の一部を本郡に轉屬し、同時に面の整  
理を行ひ、其後も廢合ありて、いま十一  
面となる。

【淳昌郡】朝鮮全羅北道淳昌郡の中央。  
や、南原に屬す。東は柳等面、北は仁溪  
面、西は八德面、南は豊山面に隣接す。  
北境及び南境には二〇乃至三〇〇米内  
外の丘陵起伏すれども中部及び東南部は  
比較的低平にして地味肥沃、水利よく郡  
中重要な農産地を成す。住民は農業を  
主とし、商工業に従事する者少なから  
ず。産物には米・大豆・白米・白米・蠶  
豆・麻等あり。東南部には棉花の栽培行  
はる。其他麻布・綿・絹布・紙等の工産  
品あり。道路は淳昌を中心として四通發  
達し東方南原、西方潭陽に通ずる二等道  
路にはバス通じ、北方任實を経て光州府  
に通ずる三等道路あり、近時大いに改修  
を見、車馬の交通自由なり。粟落は中央  
にある淳昌の他、佳南里・新南里・白山  
里・長德里等あり。淳昌には郡廳を始め  
商事務所・郵便局・金融組合・警察署等  
あり。邑の南端に陸軍三・八の日に開く  
市場ありて、蠶穀類・野菜・蕪炭・織物・  
生牛豚等の取引活潑にして年額五萬餘圓  
に達す。

シホンジョー 順城面

忠清南道唐津郡の略中央。郡邑唐津の東  
南五軒。東は遼川面、北は松嶺面及び唐  
津面、西は河川面、南は同面及び合徳面  
に各相隣接す。西境には郡中の最高峰嶺  
峯山（三五〇米）を始め、餘脈相連なり西  
半部は丘陵性山地を成せども東半部は本  
道第二の平野たる所謂中坪原の一部を成  
し垣々たる沃野を成す。氣候概して温和に  
して夏季最高攝氏三二度、最低零下一〇  
度を越ゆることなし。産物の主なるもの  
は米・大豆・大麦・粟・棉・麻等なり。  
道路は面の中心鳳皇里を中心とし放  
射せるも未だ改修行はれず、車を通ずる  
ものなく運輸交通不便なり。商事務所を  
鳳皇里に置く。

シホンセン 春川

【春川郡】朝鮮江原道西部の郡。道管内  
二郡の一。北は金化・華川・楊口の各部  
に、東は麟蹄郡・洪川郡に、南は洪川郡  
と京畿道楊平郡に、西は京畿道の抱川・  
加平の二郡にそれぞれ隣接す。面積一三  
五・一平方軒。地勢は小白山脈の餘脈  
連貫して東南部及び西北部は殊に高峻な  
れど、西北より北漢江、東北より昭陽江  
流れ、盆地の中央春川邑の西方に於て合  
し、西流してその河道Y字形をなして京  
畿道加平郡に入り何れも舟楫の便あり。  
その流域にはやや廣き平野拓げ灌漑便に  
地味頗る肥沃なり。また南境にも北漢江  
の一支洪川江あり、蛇曲流し、道界に於  
て北漢江に合し沿岸に狭長なる平野を拓

シホン

く。氣候は寒暑ともに酷烈、春秋の期間  
短く特に冬季最も長く、夏季には、氣温  
の表裏較差大なり。夏季の平均氣温二三  
度、酷寒時には零下二〇度内外に下るこ  
とあるもなほ平康・鐵原等北部高原地方  
に比すれば溫和なり。年降水量は一三〇  
〇餘軒にして、雨季は七、八兩月に亘る  
を例とす。また河川は毎年十二月中旬よ  
り上旬までは凍結し舟行杜絶す。産業、  
農業戸數約一二七〇〇戸にして總戸數の  
七五％に當り、耕地面積約一八萬ヘクタ  
ール、うち水田は五萬ヘクタールに過ぎ  
ずして畑地卓越す。農産は米を第一とし  
五・三萬石、その他麥（一・七萬石）、大  
豆（一・三萬石）、粟（一・三萬石）、特用  
作物にては棉・大麻・莞草等や多く、  
特に棉は在東棉多きも收穫高四二萬斤に  
上る。副業に養蠶・牧畜盛に行はれ、收  
蠶量二〇萬疋、うち一二萬疋は共同販賣  
せられ、牛の取引額は二八萬圓を示す。  
果樹は苹果多く栽培せられ畝一・三萬  
貫あり。林野多くしてテウセンマツ・テ  
ウセンカラマツ等の森林地帯見られ木炭  
等の林産物からず。鐵産には金・銀・タ  
ンクステン等あり。家内工業も盛にして  
綿布・麻布・明絲等の織物の外、家具類、  
味噌醬油等は産額多し。なほ本道は道政  
の中心地を擁するを以て、農事試験場・  
穀物検査所・蠶業取締所・原蠶種製造所  
等の産業施設よく備はり、道の最重要郡  
として産業開發見らるべきものあり。交通

は春川を中心に西は京城、北は金化、南  
は洪川を経て忠州に、東北に向つては楊  
口に各二等道路通じ、何れもバスの便あ  
り。行政上、春川邑及び東内・東・東山・  
新南・南・西・史内・史北・新北・北山  
の十面に分ち、郡廳を春川邑花園町に置  
く。春川は古来の名邑にして附近史蹟者  
勝に富み、近世に至りても政治・交通・  
産業の中心として頗る繁華なり。沿革、  
往昔遼福族の地方を占據して春川を都  
とし、新羅善德王三十三年に至り牛頭州  
又は牛首州と稱し軍主を置く。文武王の  
時に首若州と稱し、安德王これを朔州と  
改め、のち更に先海州となす。高麗太祖  
二十三年春州と號し、李朝に入り江原道  
監營を原州牧に設くるや、その在營を春  
川に置く。神宗王六年、安陽都督府とな  
し、のち知春州に改め、李太王二十四年留  
守都を置き、同三十二年（明治二十八年）  
春川府に陞して觀察使を置き、近年郡に  
改む。

【春川邑】朝鮮江原道春川郡の略中央。  
北漢江の支流昭陽江の左岸。道内第一の  
都市にしてその成長極めて古く、既に新  
羅の中心となり新羅朝には牛首州・朔州  
等と呼ばれ高麗に入りて春州となり、李  
朝太宗の代春川と改め都護府を置かる。  
明治二十九年十三道の設かれし以來一道  
の中心として發達し以て今日に至る。東  
は東内面に接し、北は昭陽江を隔て、新  
南・西北は西面に各相對し、南は新南

シホン

順川

順川 朝鮮平安南道の中北部。道管内二府十四郡の一。北は徳川、价川の二郡に、東は五山、成川の二郡に、西は安州、平原の二郡に、南は江東、大同の二郡にそれぞれ隣接す。面積一〇四六平方軒。城内山岳連亘し、東北部に笠峰(八八〇米)等聳えてヤヤ峻峻なるも、南西の兩部は石灰岩の露出する古きカルスト地貌の低丘地發達し、これ等の中央部を大同江の本流流れ、流域に豊沃なる平野を造る。氣候は大陸的にして寒暑共に烈しく降雨は七、八月の候に多し。住民の大部分は農耕に従事し、粟・小麦・大豆・小豆・黍・黍・玉蜀黍等を主産し棉花・大麻・柘柳等の産も少からず。近時水利組合發達し、特に順南水利組合(内南面ほか二面に亘る)は大にして、蒙利面積一五〇〇ヘクタール、慈山水利組合は同一三〇〇ヘクタールに達す。蒙利盛に行はれ、牧畜は牛の飼養特に盛にして肉の美味なるを以て知られ、原産種製造所・女子職業講習所及び種畜場(股山)等の官營勸業施設よく備はる。工業は絹織物・綿布・焼酎等多し。鑛産も多しして、三峰・金坪・平南の各鑛山及び雲龍金山等より金・銀・鉛を出し、特に金坪鑛山は産額多く、また郡の北部には無煙炭層の廣き露出あり。大同江には漁獲の利少からず。交通、京義線の西浦驛より分岐する總督府鐵道平元西浦線、南より郡内

に入り舎人場・順鶴・慈山各驛を経て順川に至り此處より東折し股山を経て陽徳方面に通じ、順川よりは同じく總督府鐵道滿浦本線起りて北走し中坪・開岩を経て平安北道に通ず。道路は平壤より舎人場・順川を経て五山に至る二等道路、西方道川より來り順川を経て股山に至り前者に合する二等道路の外、自動車を通ずる路線數あり。近く平元線全通の曉は本郡の交通面目を一新し、郡勢の發展大に見るべきものあらん。その他、大同江には冬季結氷期を除き舟楫の便あり。行政上、本郡を順川面ほか八面に分ち、郡廳を順川面館上里に設く。郡邑は順川のほか、舎人場・慈山・股山・新倉等主要なり。沿革、本郡は明治四十一年にもと股山郡・慈山の二郡を廢して之を併せ一郡となし、更に大正三年价川郡より内南面を割きて之を併合し、昭和四年に面の廢合を行ひて今日に至る。もと順川郡は高麗朝の靜戎郡にして、成宗二年順川と改め防禦使・知郡事・縣監等を置かれ李朝太宗廿三年に至り郡守を置く。もと慈山郡は高麗朝に文城郡を置き、もと股山郡は股州と稱し、のち何れも防禦使・縣監または巡察使等を置かれたり。【順川面】朝鮮平安南道順川郡の略中央部。北より東に大同江流れて北倉面・仙沼面との境を劃し、西及び南は大同江の支流順川を隔てて内南面及び慈山面に隣接す。北半部は走馬山(九六八米)の山脚

順天

順天 朝鮮全羅南道の東南部。道管内二府一島二十一郡の一。北は求禮・各城の二郡に、東は光陽郡に、西北は和順郡に、西南は寶城郡にそれぞれ隣接し、南は中央部に於て麗水郡に連るほか注海に面す。面積八七四方軒餘、務安郡に次ぐ大郡なり。本郡は小白山脈の西南終端部に當り、城内は松嶺山(八八七米)を始め山岳重疊して廣大なる平野に乏しく、河津は東部に東川南流して汝日湖(順天湖)に注ぎ、西部に德津江の一支寶城江、南より北に貫流するほか著しきものなきも、流域にはヤヤ廣き二平野を拓く。即ち東部は順天平野、西部は樂安平野にして、共に灌溉の便よく、全南沿海に於ける主要米産地たり。海岸線は三〇軒餘に

過ぎず、扇面に富むも流浸にして湖沼干満の差三―五米に達するを以て製糖に便ならざるも、魚介の養殖及び干拓殖立に適す。住民の大多數は農業に従事し、米・粟・大豆・棉花の産多く、海産には蝦・食鹽あり。總督府鐵道全羅線は北の各城郡より南走して順天を過ぎ南の麗水に達し、西より慶全西部線來りて順天に至り、更に近く東、晉州に達せんとし、道路は順天を中心として二等道路四通し自動車を通ずるを以て交通便なり。行政上、順天邑及び海龍・西・黃田・月燈・雙巖・住巖・松光・外西・樂安・別良・道沙・上沙の一二面に分ち、郡廳を順天邑に置く。本郡は百濟の欽平郡にして、新羅に至り昇平郡と改め、高麗成宗王の時昇州となし幾許もたつ昇平の名に復し、忠宣王の時改となせしが、のち府に改め順天となす。李朝太宗王に至り郡護府を置き、次で堡を設けしが明治四十一年これを廢して郡となし、もと樂安郡の一部を本郡に合し今日に及ぶ。松嶺山の東麓に仙石寺、西麓に松嶺寺あり、ともに朝鮮三十一本山の一に列し、また登勝の地にして遊樂に適す。沿海の新城浦(海龍面)は慶長の役の小西行長が城を築きし地にして、城址いまに存す。

東南部は頭はゆる順天平野の一部にて地味肥え農産物豐富なり。産物は米・果物・野菜・大豆等の産に富む。順天は麗水半島の咽喉を扼し陸路交通の要衝に當り、東慶南の河東・西茂橋、北光州・各城方面・南麗水方面に各ベスの便あり。尙最近鐵道全羅線の開通により北は裡里及び蔚山方面に、南は麗水に、また慶全西部線の開通により光州及び松江里に各鐵道を通ず。更に東方の晉州に至る國有鐵道敷設の曉は、鐵道の十字點に當り交通の焦點となり其活況期待さる。順天郡廳・邑事務所・郵便局・金融組合・地方法院支廳・警察署・税務支所・道立醫院・小學校・種蠶飼育所等あり。鮎及び甘柿は特産として知らる。附近名勝史蹟に富み、喚仙亭・竹渡峙・新城浦等に近く、仙巖寺・松嶺寺の名刹もここより到る。【順天面】朝鮮全羅南道順天郡の南方にある。浦。小白山脈の西南端の比降により形成されし湖にして、北は順天郡、東は麗水半島、西は高麗半島によりて擁せられ、湖は南方に開け濶口僅に五軒、その間に屯兵・狼等の諸島横はりて狭き水道をなし、外海に通ず。東西約二〇軒、南北約三〇軒の大湖にて、中央に嶺島・嶺島・大波島・小波島等の諸島あり。湖内淺く、湖は湖岸は岩石海岸にして低地に乏しく、しかも遠達にて、加ふるに湖沙干満の差四米乃至五米に達するため長泊に乏しく、港として殆ど見るに足るべ

きものなし。北部の湖頭部は順天郡に屬し、その沿岸は製鹽業盛んなり。その他に淺草海苔の養殖行はる。【順天面】朝鮮全羅南道順天郡の南方にある。浦。小白山脈の西南端の比降により形成されし湖にして、北は順天郡、東は麗水半島、西は高麗半島によりて擁せられ、湖は南方に開け濶口僅に五軒、その間に屯兵・狼等の諸島横はりて狭き水道をなし、外海に通ず。東西約二〇軒、南北約三〇軒の大湖にて、中央に嶺島・嶺島・大波島・小波島等の諸島あり。湖内淺く、湖は湖岸は岩石海岸にして低地に乏しく、しかも遠達にて、加ふるに湖沙干満の差四米乃至五米に達するため長泊に乏しく、港として殆ど見るに足るべ

地の一部あり、米産多く、また黍・大豆・棉花等を産す。總督府鐵道全羅線は湖南本線裡里驛より股れ、面の南部を東西に横ぎり大場驛(大正三年開業)を置き、道路またこれに並行し交通便なり。(大場驛)無格社。祭神、天照大神。大正五年五月十日、朝鮮總督府令を以て神社創立のことを官許せらる。社殿は本殿及び拜殿を具ふ。例祭、四月十五日・十月一日。【春陽面】朝鮮慶尙北道春陽郡の北部。東は小川面、南は法田面、西南は鳳城面、物野面に隣り、西北は江原道寧越郡下東面に、北は同郡上東面及び三陟郡上長面に界す。西北より東南にヤヤ長く、面積約二一八方軒。大白山脈の西側に、東に王頭山(二〇四四米)、北部に九靈山(一三四一米)、西南に上玉石山(一二三五米)・文殊山(一二〇六米)等聳えて殆んど山地をなす。洛東江の支流は中部を西北より東南に流れ、その谷に幅狭き低地あり、米・粟・大豆等を産し、金井・金泉浦・金開の三鑛山ありて金・銀を出す。榮州・蔚珍を繋ぐ二等道路、南部を掠る外は交通なほ便ならず。(大白山史庫)面の東境、大白山の一支峰、覺華山中にあり。李朝歷代の王室及び朝廷の寶錄を安全に保存せんがため、宮内府の兵をしてこれを保護せしめしものの一に

順天

重天



屬す。宣祖三十九年(一六〇六)に經營せられ、王室の實録を編する壽源閣、朝廷の實録を編する史閣、前後して立ち、共に方三間重層の建築とし、中に實録を面に載め、更に横に書かれて保存し近世に至りしが、近年その壽冊は京城に移し總督府に於て保管す。

【春陽面】朝鮮全羅南道和順郡の西南部。東北は綾州面、寒泉面に、東南は樂陽面、清豊面に、西は道安面に、北西は道谷面に接す。小白山脈南部の支脈東南・西北の兩境上に延び、東南境上の北部に靈巖山(五四四米)、中部には靈城山(三八一米)を起し、西北境はこれより低く二〇〇米臺の山地をなす。榮山江の支流砥石江梨陽面を北流して靈巖・靈城二山の間に割みて面の中部に來り、西南境より東北する二小流を併せ南流して綾州面に出づ。これら河川の谷は平地開け耕地をなす。米・麥・大豆・棉等の農産を出し、西北部は綾州・道谷二面に跨る綾城金山の礦區に屬す。鐵道慶全西部線と綾州・寶城間の道路は砥石江岸の平地を南北に通じ、面色石亭里より前者の綾州驛へは約四軒にて交通不便ならず。

【松川】朝鮮江原道の東南を流るる河。平昌郡の東北境、大白山脈中の黃柄山の南方に發源し南流して江陵郡、ついで旌善郡に入り北面、餘龜里附近に於て、東方より來る漢江本流の上流と合す。流程六〇軒餘。

シムン

【松川】朝鮮江原道の東南を流るる河。平昌郡の東北境、大白山脈中の黃柄山の南方に發源し南流して江陵郡、ついで旌善郡に入り北面、餘龜里附近に於て、東方より來る漢江本流の上流と合す。流程六〇軒餘。

シムン

【松川】朝鮮江原道の東南を流るる河。平昌郡の東北境、大白山脈中の黃柄山の南方に發源し南流して江陵郡、ついで旌善郡に入り北面、餘龜里附近に於て、東方より來る漢江本流の上流と合す。流程六〇軒餘。

【松川】朝鮮江原道の東南を流るる河。平昌郡の東北境、大白山脈中の黃柄山の南方に發源し南流して江陵郡、ついで旌善郡に入り北面、餘龜里附近に於て、東方より來る漢江本流の上流と合す。流程六〇軒餘。

【松川】朝鮮江原道の東南を流るる河。平昌郡の東北境、大白山脈中の黃柄山の南方に發源し南流して江陵郡、ついで旌善郡に入り北面、餘龜里附近に於て、東方より來る漢江本流の上流と合す。流程六〇軒餘。

シムン

【松川】朝鮮江原道の東南を流るる河。平昌郡の東北境、大白山脈中の黃柄山の南方に發源し南流して江陵郡、ついで旌善郡に入り北面、餘龜里附近に於て、東方より來る漢江本流の上流と合す。流程六〇軒餘。

【松川】朝鮮江原道の東南を流るる河。平昌郡の東北境、大白山脈中の黃柄山の南方に發源し南流して江陵郡、ついで旌善郡に入り北面、餘龜里附近に於て、東方より來る漢江本流の上流と合す。流程六〇軒餘。

【松川】朝鮮江原道の東南を流るる河。平昌郡の東北境、大白山脈中の黃柄山の南方に發源し南流して江陵郡、ついで旌善郡に入り北面、餘龜里附近に於て、東方より來る漢江本流の上流と合す。流程六〇軒餘。

シムン

【松川】朝鮮江原道の東南を流るる河。平昌郡の東北境、大白山脈中の黃柄山の南方に發源し南流して江陵郡、ついで旌善郡に入り北面、餘龜里附近に於て、東方より來る漢江本流の上流と合す。流程六〇軒餘。

【松川】朝鮮江原道の東南を流るる河。平昌郡の東北境、大白山脈中の黃柄山の南方に發源し南流して江陵郡、ついで旌善郡に入り北面、餘龜里附近に於て、東方より來る漢江本流の上流と合す。流程六〇軒餘。

【松川】朝鮮江原道の東南を流るる河。平昌郡の東北境、大白山脈中の黃柄山の南方に發源し南流して江陵郡、ついで旌善郡に入り北面、餘龜里附近に於て、東方より來る漢江本流の上流と合す。流程六〇軒餘。

【松川】朝鮮江原道の東南を流るる河。平昌郡の東北境、大白山脈中の黃柄山の南方に發源し南流して江陵郡、ついで旌善郡に入り北面、餘龜里附近に於て、東方より來る漢江本流の上流と合す。流程六〇軒餘。

【松川】朝鮮江原道の東南を流るる河。平昌郡の東北境、大白山脈中の黃柄山の南方に發源し南流して江陵郡、ついで旌善郡に入り北面、餘龜里附近に於て、東方より來る漢江本流の上流と合す。流程六〇軒餘。

【松川】朝鮮江原道の東南を流るる河。平昌郡の東北境、大白山脈中の黃柄山の南方に發源し南流して江陵郡、ついで旌善郡に入り北面、餘龜里附近に於て、東方より來る漢江本流の上流と合す。流程六〇軒餘。

出づ。川に沿ふ幅狭き各地とその斜面に耕作行はれて...

シヨウカ

出づ。川に沿ふ幅狭き各地とその斜面に耕作行はれて...

シヨウカ

出づ。川に沿ふ幅狭き各地とその斜面に耕作行はれて...

に設けられて、中江摩河東郡(一)に嘉藤郡にも作る...

シヨウカ

に設けられて、中江摩河東郡(一)に嘉藤郡にも作る...

シヨウカ

に設けられて、中江摩河東郡(一)に嘉藤郡にも作る...

に設けられて、中江摩河東郡(一)に嘉藤郡にも作る...

シヨウカ

に設けられて、中江摩河東郡(一)に嘉藤郡にも作る...

シヨウカ

に設けられて、中江摩河東郡(一)に嘉藤郡にも作る...

に設けられて、中江摩河東郡(一)に嘉藤郡にも作る...

シヨウカ

に設けられて、中江摩河東郡(一)に嘉藤郡にも作る...

シヨウカ

に設けられて、中江摩河東郡(一)に嘉藤郡にも作る...

大正三年龍門面を信川郡に、純海面の一部を長瀬郡に割き、今日に至る。

大正三年龍門面を信川郡に、純海面の一部を長瀬郡に割き、今日に至る。

彰化の紳士王松以下三十六名義捐して築城せんことを請ひ、准されて十六年より工事に着手し、二十年に竣工せり。城に四門を備へ、東を東門、西を西門、南を南門、北を北門と命名し、尙同時に八卦山上にも砲臺を築造せるも、現今城壁・城門・砲臺とも遺址を存せず。明治廿八年我が領臺後、臺灣縣(後に臺中縣と改稱)鹿港支廳(後に彰化(移轉)の管轄となりしが、同三十年支廳を廢せられて彰化辨務署を置かれ、同三十四年廢廳置縣の結果、彰化廳新設せられて當市管内之に直轄せられ、同四十二年彰化廳は臺中廳に合併せられ、新に彰化支廳を置かる。大正九年自治制施行に及び、堡を廢せられ、當市管内に彰化街及び大竹・南郭の二庄を置かれ、彰化郡に編入せらる。昭和七年前記二庄を街の管轄區域内に加へ、翌八年十二月市制を布き現在に至る。市街は營盤を以て知らるる八卦山を背景となし、古來より當地方の中心たるの地位にあり、清領時代に於ては彰化縣城を設けられ、我が領臺後は、時に辨務署、時に廳、又時に支廳の所在地となり、中部地方に於ては臺中に次ぐ物資の集散市場にて、且つ臺中・員林・鹿港・南投・清水等近隣主要地への交通の中樞を爲し商業隆盛を極む。警察署・市役所・彰化郡役所・登記所・郵便局等の官公衙を始め、臺灣銀行・彰化銀行の各支店・電力會社・諸信用組合等の銀行會

社・高等女學校・商業專修學校以下の諸學校・卸市場・消費市場・家畜市場等、その他諸種の醫院は市内に集中し、産業經濟・交通運輸等異常なる發達を呈すると同時に、人口も急激に増加し、目下市區改正進行中にして、なほ際途上にあるものと云ふべし。(八卦山)一名を寮望山または定軍山といひ、彰化市街の背後(東側)近く迫り、登臨一望すれば眺望四方に展開し、古來彰化八景の一(現在臺灣十二勝中の一)として定遠望洋の稱あり。清領時代には縣城の要害を爲し砲臺を築造せられたることあるも、現今遺址を存せず。八卦山といへる名は嘉慶年間彰化知縣胡應魁が、大楠亭を縣署後(東側)の義に因みて名づくといふ。麓に彰化公園を擁し、山腹に彰化神社、觀月樓、山上に北川宮龍久親王殿下御遺跡・溫泉湯・水源地・八卦山館・兒童遊園地・野球場・陸上競技場等ありて、中部地方唯一の遊覽地たり。臺中を始め、近接各地より來遊する者頗る多し。(北川宮御遺跡)指定史蹟。八卦山の頂上(八卦山司令部所在)にあり、昭和八年十一月二十六日史蹟に指定せらる。明治二十八年八月二十八日、近衛師團は未明より行動を開始し、大肚溪を徒渉して彰化に入り、先づ八卦山を陥れ、次で彰化城に進入し、午前七時二十分八卦山及び彰化を全く占領せり。龍久親王は午前五時

大肚溪御露營地御發、大肚溪岸にて御營軍ありたる後、七時頃渡河せられ、十時八卦山上にて臨機の諸命令を發し、嘉義街道の賊を追撃せしむると共に、鹿港占領を計らしめ、暫くして彰化に侵入城あり。御遺跡保存のため、明治三十五年彰化街官民相謀り、山上に標木を立て、地域の整理・樹木の植栽等をなせしが、大正三年に至り、彰化支廳長河東田義一郎發起し、地方有志の寄附金を以て現在の記念碑を建設せり。碑は人造石にして、高さ二十尺、表面には「北川龍親王彰化遺跡碑」の十字を題し碑陰に左の文を掲ぐ。臺中廳長枝徳二の撰文にして吳徳功の書する所なり。明治二十八年八月二十八日、近衛師團長大勳位北川親王、帥御旗彰化、嚴令前將士、駐軍三十餘日、河地方以靖、爾來二十年矣、彰化士民感其德、謹立碑於八卦山、以表遺迹、請余文、受教叙其由来云爾。(北川龍親王御駐營之址)東門にあり。此の地は當時臺灣府衙門として使用せる北路協領署(武營)の址にして、其の地は今の彰化高等女學校・彰化尋常高等小學校舊校舍、臺中地方法院彰化出張所(登記所)等の敷地に當り、御營ありし香菓亭の遺址は小學校舊校舍の敷地内に存す。明治二十八年八月二十八日、龍久親王は八卦山を下り、東門より彰化城内に御進入、近衛師團司令部を舊臺灣府衙門に置き、正堂の西側にありたる三室の一棟香菓亭を御

合營の所に充て、此の日より十月二日に至るまで三十六日間御駐營あらせらる。近衛師團が彰化・鹿港の嶺を占領するや、標山總督は其の南進行動を停止し、其の嶺を嚴守すると共に諸兵の給養に力むべきを命じたるを以て、師團は前進を中止し、臺南の方向を搜索するに止めしが、其の間九月三日に、親王は鹿港に至らせられ第一旅團司令部を御觀察のことあり。當時彰化は最も不健康地と稱されしが、師團の將兵マラリヤに侵される者頗る多く、九月中旬に至り一時慘狀を極め、定員二百七十餘名を算すべし歩兵一中隊の健康者、多きも百二十名、少きは十三名を剩すに過ぎず、師團の健康者僅かに五分の一と稱せらる。九月二十二日南進の命令總督府より至り、二十八日御遊發の豫定なりしも暴風雨に依り沿道河川漲溢して徒渉する能はず、十月三日に至り、漸く南進の途に就かせ給へり。(彰化公園)市内東門にあり、八卦山を背景とし四時祭禮に包まれ、清新の氣に満ち。園内には武徳殿・公會堂(御大典記念事業として昭和八年十二月竣工、工費四萬圓)、節孝祠・ブール等あり。園外南側に彰化座、北側山麓に香仔井の古跡あり、彰化縣志に「在東門外里許、泉湧而甘、以在香仔井山下、故名云々」とあるはこれなり。按ずるに昔時蘭人の鑿つ所なり。(水源地)新舊二箇所あり。別水源地は八卦山麓の新谷に在りて明治二十八年以

後の建設に係り、直接溪流を利用する裝置なるも、市街の發展、人口の膨脹に伴ひ、給水量の不足を告ぐるに至りたるを以て、大正十五年八卦山上御遺跡の裏に新水源地の建設に着手し、北側山麓にポンプ室を設け、大肚溪より用水を引く管線となせり。(八卦山館)八卦山上に在り、昭和七年の竣工に係り、總督府の極めて瀟灑たる建物にして彰化市街北中部を俯瞰し、遠くは北に臺中市街、西に鹿港(大肚庄)・梧棲(梧棲街)の海洋を瀾瀾の間に望み、中寮・烏日島の兩製糖所或は大肚溪の清流等を一眸の内に眺め、構内花園には四時草花の絶ゆることなく、清快なること他に多く其の比を見ず。(彰化溫泉)八卦山麓より湧出する冷泉を山上の溫泉場に引き揚げ、加温して浴場に供給す。溫泉場は臺中州營社會事業施設として昭和八年九月竣工。設備よく整ひ、且つ山上に於て最も眺望絶佳なる位置を占め、仙境に違ふの感を抱かしむ。胃腸病・皮膚病・神經痛に卓效あり。(彰化神社)翠嶽に包まるる八卦山の中腹に鎮座し、北山川龍久親王外三柱の御神靈を奉祀す。春秋には大祭を行ひ、彰化市及び郡下の守護神として住民の崇敬厚く、參拜を兼ね杖を曳く者多し。(孔子廟(文廟))東門(彰化縣の東方約六百米)にあり。舊彰化縣儒學宮なり。清の雍正四年知縣劉燾の建設に係り、中央を大成殿となし東西兩廡あり、

廟宇宏壯、嘗ては煥然の美を極めし、幾多の變遷を経、荒廢腐朽甚だしきを以て最近改修を加へ面目を一新せり。毎年春秋二回崇嚴なる祭典を舉行す。(鎮帝廟(天公壇))清の乾隆二十八年福建の泉州士民の捐建に係り、風に廟製の壯麗、規模の宏大を以て稱せらる。(觀音亭)市の中心點に在り、一に開化寺と稱し、觀音菩薩を祀る。清の雍正二年彰化知縣張正の建つ所にして、咸豐十年觀音の災に罹り烏有に歸せしが、次で邑の紳士重建し舊觀に復せり。乾隆六十年三月陳周全の創を爲し、彰化城を陥るるや、即ち此の亭を以て本據となせり。現廟宇は道光二十年の重修に係る。附近は店舖櫛比し、繁華の中心をなす。(南瑤宮)彰化縣を距る南方十八町。廟宇は嘉慶年間建立にして天上聖母(媽祖)を祀り、靈顯顯著なるを以て信徒十數萬を擁し、遠近の善男善女來り詣づるもの絡繹として絶えず、北港の朝天宮と並稱せらる。毎年三月二十三日(農曆)を神誕日として祭祀を行ふ。先年九萬圓の工費を以て廟宇の大修築を了し、更に輪奐の美を加ふるに至れり。「天清觀」北門に在り、玉皇上帝を祀る。本神は天の玉宮に居るため玉皇上帝と稱せらるるに至り、また天上帝或は單に上帝ともいひ、普通には天公と呼ぶ。道教にては萬物の元始として、諸天の上に出づる極尊なるより、元始天尊と稱す。本神は人類その他の生成、

保育・賞罰を掌り、諸神の首座にあるものとして、本島人は最も之を崇敬且つ畏る。故に木像にしたるもの極めて少く、本神を主神とする廟は全島に五十一あるも、獨り本廟のみ木像を安置し其他は何れも神像を有せず。支那泉州の天公は同地一帯の人民崇敬深く、靈驗亦顯なるより彰化に移住し來れる晉江・南安・安溪・永春・德化・同安等の七縣人之を奉祀信仰せるものにして、彼等の捐金により乾隆二十八年廟宇建立せられ、道光二十八年地震のため一部崩壊せしより、更に修繕を加へ光緒十三年落成せり。(定光廟)北門にあり。乾隆二十七年十月、北路總兵張世英なる者、此地方は支那汀州府永定縣の出身者多きを以て募捐して建てしものに係り定光古廟を祀る。石柱に雲龍を刻し廟貌壯麗なり。廟内右側に媽祖、左側に關帝神を祀る。廟・旗・對聯頗る多し。(太極亭)もとは現市役所廳舎の後方に在り。嘉慶三年彰化知縣胡應魁の建てたるものにして、同十六年知縣楊桂森重修し、豐樂亭と改稱す。現在八卦山の西側中腹に移轉せられ、觀月樓と稱し、眺望絶佳なり。

彰化市は彰化市に、一部(芬園庄)は大屯・南投の二郡に夫々隣り、西は海に面す。郡東部即ち花壇・芬園二庄の間には八卦山脈、南北に走りて丘陵地帯を形成すれど、其他は緩慢なる傾斜を爲し、沃野開闢す。廣袤東西二八軒一四五、南北二軒一四五、面積二七六平方軒五九六(七方里餘)。人口十五萬二千二百餘(其中内地人一千餘)。産業は農業最も盛にして、鹿港街の市街地を除けば、他は殆んど農村を形成す。地勢は山手・平地・海岸の三地带に區分せられ、地味肥沃、氣候適順にして、且つ大肚溪(烏溪)・濁水溪の流出と海流の影響を受け、年々海岸地帯は隆起存留するため、次第に農耕地を増大し、而も水利至便なり。耕地は大部分水田にして畑は少く、田畑面積合計一萬八千七百餘甲に上り、總人口の六〇%余は農業人口なり。郡及び各街庄農政機關(農會支會・農業組合・農會和會等)の積極的指導獎勵に依り、益々隆盛に向ひ、農産物豐富にして、農業による年生産額約一千万圓を算し、住民豊して富裕なり。米・甘蔗・甘藷・花生・蔬菜類・豆類・果物類を主要農産物とし、海岸地帯たる鹿港・線西・福興の各街庄及び季節風の襲來を禦る和美・秀水二庄の各一部には木麻黃の耕地防風林を造成し、農作物を季節風の被害より免れしむ。農家は農家副業の首位を占め之が盛衰は農民の金融上に及ぼす影響大

甚大なるを以て、當局に於ても之を重視し、膠州の改良獎勵に依り在來種の運送に努めたる結果、發育旺盛なる「ペーリクシヤ」種系統の普及率は九九%に達し、膠州市其他へ盛に輸出せらる。各街庄に家畜市場を設置し、販賣貯蔵をなす。なほ一面に採肥上の利益と相俟つて改良堆肥豚舎の普及を見る。林業の概況を見るに、山地は八卦山脈の一部、花壇・芬園兩庄にも跡り其の面積約三千二百甲にして、昔時この一帯は鬱蒼たる森林を爲したりと稱せらるるも、清國政府時代より濫伐濫墾を放任せる結果、大部分荒蕪に歸し、其後植林の獎勵に林野の保護取締を爲したるも、經營粗放にして未だ見ざるべきものなし。而して該山地一帯は高低く、且つ諸部落に圍繞せられたる關係上、治水・水田灌漑・薪炭の供給等に重要性を有し、尙且つ果樹園藝の經營等種多利用すべき位置及び状態にあるを以て山地經營の合理化を圖り、近年パイナツプル・李・柑類類栽培のため漸次開發せられたりあり。工業の主なるものは製糖・製酒精米・酒精製造・製糖・製糖等に於て、製糖業・製鹽業・酒精製造を除く外、概ね規模小にして、家内工業の域を脱せず。特産物として鯨香あり。製糖工場は和美庄中寮に在り、大日本製糖(株)と新高製糖(株)株式會社製糖工場と稱し、砂糖及び酒精を製造す。鹿港街の海岸には鹽田開け、鹿港製糖株式會社の經營に

して、古くより製鹽を以て知らる。製糖は紙帽を主とし、ビスコース帽・マニラ帽これに次ぐ。當初は鹿港街の一部婦女子の家庭副業として行はれ、其産額も極めて微々たるものなりしが、斯界の活況と共に之に従事する者漸次多きを加へ、今や都部の別なく、婦女子の副業として益々隆盛を極め、近來漸次沖繩式帽子編に改良せらるるに至る。商業は鹿港の市街地を除けば微々たる有様なり。商品の集散地は隣接せる彰化市にして、郡内に於ては鹿港・花壇・和美の三箇所あり。即ち鹿港に於ては米・諸雜貨類の集散多く、花壇は殆んど米にして、和美は米及び其他の雜貨品を集散す。對岸貿易は鹿港の表裏に因り、昔日の觀なく、近時全く不振の狀態にあり。金融機關は彰化銀行鹿港支店・郵便局(鹿港・和美・中寮)三、信用貯蓄會組合六、事業組合一あり。近來、農村經濟活況を呈するに從ひ、金融狀況漸次活潑となれり。水産業を見るに、海岸線は約一六軒の長きに及び、沿海には有望なる漁場を有するも、漁撈の方法甚だ幼稚なり。また五百餘甲の養殖池地を有すれども、其方法は未だ粗放の域を脱せず。昭和五年、州に於て鹿港海埔層に水産試驗場を設置し、養殖法の改良指導を爲す外、更に水産試驗船を建造して漁撈の發見、漁撈の指導に當りしため、郡下の水産業は鹿港を中心として漸く振興の氣運に向ひ、郡に於ても

之が振興發展を促進するため船置設置の調査を行ひ、新築の發達に努力しつつあり。養殖業は淡水養殖及び鹹水養殖に分れ、前者は各種魚類、殊に草魚・鱸魚・鯉を主なるものとし、専ら庄を除きたる各街庄に於て行はれ、後者は牡蠣の養殖最も有名にして、鹿港は全島有数の産殖地として知らる。交通は東部山地方面を除き甚だ便利にして、道路よく發達し、鐵道道路を始め、指定道路に彰化―鹿港道路(彰化)和美道路(王田)南投道路(實林)鹿港道路あり。昭和四年以來保甲道路の擴張を行ひたる結果、所謂道路網の完成を見、鐵道道路には局管バス、指定道路全部及び主要なる保甲道路には民營バスを運轉し、産業開發に交通運輸上裨益する所頗る大なり。鐵道の内、鹿港―彰化―和美道路(明治三十八年設置)あり。私設鐵道は大日本及び明治製糖株式會社經營に係るものにして、前者は會社前(中寮)を起點とし北は和美庄を経て鹿港に至る。後者は員林(秀水庄)を経て鹿港に至る。後者は員林より鹿港外中を経て鹿港に至り共に主なる街庄を経て總督府線に連絡す。教育狀況を見るに、尋常小學校一、公學校一七、同分教場六を有し、本島兒童の就學率は男女平均四〇%程度にして、公學校は地方文化の向上に連れ、兒童の教育を訴ふる地方を生じ、就學率逐年向上しつつあるも、山地及び海岸地方には未

だ普及乏しき地方を存し、ことに女兒の就學率は甚だ低し。社會教化施設としては、昭和七年十二月七日臺中州告示の社會教化委員制度に依り、社會教育の振興、年團・公私立國語講習所等を設置し、此等の積極的活動に依り、社會教育の振興、殊に國語普及に努む。氣象は本島通有の雨季と乾燥期とに別れ、夏季は雨季に屬し、最高温度三十一度餘に達することあり。西南の微風起らず、更に雷雨時々發生して暑熱を緩和す。冬季は即ち乾燥期にして最低温度十六度餘に降ることあり、海岸地方は北東の季節風や強しと雖も、郡下全體を通じては、順風順雨、氣候概ね温和なり。從つて衛生状態は一般に良好にして、山手方面には多少マラリヤ病の發生するあり、鹿港を始め海岸地方は季節風の關係上、呼吸器疾患比較的多き傾向あるも、醫務機關の完備及び衛生思想の向上に依り、殆ど傳染病の流行を見ず。管内はもと線東・線西・燕霧上・燕霧下・馬芝の五條に分屬し、明治二十八年帝國領事以來數次行政上の變遷を経て、大正九年十月に至り、舊領時代より存続し來りしは始めて廢せられ自治體施行と共に彰化郡となる。現在は行政上、鹿港街・線西庄・和美庄・福興庄・秀水庄・花壇庄・芬園庄の一街六庄より成り、郡役所を彰化市に置く。もと彰化街及び南郭・大竹の二庄を加へて二

街八庄なりしも、彰化街はやがて南郭・大竹の二庄を合併して二街六庄となり、更に昭和八年彰化街は市として分離せるため、現在の如く一街六庄となる。

其他は平坦にして耕地よく拓げ米・麥・豆類を産し、養蠶行はる。南岸の灣入は殆ど泥地にて、現に干拓工事中に屬する地少からず。また鹽田あり。等外道路通ずるのみにて交通なほ便ならず。

交通は便利なるも、江華島外へはなほ不便なり。

し中部を北流して西山西山より來る淡水を併せ、東北部の坪村里より北流温陽河に出づ。川の兩岸に小平地ありて耕地拓げ、米を主とし麥・豆類等の農産あり。また五山・五雲・金興等の金鑛ありて金・銀を産す。三等道路南北に通ずるも交通なほ便ならず。

街八庄なりしも、彰化街はやがて南郭・大竹の二庄を合併して二街六庄となり、更に昭和八年彰化街は市として分離せるため、現在の如く一街六庄となる。

其他は平坦にして耕地よく拓げ米・麥・豆類を産し、養蠶行はる。南岸の灣入は殆ど泥地にて、現に干拓工事中に屬する地少からず。また鹽田あり。等外道路通ずるのみにて交通なほ便ならず。

交通は便利なるも、江華島外へはなほ不便なり。

し中部を北流して西山西山より來る淡水を併せ、東北部の坪村里より北流温陽河に出づ。川の兩岸に小平地ありて耕地拓げ、米を主とし麥・豆類等の農産あり。また五山・五雲・金興等の金鑛ありて金・銀を産す。三等道路南北に通ずるも交通なほ便ならず。

盛なり。山地は牧場をなし良牛を多数出す。北より西南隅に向つて斜に縣道通じ津山市に至りて出雲街道に連絡す。一は東北方に延び山脈を越えて鳥取市へゆく智頭街道に連絡す。加茂川に沿ひ神庭・廣野二村に接する大字は橋式の街村にて特色をなす。古くは和名抄、藤田郡の加茂の意を以て現名に改む。(新善光寺)大字藤田加茂西中にあり。真言宗高野派。金泰山と號し天長年中弘法大師の開創に係る。寺運隆昌なりしも、のち衰頹す。永徳二年領主今井兼光兼重、信州善光寺の前立佛像を請安し、再び寺門繁昌せしが、天正三年災厄に遭ひ佛宇鳥有に歸す。のち今井兼忠再建す。天保九年英傳法蘭境内に新開國八十八ヶ所巡拜所を設く、風光明輝の地にして賽者常に多し。

シヨールー 莊川村 岐阜縣 飛騨國大野郡の南部。北は白川村、東は清見村、南は郡上郡奥明方村・高鷲村、西は石川縣熊鷹郡白峰村に接す。飛騨高取の西部白山連嶽の東斜面に位し、白川(庄川)中部を北流し、北部にて尾上郷川合流す。西部には二ノ峰(二九六二米)・別山(二九九九米)・鏡子ヶ峰(一八一〇米)等連立し、東部には火山(一三七九米)・南部には麓ヶ岳(一六七二米)・大日嶽(一七〇九米)等あり。耕地は僅かに白川沿岸に認められ、木村には山菜の栽培行

はる。林産物としては大字牧戸及び一色にては種木を利用してタカツキヤチヤツと稱する佛前に供する高杯等を作る。また黄蘗の栽培も盛なり。北部には御神嶺山、東部には莊川嶺山ありて何れも銅・金を産す。此地、中世は白川村と共に白川郷の内にして凡そ文化より遠ざかりし僻在地なり。白川谷は唯一の交通路にして郡上郡よりは飛騨街道、東清見村よりは白川街道通じ、北白川村に至る。近時交通機關の發達は交通的障害をも突破し文化の普及に貢献しつゝあり。即ち自動車の發達は此村にも省費パスの開通を見、白城線開通して牧戸・白鳥を連絡せり。大字中野には高山別院中野支院あり。もとは元の照蓮寺跡にて心行坊と云ひ、舊のまま御坊と呼ばれり。永正元年白川村より此地に移せしもにて、金藏法師の歸依するに及び天正十六年高山に移り、明治年中に大谷派高別院中野支院と云ふ。本堂は長享二年の建築にかり高念坊善俊上人の開基といふ。

シヨールー 庄川村 新潟縣南蒲原郡にありし村。昭和九年見附町に入る。シヨールー 上川原 東京府北多摩郡にありし村。昭和二年、他七村と共に合し昭和村を建つ。シヨールー 城河原村 茨城県 水戸縣那珂郡天草町下鳥の北部。東は佐伊津村及び御領村に接し北は平野村に接り西は飯沼川に界す。西南境に約五〇〇

〇米の山地連りて東北方へ傾斜し東部には一〇〇米程度の臺地あり、中央東側に北方へ開く谷ありて江戸東南境に源流して北流す。主産業は農にして米・麥・蕎麥・甘藷を産し特産物には竹細工・木炭・鳥等あり。東南方木渡町の東岸墾落より北岸に延びて御領村・佐伊津村海岸に至り、一は南に向ひて木村に出づ。村内に高島宮あり。嘗て天草の祖神建島松宮、發行天皇の御代天草國主の任務を負ひ御領村に御上陸後、木村内野村に居城せらる。その城跡に命を奉祀せるもの即ち高島宮なりといふ。また神社の西北方にある矢置谷(今ツバキ谷)・的場(今ツバキ)は命の御射場にて、近くには大なる二箇の横穴あり。宇ハノ元中央の高丘に城木城跡あり。城主は源久大膳大夫にして文明年間築城と傳へらる。いま知地の所々にその遺跡を見る。村名は城木・木渡河内・上野原の舊三箇村を合併して町村制施行の際、各一字を採つて命名せるもの。

シヨールー 城巖面 朝鮮平安南道江西部の南端。大同江下流の西岸に沿ひ、鎮南浦府を距る東北約一六軒。北は普林面に接し、西と南とは仁皇川によりて龍岡郡池雲面及び吾新面と界す。東西約七軒、南北約六軒あり。東北部に院堂山(二四二米)あり、それより西方一帯は五〇一六〇米の臺地、南部にもほぼ東西に高さ四〇一五〇米程度の丘陵所々にあるも、その中間と南部の仁皇川沿岸は低平にして畜田よく拓く。農産は米を主とし麥・大豆あり、また棉花・果樹の栽培行はる。面邑南陽里は西北部臺地間の低地に位し、西隣池雲面の東部を南北に通ずる平壤・鎮南浦間の一等道路(は約六軒、その西の平南線の前池洞驛へは約八軒にて出づべく交通不便ならず)。

シヨールー 常願寺川 富山縣の東部にある川。北アルプス立山連嶽の五色ヶ原に發源して西流し、中新川郡立山村字村木坂にて稱名川、同村大字千坂にて前川・小口川を合し、立山連嶽西斜面の水を集め同大字岩崎寺にて富山平野に出づ。此附近より下流は多くの用水路に分れ平野を貫流し、中新川郡東水橋町の西方にて富山灣に注ぐ。全長約五〇軒。流域に多くの發電所設けらる。

シヨールー 小基隆 臺灣臺北州淡水郡三芝庄の内、新小基隆・舊小基隆(もと小基隆新庄・小基隆舊庄と稱す)の二大字を合したる俗稱。臺灣に沿ひたる區域の俗稱。シヨールー 上岐川面 朝鮮咸鏡南道咸鏡北道咸鏡南道咸鏡中道の北端。東境を南流する咸鏡川と西南境を東南流する支流黒林川に挟まれたる地域にて、東南は岐谷面・州北面に、西南は下朝陽面に對し、西北は下岐川面に隣り、北は新興郡加平面と界す。面積約四三三方軒。西境には高度四〇〇米臺の山地、中部にも三〇〇米臺の山地ありて南方に傾下し、東部は咸鏡川江、西南部は黒林川沿岸の平坦地にて耕地拓げ、米・大豆・粟・稗等の農産を出す。咸鏡より長津江上流方面に至る二等道路は西部黒林川に沿ひて通じ、咸鏡府より来る社線朝鮮鐵道咸鏡南線は五老・中老二驛(大正十二年開業)を咸鏡川沿岸に置き、五老より分岐して黒林川に沿ひ下岐川面上通に至る線には東陽驛(大正十五年開業)を設け交通不便ならず。

シヨールー 將軍 朝鮮(晉軍山) 京都市左京區北白川の北にある瓜生山の一名。頂に將軍地藏堂あるを以てかく稱す。故にまた將軍地藏山ともいふ。天文年間、近江の佐々木永直此處に築城して三好長慶と戦ひ、永祿の頃、

開通を見、且つ積極的土地改良の結果漸く面目を一新し、従来利用価値なかりし...

と西に向ひて傾斜し、量は高約三〇〇米の谷を隔て開く。東北方山地より西南...

漁村を形成す。沿岸漁業に依る年産額五、六萬圓程度なり。養殖は鹹水・淡水...

に傾斜。村社、尊神、品陀和氣命・息長帯比賣命・帯長津日子命・醫神・須佐之...

水質悪しきと季節風期に於ける飛砂の激甚なるに依りトラホームの罹患率非常...

結・大坂・徳内海・塩尻・大塩・二階・五股・坂戸・洪武橋・茅埔・三十九結・...

は往時干潟地にして、或は乾燥、或は嘉慶時代以後に陸地として浮遊せしものな...

所等の社会教化機關有りし、且て日本精神の獲得に邁進し、また一方畜産組合・...

稱する平埔蕃族の部落を有せしにより近昔の譯字を究てて斯く名付けし所なり。昔時此地は宜爾・頭圍間の中路として發達し、我領家後は臺北より深坑(臺北州文山郡)を経て宜蘭に達する道路の開闢と共に、宜蘭地方よりの起點となり發達せり。清領當時制定せられし行政區劃の一なる頭圍堡は即ち本庄の地にして、もと洪武開堡と云ひたり。明治二十八年五月日清講和の結果、本島の我帝國の版圖となるや、翌二十九年一月混成第七旅團は兒島なる林孝成・林大北の率ゆる土團を擊破し、本庄の土着住民は始めて皇軍保護の下に入りたり。本島に始めて我民政布かるるや、臺北縣の管轄下に入りしがのち宜蘭廳に屬し、大正九年十月全島的

林火旺以下三百四十人の歸順式を行ひし記念すべき地なり。(大坡池) 大字大坡に在り。周圍二軒以上に達する大池にして、四季水最豐富甜碧にして、白鯉魚鱗空中に閃めき、また水鴨來て遊ぶ、正に幽雅なり。地名は即ち此池に由来す。【編纂】五峯旗山脈にある洞窟。昔この内に多數の編纂棲息せしにより此名あり。曾て番人此の内に住し、其後林火旺以下の土團の巢窟たりし事あり。(鹿溪温泉) 大字鹿溪にあり。金面山麓の田圃中に湧出す。總督府鐵道宜蘭線の沿道にあり。前年に萬頃の青田を隔て遠く太平洋を覗下す風景は絶佳と稱すべし。宜蘭街より鐵路の他、聯合自動車の便あり。設備としては臺北州立公共浴場の他、樂園・西山・圓山等の温泉完備す。温泉は無色透明にして無臭、泉質は單純性にして放射能、〇・七マッハを有し温泉は攝氏五十二度なり。【小雞龍嶼(臺灣)】

佛首山(三九〇米) 峙ち、それら山脚北の方に延びて丘陵をなす。銀波川と中部を北流する麒麟川、及び西部を北流する小流に沿ひ幅狭き低地ありて耕地拓く。農産に麥・大豆・粟・棉等あり。三等道路東部を通じ、麟山面・文武面に出づるも交通なは便ならず。【上月面】 朝鮮忠清南道論山郡の北部。東は豆腐面、西は魯城面、南は連山面に接し、北は公州郡龍鳳面と境す。東境及北境には龜龍山(八二八米)の山脈走り、東境やや高く三〇〇―四〇〇米の高度を保ち、西北部にも高度三〇〇米の顯著なる丘陵あり、大部分は低平にて田畑拓け、錦江の一支論山川これを灌溉して地味肥沃農産多し。産物に米・麥・豆類・雜糧・改良豚・酒・菓子等あり。一等道路京城・木浦線西北部を掠めてバスを通じ、郡邑論山に近く交通不便ならず。菓物は山城里・新忠里や著はれ、後者に面事務所を置く。

所に於て燻沈されしを以て有名なり。【昌原郡】 朝鮮慶尙南道の南部沿海に位置し、道管内二府一九郡の一。東は金海郡に隣り、北は洛東江を距てて密陽・昌寧の兩郡に對し、西は咸安・晉州・固城の各郡に接し、南は鎮海灣を距てて巨濟島を望む。面積七〇五方軒餘。東境及び西部に大白山脈の支脈走り、東部金海郡境に佛母山、西部咸安郡境には西北山の屹立するあり、此等の兩支脈は郡中央の昌原附近に相迫りて此處に隘路を通じ、自ら南北の二部に分つ。北部は即ち洛東江流域に屬する廣闊なる沃野にして、水利組合の發達と相俟つて農産榮ゆ。鎮海灣は東角に熊川半島、西角に龜山半島斗出し灣内頗る屈曲に富み、水深また幾ね大、内に釜島・毛島・椋島・實利島・水島其他大小の島嶼點々散布し、波浪を防ぎ天然の良港を成す。灣口を扼して加徳島あり。海岸線延長は陸地一七二軒、島嶼一〇七軒に達す。氣温は盛夏二五度前後、一―二月の平均温度二―三度にして一般に溫和なり。産業は農・漁を主とし、農産に米(二萬石)・大豆(七萬石)・小麥・大豆等あり、何れも品質よく、特に米は優良にして、その産額は金海郡に次ぎ、道中第二位にあり、昌原米の標價高し。ほかに棉・花卉球根類を産し、果實は橘最も著はれ、また梨・苹果等あり。沿岸の興川・龍東・鎮海・鎮東及び加徳

島にはそれぞれ漁業組合あり、鯉・鯛・ちぬ・鱈・太刀魚・石首魚・海鼠・牡蠣等の漁獲高五〇萬圓を超ゆ。製鹽また盛にして鹽田の面積六九・二ヘクタール、製鹽高九一二萬斤に達す。その他工業には生糸・酒精あり、鎮山には馬山金山・白月銅山(東面・北面)・昌龍鎮山(内西面)・鎮東鎮山(鎮東面)ありて金・銀・銅・亞鉛を産す。交通、鐵道は總督府鐵道慶全南部線、東方より來り馬山を経て更に西北走し、その昌原驛より鎮海線を分岐して要港鎮海に至る。一等道路は鐵路に沿うて通水・馬山間、昌原・鎮海間を繋ぎ、其他二三等道路は昌原・馬山・鎮東等を中心に各所に通じて交通極めて便なり。行政上、鎮海邑及び北・大山・東・昌原・上南・鎮南・鎮東・鎮川・内西・龜山・鎮東・鎮北・鎮田・天加の一四面に分ち、郡廳を馬山府都町に置く。郡邑の主要なるものは、昌原・鎮海にして、昌原は交通の要衝に當り米の集散地として知られ、鎮海には要港部・要港司令部・防備隊等あり。また沿岸の鎮川・鎮東は漁業中心地として著はる。本郡は上古支那古史の謂ゆる倭韓の地にして任那瀛洛のうち久斯木羅、即ち越來村の故地なり。任那瀛洛亡びて新羅國を稱ぶるや始めて屈自郡を建て、郡城を骨浦に卜し、景徳王の時、骨字不詳なりとして合浦と改む。其地は今の馬山府舊馬山に當る。高麗二十四世元宗王、元の忽必烈に

薄屬し、忽必烈我國を攻むるや元の副將植良弼手兵四千三百を以て合浦鎮に駐留し合浦の名天下に著はる。忠烈王の時、慶尙右道兵馬節度使官を兼ねたる任東行營が今の内西面合城里に築かれ、忠烈王は征東總督として此處に駐まり、今の昌原面に義安縣を分置し、役後これを義昌と改め、合浦を楡原と改む。今の郡名昌原は義昌・楡原の各一字を取りしもの。李朝三世太宗王に至り、郡治を今の昌原に移し、元楡原縣牛山津に漕倉を置き、附近十三郡の貢米を集散せしめ、その轉運使は昌原郡守が兼攝し、此處を昌原港と呼ぶ。光武二年、馬山を開きて各國居留地と定め、同十二年(明治三十九年)昌原郡を昌原府となし、次で鎮川・鎮海の二郡及び金海・晉州・津原の各郡一部を昌原府に併せ、併合後、昌原府を廢して新に馬山府を置き、大正三年府都廳合に際し馬山府を臨時の境域に改め、諸他の面を以て新に昌原郡を建て、以て今日に至る。【昌原面】 朝鮮慶尙南道昌原郡の中央部。西南馬山府との間に内西面を隔て、南方鎮海邑との間に鎮南面を挟み、北は北面・東面に、東は上南面に接す。面積二九方軒餘。西北境に山地ありて急傾斜をなし、南部に高度二〇〇米臺の丘陵あるも中央部より東南部にかけては土地低平にして農耕に適し、米・大豆・麥等の農産あり。朝鮮鐵道局慶全南部線西北部を横ぎりて

昌原驛(明治四十一年設置)を設け、鎮海線の分岐點をなし、交通上の一要點をなす。面邑昌原(北洞里)は北部の中央に位置し、驛を去る東北約二軒、馬山・三浪津間の一等道路に沿ひ、また鎮海への道路の分岐點たり。古くは嶺南水軍防禦使を置かれし舊邑なり。【シヨールー 詳原面】 朝鮮平安南道中和郡の東部。大同江の支流南江に入る詳原江中流流域にて、東は水山面、北は鎮南面、西は東洞面、南は天谷面に隣接す。東西約一二軒、南北約一〇軒。南境東半は水山(七三四米)の西嶺、西半は湖峯(四六八米)の東嶺につづく高さ二〇〇米臺の丘陵地、西境は靈鷲山(三四七米)の山地、東北部は日出峰(四五〇米)の山地をなす。詳原江の東隣水山面より來り、中部に於て南隣天谷面より來る文浦川を合して北流す。川筋には巾やや廣き低地開けて農産行はれ小麥・大豆・小豆・粟等を産す。東部及び北部には鐵の鑛床廣く分布し、南部より金・銀を出す。平壤・議政府間の二等道路東北部を通じ、中和に至る三等道路これより岐れて中部を西方に通じ、中和・麟湖里・遼安の各樞要地とバスの連絡あり。面邑詳原は東に偏在し詳原江右岸にあり、郵便所・警察官駐在所・會議組合等を設け、また家畜の市開かれ、牛その他の年取引高九三萬圓に達す。【シヨールー 上元川面】

朝鮮咸鏡南道新義郡の郡中央部。東は下元川面、南は東古川面、西は永興面、北は東上面に隣接す。東西六一一軒、南北約二二軒、面積約一八三方軒。赴義嶺山脈とその支脈の山地にて、北境の東部に明安峰(一八〇九米)、西隅に白赤山(一八五六米)あり、面の中央部に新徳山(七三五米)、南境に麒麟山(三五一米)等々至る處山地をなす。たゞ東隣下元川面より來りて新徳山の南麓を西流する城川江と、北部山地に發し南流してこれに合する支流の各に巾狭き低地ありて耕地拓け農産發達す。麥・大豆・粟・大麻等の農産、興風金鑛(金・銀・鉛)(新興及び寶光鎮山(金・銀・銅・鉛・亞鉛)の鑛産あり。咸興より新興を経て黃水院方面に至る二等道路城川江に沿ひて通じ、また新興鐵道松興線の慶興驛(米高面慶興里)に近く交通不便ならず。【シヨールー 勝湖里】 遼東(朝鮮)【シヨールー 上戸】 磐越西線の一驛(明治三十二年設置)。福島縣耶麻郡月輪村にあり。【シヨールー 上古面】 朝鮮咸鏡北道明川郡の東南部。南は下古面・上加面、西は阿問面・下等面、北は西面に隣接し、東は日本海に面す。東西一二軒内外、南北は西邊にて一六軒、東邊にて約三〇軒に達し面積約三〇〇方軒を有す。七寶山塊の南半を占め、西北部に天佛峯(五六

三米、七寶山(九〇六米)、玉峯(七七四米)、西南境上に上野(一〇三米)、下野(一〇四七米)、香爐(八四四米)東南部に皆奇峯(七四九米)、三浦(七四二米)等の山峯聳立し、東南端は舞水端の岬角となりて日本海に突き、岬上に深淵白光、光連距離二三・五哩の舞水端燈臺設けらる。面積も至る鹿山岳重疊し、この山地の水は野谷を傳ひて東流して日本海に入りこれに沿ひて申張き谷地あり。大豆、粟、麥、玉蜀黍等の農産あり、沿岸は好漁場にして水利少からず。市内交通は不便なり。「七寶山」成鏡八景の一。西麓開心洞より登れば瓦利開心寺あり、大雄殿・萬歲樓・五大房等の殿堂あり、之より東約一軒に金剛窟に遷す。更に上ること約一軒兜率窟に出づ。金剛窟の眺望頗る佳なり。この七寶山中には丹窟・丹窟・千佛峯・萬壽峯・虎嶽・岬嶽・露嶽・倉庫等の奇峯ありて、東海の奇峯金剛山に劣らざる仙境をなすも、成鏡古蹟(阿開洞)を去る東方二〇餘軒、交通便ならざるを以て探勝者多からざるは遺憾なり。

四三米)等の丘陵ある外は概ね低平にして、特に東南部は南流する振成川の支流に沿ひ、西北部は貫口池川流域に属し共に平地廣く畝田・畑地よく拓く。農産に米・麥・豆類・棉・大麻等を出す。米浦・京城間の一等道路と鐵道京釜本線並行して東南より西北に貫走し、後者は東南部の面邑烏山里(烏山驛(明治三十八年設置)を置き交通便なり。

西は和順郡に、西南は寶城郡に、南は外西面に相隣接す。西北境には峻々たる山脊を露はす母后山(九一九米)屹立し、東境に曹溪山(八八七米)、南部には望日峰(六五二米)聳えて城内の一部分山地をなし、中央を北流する蟻津江の支流寶城江の沿岸に河成段丘の發達に成る平地を見る。住民は農を主とし、産物に米・大豆・烟草・大豆其他の雜穀あり。南方接橋驛より三等道路を通じ乗合自動車のある他は何れも等外路線にして地方的のものに過ぎず、聚落は主として寶城江の沿岸に分布し、其主なるものの上流より九龍里・社安里・梨色里・風山里・裏泉里・大谷里・新坪里・洛水里・梧峰里等あり、洛水里には面事務所及び陰曆二・七日に開く市場ありて取引稍活潑なり。洛水の東方四軒に廣松寺の古刹あり、若照園の開基にて朝鮮三十本山の一にして殿堂の雄大は附近の覺摩と相俟ちて半島稀に見る勝地たり。「廣松寺」新坪里にあり。松原山の西麓に位す。朝鮮佛教三十一本山の一。新羅末那、雙瑞宮地に小庵を營み松原山古刹寺と號せしを以て當寺の遺蹟となす。高麗明宗廿七年(建久八年)普照園智訓の再興なり。當時會屋八十有餘、諸堂宇陳列して壯觀を極めしといふ。爾來寺運隆盛を極め、數度の災厄に遭ふもその都度再建せる。智訓以後十六國師これに住し、實に叢林罕觀の盛地なり。現に聖堂坊舎二十八箇所一

百二十棟を擁す。附近豊蔭ありて農産に適す。

シヨールー

百二十棟を擁す。附近豊蔭ありて農産に適す。

シヨールーシヨールー

シヨールーシヨールー

シヨールーシヨールー

シヨールーシヨールー

シヨールーシヨールー



親民入道有心の居城址あるより起るといふ。

**ジョーザンケー** 定山溪鐵道(定山溪鐵道) 北海道石狩郡札幌市にあり。札幌市内なる函館本線白石驛より起り、市内の東札幌・豊平驛等を過ぎ、豊平川に沿ひて西南方面の豊平町大字定山溪の定山溪驛に通ず。定山溪温泉の湯治客、豊平峠附近諸山の探勝客、冬季のスキー客によりて利用する所多し。全長二九・九軒、軌間一〇六七米、省線と連帯運輸。大正七年営業を開始す。旅客運賃

**ジョーシ** 松旨面(朝鮮全羅南道海南郡の南端部。北は縣山面、東は北平面に隣り、南と西は海に面し、南に莞島郡慶花面と慶花島を、西北に珍島郡の山嶺を望む。面積約八五方軒。東境には小白山脈の南西端をなす連慶山(四九九米)の山嶺連なり、その山脈西北に浜出米、東平には丘陵起伏するも西半は概ね平低にして耕地拓く。沿岸は出入多きも干潟地廣く鹽地少し。米・麥・大豆・粟、莞草等を産し、海上は好漁場をなし石首魚・鯖等の漁獲あり。南内外道路を通ずるのみにて交通なほ便利ならず。

**ジョーシ** 彈子島(關東州) 庄司(福岡縣高橋郡幸袋町の大字。省線幸袋線の貨物庄司驛(明治四十二年設置)を置く。

**ジョーザン** 城山村(熊本縣肥後國鹿託郡の中部西端。白川の北岸に沿ひ熊本市の西南部に接す。北は池土村及び高橋町に隣り、西北は松尾村に接し西は小島町に界し南は白川を隔てて八分字村に對す。面積四・二四方軒。全村熊本平野の平坦なる低地を占め南境を白川西流し北境には坪井川西に流る。耕地拓け米・麥・野菜を産し、東方熊本市より西海岸百貫石へ延びる社線熊本電氣鐵道線北境近く隣町村を東西に走り、また東北約三軒に省線鹿島本線熊本驛あり。村名は明應五年より四十四年の間、隈本城主として成風四郎を襲せし鹿子水參河守

**ジョーシ** 城山村(熊本縣肥後國鹿託郡の中部西端。白川の北岸に沿ひ熊本市の西南部に接す。北は池土村及び高橋町に隣り、西北は松尾村に接し西は小島町に界し南は白川を隔てて八分字村に對す。面積四・二四方軒。全村熊本平野の平坦なる低地を占め南境を白川西流し北境には坪井川西に流る。耕地拓け米・麥・野菜を産し、東方熊本市より西海岸百貫石へ延びる社線熊本電氣鐵道線北境近く隣町村を東西に走り、また東北約三軒に省線鹿島本線熊本驛あり。村名は明應五年より四十四年の間、隈本城主として成風四郎を襲せし鹿子水參河守

**ジョーシ** 松耳島(落月面(朝鮮) 富士五湖(山梨縣) 仍大面(朝鮮平安南道江西郡の東北端。郡邑江西の東四軒、北と東とは大同郡に隣りす。地形東西に長く、南北は最狭部に於て約二軒に過ぎず。南境に天眞山(一八八米)屹立し、その他二〇〇米臺の丘陵錯るも他は概ね低平にして、耕地廣く連る。東境には大同江の主流環流して大同郡南面を望み、西部は鳳凰江の支流東南に流れて江西平野の東縁をなす平地を灌漑し、地味頗る肥沃、農産豊かなり。米・大豆を主産し、在米棉の栽培盛に、副業には曬穀製造・莞草等行はれ、また江西炭礦より無煙炭を多く出す。東部江岸沿ひに總督府鐵道平南線を通じて大平(大同郡古平面)・岐陽(東津浦面)の兩驛に出づるの便にして、また一等道路は北部を貫き平壤・鎮南浦間交通の要衝なるを以て交通至便なり。面事務所を五里(津津)に置く。

**ジョーシ** 城下村(兵車縣 樺南國突栗郡の南端。縣路市の西北約二八軒。村内は中國山地の南部に接する山地起伏し、保川はこの山地を南流し、沖積平野を作る。山地は主として流紋岩より成り高度は五〇〇米内外を示す。産物は僅かに川の流域に米作行はるのみ。交通路はこの保川沿の右岸に因り街道に

**シモー** 尚州(朝鮮慶尙北道の西北部。道首内一府一島二郡の一。北は開陽郡に、東は醴泉・義城の兩郡に、南は善山・金泉の兩郡に、西は忠清北道の槐山・報恩・沃川・永同諸郡にそれぞれ隣接す。面積一二五九方軒にして道中の大郡なり。東部を除くは小白山脈に屬する山地にして、忠清北道との境に俗離山(一〇五七米)・白草山(九三三米)、中央に露障山(七二五米)等聳立し、東に向つて緩傾斜す。河川は洛東江北より來り、西部山地に發する頭江その他の支流を合せて東境を南流し、沿岸に沃野拓け一大農業地帯を作る。住民の八八割は農業に従事し、耕地面積田一八八〇〇ヘクタール、畑一〇七〇〇ヘクタールにして、米(一七・六萬石)・大麥(八・六萬石)・大豆(五・八萬石)を主産し、米と大豆の産は全道に冠たり。その他、棉花(四五萬斤)・大麻(三・五萬貫)・莞草等を産す。古來産地として著はれ、桑田面積一二四〇ヘクタール、産額額三〇萬圓を超えて道中首位を占め、機織を行はる。畜産は牛・豚多く、畜産物産額二四萬圓にして之また道の最高位に居る。工業には平壤・麻布等多く、殊に尙州綿の名は昔なく知ら

**シモー** 尚州(朝鮮慶尙北道の西北部。道首内一府一島二郡の一。北は開陽郡に、東は醴泉・義城の兩郡に、南は善山・金泉の兩郡に、西は忠清北道の槐山・報恩・沃川・永同諸郡にそれぞれ隣接す。面積一二五九方軒にして道中の大郡なり。東部を除くは小白山脈に屬する山地にして、忠清北道との境に俗離山(一〇五七米)・白草山(九三三米)、中央に露障山(七二五米)等聳立し、東に向つて緩傾斜す。河川は洛東江北より來り、西部山地に發する頭江その他の支流を合せて東境を南流し、沿岸に沃野拓け一大農業地帯を作る。住民の八八割は農業に従事し、耕地面積田一八八〇〇ヘクタール、畑一〇七〇〇ヘクタールにして、米(一七・六萬石)・大麥(八・六萬石)・大豆(五・八萬石)を主産し、米と大豆の産は全道に冠たり。その他、棉花(四五萬斤)・大麻(三・五萬貫)・莞草等を産す。古來産地として著はれ、桑田面積一二四〇ヘクタール、産額額三〇萬圓を超えて道中首位を占め、機織を行はる。畜産は牛・豚多く、畜産物産額二四萬圓にして之また道の最高位に居る。工業には平壤・麻布等多く、殊に尙州綿の名は昔なく知ら

**シモー** 尚州(朝鮮慶尙北道の西北部。道首内一府一島二郡の一。北は開陽郡に、東は醴泉・義城の兩郡に、南は善山・金泉の兩郡に、西は忠清北道の槐山・報恩・沃川・永同諸郡にそれぞれ隣接す。面積一二五九方軒にして道中の大郡なり。東部を除くは小白山脈に屬する山地にして、忠清北道との境に俗離山(一〇五七米)・白草山(九三三米)、中央に露障山(七二五米)等聳立し、東に向つて緩傾斜す。河川は洛東江北より來り、西部山地に發する頭江その他の支流を合せて東境を南流し、沿岸に沃野拓け一大農業地帯を作る。住民の八八割は農業に従事し、耕地面積田一八八〇〇ヘクタール、畑一〇七〇〇ヘクタールにして、米(一七・六萬石)・大麥(八・六萬石)・大豆(五・八萬石)を主産し、米と大豆の産は全道に冠たり。その他、棉花(四五萬斤)・大麻(三・五萬貫)・莞草等を産す。古來産地として著はれ、桑田面積一二四〇ヘクタール、産額額三〇萬圓を超えて道中首位を占め、機織を行はる。畜産は牛・豚多く、畜産物産額二四萬圓にして之また道の最高位に居る。工業には平壤・麻布等多く、殊に尙州綿の名は昔なく知ら

**シモー** 尚州(朝鮮慶尙北道の西北部。道首内一府一島二郡の一。北は開陽郡に、東は醴泉・義城の兩郡に、南は善山・金泉の兩郡に、西は忠清北道の槐山・報恩・沃川・永同諸郡にそれぞれ隣接す。面積一二五九方軒にして道中の大郡なり。東部を除くは小白山脈に屬する山地にして、忠清北道との境に俗離山(一〇五七米)・白草山(九三三米)、中央に露障山(七二五米)等聳立し、東に向つて緩傾斜す。河川は洛東江北より來り、西部山地に發する頭江その他の支流を合せて東境を南流し、沿岸に沃野拓け一大農業地帯を作る。住民の八八割は農業に従事し、耕地面積田一八八〇〇ヘクタール、畑一〇七〇〇ヘクタールにして、米(一七・六萬石)・大麥(八・六萬石)・大豆(五・八萬石)を主産し、米と大豆の産は全道に冠たり。その他、棉花(四五萬斤)・大麻(三・五萬貫)・莞草等を産す。古來産地として著はれ、桑田面積一二四〇ヘクタール、産額額三〇萬圓を超えて道中首位を占め、機織を行はる。畜産は牛・豚多く、畜産物産額二四萬圓にして之また道の最高位に居る。工業には平壤・麻布等多く、殊に尙州綿の名は昔なく知ら

**シモー** 尚州(朝鮮慶尙北道の西北部。道首内一府一島二郡の一。北は開陽郡に、東は醴泉・義城の兩郡に、南は善山・金泉の兩郡に、西は忠清北道の槐山・報恩・沃川・永同諸郡にそれぞれ隣接す。面積一二五九方軒にして道中の大郡なり。東部を除くは小白山脈に屬する山地にして、忠清北道との境に俗離山(一〇五七米)・白草山(九三三米)、中央に露障山(七二五米)等聳立し、東に向つて緩傾斜す。河川は洛東江北より來り、西部山地に發する頭江その他の支流を合せて東境を南流し、沿岸に沃野拓け一大農業地帯を作る。住民の八八割は農業に従事し、耕地面積田一八八〇〇ヘクタール、畑一〇七〇〇ヘクタールにして、米(一七・六萬石)・大麥(八・六萬石)・大豆(五・八萬石)を主産し、米と大豆の産は全道に冠たり。その他、棉花(四五萬斤)・大麻(三・五萬貫)・莞草等を産す。古來産地として著はれ、桑田面積一二四〇ヘクタール、産額額三〇萬圓を超えて道中首位を占め、機織を行はる。畜産は牛・豚多く、畜産物産額二四萬圓にして之また道の最高位に居る。工業には平壤・麻布等多く、殊に尙州綿の名は昔なく知ら

**シモー** 尚州(朝鮮慶尙北道の西北部。道首内一府一島二郡の一。北は開陽郡に、東は醴泉・義城の兩郡に、南は善山・金泉の兩郡に、西は忠清北道の槐山・報恩・沃川・永同諸郡にそれぞれ隣接す。面積一二五九方軒にして道中の大郡なり。東部を除くは小白山脈に屬する山地にして、忠清北道との境に俗離山(一〇五七米)・白草山(九三三米)、中央に露障山(七二五米)等聳立し、東に向つて緩傾斜す。河川は洛東江北より來り、西部山地に發する頭江その他の支流を合せて東境を南流し、沿岸に沃野拓け一大農業地帯を作る。住民の八八割は農業に従事し、耕地面積田一八八〇〇ヘクタール、畑一〇七〇〇ヘクタールにして、米(一七・六萬石)・大麥(八・六萬石)・大豆(五・八萬石)を主産し、米と大豆の産は全道に冠たり。その他、棉花(四五萬斤)・大麻(三・五萬貫)・莞草等を産す。古來産地として著はれ、桑田面積一二四〇ヘクタール、産額額三〇萬圓を超えて道中首位を占め、機織を行はる。畜産は牛・豚多く、畜産物産額二四萬圓にして之また道の最高位に居る。工業には平壤・麻布等多く、殊に尙州綿の名は昔なく知ら

**シモー** 尚州(朝鮮慶尙北道の西北部。道首内一府一島二郡の一。北は開陽郡に、東は醴泉・義城の兩郡に、南は善山・金泉の兩郡に、西は忠清北道の槐山・報恩・沃川・永同諸郡にそれぞれ隣接す。面積一二五九方軒にして道中の大郡なり。東部を除くは小白山脈に屬する山地にして、忠清北道との境に俗離山(一〇五七米)・白草山(九三三米)、中央に露障山(七二五米)等聳立し、東に向つて緩傾斜す。河川は洛東江北より來り、西部山地に發する頭江その他の支流を合せて東境を南流し、沿岸に沃野拓け一大農業地帯を作る。住民の八八割は農業に従事し、耕地面積田一八八〇〇ヘクタール、畑一〇七〇〇ヘクタールにして、米(一七・六萬石)・大麥(八・六萬石)・大豆(五・八萬石)を主産し、米と大豆の産は全道に冠たり。その他、棉花(四五萬斤)・大麻(三・五萬貫)・莞草等を産す。古來産地として著はれ、桑田面積一二四〇ヘクタール、産額額三〇萬圓を超えて道中首位を占め、機織を行はる。畜産は牛・豚多く、畜産物産額二四萬圓にして之また道の最高位に居る。工業には平壤・麻布等多く、殊に尙州綿の名は昔なく知ら

**シモー** 尚州(朝鮮慶尙北道の西北部。道首内一府一島二郡の一。北は開陽郡に、東は醴泉・義城の兩郡に、南は善山・金泉の兩郡に、西は忠清北道の槐山・報恩・沃川・永同諸郡にそれぞれ隣接す。面積一二五九方軒にして道中の大郡なり。東部を除くは小白山脈に屬する山地にして、忠清北道との境に俗離山(一〇五七米)・白草山(九三三米)、中央に露障山(七二五米)等聳立し、東に向つて緩傾斜す。河川は洛東江北より來り、西部山地に發する頭江その他の支流を合せて東境を南流し、沿岸に沃野拓け一大農業地帯を作る。住民の八八割は農業に従事し、耕地面積田一八八〇〇ヘクタール、畑一〇七〇〇ヘクタールにして、米(一七・六萬石)・大麥(八・六萬石)・大豆(五・八萬石)を主産し、米と大豆の産は全道に冠たり。その他、棉花(四五萬斤)・大麻(三・五萬貫)・莞草等を産す。古來産地として著はれ、桑田面積一二四〇ヘクタール、産額額三〇萬圓を超えて道中首位を占め、機織を行はる。畜産は牛・豚多く、畜産物産額二四萬圓にして之また道の最高位に居る。工業には平壤・麻布等多く、殊に尙州綿の名は昔なく知ら

鮮八牧の一にして、一時は親務使をして...

【尙州邑】朝鮮慶尙北道尙州郡の中央よ...

り。産業、慶北に於ける米・専等主産地...

【尙州金山】朝鮮重要嶺山の一。慶尙北...

シヨールーシヨール

【上州】上野國の略稱。...

角山(九三七米)等の峻嶺を以て、河川は南...

部の西北部に當り、東西より東南に延...

一説中、一五〇〇の式を示す。漢書は全...

【昌城郡】朝鮮平安北道の西部北邊に位...

【鍾城郡】朝鮮咸鏡北道東部の郡。道...

交通、開閉江岸に沿ひ鐵道北鮮西部線、滿...

畿北管理線。走りて上三峰・鎮城・流...

【鎮城】朝鮮咸鏡北道鎮城郡の西北端...

シヨールシヨール 城津

【城津】朝鮮咸鏡北道の南端に位する...

委・神・大豆等を出す。南は會亭と北は...

【上條村】新潟縣越後國刈羽郡の西南部...

シヨールシヨール 上條

工業は前記魚油・魚肥の外、紙類・織布...

山脈の一部山裾を占め、中央を北に曲流...

【上條村】富山縣越前國中新川郡の西北...

シヨールシヨール 松真

【松真山】朝鮮の北部、小長白山脈に属...

部に於て、白岩川に灌漑され水田開け、...

【松真山】朝鮮の北部、小長白山脈に属...

シヨールシヨール 精進湖

【精進湖】長門(朝鮮慶尙南道)...

シヨールーシヨールー

シヨールーイ 勝瑞(かちずみ) 徳島縣板野郡住吉村の大字。省線高徳本線の一駅(大正五年設置)あり。

シヨールーイオー 小睡鳴島(せむいなるしま) (←睡鳴島(朝鮮))

シヨールーゼ 庄瀬村(しやうせ) 新潟縣越後國中浦原郡の西部。信濃川の左岸、小須戸町の西南方約四軒。北は小林村、西は笑曾根村に、南は須田村に、東は信濃川を境に南海原郡上田村に隣す。信濃川より二條の放水路を通じ水田開け米作を主とす。また河沿の低濕地には西洋草花の栽培も行はれ、小須戸町にて集散さる。交通は河沿の細き道路の外西方の國道に過ぎざるものありのみ、主に信濃川の舟運の便を借る。往古の事は詳かならず。北越軍記に庄瀬新藏の名見ゆ。或は此地の人か。「明覺寺」大字庄瀬にあり。武宗大谷漢。不可思議山と號す。慶長三年善西法師の開基、本尊阿彌陀如来寺寶に親覺上人筆六字名號あり。

シヨールーゼー 小青島(せうじま) (←白領面(朝鮮))

シヨールーゼー 松西面(しょうせいめん) 朝鮮平安北道碧潼郡の西北端。郡邑碧潼の西方約一〇軒。東は碧潼面及び城南面、南は昌城郡龍洞、西は同田舎面及び昌州面に各相隣接し、北は鴨綠江を隔て、滿洲國通化省大叢溝及び小叢溝に相對す。南部には流東峰(一四七〇米)を始め、盤徳山(一〇九一米)、興社山(九四七米)等

鑿立し、之等諸山の山脚遠く北部に及び山岳重疊し殆んど平地なく、南部山地に發源せる南洞川は北流し鴨綠江に合する附近に僅かに低地を見る。住民の多数は農業に従事し、傍ら薪炭採集及び織織に従事す。産物は粟を第一とし、玉蜀黍・大豆・馬鈴薯・蕎麥・稗・蕪・納豆等あり。其他農具の製造行はる。道路は東方碧潼色より來る二等道路北部を東西に横斷する外は何れも等外路線にして道幅狭く且つ坂路多く交通便ならず。江岸には碧潼の津浦ありて鴨綠江による舟運の便あり。粟落は江岸に多く其主なるものに一西洞・二西洞・三西洞・四西洞・五西洞・六西洞と上流より順次下流に分布し、山中に松一洞・松二洞・松三洞・松四洞等あり。碧潼は最も大きく西事務所・警察官駐在所及び除穢三・八の日に開く市場ありて江岸物資集散の中心を成す。

シヨールーゼー 上西(じやうせい) (←上西面) 朝鮮江原道華川郡西面の一。郡の西北部を占め、東は華川面、南は下南面に接し、西は華川郡東内面及び金化郡近南面に、北は同郡遠南面に界す。面積約二二〇方軒。大白山脈の支脈東北より西南に走り、西境上には赤根山(一〇七三米)・大成山(一七五五米)・龍柱山(一〇五七米)・南境には白根山(八八四米)等ありて内面は平均高度四〇〇一五〇〇米の高原狀となし、北漢江の支流その高原を東南流して川筋に順次各地を流

り暫く留る。其時管束の官人來りし故、管公履(脱袴)て此地を去る。之に因りちの土人嗣を立てて管公を祀りしに起るといふ。長保元年・保安三年に再建す。領主河野・久松氏の崇敬あり。

シヨールーゼン 小川面(せうがわめん) 朝鮮慶尙北道奉化郡の略ぼ東半を占む。西は奉陽面・法田面、南は才山面及び英陽郡首比面に隣り、北は江原道三陟郡上長面・遠徳面に、東は蔚珍郡西面に界す。東西一・二二四軒、南北二五軒内外、面積約四一四方軒にて殆ど郡の三分の一に近し。大白山脈の山地にて北境西部に主峰大白山(一五四九米)、東部に鶴山(一二六五米)等あり、内内北部に青玉山(一二七七米)、中部に飛龍山(一一三五米)、南部に竹窟山(九〇六米)、燕飛峯(九二二米)、南境に將軍峰(一一三五米)等の山岳重疊し、土地高峻なり。北嶺上長面の山地に發する洛東江北境中部の谷を南流し、中部に至りて飛龍山・竹窟山の谷を蛇行迂曲して西南に流れ法田面に注ぐ。山地多く農業盛ならず。水石・九馬・林基の礦山ありて金・銀を出す。奉陽・蔚珍間の二等道路は中部を東西に通ずる外は交通未だ便ならず。

シヨールーゼン 昇仙峽(せうせんげつ) 御嶽界仙峽ともいふ。山梨縣中野郡を流るる荒川の豁谷。宮本村・吉澤村に屬す。荒川豁谷の花崗岩風景にて古來甲州第一の勝地として著はる。金釜山附近より廣く

くり、耕地拓けて農業行はれ、米・麥・豆類・麻等を産す。華川より西北方金化に至る二等道路東南より西北に通じパスの便あり。

シヨールーゼン 鍾川面(しょうせんめん) 朝鮮忠清南道舒川郡の西部。郡邑舒川面の西北隣にて、東は文山面、北は東面、西北は宛仁面に接し、西南は宛仁灣の支溝長久洞に面す。面積二九方軒餘。香夷山(三二九米)・破橋山(三二五米)面の中部の東西に鑿立し、その東と西及び南に幅狭き平地ありて耕地拓く。農産物に米・

の山塊あるも、その北を曲川西に流れ龍洞面に出で、南より來る龍潭江に合し其間に平地地をつくる。この西北部の平地と南部門岩川及びその支流の谷地には農耕行はれて米・麥・大豆・棉花等を産し、また磁石・重晶石・螢石等を産する銀嶺山及び金・銀を出す昇仙峽金山の礦區に當り、載託嶺山ありて金を出す。

シヨールーゼー 城西(じやうせい) (←城西面) 朝鮮平安北道楚山郡の西北境。郡邑楚山の西方五軒。北半部はもと西面と稱し南半部は城西面を成せしを合併し、兩面の舊稱頭字を合せて城西面と改稱せしもの。東は楚山面、南は南面に各相隣接し、西及び北は鴨綠江を隔て、滿洲國通化省輝江口及び八骨老頭等に相對す。南部は七〇〇米前後の山地相連なれども北部は玄武岩の熔岩臺地を成し、平坦面比較的廣く分布し、各谷谷には河成段丘發達す。住民は農耕を以て生業とし傍ら採薪日稼に従ひ又朝鮮酒の醸造に従事する者多し。産物は大豆を第一とし、粟・麻・蕪草・煙草・馬鈴薯・山藤・蜂蜜・牛・豚及び黒鉛等あり。蕪州・楚山間二等道路南部山地を東西に横斷する外は何れも等外道路にして、絶て東西横斷系に發達せるは一特色にて地形と東西兩端地域との關係の密接度に依る。冬季は河水凍結し人馬その上を往來し米上桶を使用し以て運搬・交通を助くること大なり。蕪州は火田民の名残りとして穀科製を成

發達せる花崗岩中の貫状理理に沿ひ龍潭水的作用に因り形成せられたるものに木曾川の寢覺床と約同相。龍潭の長溝橋を渡りてより約五軒、仙娥潭に至るまで漸くして水清く巨巖累積、時となりては天を摩し奇巖・怪石新流に臨み突兀たる奇峰は古松を交へ、春は新緑に、つゝに、秋は紅葉に、荒川の深潭奔流は飛瀑と呼應し、名勝に指定さる。大砲岩・人面石・不動瀧・鏡岩・鏡岩・盤圓峯、更に石門を過ぎてより昇風岩・昇仙橋・仙娥潭等の奇巖あり。附近の野嶽谷・板敷瀧は激流岩を噴き飛瀑十數、次から次へと連り、蒼々たる樹間には多くの猿が棲息す。下黒平・上黒平及び清川より通ずる智富ラヂウム礦泉はラヂウムの含有量第一と稱さる。本谷川の上流に位する瑞麟山は奇岩突兀として特に紅葉に輝れ、下流の通仙峽は谷深くして新緑により紅葉にまた好し。國道八號線の開通により富士五湖地帯と昇仙峽地帯との連絡は密接となり、また省線中央線も電化され觀光客は年々増加しつゝあり。

シヨールーゼン 昌善(しょうぜん) (←昌善面) 朝鮮慶尙南道海州郡の東北部。昌善島全部を占め、西は江津海を隔てて南海・古縣・雪川の三面に對し、南は狹水路を挟みて三東面に近く、北は泗川郡三千浦邑・西浦面等を望む。東西・南北共に最廣部に一〇軒内外を有す。中部南北に幅狭き溝入りありて島は略W字狀となし、南北の長さ、西半部は約九軒、東半部は約六軒あるも中部は僅に一軒餘に過ぎず。西部には最高四六八軒の山地、東半部には望時峰(一一三米)ありて何れも南北に延び、平地は海岸に沿ひて所々に小規模のものを見るのみ。農産物に米・麥・豆類、水産に鱈・鱈等あり。また東北部に加仁嶺山ありて金・銀を産す。

シヨールーゼン 城川(じやうせん) (←城水面) 朝鮮咸鏡北道の北部を流るる河。豆滿江の一支。富寧郡の西南境、小長白山脈中の大連谷山(一五五〇米)中に發源し、東北東に向つて流れて茂山郡に入り、それより流路を北西に轉じ茂山邑に於て豆滿江に注ぐ。流域六〇餘軒。沿岸山岳重疊し針・潤葉樹の樹海をなすと

シヨールーゼン 生石村(せいせき) 愛媛縣伊豫國温泉郡の西海岸。松山市の西方約三・五軒。北及び東は味生村に、南は余土・垣生二村に界し、西は瀬戸内海に臨む。面積六・四九方軒。重信川下流の松山平野の西端。東北に辨天山(一三三〇米)の小丘陵あるのみにて全村平坦にして地味肥沃なり。農業は盛んにして米作を主とし豆類・胡瓜等の野菜及び西瓜の特産あり。交通は道路四方に發達すれど未だ鐵道の便に恵まれず。此地古くは和名抄温泉郡塩生郡の地。「鹽生天満神社」大字久保田に鎮座。無格社。祭神、菅原道真。菅公筑紫へ左遷の御、越智郡櫻井之濱に船を寄せ、それより陸上を當地に到

シヨールーシヨールー

シヨールーシヨール

ころ多し。中流の車輪洞より河口の茂山に至る間に川に沿うて朝鮮咸北線通じ新...

床多く横はりて金・銀・銅・鉛・石炭・硫黄...

て金・銀・銅・鉛・石炭・硫黄等を出す。等外道路川の谷に沿ひて通ずるも交通は便利...

内部にありし村。昭和十年、牧野村と合併し...

【鏡川江】 朝鮮咸鏡南道を流るる河。新興郡の東北隅なる...

シヨールー 常総鐵道 省線 官營 官營 官營...

シヨールー 上村面 朝鮮忠清北道水同郡の南東部。水同面・龍化面...

シヨールー 松峯面 朝鮮京畿道道振成郡の東部。南は平澤。西は古傳...

シヨータン 松嶺 朝鮮忠清南道咸鏡本線の一驛(昭和三年設置)。咸鏡南道利原郡南面にあり。

シヨーチカク 小池角 朝鮮咸鏡南道利原郡南面にあり。

シヨーチク 小竹里 臺灣高雄州鳳山郡の古地名。下淡水溪下流の西岸に...

シヨータン 松汀邑 朝鮮全羅南道光州郡の西部。梁山江の右岸に...

シヨールーシヨール 朝鮮 松長面 朝鮮 咸鏡南道利原郡南面にあり。

シヨールーシヨール 朝鮮 咸鏡南道利原郡南面にあり。

シヨールーシヨール 朝鮮 咸鏡南道利原郡南面にあり。

シヨールーシヨール 朝鮮 咸鏡南道利原郡南面にあり。

シヨールーシヨール

西にして東全西諸島の接続。全羅南道光山郡松汀面にあり。

シヨ一デン 松田

「松田」朝鮮咸鏡南道の南部にある。水栗灣の一支。沿岸は水栗郡・文川郡の一部を占む。東に虎島半島長く南に斗出して東角をなし、西南部の舟項末と相対して幅約五軒の灣口を形成し、灣の深さ約一五軒、西北隅に龍興江流入して河口に三角洲をつくり、その南に西灣の一支部ありて此處に好砂泊地あり。灣内に大猪島・小猪島・大島飛鳥等の島嶼其布す。鎮地は長さ四哩、幅二哩にして七尋乃至九尋の水深あり。牡蠣の養殖行はれ又なまこの産多し。日露戦役中臨時防備隊を元山に置かれしが、のち此灣に移されて水栗防備隊と稱せられ、大正五年に至り廢止さる。

シヨ一デン 上田

朝鮮全羅北道安郡の中央部。俄安面に北隣し西は富貴面、北は程川面、鎮川面、東は湖都面に接す。東西約九軒南北約八軒。東南半部は小白山脈の山地にて、東北部に鼓山(八七五米)、東南部に獨峙峰(七二二米)あり、西北半部は廣嶺山脈の富貴山の東北嶺にて五〇〇—六〇〇米の高度を示す。龍江の上流は鼓山・獨峙峰の間を切りて西南より来る龍江川を併せ、

西の中部を北流して程川面に因りて、また西北境部には程子川(龍江の支流)蛇行して東北に流る。これら河川に沿ひ、巾狭き低地ありて耕地拓く。農産に米、麥、豆類等あり、山地よりは薪炭を産し、また東南部にある珠坪鎮山よりは金、銀を出す。俄安・水同、俄安・鎮山間の道路に當り、後者上にはバスを通じ交通不便ならず。

シヨ一デン 城田

朝鮮全羅南道康津郡の北西部。東は龍川面、郡東面に、南は康津面に接す。西南は海南郡漢谷面に、西北は靈巖郡漢谷面に、北は同郡西面及び靈巖面に界す。東西四乃至六軒、南北約一二軒の地を占む。北境には山骨嶺たる月出山(八〇九米)峙ち、西境・南境にも高度二〇〇—三〇〇米の山地連る。中部と東北部は龍江川の支流龍江上流にあたり巾狭き低地ありて耕地拓く。農産に米、麥、大豆、棉花等あり。康津より靈巖への道路に當り交通不便ならず。

シヨ一デンチヨ一 聖天町

東京市浅草區の町名。待乳山上の聖天宮により生ぜし町名、待乳山下の西方の町。七個人・三中「天竺臭も鼻を掻きみち、何程聖天町の方だらう」

シヨ一ト 昌斗

朝鮮咸鏡北道會寧郡の南部。北は會寧邑との間に碧城面を隔て、東北は八乙面・龍興面に接し西は鳳儀面に隣り、東は富寧郡龍興面、酒・糖・肥料、木製品・石工・紡績等著し。素麵の起原は慶長の昔に遡り得、三豊・統城・香川に次ぐ産額を有し、本口素麵と稱し、山陽・九州に販路を有し、殊に廣島・長崎に多く需要せらる。機械類は高松・仲多度・丸龜・三豊に次ぎ、木製品は主に指物・桶・櫓の類にして、醤油産地の關係上、此種の工業著しく、管内に於て断首位を占む。各種工業ありト雖も最盛なるは醤油産地なり、起原は文祿年間にあれど、其の盛となりしは文化中安田村の高橋文右衛門が率先醸造法を改良し、販路開拓に努力せし以來の事に屬し、明治三十四年頃より醤油製造同業組合も出来愈々名聲を高行する。産額六百七十萬圓、管内産額の八割以上を占め、販路を始め廣島・吳・土佐・伊豫より九州・朝鮮にも販路を有し、爾東産と競争の地位にあり。本郡は地勢上良港多く、西に土庄、東に坂手港、中央に内海灣(草壁港)あり、汽船の出入に適し、交通便利なを以て、郡内産業上好適と云ふべきなり。本郡は早く備前兒島郡に屬し、教實親王御領以來、石清水八幡宮神領となり、皇室の御料となり、下つて佐々木信胤の所領となり、室町時代には細川管領に屬し、爾來事あるに際し軍用船及び水主の徴發に應じ、鹽田島と同じく加子浦として無税の特典を受く。天正年間豊臣家の所領となり、徳川幕府の直料となり、水主御用を承け、後

南は同郡富房・富寧、西上の三面と界す。東西二五軒を越え南北二一—一六軒、面積約三四方軒の廣き地域を占む。小長白山脈の支脈は南・東境と西境に連り、南境に新峰・聖峰、東境に於石山・白沙峯、西境に玉城山・五峰山等を起しその山脚面内に縱横し山地多し。會寧川は西部を、その支流は東部を北流して碧城面に於て相合す。これら河川に沿ふ谷地に聚落發達し農耕を行ひ、粟・黍・燕麥、大豆・玉蜀黍等を産し、山地より松丸木、薪炭を出す。元山・會寧間の一等道路と鐵道北鮮線は會寧川右岸の谷地を南北に通じ、後者は全互里・豊山の二驛(大正六年設置)を設け、西の西部は交通不便ならず。

シヨ一ト 小豆

【小豆郡】香川縣讃岐國七郡の一。小豆島及び豊島より成る。東豊の北、瀬戸内海中に横はる。南は木田郡・大川郡と相對し、西は備前海峽を隔て香川郡直島・男木島等と隣り、北は岡山縣と相對し、東は備前灘を控へ、遙かに淡路島と相對す。大余島・仲余島・小豆島・辨天島・花露波島・野馬島・小島・大島等多数の島嶼を含む。瀬戸内海の他の島嶼と同じく、洪積世の後期より沖積世(現世)に入る間に於て瀬戸内地域地盤の一般沈降に因り生ぜし處にして、溪谷に相當する部分に濶入し、出入多き地形を形成し、小豆

供具奉行・大坂船奉行・町奉行・高松藩・松山藩または金谷・笠岡・生野代官所等の支配下に變遷し、遂に天保九年には西部六ヶ郷は津山藩、東部三ヶ郷は依然幕領として明治に至り、香川縣設置と共に同縣に屬する事となり、區劃時代を経て、明治十一年十二月郡町村制實施、新に小豆郡となり、いま三町十三村を有す。面積一七〇、二九方軒、戸數一〇、七二〇、人口四八、二二四(昭和十年)。小豆島は小島なれど史蹟多く、應神天皇御遊幸の聖蹟を始め、神功皇后に因める琴塚(大部村)、最明寺殿遷居の舊蹟明王寺(池田村中山)興國の武將浦浦信風の居城址に墳墓(安田村)、維新の勳王家田中毅藏父子の墓等知られ、小瀬を始め各所石山に見る大阪城築造用石材の殘石の如き興味を惹き、なほ有名な佛閣も少なからず、島八十八箇所の如きは陽春巡禮を誘ふ。

シヨ一ト 上田

朝鮮黄海道谷山郡の北部。東は下田面、南は宜善面、西は風鳴面に隣り、北は平安南道陽徳郡東陽面・温泉面に界す。南北二〇軒を越え、東西八一—六軒の地を占む。北境に霞嵐山(二四〇六米)、朴竹山(九四九米)、東境に鐘石山(二七三米)、老姑山(一一八一米)、西境に飯峰(一七九米)稻山(二四〇米)等の山嶺相連り、殆んど山地をなし、ただ中部を南東流する南江(大同江の支流)の一支流の谷に細長き低

く低き丘陵は小島となりて孤立し、其間には瀬戸をなし、内海固有の海陸連絡せる風光を呈す。基盤は花崗岩より成り、安山岩・集塊岩これら被覆し、二百米内外の厚層を成し、風化水蝕的作用を受けて奇景を呈す。小豆島の神懸山(寒霞洞)、碁石山・別雲山・屋ヶ城山山腹の清瀧山に瀧門岳の如きこれなり。殊に寒霞洞は天下絶勝の名に背かず。本郡は山岳性にして耕地少く、農業は固有の本業をなせど耕地は一人當僅に五アルム強に過ぎず、米麥より甘藷の産多し、これは享保頃の大饑饉に際し栽培せし以來發達、いま縣内甘藷産額の三割五分を占む。除蟲菊・唐辛・煙草の栽培も起り、除蟲菊は二生村・四海村に多く、唐辛は内海地方に多く、三豊・統城に次ぐ産額を有す。葉煙草は池田・土庄・大嶽・三都・西村に多し、三豊・統城・香川三郡に次ぐ産地をなす(廿五萬圓)。又果樹の栽培にも適し、上庄・黒岩の柿、西村・小海の梅、大部屋形崎の杏等知られしが、近時梨・蘋果・柑橘の栽培盛となり、池田・二生・西村・安田諸村に多く、産額は縣内第三位を占め、蘋果の如き縣内統城の六割餘を占め實に縣内第一の産地をなす(三萬七千圓)。オリーブの栽培は明治四十一年西村に試作せしに始まり、大正三年には製油をも試み將來益々有望なり。本郡は地盤を構成する花崗岩が良質にして、石材産額を以て稱せらるるを以て、石材

シヨ一ト 浄土山

アス立山の一峯。富山縣中新川郡立山村に屬す。標高二八七二米。東境は雄山(二九九二米)、南方は龍王岳(二八二二米)に連る。北方は高原状をなし、ここに立山登山の根據地堂あり。室堂より浄土山まで一時間行程。この山より東方一ノ越を越え、雄山、それより別山に縱走するを立山三山廻りと稱す。※立山

シヨ一ト 松洞

朝鮮全羅北道南原郡の南西部。郡邑南原の南隣にあり、東北は朱川面、東南は水官面、西南は金池面、西北は周生面に隣接し、南隣の小部のみは龍津江によりて全羅南道谷城郡谷城面と界す。もとの黒松・豆洞二面を合併して建てし面にて、地東北より西南に彎曲し、長さ約一〇軒、巾二—四軒あり。龍津江の支流嘉川南原邑より北東部に入り北部と西部を洞し南境に至りて本流に合し川に沿ひ低地あり、東部は高さ五〇米内外の臺地にて松林に蔽はれ、その間所々巾狭き低地ありて耕地よく拓く。農産に米・麥・大豆・棉花・烟草等を出す。南原・谷城等へ道路通ずるも面内の交通はなほ便ならず。

シヨ一ト 上東

【上東面】朝鮮江原道寧越郡の東部北偏。地東西に長く約三九軒を算し、南は下東

の利用早く開け讃岐岩は主に豊島に産し豊島石として知られしが今減少し、三都村大字吉野に於て吉野石と稱し利用せらる。花崗岩は天正頃大阪城石として知られ、瀬田村に最も多く、北浦・大部・豊島・安田・土庄・池田・四海等これに次ぎ、年産四十五萬を示し、縣内産額の大部分を占む。此他、地質上島の西北部に於て石灰の産あり、北浦・馬越産は廢せしも大嶽村より少量の産出あり(一千餘圓)。本郡は島嶼なるを以て水産業は古來行はれ、鯛・鱈・鰺・烏賊の漁獲多し、煮乾類を製造す(鰺煮乾・海參・鰻乾)。三豊・仲多度・大川三郡に告ぐ産額を示し、殊に烏賊は縣内第一位を占め、煮乾は三豊・大川兩郡に次ぐ。鹽業も早く行はれしが、今は土庄・瀨崎地方に多少産出せらるのみ。本郡はまた地形的關係上畜産の起原古く早く御料牧場となり、牛・豚・鶏の飼養を以て知らる。殊に醤油の主産地にして醸造の際生ずる粕は飼料に適するを以て、飼豚發達、池田・西村・安田・二生・土庄地方に盛にして、近時四海村最も盛なり。飼養二千頭、縣内總飼養の六割以上を占む。養鶏は池田・瀨崎に多く、即産額二十餘萬圓、三豊・木田・香川・統城の諸郡に次ぐ。本郡は島嶼なるを以て工業は振はざりしが、近時、交通機關の發達と共に工業發達の軌迹に向ひ、工業額は統城・高松・三豊に次ぐ盛況を呈す。醤油を始め紫糖・麥粉・清

酒・糖・肥料、木製品・石工・紡績等著し。素麵の起原は慶長の昔に遡り得、三豊・統城・香川に次ぐ産額を有し、本口素麵と稱し、山陽・九州に販路を有し、殊に廣島・長崎に多く需要せらる。機械類は高松・仲多度・丸龜・三豊に次ぎ、木製品は主に指物・桶・櫓の類にして、醤油産地の關係上、此種の工業著しく、管内に於て断首位を占む。各種工業ありト雖も最盛なるは醤油産地なり、起原は文祿年間にあれど、其の盛となりしは文化中安田村の高橋文右衛門が率先醸造法を改良し、販路開拓に努力せし以來の事に屬し、明治三十四年頃より醤油製造同業組合も出来愈々名聲を高行する。産額六百七十萬圓、縣内産額の八割以上を占め、販路を始め廣島・吳・土佐・伊豫より九州・朝鮮にも販路を有し、爾東産と競争の地位にあり。本郡は地勢上良港多く、西に土庄、東に坂手港、中央に内海灣(草壁港)あり、汽船の出入に適し、交通便利なを以て、郡内産業上好適と云ふべきなり。本郡は早く備前兒島郡に屬し、教實親王御領以來、石清水八幡宮神領となり、皇室の御料となり、下つて佐々木信胤の所領となり、室町時代には細川管領に屬し、爾來事あるに際し軍用船及び水主の徴發に應じ、鹽田島と同じく加子浦として無税の特典を受く。天正年間豊臣家の所領となり、徳川幕府の直料となり、水主御用を承け、後

供具奉行・大坂船奉行・町奉行・高松藩・松山藩または金谷・笠岡・生野代官所等の支配下に變遷し、遂に天保九年には西部六ヶ郷は津山藩、東部三ヶ郷は依然幕領として明治に至り、香川縣設置と共に同縣に屬する事となり、區劃時代を経て、明治十一年十二月郡町村制實施、新に小豆郡となり、いま三町十三村を有す。面積一七〇、二九方軒、戸數一〇、七二〇、人口四八、二二四(昭和十年)。小豆島は小島なれど史蹟多く、應神天皇御遊幸の聖蹟を始め、神功皇后に因める琴塚(大部村)、最明寺殿遷居の舊蹟明王寺(池田村中山)興國の武將浦浦信風の居城址に墳墓(安田村)、維新の勳王家田中毅藏父子の墓等知られ、小瀬を始め各所石山に見る大阪城築造用石材の殘石の如き興味を惹き、なほ有名な佛閣も少なからず、島八十八箇所の如きは陽春巡禮を誘ふ。

谷山郡の北部。東は下田面、南は宜善面、西は風鳴面に隣り、北は平安南道陽徳郡東陽面・温泉面に界す。南北二〇軒を越え、東西八一—六軒の地を占む。北境に霞嵐山(二四〇六米)、朴竹山(九四九米)、東境に鐘石山(二七三米)、老姑山(一一八一米)、西境に飯峰(一七九米)稻山(二四〇米)等の山嶺相連り、殆んど山地をなし、ただ中部を南東流する南江(大同江の支流)の一支流の谷に細長き低

く低き丘陵は小島となりて孤立し、其間には瀬戸をなし、内海固有の海陸連絡せる風光を呈す。基盤は花崗岩より成り、安山岩・集塊岩これら被覆し、二百米内外の厚層を成し、風化水蝕的作用を受けて奇景を呈す。小豆島の神懸山(寒霞洞)、碁石山・別雲山・屋ヶ城山山腹の清瀧山に瀧門岳の如きこれなり。殊に寒霞洞は天下絶勝の名に背かず。本郡は山岳性にして耕地少く、農業は固有の本業をなせど耕地は一人當僅に五アルム強に過ぎず、米麥より甘藷の産多し、これは享保頃の大饑饉に際し栽培せし以來發達、いま縣内甘藷産額の三割五分を占む。除蟲菊・唐辛・煙草の栽培も起り、除蟲菊は二生村・四海村に多く、唐辛は内海地方に多く、三豊・統城に次ぐ産額を有す。葉煙草は池田・土庄・大嶽・三都・西村に多し、三豊・統城・香川三郡に次ぐ産地をなす(廿五萬圓)。又果樹の栽培にも適し、上庄・黒岩の柿、西村・小海の梅、大部屋形崎の杏等知られしが、近時梨・蘋果・柑橘の栽培盛となり、池田・二生・西村・安田諸村に多く、産額は縣内第三位を占め、蘋果の如き縣内統城の六割餘を占め實に縣内第一の産地をなす(三萬七千圓)。オリーブの栽培は明治四十一年西村に試作せしに始まり、大正三年には製油をも試み將來益々有望なり。本郡は地盤を構成する花崗岩が良質にして、石材産額を以て稱せらるるを以て、石材

地あるのみ。農産に麥・豆類あり、林産も少なからず。此外道路四條に過ぎずも交通便ならず。

地あるのみ。農産に麥・豆類あり、林産も少なからず。此外道路四條に過ぎずも交通便ならず。

地あるのみ。農産に麥・豆類あり、林産も少なからず。此外道路四條に過ぎずも交通便ならず。

地あるのみ。農産に麥・豆類あり、林産も少なからず。此外道路四條に過ぎずも交通便ならず。

地あるのみ。農産に麥・豆類あり、林産も少なからず。此外道路四條に過ぎずも交通便ならず。

面に隣り、西は寒越面に接し、北は...

【上東面】朝鮮慶尙南道金海郡の北東部...

シヨートー 城東

【城東】 東京市三十五区の一。皇城の...

なる土地或は浮洲にて、江戸川の流...

【城東】 愛知縣尾張國丹羽郡の北東部...

シヨートー 城洞

【城洞】 朝鮮慶尙南道金海郡の北東部...

し南部に入流あり。平地には水田多...

【城東】 大阪府東成郡にありし村。もと...

【城東】 朝鮮忠清南道論山郡の西部...

【城東】 朝鮮京畿道開豊郡の南部...

は高波村に、西は荒川村に隣す。面積四、三方軒の小村。瀧波平野の西部を占め、

シメー

伯耆國西伯郡の東部。米子市南方五軒。東は五千石村・鶴郷村に、南は手間村・

郡邑江陵色の南隣。東南は江東面、西南は邱井面、西は城山面に接し、東北は日本海に面す。

シメー

東田川・西田川三郡に互り、最上川下流及びその支流の赤川、最上川の北方に河口

酒田市(人口三萬)、川南の中心は鶴岡市(人口三萬四千)にして、二つの中心相對

シメー

成山村の西南に、東は三芳・國安・吉岡・徳田・田野の五村に、南は徳田村の飛地

成山村の西南に、東は三芳・國安・吉岡・徳田・田野の五村に、南は徳田村の飛地

シメー

成山村の西南に、東は三芳・國安・吉岡・徳田・田野の五村に、南は徳田村の飛地

内に従ふ。明治二十七年十月二十二日の地方に大地震あり。庄内地盤と云ひ、特に酒田は被害著しきために、酒田地盤ともいふ。

シメー

酒田市の西南に、東は三芳・國安・吉岡・徳田・田野の五村に、南は徳田村の飛地

シメー

成山村の西南に、東は三芳・國安・吉岡・徳田・田野の五村に、南は徳田村の飛地

シメー

成山村の西南に、東は三芳・國安・吉岡・徳田・田野の五村に、南は徳田村の飛地

シメー

成山村の西南に、東は三芳・國安・吉岡・徳田・田野の五村に、南は徳田村の飛地

シメー



在の跡に一寺を建立せられ、慧燈法師を...

【庄内村】 福前縣筑前國嘉穂郡の東部。

【庄内村】 福前縣筑前國嘉穂郡の東部。...

別庄と録し後世庄内の名起る。蓋し村...

【庄内村】 香川縣讃岐國三豊郡の北端。

【庄内村】 香川縣讃岐國三豊郡の北端。...

シヨーンシヨーン

【庄内村】 千葉縣香取郡にありし村。

【庄内村】 岡山縣(備前國)児島郡の中部。

【庄内村】 香川縣讃岐國三豊郡の北端。

【庄内村】 香川縣讃岐國三豊郡の北端。...

【庄内村】 香川縣讃岐國三豊郡の北端。

【庄内村】 香川縣讃岐國三豊郡の北端。...

【庄内村】 香川縣讃岐國三豊郡の北端。

【庄内村】 香川縣讃岐國三豊郡の北端。...

には古刹龍額寺址に新田義治の居城址あり。此他、城内金屋ヶ城は幕末海防の...

シモーナイ

城内村

新田義治の居城址に新田義治の居城址あり。此他、城内金屋ヶ城は幕末海防の...

シモー

小南面

朝鮮京畿道長湍郡の北西部。北は大南面、東は江...

シモー

湘南

神奈川県湘南地方。湘南地方は湘南地方は...

シモー

勝南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

散見するも近年は野菜類が増加を示す。野菜は附近の農村のもの共に平塚町の...

といふ。領主上杉氏累代の邸傍厚く寺領百二十石を附し乳香提所とす。次で坂戸...

シモー

小南面

朝鮮京畿道長湍郡の北西部。北は大南面、東は江...

シモー

湘南

神奈川県湘南地方。湘南地方は湘南地方は...

シモー

勝南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

シモー

上南

朝鮮慶尚南道昌寧郡の中東部。南は嶺海邑、西は熊川、昌寧郡、...

南山の東南麓なる五〇〇米内外の山地あり、中部にも三〇〇米内外の丘陵性山地ありて東南に延び次第に低下す。東半部は密陽川の洪原にて土地低卑、處々に蘆田あるも、北部に昔田、南部には畑地よく折げ、米・麥・大豆等を産し、梨・桃等の栽培行はる。下南面守山里より密陽への三等道路は南を略南北に通じ、バスは往來あり。南部は京釜本線の三浪津驛、北部は密陽驛へ通からざれば交通不便ならず。

シヨ一ナン

【城南村】三重縣伊勢國桑名郡の南端。長良川河口の西岸に位し伊勢海に臨む。北は桑名市と接し、西北は桑名郡に界し、西南は町屋川を隔て三重郡朝日村、その南東の川越村に接す。北より来る長良川と西北より来る町屋川と河口にて接し、河川に挟まれ河口の三角地を占め、土地低濕にて東部長良川に砂洲發達す。農業水産業行はれ、麥・南瓜・トモロコシ・胡瓜・茄子等また米もつくられ、水産物には海苔・蛤を産す。西北部に桑名市より来る舊東海道南方へ掠めて過ぎ、省線關西線同じく桑名市より西北村境を過ぎて西南方四日市方面に通じ、北約二軒に桑名驛あり。また水運の便あり。

其西の猪田村に續く。東部中央に一〇〇米乃至一五〇米の窪地あるも、西半は上野盆地の平坦地の南部を占む、村内耕地は伊賀米を産す。交通路よく發達し北隣上野町より放射状に延びる道路の中、東南の阿保町方面に至るもの、南の櫻井町方面に至るもの、名張街道及び西南奈良市方面に至るものは富村を貫き、東部には社線參宮急行電鐵伊賀線東方を南方へ走り、桑町驛・四十九驛（共に大正十一年設置）を置く。此地古くは和名抄伊賀郡大内郡に屬し、大字淺宇田は中世淺宇田莊と稱す。本村はもと小田村に屬せしが、明治二十七年分離して城南村と稱す。蓋し上野城の南なればなり。

【城南村】兵庫縣丹波國多紀郡の南端。神戸市の約三〇軒。北は味岡村・岡野村・篠山町に、東は八上村に、南は有馬郡小野村に、西は古市村に各々隣り接す。村境は丹波高原の一部となし、三國ヶ嶽（六四八米）・愛宕山の南斜面を占め、北部宇土・岩崎・各山の山麓は明瞭なる断層線にて、謂はゆる篠山地溝盆地の南縁をなす。西部の小丘陵は段段當時の埋積の残丘にして、山地は中世代の白堊紀層より成る。北境には篠山川西流の沖積層を堆積す。北部山地は古生層より成り、隆起地帯なり。此平地には米・麥等の耕作行はれ、交通路としては三國ヶ嶽の下を經て三國街道通じ、南部地境と三國ヶ嶽の接合部には村を對角線的に古市村

を北方に延び、山をなす。南川丹波山の北谷に出で、此間に沿ひ多少の耕地拓け大豆・玉蜀黍・粟・蕎麥等の農産あり。また北部は城東嶺山の麓に當り金・銀を出す。等外道路は河谷に沿ひて通ずるのみにて交通は不便なり。

シヨ一ネ

【昌寧郡】朝鮮慶尙南道。二府一郡の第一。道の北部に位し、東は密陽郡に隣り、南は洛東江を隔て昌寧・咸安兩郡に、西も江を隔て陝川・宜寧の兩郡に對し、北は慶尙北道清道郡・連城郡に接す。面積五三〇平方軒餘、東西に短く南北に長し。大白山脈の支脈、慶尙北道の琵琶山より延び來りて東境に連互し、受福山（五九三米）・妙峰山・烈旺山・觀龍山（七四〇米）・火旺山（七五七米）等の諸嶺を起し、西南に向ひて緩斜し、洛東江の長流は西及び南境を環流し、幾多の丘陵との間に起伏す。平野廣からざれど木浦・牛浦・龍湖・蛇浪湖・石谷湖その他大小の沼澤多く、東部山地より西南流する幾多の河川これを連ねて地味肥沃、水利多く更に水利組合發達せるを以て、農産豊かなり。農を主産業とし、田八〇〇〇ヘクタール、畑八五〇〇ヘクタール、農産戸数は全戸数の八八％を占め、米（一・一・八萬石）・大豆（一・二・四萬石）・大豆その他を産する外、棉の産多く年收穫高三九五萬斤にして道内にては晉州郡に次ぎ第二位を占む。その他、大麻・煙草の産も尠らず。畜産は牛・豚や多く、洛東江には魚獲少からず。昌寧・靈山・南首の各面には金を産す。工業の主なるものは、紡績麻布・絹布・酒類等なり。交通は二等道路、大邱・統營線が郡中央

を南北に貫し、昌寧にて西方昌寧に通ずる路線を分岐する外、昌寧・靈山等を中心と道路網發達し、また洛東江には舟楫の便ありて、交通極めて便利なり。本郡を行政上、昌寧面はか一西面に分ち、郡廳を昌寧面橋上洞に置く。郡邑は郡邑昌寧の外、南部の靈山・南首等嶺は、靈山は農業の中心にして、附近に煙草の産多し。昌寧邑の東に屹立する火旺山に山城あり、また新羅眞興王の拓城碑を存し、文藝博士具居龍藏氏の發見なり。貴重史料として世に知らる。本郡の地は往昔昔那（伽羅國）の一部にして、夙く新羅に併せられ、比日火旺（一名、比斯代郡）と稱す。眞興王の時、下洞と稱し、景徳王の時火旺郡と改め、高麗太祖に至り今の名を稱し、李朝に至りて縣監を置く。大正三年三月靈山郡を併せ以て今日に至る。

【昌寧面】朝鮮慶尙南道昌寧郡の首邑。郡の略中央部に位し、東北は高岩西、南は昌寧面、西は大池面に隣る。面積約一六方軒。東境に山骨嶺々たる火旺山（七五七米）峙ちて西方に急傾斜をなすも、面の西半は洛東江右岸の平地に緩き傾斜を平坦にして中部・南部に高さ三〇米内外の松林ある窪地ある外は田畑よく折げ、米・麥・大豆等の農産あり。昌寧の市街は面の中央部に位し郡廳の所在地にて、北は大邱、南は馬山、西は陝川方面へ二等道路を通じ何れもバスの便あり、米を

【昌寧面】朝鮮慶尙南道昌寧郡の首邑。郡の略中央部に位し、東北は高岩西、南は昌寧面、西は大池面に隣る。面積約一六方軒。東境に山骨嶺々たる火旺山（七五七米）峙ちて西方に急傾斜をなすも、面の西半は洛東江右岸の平地に緩き傾斜を平坦にして中部・南部に高さ三〇米内外の松林ある窪地ある外は田畑よく折げ、米・麥・大豆等の農産あり。昌寧の市街は面の中央部に位し郡廳の所在地にて、北は大邱、南は馬山、西は陝川方面へ二等道路を通じ何れもバスの便あり、米を

【昌寧郡】朝鮮慶尙南道。二府一郡の第一。道の北部に位し、東は密陽郡に隣り、南は洛東江を隔て昌寧・咸安兩郡に、西も江を隔て陝川・宜寧の兩郡に對し、北は慶尙北道清道郡・連城郡に接す。面積五三〇平方軒餘、東西に短く南北に長し。大白山脈の支脈、慶尙北道の琵琶山より延び來りて東境に連互し、受福山（五九三米）・妙峰山・烈旺山・觀龍山（七四〇米）・火旺山（七五七米）等の諸嶺を起し、西南に向ひて緩斜し、洛東江の長流は西及び南境を環流し、幾多の丘陵との間に起伏す。平野廣からざれど木浦・牛浦・龍湖・蛇浪湖・石谷湖その他大小の沼澤多く、東部山地より西南流する幾多の河川これを連ねて地味肥沃、水利多く更に水利組合發達せるを以て、農産豊かなり。農を主産業とし、田八〇〇〇ヘクタール、畑八五〇〇ヘクタール、農産戸数は全戸数の八八％を占め、米（一・一・八萬石）・大豆（一・二・四萬石）・大豆その他を産する外、棉の産多く年收穫高三九五萬斤にして道内にては晉州郡に次ぎ第二位を占む。その他、大麻・煙草の産も尠らず。畜産は牛・豚や多く、洛東江には魚獲少からず。昌寧・靈山・南首の各面には金を産す。工業の主なるものは、紡績麻布・絹布・酒類等なり。交通は二等道路、大邱・統營線が郡中央

を南北に貫し、昌寧にて西方昌寧に通ずる路線を分岐する外、昌寧・靈山等を中心と道路網發達し、また洛東江には舟楫の便ありて、交通極めて便利なり。本郡を行政上、昌寧面はか一西面に分ち、郡廳を昌寧面橋上洞に置く。郡邑は郡邑昌寧の外、南部の靈山・南首等嶺は、靈山は農業の中心にして、附近に煙草の産多し。昌寧邑の東に屹立する火旺山に山城あり、また新羅眞興王の拓城碑を存し、文藝博士具居龍藏氏の發見なり。貴重史料として世に知らる。本郡の地は往昔昔那（伽羅國）の一部にして、夙く新羅に併せられ、比日火旺（一名、比斯代郡）と稱す。眞興王の時、下洞と稱し、景徳王の時火旺郡と改め、高麗太祖に至り今の名を稱し、李朝に至りて縣監を置く。大正三年三月靈山郡を併せ以て今日に至る。

【昌寧面】朝鮮慶尙南道昌寧郡の首邑。郡の略中央部に位し、東北は高岩西、南は昌寧面、西は大池面に隣る。面積約一六方軒。東境に山骨嶺々たる火旺山（七五七米）峙ちて西方に急傾斜をなすも、面の西半は洛東江右岸の平地に緩き傾斜を平坦にして中部・南部に高さ三〇米内外の松林ある窪地ある外は田畑よく折げ、米・麥・大豆等の農産あり。昌寧の市街は面の中央部に位し郡廳の所在地にて、北は大邱、南は馬山、西は陝川方面へ二等道路を通じ何れもバスの便あり、米を

【昌寧面】朝鮮慶尙南道昌寧郡の首邑。郡の略中央部に位し、東北は高岩西、南は昌寧面、西は大池面に隣る。面積約一六方軒。東境に山骨嶺々たる火旺山（七五七米）峙ちて西方に急傾斜をなすも、面の西半は洛東江右岸の平地に緩き傾斜を平坦にして中部・南部に高さ三〇米内外の松林ある窪地ある外は田畑よく折げ、米・麥・大豆等の農産あり。昌寧の市街は面の中央部に位し郡廳の所在地にて、北は大邱、南は馬山、西は陝川方面へ二等道路を通じ何れもバスの便あり、米を

り、空の雲に笠覆ひ、船路の友の後や先、注野龜山せきとむる、伊勢と吾妻の別れ道」

シヨールノ 莊野村

關賀茂郡の東部。西は寶水・東野二村に、南は下野村に、東は豊田郡南方・善入寺二村に、北は同郡入野・田萬里二村に界す。村形は東西南北共に長き約七軒ある。村をなす面積一八・八八方軒。村内高き約二三百米の山地より成り、何れも南北に向つて傾斜して東西に細長き低地を拓き、西より溪流出でてそこを東流し中央部に於て流路を轉じて南下し内海に注ぐ。流域は良好なる耕地をなし米・麥・烟草の産あり、特産として松茸及び清酒を出す。醸酒家は冬季酒造業に従事する杜氏を含みて凡そ二百名位あり、その金高も約三萬圓の多きに達す。村の中央を東西に山陽道とほり交通は古くより開け横大路・船谷・西野の街村あり、船谷村落より出で川に並行して南下する街道にそつて仲條・新庄の村落あり。村名は新庄・西野の二村を合し各々その一字を取りて莊野村と稱す。中世は飯田莊の内。のち分れて小早川本庄・小早川新庄となる。新庄は即ち小早川新庄の謂なり。村内に木村城(新庄城)址あり。沼田城主小早川茂平の四子政景、竹原地頭職を授けられ當城に居す。故に竹原小早川殿と稱す。十二世興景に至り毛利元就の三男徳勝丸を養ひて嗣とす。これ小早川隆景とす。

シヨールノ 城野

城野 城野 福岡縣金教郡にありし村。明治四十年木村及び東雲村を合して金教村を置く。金教村は大正六年町制を布き、昭和十年小倉市に併合さる。この地に日豊本線の城野驛(明治二十八年設置)を置く。

シヨールノ 小白

小白山 朝鮮半島の南部にある山脈。南朝鮮に於ける最も顯著なる山脈にて、大白山脈中の大白山(一五六一米)の西方小白山(一四二二米)より分岐して初め西に走り、ついで西南行して脈中の俗離山(一〇五七米)附近より略々南方に走りて南海に終る。即ち慶尙北道と忠清北道、慶尙南道と全羅南・北二道との境界上を走る山脈にして、その全長凡そ三三〇軒に達す。

シヨールノ 楳嶺

楳嶺 朝鮮半島の南部にある山脈。南朝鮮に於ける最も顯著なる山脈にて、大白山脈中の大白山(一五六一米)の西方小白山(一四二二米)より分岐して初め西に走り、ついで西南行して脈中の俗離山(一〇五七米)附近より略々南方に走りて南海に終る。即ち慶尙北道と忠清北道、慶尙南道と全羅南・北二道との境界上を走る山脈にして、その全長凡そ三三〇軒に達す。

シヨールノ 城端

城端 富山縣越前郡の東部。東は妻鳥村を隔てて上分町に對し、北東は同じく川之江町に對す。南は金砂村に、西は中曾根村及び三島町に界し、北は瀬戸内海に面す。高程約八〇米餘の石鏡山脈北斜面の山地とその崖下の沖積平野より成り平地

シヨールノ 松栢村

松栢村 愛媛縣伊豫國宇摩郡の北部。東は妻鳥村を隔てて上分町に對し、北東は同じく川之江町に對す。南は金砂村に、西は中曾根村及び三島町に界し、北は瀬戸内海に面す。高程約八〇米餘の石鏡山脈北斜面の山地とその崖下の沖積平野より成り平地

シヨールノ 勝幡

勝幡 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年本村ほか四村を併して佐織村を置く。

シヨールノ 城端

城端 富山縣越前郡の東部。東は妻鳥村を隔てて上分町に對し、北東は同じく川之江町に對す。南は金砂村に、西は中曾根村及び三島町に界し、北は瀬戸内海に面す。高程約八〇米餘の石鏡山脈北斜面の山地とその崖下の沖積平野より成り平地

シヨールノ 庄原

庄原 岡山縣山陽郡の東部。東は高村に、南は豊田村に、西は山内西村に界す。高程約一五〇米を以て庄原盆地の大部分をなす。東北に大仙山(四九五米)ありて西及び南に向ひ緩傾斜す。また東部及び東南部に比高約一〇〇米餘の丘陵ありて中央に向つて低移す。この兩山地を切り東北より來り中央低地を拓き、のち方向を轉じて西北に流れる西城川あり。流域に平地を開きて耕作行はれ米・麥・粟等を産す。山地は良牛の牧場なり。町は西城川左岸の沖積平地にありて牛の取引さかんなり。東南尾ノ道市にゆき街道、西北方新市にゆき街道、西南廣島市にゆき街道、北方西城町にゆき街道は何れもこの町より出で交通上の重要な中心をなす。又最近は備前線に連絡する三神線は三次町より來りて備後庄原線(大正十二年設置)を設けて東進し新線と連絡し津山市と交通するに至り、ます、物資集散の中心となる。郵便局・警察署・裁判所及び縣立庄原實業學校あり。もと郡役所の所

す。(和賀神社)大字新庄に鎮座。縣社。祭神、小早川隆景。慶長三年即ち隆景没後の翌年に郡民その偉徳を追慕して一祠を創建す。隆景は三原中納言と稱し毛利元就の三子なり。木下氏を討つ。智謀遠略あり、元就の勳業に與かりて功あり。高松城の戦、講和後秀吉と結ぶ。文祿の役に出陣ありてし同四年三原城に退居。慶長三年没、年六十五。贈正三位。明治二十三年社殿の改築を行ひ縣社に列せらる。例祭、十月二十五日。

シヨールノ 楳嶺

楳嶺 朝鮮半島の南部にある山脈。南朝鮮に於ける最も顯著なる山脈にて、大白山脈中の大白山(一五六一米)の西方小白山(一四二二米)より分岐して初め西に走り、ついで西南行して脈中の俗離山(一〇五七米)附近より略々南方に走りて南海に終る。即ち慶尙北道と忠清北道、慶尙南道と全羅南・北二道との境界上を走る山脈にして、その全長凡そ三三〇軒に達す。

シヨールノ 城野

城野 福岡縣金教郡にありし村。明治四十年木村及び東雲村を合して金教村を置く。金教村は大正六年町制を布き、昭和十年小倉市に併合さる。この地に日豊本線の城野驛(明治二十八年設置)を置く。

シヨールノ 小白

小白山 朝鮮半島の南部にある山脈。南朝鮮に於ける最も顯著なる山脈にて、大白山脈中の大白山(一五六一米)の西方小白山(一四二二米)より分岐して初め西に走り、ついで西南行して脈中の俗離山(一〇五七米)附近より略々南方に走りて南海に終る。即ち慶尙北道と忠清北道、慶尙南道と全羅南・北二道との境界上を走る山脈にして、その全長凡そ三三〇軒に達す。

シヨールノ 楳嶺

楳嶺 朝鮮半島の南部にある山脈。南朝鮮に於ける最も顯著なる山脈にて、大白山脈中の大白山(一五六一米)の西方小白山(一四二二米)より分岐して初め西に走り、ついで西南行して脈中の俗離山(一〇五七米)附近より略々南方に走りて南海に終る。即ち慶尙北道と忠清北道、慶尙南道と全羅南・北二道との境界上を走る山脈にして、その全長凡そ三三〇軒に達す。

シヨールノ 城端

城端 富山縣越前郡の東部。東は妻鳥村を隔てて上分町に對し、北東は同じく川之江町に對す。南は金砂村に、西は中曾根村及び三島町に界し、北は瀬戸内海に面す。高程約八〇米餘の石鏡山脈北斜面の山地とその崖下の沖積平野より成り平地

シヨールノ 勝幡

勝幡 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年本村ほか四村を併して佐織村を置く。

シヨールノ 城端

城端 富山縣越前郡の東部。東は妻鳥村を隔てて上分町に對し、北東は同じく川之江町に對す。南は金砂村に、西は中曾根村及び三島町に界し、北は瀬戸内海に面す。高程約八〇米餘の石鏡山脈北斜面の山地とその崖下の沖積平野より成り平地

シヨールノ 庄原

庄原 岡山縣山陽郡の東部。東は高村に、南は豊田村に、西は山内西村に界す。高程約一五〇米を以て庄原盆地の大部分をなす。東北に大仙山(四九五米)ありて西及び南に向ひ緩傾斜す。また東部及び東南部に比高約一〇〇米餘の丘陵ありて中央に向つて低移す。この兩山地を切り東北より來り中央低地を拓き、のち方向を轉じて西北に流れる西城川あり。流域に平地を開きて耕作行はれ米・麥・粟等を産す。山地は良牛の牧場なり。町は西城川左岸の沖積平地にありて牛の取引さかんなり。東南尾ノ道市にゆき街道、西北方新市にゆき街道、西南廣島市にゆき街道、北方西城町にゆき街道は何れもこの町より出で交通上の重要な中心をなす。又最近は備前線に連絡する三神線は三次町より來りて備後庄原線(大正十二年設置)を設けて東進し新線と連絡し津山市と交通するに至り、ます、物資集散の中心となる。郵便局・警察署・裁判所及び縣立庄原實業學校あり。もと郡役所の所

シヨールノ 庄原

庄原 岡山縣山陽郡の東部。東は高村に、南は豊田村に、西は山内西村に界す。高程約一五〇米を以て庄原盆地の大部分をなす。東北に大仙山(四九五米)ありて西及び南に向ひ緩傾斜す。また東部及び東南部に比高約一〇〇米餘の丘陵ありて中央に向つて低移す。この兩山地を切り東北より來り中央低地を拓き、のち方向を轉じて西北に流れる西城川あり。流域に平地を開きて耕作行はれ米・麥・粟等を産す。山地は良牛の牧場なり。町は西城川左岸の沖積平地にありて牛の取引さかんなり。東南尾ノ道市にゆき街道、西北方新市にゆき街道、西南廣島市にゆき街道、北方西城町にゆき街道は何れもこの町より出で交通上の重要な中心をなす。又最近は備前線に連絡する三神線は三次町より來りて備後庄原線(大正十二年設置)を設けて東進し新線と連絡し津山市と交通するに至り、ます、物資集散の中心となる。郵便局・警察署・裁判所及び縣立庄原實業學校あり。もと郡役所の所

に達す。地質は主として片麻岩・石英斑岩及び花崗岩等より成る。而してその地勢は概して老年期なるも、忠清南道丹陽郡の兜率山(一三三四米)、俗離山(一〇五七米)、慶尙北道尚州郡の白華山(九三三米)、忠清南道水同郡の眠岡之山(一一四二米)、慶尙北道金泉郡の修造山(一一九〇米)、慶尙南道居昌郡の徳祐山(一一五〇米)、同山清道智異山(一一九一五米)、全羅南道光陽郡の白雲山(一一一八米)等は最も顯著なるものとす。而して小白山脈の北部略々東西に走るは、この地方の準片麻岩と古生層との走向に一致せるものにして、この東西に近き構造は平安北道の山地や、黄海道に見る咸寧山脈と同一のものにて、ジュラ紀の變動面全鮮の地帯は東西行せしものと思はる。また南部の方向は、此地方の準片麻岩及び花崗片麻岩の判別の上向に一致の結果と見らる。小白山脈は如上の如き位置に孤嶽をなして存在し、島に半島東南部の南北慶尙の地を他地方と完全に區分せし地理的單元を構成し、洛東江の流域地帯を完全に決定す。從つて外部との交通は古來すべて峠によるの外なく、慶北と忠北との境に竹嶺(六八九米)、梨花嶺(五四八米)、永安嶺(五三三米)、秋風嶺あり、殊に秋風嶺は古來最も有名にして、京城街道及び鐵道京釜線を通す。

シヨールノ 楳嶺

楳嶺 朝鮮半島の南部にある山脈。南朝鮮に於ける最も顯著なる山脈にて、大白山脈中の大白山(一五六一米)の西方小白山(一四二二米)より分岐して初め西に走り、ついで西南行して脈中の俗離山(一〇五七米)附近より略々南方に走りて南海に終る。即ち慶尙北道と忠清北道、慶尙南道と全羅南・北二道との境界上を走る山脈にして、その全長凡そ三三〇軒に達す。

シヨールノ 城野

城野 福岡縣金教郡にありし村。明治四十年木村及び東雲村を合して金教村を置く。金教村は大正六年町制を布き、昭和十年小倉市に併合さる。この地に日豊本線の城野驛(明治二十八年設置)を置く。

シヨールノ 小白

小白山 朝鮮半島の南部にある山脈。南朝鮮に於ける最も顯著なる山脈にて、大白山脈中の大白山(一五六一米)の西方小白山(一四二二米)より分岐して初め西に走り、ついで西南行して脈中の俗離山(一〇五七米)附近より略々南方に走りて南海に終る。即ち慶尙北道と忠清北道、慶尙南道と全羅南・北二道との境界上を走る山脈にして、その全長凡そ三三〇軒に達す。

シヨールノ 楳嶺

楳嶺 朝鮮半島の南部にある山脈。南朝鮮に於ける最も顯著なる山脈にて、大白山脈中の大白山(一五六一米)の西方小白山(一四二二米)より分岐して初め西に走り、ついで西南行して脈中の俗離山(一〇五七米)附近より略々南方に走りて南海に終る。即ち慶尙北道と忠清北道、慶尙南道と全羅南・北二道との境界上を走る山脈にして、その全長凡そ三三〇軒に達す。

シヨールノ 城端

城端 富山縣越前郡の東部。東は妻鳥村を隔てて上分町に對し、北東は同じく川之江町に對す。南は金砂村に、西は中曾根村及び三島町に界し、北は瀬戸内海に面す。高程約八〇米餘の石鏡山脈北斜面の山地とその崖下の沖積平野より成り平地

シヨールノ 勝幡

勝幡 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年本村ほか四村を併して佐織村を置く。

シヨールノ 城端

城端 富山縣越前郡の東部。東は妻鳥村を隔てて上分町に對し、北東は同じく川之江町に對す。南は金砂村に、西は中曾根村及び三島町に界し、北は瀬戸内海に面す。高程約八〇米餘の石鏡山脈北斜面の山地とその崖下の沖積平野より成り平地

シヨールノ 庄原

庄原 岡山縣山陽郡の東部。東は高村に、南は豊田村に、西は山内西村に界す。高程約一五〇米を以て庄原盆地の大部分をなす。東北に大仙山(四九五米)ありて西及び南に向ひ緩傾斜す。また東部及び東南部に比高約一〇〇米餘の丘陵ありて中央に向つて低移す。この兩山地を切り東北より來り中央低地を拓き、のち方向を轉じて西北に流れる西城川あり。流域に平地を開きて耕作行はれ米・麥・粟等を産す。山地は良牛の牧場なり。町は西城川左岸の沖積平地にありて牛の取引さかんなり。東南尾ノ道市にゆき街道、西北方新市にゆき街道、西南廣島市にゆき街道、北方西城町にゆき街道は何れもこの町より出で交通上の重要な中心をなす。又最近は備前線に連絡する三神線は三次町より來りて備後庄原線(大正十二年設置)を設けて東進し新線と連絡し津山市と交通するに至り、ます、物資集散の中心となる。郵便局・警察署・裁判所及び縣立庄原實業學校あり。もと郡役所の所

シヨールノ 庄原

庄原 岡山縣山陽郡の東部。東は高村に、南は豊田村に、西は山内西村に界す。高程約一五〇米を以て庄原盆地の大部分をなす。東北に大仙山(四九五米)ありて西及び南に向ひ緩傾斜す。また東部及び東南部に比高約一〇〇米餘の丘陵ありて中央に向つて低移す。この兩山地を切り東北より來り中央低地を拓き、のち方向を轉じて西北に流れる西城川あり。流域に平地を開きて耕作行はれ米・麥・粟等を産す。山地は良牛の牧場なり。町は西城川左岸の沖積平地にありて牛の取引さかんなり。東南尾ノ道市にゆき街道、西北方新市にゆき街道、西南廣島市にゆき街道、北方西城町にゆき街道は何れもこの町より出で交通上の重要な中心をなす。又最近は備前線に連絡する三神線は三次町より來りて備後庄原線(大正十二年設置)を設けて東進し新線と連絡し津山市と交通するに至り、ます、物資集散の中心となる。郵便局・警察署・裁判所及び縣立庄原實業學校あり。もと郡役所の所

に達す。地質は主として片麻岩・石英斑岩及び花崗岩等より成る。而してその地勢は概して老年期なるも、忠清南道丹陽郡の兜率山(一三三四米)、俗離山(一〇五七米)、慶尙北道尚州郡の白華山(九三三米)、忠清南道水同郡の眠岡之山(一一四二米)、慶尙北道金泉郡の修造山(一一九〇米)、慶尙南道居昌郡の徳祐山(一一五〇米)、同山清道智異山(一一九一五米)、全羅南道光陽郡の白雲山(一一一八米)等は最も顯著なるものとす。而して小白山脈の北部略々東西に走るは、この地方の準片麻岩と古生層との走向に一致せるものにして、この東西に近き構造は平安北道の山地や、黄海道に見る咸寧山脈と同一のものにて、ジュラ紀の變動面全鮮の地帯は東西行せしものと思はる。また南部の方向は、此地方の準片麻岩及び花崗片麻岩の判別の上向に一致の結果と見らる。小白山脈は如上の如き位置に孤嶽をなして存在し、島に半島東南部の南北慶尙の地を他地方と完全に區分せし地理的單元を構成し、洛東江の流域地帯を完全に決定す。從つて外部との交通は古來すべて峠によるの外なく、慶北と忠北との境に竹嶺(六八九米)、梨花嶺(五四八米)、永安嶺(五三三米)、秋風嶺あり、殊に秋風嶺は古來最も有名にして、京城街道及び鐵道京釜線を通す。

シヨールノ 楳嶺

楳嶺 朝鮮半島の南部にある山脈。南朝鮮に於ける最も顯著なる山脈にて、大白山脈中の大白山(一五六一米)の西方小白山(一四二二米)より分岐して初め西に走り、ついで西南行して脈中の俗離山(一〇五七米)附近より略々南方に走りて南海に終る。即ち慶尙北道と忠清北道、慶尙南道と全羅南・北二道との境界上を走る山脈にして、その全長凡そ三三〇軒に達す。

シヨールノ 城野

城野 福岡縣金教郡にありし村。明治四十年木村及び東雲村を合して金教村を置く。金教村は大正六年町制を布き、昭和十年小倉市に併合さる。この地に日豊本線の城野驛(明治二十八年設置)を置く。

シヨールノ 小白

小白山 朝鮮半島の南部にある山脈。南朝鮮に於ける最も顯著なる山脈にて、大白山脈中の大白山(一五六一米)の西方小白山(一四二二米)より分岐して初め西に走り、ついで西南行して脈中の俗離山(一〇五七米)附近より略々南方に走りて南海に終る。即ち慶尙北道と忠清北道、慶尙南道と全羅南・北二道との境界上を走る山脈にして、その全長凡そ三三〇軒に達す。

シヨールノ 楳嶺

楳嶺 朝鮮半島の南部にある山脈。南朝鮮に於ける最も顯著なる山脈にて、大白山脈中の大白山(一五六一米)の西方小白山(一四二二米)より分岐して初め西に走り、ついで西南行して脈中の俗離山(一〇五七米)附近より略々南方に走りて南海に終る。即ち慶尙北道と忠清北道、慶尙南道と全羅南・北二道との境界上を走る山脈にして、その全長凡そ三三〇軒に達す。

シヨールノ 城端

城端 富山縣越前郡の東部。東は妻鳥村を隔てて上分町に對し、北東は同じく川之江町に對す。南は金砂村に、西は中曾根村及び三島町に界し、北は瀬戸内海に面す。高程約八〇米餘の石鏡山脈北斜面の山地とその崖下の沖積平野より成り平地

シヨールノ 勝幡

勝幡 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年本村ほか四村を併して佐織村を置く。

シヨールノ 城端

城端 富山縣越前郡の東部。東は妻鳥村を隔てて上分町に對し、北東は同じく川之江町に對す。南は金砂村に、西は中曾根村及び三島町に界し、北は瀬戸内海に面す。高程約八〇米餘の石鏡山脈北斜面の山地とその崖下の沖積平野より成り平地

シヨールノ 庄原

庄原 岡山縣山陽郡の東部。東は高村に、南は豊田村に、西は山内西村に界す。高程約一五〇米を以て庄原盆地の大部分をなす。東北に大仙山(四九五米)ありて西及び南に向ひ緩傾斜す。また東部及び東南部に比高約一〇〇米餘の丘陵ありて中央に向つて低移す。この兩山地を切り東北より來り中央低地を拓き、のち方向を轉じて西北に流れる西城川あり。流域に平地を開きて耕作行はれ米・麥・粟等を産す。山地は良牛の牧場なり。町は西城川左岸の沖積平地にありて牛の取引さかんなり。東南尾ノ道市にゆき街道、西北方新市にゆき街道、西南廣島市にゆき街道、北方西城町にゆき街道は何れもこの町より出で交通上の重要な中心をなす。又最近は備前線に連絡する三神線は三次町より來りて備後庄原線(大正十二年設置)を設けて東進し新線と連絡し津山市と交通するに至り、ます、物資集散の中心となる。郵便局・警察署・裁判所及び縣立庄原實業學校あり。もと郡役所の所

シヨールノ 庄原

庄原 岡山縣山陽郡の東部。東は高村に、南は豊田村に、西は山内西村に界す。高程約一五〇米を以て庄原盆地の大部分をなす。東北に大仙山(四九五米)ありて西及び南に向ひ緩傾斜す。また東部及び東南部に比高約一〇〇米餘の丘陵ありて中央に向つて低移す。この兩山地を切り東北より來り中央低地を拓き、のち方向を轉じて西北に流れる西城川あり。流域に平地を開きて耕作行はれ米・麥・粟等を産す。山地は良牛の牧場なり。町は西城川左岸の沖積平地にありて牛の取引さかんなり。東南尾ノ道市にゆき街道、西北方新市にゆき街道、西南廣島市にゆき街道、北方西城町にゆき街道は何れもこの町より出で交通上の重要な中心をなす。又最近は備前線に連絡する三神線は三次町より來りて備後庄原線(大正十二年設置)を設けて東進し新線と連絡し津山市と交通するに至り、ます、物資集散の中心となる。郵便局・警察署・裁判所及び縣立庄原實業學校あり。もと郡役所の所

在地。古く三上郡永江庄と呼ばれし處。明治三十一年町制施行。〔寶藏寺〕眞言宗御室派。密院と號す。弘法大師の開基にして、崇徳天皇の營造といふも詳ならず。もと蓮蘇那勝高山にありしが、のち今の地に移る。

シヨールバ

莊原村

鳥根縣

出雲國蘇州郡の東部。宍道湖の西南隅に面し八東郡宍道町の西に隣る。東南部は大原郡加茂町に接す。南半は約三〇〇―四〇〇米の低い緩漫なる山地をなし、北部は出雲平野東部の沖積低地を占め、伊川の分流新川東流す。低地は田畑よく拓け米産を産し又養蠶盛なり。其他、薪炭・牛の産あり。北部に山陰道通じ山地北麓に省嶺山陰本線走りて東部に莊原驛(明治四十三年設置あり。此地古くは和名抄、出雲郡建部郷の内に屬せるもの如し。城内に湯ノ川温泉あり、三面低き山々に圍まれ、一面開けて宍道湖に對し松江市に舟行の便あり。温泉はアルカリ性の硫酸泉にて、消毒劑として使用せらる。又浴すれば肌を濃かに且つ白くすると云はれ、紀州龍神と同じく美容温泉と稱せらる。〔神代神社〕大字辰神庭に鎮座。神社。祭神、宇夜都神命。出雲風土記・姓氏錄等に所載の舊社なれど創建年代由緒詳かならず。例祭、十月十五日。〔永徳寺〕大字學頭にあり。臨濟宗妙心寺派。龜島山と號し永徳二年の開創に係る。當時八十餘坊を有し、寺僧尼子

シヨール

氏を助けて大いに毛利氏を苦しめたりといふ。湯坊字の遺跡として現に附近に寺床・神宮寺・大教寺・教具寺・東光寺等の地名存す。〔莊嚴寺〕臨濟宗妙心寺派。佛光山と號す。もと僧行基の開創に係り佛光山にありしを、高瀬城主米原綱定は現地に移し、綱定没落の時兵火に罹り、正徳の頃再興したりといふ。〔蓮臺寺〕大字三浦にあり。眞言宗醍醐派。南明山と號し出雲札所第六番の靈地にして、本尊聖觀音は慈覺大師の作、脇士不動尊は弘法大師の眞作なりといふ。永祿年間高瀬城主米原綱定は歸依し寺領を附しその新願所と定め、のち堂宇を造營す。

シヨール

城原

仁比山村

佐賀縣神埼郡。〔常磐炭田〕福島・茨城兩縣に跨る産炭地。茨城縣多賀郡川尻郷を炭田の南端、福島縣雙葉郡富岡町附近を北端として、東西は阿武隈山脈の東麓より太平洋に至り、南北約六四軒、東西三二〇軒の地域なり。炭質は九州・北海道等のものより幾分劣るも、東京その他主要地への輸送容易なるため我國重要炭田の一たり。〔沿革〕發見は口碑によれば數百年以前らしきも、往時は野獸の糞尿を防ぐための僅に篝火に使用せられるに過ぎざりしもの、如し。木炭田の祖と稱すべきは石城郡草野村の片寄平蔵にして、安政二年(西暦一八四七)新作的の傍ら石城郡野崎村

シヨール

石を投じ流を放ち、頑強に抵抗せしむ、終に潰散し、林真文は再び逃れて水沙連藩界に匿る。將軍福慶安祥をして同く守らしむ。翌年亂平。光緒年代に及び山麓なる小半天の部落は既に墜落の區となり、雲林縣探訪冊に當時の情景を記して、小半天山、高擲雲霄、山徑穿雲、風曲幽深、山上居民不一、煙火將及百家、所産獨兒等麻竹、爲居民之利」といへり。事は簡にして現今に於てもその産出多く、千箱に製造して内外に輸出せらる。

シヨール

葛蒲

埼玉縣武藏國南埼玉郡の北部。

東は清久村、南は三箇村・大山村、西は小林村、北は北埼玉郡鴻巣村と隣す。全町平地にて、西部及び東境附近には水田あり。他は畑地をなし、米・麥・蕎麥を産す。町の中央を北走して駒西町(約四軒)に通ずる縣道あり。また東走して久喜町(約五軒)に通ずるものあり。町の南部はこれ等の交叉點にて、墜落はこの部分に發達す。この地は近世、附近の教團村と共に埼玉郡葛蒲領に屬し、古は宮宿と唱へしといふ。毎月二七の日に市が立ち、米穀及び農具等を交易せり。〔葛蒲城〕大字新堀にあり、康正二年足利成氏の臣金田式部則綱といふもの當城を築き此處に居住せりと云ふ。子孫源四郎秀綱、成田下總守氏長に屬し、天正十八年没落し廢城となる。

シヨール

昌平

東京市本郷湯島にありし昌平

昌平城の遺跡。神田川に沿うて湯島臺に登る坂。即ち今の聖堂前の坂をいふ。〔昌平面〕朝鮮全羅南道潭陽郡の南部。北は潭陽面との間に武貞面を隔て、東は大徳面、南は南面・古西面、西は鳳山面に隣接して、光州府を距る東北約一二軒なり。東南部は境上に國守峰の北嶺なる月峰山・舟山(二三米)等二〇〇―三〇〇米臺の山地ありてこれを圍み、東北部にも徳時山ありてこれを圍み、東北部の東北部に當り概ね平坦にして耕地よく拓け、主産物に米・麥・大豆・棉花等あり。光州・潭陽間の一等道路より岐れて東方各城方面への三等道路は、面の中部を横切り、鐵道光州線の長山驛(古西面内)・馬項驛(鳳山面内)にも近く交通不便ならず。

シヨール

小平島會

大津市市川

東州大津民政署管内の西南端。大津市市川口の西南方を去る約八軒。北は聖家町會、西は飯沼民政署管下の王家店會に接す。東は海に面しその南端は小平島をなし頸部に小平島の臺あり、前面には大蛇子島その他の小島群を浮ぶ。西・北兩端には丘陵地あり、中部と南部に小低地ありて農業行はる。

シヨール

城邊町

伊豫國宇和郡の東部。信都川に跨り、北は飯沼郡村に、東は一本松村に、南は東外海村に、西は御莊町に界す。宇和山地の西南端の海に沈む海岸の近くにありて、町の周圍は約五〇―一〇〇米の丘陵より成る。その山地を切つて北境中央より西に向つて信都川流れ、沖積平野を開く、地平坦にして且つ肥沃なれば農産物多く米・麥・蕎麥等を産す。市街は信都川南岸の平地に開かれ郵便局・裁判所等ありて地方の中心をなす。市街の東北方より一本松へ、又市街の東南方より出でし縣道西に出で御莊町を経て宇和島市へゆく縣道等の交通の中心をなす。本町は明治二十三年城邊村を置き、大正十二年二月町制を布く。〔諏訪神社〕大字城邊に鎮座。神社。祭神、大國主命・武甕槌命・事代主命。往古火災に罹りて舊記焼失して創建年代を詳かにせず。例祭、十一月九日。

シヨール

召保面

朝鮮慶尙北道軍威郡の西北部。軍威面の西に隣り、

シヨールーシヨールー

北は義城郡、西と南は善山郡に接す。西境やや高くして善華山(七〇一米)ありて東に傾斜し、東南境にも三〇〇米程度の丘陵連なり、他は二〇〇米以下で低平なり。洛東江一支消川は南方より流れ来り中央を蛇曲して義城郡に入り、その流域にやや廣き耕地を見る。産物に米・大豆・粟等あり。道路は何れも等外道路にして、自動車を通ずるものなく、交通便ならず。面事務所を消城洞に置く。

シヨールー 松浦面 朝鮮京畿道高陽郡の西端。漢江下流の右岸に沿ひ、北は披州郡交河面、東は碧蹄面・中面に隣り、江を隔てて南は金浦郡内面、西は同郡陽村面・假城面に對す。東北隅に高峰山(二〇九米)、黄龍山(一三六米)の山裾に當る一〇〇米程度の丘陵地あり、北部及び東南部に小丘阜あるもいづれも四〇〇米を超えず、至る處土地低平にて番田よく拓く。農業主として行はれ、米を第一とし、麥・豆類・野菜等を産す。面邑大化里は東南部にあり、地質府鐵道京義本線の一山驛(東浦中面一山里にあり)へ約四軒にして交通不便ならず。

シヨールー 松蓬面 朝鮮京畿道海州府白彦郡の沿岸。延安邑の西南隅にして、東南は湖南面に接し、西は海南に臨み、北は海龍面及び鳳凰面に界す。西南海上に善智山島・京末島等の小島を有す。東境中部に高さ一〇〇米内外の丘あり、西北部に稍隆起。一〇七八米を達して南東に傾斜し、その間を馬淵川の一分支比川、南北兩山地より發する諸溪流を容れて東北に流れ、沿岸に僅かに低地を發達す。低地及び傾斜面には田・畑・拓け、米・麥の外に大豆・小豆・粟・稗・蕎麥・馬鈴薯等を産す。特に御山山漆器あり。漆樹栽培組合を設けてその助長に努めつつあり。縣道鹿角街道は安比川に沿つて走り、省線花輪線の莞屋新町驛(莞澤村)に近く同驛と東方方福町とに不通過す。文治年間、源賴朝の奥州平定に従ひし木田次郎近經の二男(淨法寺松岡氏の祖)此地を領す。郷社神明社は天照大神を祭り、例祭を八月廿、廿一日に行ふ。(天台寺)大字御山にあり。八葉山桂壽院と號し、一に桂泉觀音堂、または俗に御山觀音と稱す。天正年間、聖武天皇の勅願により行基菩薩の開闢するところと傳ふ。大同二年、坂上田村麻呂堂宇を修理し、また圓仁の當山に留錫して藥師如来その他の佛像を安置すといふ。中世、領主南部氏の御印を受け寺門大いに繁榮し、境内寺坊五、寺領等また多かりしが、近世に至りて寺運甚だ衰轉す。近時再び復興の機運に至るといふ。堂内安置の木造聖觀音立像一軀・木造十一面觀音立像一軀は何れも國寶に指定せられ、共に藤原初期の作と推せらる。

シヨールー 勝北 山田郡(四山縣) 陸、中央部に五〇一六〇米の丘阜ある外は至る處低平にして番田よく拓け、特に西南部の沿海は干拓による新田廣く、米を主とし、麥・大豆・棉・大麻等の農産多く、近海には蝦・蛤・蟹等の漁利少からず。三等道路ありて延海面に通過し、社線朝鮮鐵道黃海線(土城・海州間)の延安驛に近く交通不便ならず。

シヨールー 小茅島 青山面(朝鮮全羅南道) 三市十九郡の一。西北は阿骨郡に、北隅に於ては美作國高麗郡に、北東は備前國御津郡に、東南は吉備郡に、南西は高梁川を距てて川上郡に界す。面積三〇六・六五方軒、地は開析をうけて準平原化せし中國山地の一部を占め、西北境の北に四基(五一四米)、南に秋葉山(五九一米)の連峯ありて東・東南に傾斜し、東北境に飯ノ山(五〇九米)其他數百米の山峯連互して郡の中央に向つて山脚を伸し、西に傾斜して西部山地との間に狭長なる谷を作り、又東南に傾斜す。東南境の中央に大和山(六〇九米)、その東南に唐人山(五〇〇米)、西南隅に龜足山(五八六米)その他五〇〇米に近き山岳諸處に聳え、西及び北に向つて傾斜す。西部山麓下を南流し、兩溪谷の水を集めて西漢川流れ、高梁川の北方にて高梁川に注ぐ。東部なる東西に横はる小低地の東端より字川川發して東南に流れ旭川に注ぐ。各河川の

シヨールー

流域及び山間の各地を拓きて耕地となし農業を營む。米・麥・繭・黍稷・麻・木綿・田等の産多し、山地は豊富なる林産地をなすと共に好牧場をなす所ありて牧牛を行ふ。南方倉敷市と西北方米子市を連絡する伯備線は高梁川に沿ひて通過し、南より備前中津井・備中高梁・木野山・備前川面・方谷等の諸驛を置く。この鐵道と平行交通しつつ通過する縣道及び高梁町の北方にて分れて有漢川に沿うて北方落合町にゆくもの、その途中鹽坪附近より西北に下中津井村にゆくもの等、その他數條の村道あり交通は頗る發達す。北西部五ヶ村は明治三十三年四月に、舊阿賀郡(一部は上房郡に入り、大部分は阿骨郡に入る)より分れて本郡に入りしもの。郡の主要高梁町は高梁川に臨む山間の市街にして板倉氏の城下町のありし所、繭・麥・蕎麥種子・麥稈田及び稲木田産を産し、牛の取引もかなり。また高梁川によりて河口玉島町に至る舟運の便を有する處、奥地の貨物の集散地として商賈活潑なり。本郡は室町時代の頃に賀陽郡北西部を割きて置けるもの。始め上方郡(寛知集)と書きしが、後に上房郡(元三年阿賀郡の五箇村を合せ今日の郡域となす)となる。

シヨールー 上房郡 岡山縣 陸、中央部に五〇一六〇米の丘阜ある外は至る處低平にして番田よく拓け、特に西南部の沿海は干拓による新田廣く、米を主とし、麥・大豆・棉・大麻等の農産多く、近海には蝦・蛤・蟹等の漁利少からず。三等道路ありて延海面に通過し、社線朝鮮鐵道黃海線(土城・海州間)の延安驛に近く交通不便ならず。

シヨールー 上品山 善山山とも書く。石巻市の北方約九軒、宮城縣社直郡新井村と城生郡二箇村との境界にあり、洛東江に注ぐ小流北端下流より東にこれを測り山麓に出づ。山麓に米・大豆・麥・粟等を出す。山より漢陽を経て慶州に至る道路中部の低地を南北に通じバスの便あり。而内紅龍の瀨あり、高さ三米、巾一米。

シヨールー 城北 兵庫縣丹波國多紀郡の北部。神戸市の北方約三二軒、北は北河内村に東は畑村に、南は八上村・篠山町に西は

あり、洛東江に注ぐ小流北端下流より東にこれを測り山麓に出づ。山麓に米・大豆・麥・粟等を出す。山より漢陽を経て慶州に至る道路中部の低地を南北に通じバスの便あり。而内紅龍の瀨あり、高さ三米、巾一米。

シヨールー

あり、洛東江に注ぐ小流北端下流より東にこれを測り山麓に出づ。山麓に米・大豆・麥・粟等を出す。山より漢陽を経て慶州に至る道路中部の低地を南北に通じバスの便あり。而内紅龍の瀨あり、高さ三米、巾一米。

あり、洛東江に注ぐ小流北端下流より東にこれを測り山麓に出づ。山麓に米・大豆・麥・粟等を出す。山より漢陽を経て慶州に至る道路中部の低地を南北に通じバスの便あり。而内紅龍の瀨あり、高さ三米、巾一米。

あり、洛東江に注ぐ小流北端下流より東にこれを測り山麓に出づ。山麓に米・大豆・麥・粟等を出す。山より漢陽を経て慶州に至る道路中部の低地を南北に通じバスの便あり。而内紅龍の瀨あり、高さ三米、巾一米。

あり、洛東江に注ぐ小流北端下流より東にこれを測り山麓に出づ。山麓に米・大豆・麥・粟等を出す。山より漢陽を経て慶州に至る道路中部の低地を南北に通じバスの便あり。而内紅龍の瀨あり、高さ三米、巾一米。

あり、洛東江に注ぐ小流北端下流より東にこれを測り山麓に出づ。山麓に米・大豆・麥・粟等を出す。山より漢陽を経て慶州に至る道路中部の低地を南北に通じバスの便あり。而内紅龍の瀨あり、高さ三米、巾一米。

シヨールー

あり、洛東江に注ぐ小流北端下流より東にこれを測り山麓に出づ。山麓に米・大豆・麥・粟等を出す。山より漢陽を経て慶州に至る道路中部の低地を南北に通じバスの便あり。而内紅龍の瀨あり、高さ三米、巾一米。

あり、洛東江に注ぐ小流北端下流より東にこれを測り山麓に出づ。山麓に米・大豆・麥・粟等を出す。山より漢陽を経て慶州に至る道路中部の低地を南北に通じバスの便あり。而内紅龍の瀨あり、高さ三米、巾一米。

あり、洛東江に注ぐ小流北端下流より東にこれを測り山麓に出づ。山麓に米・大豆・麥・粟等を出す。山より漢陽を経て慶州に至る道路中部の低地を南北に通じバスの便あり。而内紅龍の瀨あり、高さ三米、巾一米。

あり、洛東江に注ぐ小流北端下流より東にこれを測り山麓に出づ。山麓に米・大豆・麥・粟等を出す。山より漢陽を経て慶州に至る道路中部の低地を南北に通じバスの便あり。而内紅龍の瀨あり、高さ三米、巾一米。

あり、洛東江に注ぐ小流北端下流より東にこれを測り山麓に出づ。山麓に米・大豆・麥・粟等を出す。山より漢陽を経て慶州に至る道路中部の低地を南北に通じバスの便あり。而内紅龍の瀨あり、高さ三米、巾一米。

シヨールーシヨールー

シヨールー

シヨールーシヨール

天皇御宇に始めて社殿を修む。中世、神佛習合の朝に別當を兼目山園光寺と云ひ社僧を置き、世俗衆目の觀音堂と呼ぶ。天正の頃は丹波領主波野秀治の新願所となり、正徳年中は藤山城主松平氏の崇敬を受く。例祭五月一日。(春日神社) 大字黒岡に鎮座。蘇社。祭神、健甕祖命、經津主命・天兒屋根命。延暦年間に大和奈良より勧請せしに創むと云ふ。初め藤山城地に鎮座せしも慶長十三年築城の際に現社地に奉遷し、同十六年藤山城主松平周防守社殿を再建す。例祭、四月三日。【城北】 兵庫縣飾磨郡にありし村。大正十四年姫路市に入る。

【城北】 朝鮮慶尙北道達城郡の北東部。大邱府の北隣にて地南北に長く一二軒を越え、東西は北部にて約二軒、南部にて約四軒あり。東は公山面、解顔面、南の東半は即ち大邱府の東隣なる壽城面、西半は達西面に接し、西北は漆谷郡漆谷面と界す。地勢上南部の平地地と北部の山地とに分る。南部は即ち東南嶺を北流する琴湖江が面の中部に横はる鶴峯(二七六米)に衝突し、西南に流糧を變じ北より来る門岩川、大邱府の東岸を北流して来る新川を合せ達西面に出でその兩岸に作れる沖積地なり。北部は北嶺に峙つ道徳山(六六〇米)の南麓が東西嶺上に延びてつくれる山地にて、中部に狭き各地を挟む。南部の平地と北部の各地に田畑拓け農産粟・麥・大豆・棉花・大豆・棉花・樟草

等を産し、また苹果・蔬菜等を出す。南部は大邱府の郊外にて交通の便よろし。

シヨールーホク

常北電氣鐵道 英城縣の東北部にあり。省線私設鐵道。英城縣の東北部にあり。省線常磐線の大差驛(多賀郡坂上村)より久慈濱驛(久慈町)を経て、太田町の常北太田驛に達す。全長一・一六軒、軌間一・〇六七米、省線と連帶運輸は、常北太田驛にて省線水郡線に接続し、昭和四年全通す。

シヨールーマ

丈麻面 朝鮮慶尙南道昌寧郡の南部。北は昌寧面との間に昌寧面を隔て、東は桂城面、南より西南は南旨面、西北は遊道面に隣接す。地やや南北に長く面積約三四方軒あり。東北部に雙嶺山南嶺の山地ある外は概ね高き一〇〇米内外の丘陵地にて東西に波状をなし、その間南北につづく低地あり、南西部には石谷洞を湛ふ。低地には番田耕作米・大豆・麥・莞草等の農産あり。三等道路南部を東西に通じ、東は靈山、西は南旨(バス)の便あり。

シヨールーマイコツ

小每勿島 朝鮮慶尙南道統營郡南部の小島。開山面に屬す。郡の主島たる互濟島の南約一〇軒。東北は狭き水道を隔てて每勿島と相對す。最高點一四九米、島頂はやや圓錐形をなして南岸に偏在し東岸は峻崖をなすも西側に緩斜しここに墾墾あり。島の南端に接して小島あり、島上小每勿島燈臺を設く。大正六年の設置、燈臺は連

シヨールーヤマダ

莊山田 正十二年設置)を設く。 縣安藝郡にありし村。明治三十五年、本村及び和庄町・宮原村・二川町を廢し吳町を設く。吳町は明治三十五年市制を布く。

シヨールーヨ

小密灣 關東州東岸中部の灣入。金州民政支管下の東南部に位置する大山屯半島(黃龍子湖の南部)と黃家灣の南部なる細腰子半島との間を西北に灣入し、灣口約三軒、長さ約七軒。灣形よろしきも灣岸淺淺にして良泊をなさず。

シヨールーヤ

昭陽江 朝鮮江原道義州郡の東江の上流。大白山脈の北部に發し、南流すること約三〇軒にして大同嶺に發し、西南流すること數軒にして南方より來れる内嶺川と合し、嶺陰南方にて流糧を轉じ、西に向つて蛇曲流し楊口郡・春川郡内を流れ、春川邑の西に於て北漢江に合す。流糧一六〇軒餘。合流點より四〇軒餘まで舟楫の便あり。中流以上は兩岸相迫りて平地に乏しく灌溉の利少きも、春川郡内に於ては流域に沃野を開き米・麥等の農産豐かなり。上流なる元通里まで概ね河に沿うて春川・杆城間の二等道路通じ、春川・麟蹄の諸郡邑あり。

シヨールーヤ

上陽村 群馬縣上野國佐波郡の西北端。利根川の北岸に

因白光、六秒を隔て二秒間二閃光す。光連距離一四哩。

シヨールーマル

正丸峠 古名を秩父峠と云ふ。埼玉縣入間郡善野村と秩父郡葛ヶ久保村との境界に跨り、最高點七〇〇米。南は伊豆ヶ岳に連る。北西行すれば約一〇軒にして秩父郡秩父町、南東行すれば、約一七軒にして入間郡飯能町に至る。峠附近は緩かなる傾斜にして、春秋の候、都人士のハイカー群からず。南東麓武蔵野電車善野驛にて下車、峠下まで乗合自動車通す。

シヨールーマン

勝曼 大坂市の地名。或はしよまん・せいまんとも呼ぶ。藤原院在るによりての名稱。大坂天王寺區四天王寺西門の西北にあり、その境内附近をいふ。江戸時代、岡場所の一。浪花色八卦・六萬だい・しよまん、此所煮賣といふものを立にして内に呼び物のあるも見へ、又外からもつれてくる。浪花今八卦「高津新地、六萬峯、勝曼、尼寺」此卦にあたる。……勝曼色八卦時代とは大いにかわりはなやかになりたるは此地也。坂のほとり能置屋呼や出来障米門前の新茶屋より清水のあたり迄つづく。

シヨールーマン

常萬村 山形縣羽前郡東田郡の北部。酒田市の東南約七軒、余目町の東部に隣り、東北は最上川を挟み、他海松町に相對す。庄内平野の中部東麓に位置し、土地平坦、東北端を北流する最上川より引水せる北嶺大堰・

シヨールーメ

正明寺會 關東州青森郡民政支管内の南部。北は安田子會に、西は金州民政支管下の五皇頂會に接す。半島狀に東南黄海に突出し、東北は登沙河の注入する鹽大澳に臨み、西南は青雲河の流入する小灣に面す。丘陵性山脈中部を西北より東南に連らし、東部に東大山、西部に西大山(三二七米)を起し、自ら東北・西南の二區に分る。東北部の北半は登沙河下流の平地につづ

シヨールーシヨール

吉田堰等により灌溉・排水の便よく最上川岸の一部荒地を除くは水田相連り米を多産す。省線羽越本線及び同陸羽線は西南部及び南部を掠め、その分岐線余目驛(余目町)に近く、縣道また陸羽西線に沿うて走り余目町にバスを通す。此地は出羽國出羽郡餘戸郷の内にして、もと五七里村と稱せしが、明治二十四年常萬村と改稱す。文化元年・天保四年・明治二十七年の大地震には相當被害を蒙りしと。大字に余目新田あり、庄内平野に於て余目新田の如き新田名を附せるは元和の初期、酒井氏入國以後に發生せる新家落なり。本村の灌溉には慶長十六年、北嶺大堰利長の開鑿に係る北嶺大堰及び嘉永年間佐々木彦作が起工し明治四十一年に完成せる吉田堰に負ふ所大なり。

シヨールーミ

正明市 山陰本線の一驛(大正十三年設置)にして美濃縣の接続點。山口縣大波郡深川町にあり。

シヨールーメ

正明寺會 關東州青森郡民政支管内の南部。北は安田子會に、西は金州民政支管下の五皇頂會に接す。半島狀に東南黄海に突出し、東北は登沙河の注入する鹽大澳に臨み、西南は青雲河の流入する小灣に面す。丘陵性山脈中部を西北より東南に連らし、東部に東大山、西部に西大山(三二七米)を起し、自ら東北・西南の二區に分る。東北部の北半は登沙河下流の平地につづ

シヨールーモ

上毛電氣鐵道 群馬縣東南部に通す。南橋市一毛町の中央南橋より東方の上泉(勢多郡桂葉村)・大胡(大胡町)・船川(船川町)・新大間々(山田郡大間々町)等の諸驛を経て桐生市官前町の西桐生驛に至る。全長二五・四軒、軌間一・〇六七米、省線と連帶運輸。中央南橋驛にて省線東武自動車に、新大間々驛にて社線東武鐵道に接続す。

シヨールーモ

上毛面 朝鮮忠清北道槐山郡の東北隅。地西北より東南に長く、南は延豊面、西南は長延面に隣り、北は忠州郡利柳面・藝味面、東北は堤川郡寒水面、東南は慶尙北道開豊郡開慶面に界す。面積約八四方軒。小白山脈の山地にて、東部は月岳山・主屹山の山嶺重疊し、中部には北嶺に大岩山(六六七米)、南に嶺岬山(六九九米)ありて殆ど山地をなす。流川の支流八峯川南嶺延豊面より來り東嶺山地より西流する支流と合し而の中部を西北に流れ西北界にて本流に入る。八峯川の兩岸に幅狭き平地ありて農耕作はれ、麥・大豆・米・粟・草等を産す。釜山京城間の街道に當り東南開慶より西北忠州へのバスの延興路線をなし交通不便ならず。

シヨールーヤマ

生山 鳥取縣日野郡日野上村の大字。伯備線の生山驛(大

シヨールーシヨール

正十二年設置)を設く。 縣安藝郡にありし村。明治三十五年、本村及び和庄町・宮原村・二川町を廢し吳町を設く。吳町は明治三十五年市制を布く。

シヨールーヨ

昭陽江 朝鮮江原道義州郡の東江の上流。大白山脈の北部に發し、南流すること約三〇軒にして大同嶺に發し、西南流すること數軒にして南方より來れる内嶺川と合し、嶺陰南方にて流糧を轉じ、西に向つて蛇曲流し楊口郡・春川郡内を流れ、春川邑の西に於て北漢江に合す。流糧一六〇軒餘。合流點より四〇軒餘まで舟楫の便あり。中流以上は兩岸相迫りて平地に乏しく灌溉の利少きも、春川郡内に於ては流域に沃野を開き米・麥等の農産豐かなり。上流なる元通里まで概ね河に沿うて春川・杆城間の二等道路通じ、春川・麟蹄の諸郡邑あり。

シヨールーヤ

上陽村 群馬縣上野國佐波郡の西北端。利根川の北岸に

て伊勢崎町の西方約五軒にあり。東は宮原村、南は玉村町、西より北は勢多郡下川洞村・上川洞村・木瀬村と隣す。南地を利根川東流し、村内にもその小支流東市に流る。全村平地にて、田畑拓け麥の産多し米、粟これに次ぐ。縣道は伊勢崎町及び西北方面橋市(約八軒)に通じ、又省線兩毛線は前橋市より來りて、村の北方を東南に走り、北嶺木瀬村内に駒形驛を設き、縣道を通す。此地或は和名抄、那波部佐味郷の地か。中世の沿革は詳かならず。舊幕府時代に津前橋城主・伊勢時城主の領地、及び徳川親下の采邑等ありて各大字ごとと領土を異にするの状態たり。(御與塚古墳) 大宇山玉の田圃中にあり。講堂寺の北方に當り、同寺の所有に屬す。南面せる前方後圓墳にて全長約六三米、大正四年後圓部より勾玉・管玉・金環等と共に見事なる寶冠を發見す。又腐蝕せる木棺及び朱なども發見せらる。寶冠は上代貴人の使用せしものなるべく其だ珍重なるものとす。いま東京帝國博物館に收藏さる。

シヨールーヨ

城陽面 朝鮮平安南道徳川郡の東部。徳川面の東、豊徳面に南接し、東は寧遠郡寧遠面及び孟山郡智徳面に、南は孟山郡玉泉面に隣る。東西約八軒、南北約一二軒。北大嶺山脈北部支脈の山地にて、東境北部に仙舞峯(八四〇米)、南部に松岬(七五四米)、西南境に後仙遊峰(一一〇五米)あり。又南

内にも中部の西方に徳長山(七二六米)、東北部に金城山(七七一米)等嶺ありて所山地をなす。大同江北部を大蛇行をなし智徳面より來りて而の東北部を曲流して北行する馬淵江を左岸にうけ徳川面に発づ。河岸の所々にある低地と山間の各地に耕地拓け麥落散在し、大豆・麥・粟・稗等の農産あり。而色南中は中央部の各地に位し徳川・玉泉・智徳の各隣接面に三等道路通じ、また大同江は水運あるも交通なほ便利ならず。

シヨールーヨ

襄陽郡 朝鮮江原道東部の郡。東は日本海に濱し、北は高城郡、西は麟蹄郡、南は江陵・平昌の二郡に各々隣接し、地勢南北に狭長なり。面積九七八平方軒。郡の西境に大白山脈走りて山岳重疊し、西北部に本道中第一の高山雪岳山(一七〇八米)聳え、西南境には五臺山(一五〇六米)・龜伏山(一三六〇米)等あり、東海岸に向つて緩傾斜す。河川の大きなものは南大川にして、五臺山に發源し襄陽邑附近にて西林川と合流し海に注ぐ。海岸線の延長五三軒餘、扇曲に乏しき砂濱海岸にして、東草港の泊津あるのみ。平野は南大川流域と沿海一帯にやや見えるべきものあり。住民は農業を主生業とし漁業・商業・製鹽業これに次ぐ。農産は米・糠穀・馬鈴薯・果實等多く其他に生牛・麻布・木製品等を産し、水産は鱸・明太魚・鱈・鱈・鮭その他回遊性魚類多

シヨールーシヨール

く、南大川よりは鮭・鱒・鮎・鱒等を産し、他に海苔・食鹽及び水産加工品として魚肥、鹽干魚・魚油等の産も少なからず。近年鐵礦床發見せられ、有望視さる。交通、海岸に沿うて二等道路通じ、襄陽よりは三等道路二線ありて隣郡に通ずる外、西部春遊山脈の大間嶺(六四一米)・寒溪嶺(九三五米)を踰えて、同じく南に通ずる道路あるも未だ便ならず。海上は東草港又は大浦港によりて沿岸諸港と連絡し、移出入額や多し。北部郡、境に近く東海北郡線通じ、近く延長して東海岸に沿ひ南下し江陵に達せんとす。行政上、襄陽面ほか八面に分ち、郡廳を襄陽面軍輪里に置く。郡邑襄陽の外、衆落は殆ど海岸に沿うて位し五湖里・大湖、仁邱里等は著し。域内名所舊蹟に富み、特に竹旺面の清湖亭、襄陽面の洛山寺は何れも關東八景の一として古來人口に膾炙す。清平、本郡は高句麗の製鐵廠、新羅の水城郡の地にして、高麗顯宗の時縣令を置き、高宗八年に契丹の寇を禦ぎし功により襄陽と改め防禦使を置かる。元宗元年襄州と改め、李太宗の時府使又は都護府を置く。其後屢々變本あり、近世また襄陽郡に改め今日に至る。

設の東端部に當る山地あるも中部以東は低下して高さ一〇〇米以下の丘阜となり東部は更に低平の沃野をなし、南方江陵郡連谷面の山地に發し北流する南大川これを潤し、農耕行はれて黍・大豆・玉蜀黍等の産少からず。海岸は平直の沙濱にて餘地を缺くも、近海は鱒・鮎・鰻等の好漁場なり。襄陽(軍輪里)の市街は面の南に南大川北岸の平地に位し、江原道東岸を南北に通ずる二等道路に當りバスの便あり。郡廳の所在地にて地方物資を集散す。

全羅線亦これと並行し、面邑徳陽里に徳陽驛ありて交通不便ならず。  
シヨールー 承良 朝鮮總督府鐵道北鮮東部線の一驛(昭和五年設置)。朝鮮咸鏡北道慶源郡安興面にあり。  
シヨールー 松羅面 朝鮮慶尙北道迎日郡の北部。南と南西は清河面、西は竹長面に接し、北は盈徳郡南亭面に隣り、東は日本海に臨む。東西約一〇軒、南北三十七軒。西北境上に大白山脈の香爐峰(九三〇米)聳え、山脚北境・中部・南西境上に延び、一〇〇米内外に低下して海岸に迫り崖岸をなす。その間東部に南北に小平地ありて農産行はれ、米、麥・大豆等を産し、北部に寶鏡嶺山あり。該嶺は北關南亭面にも跨りて金銀礦を出す。南浦項より北盈徳方面への二等道路も東部を南北に通じバスの便あり。

シヨールー 上里 朝鮮黃海道松林郡の西北部。地東西に長く、南は松木・下里・豊海の三面に接し、北は泉洞・眞風の二面に隣り、東は殷栗郡南亭面に界し、西は黃海に面し、前方には椒島(豊海面の島)を望む。面積約六五方軒。東南部は月蓋山(五〇五米)、東北部は求玉山(四五八米)の山地なるも、中部以西には高度百米以下の丘陵起伏しその間には低地を挟み、東嶺南面より来る南川は東部山地の間を西流して中部南邊の低地を潤し豊海面に出でて海に注ぎ、その兩岸と丘陵地間の低地には耕地拓け、米・大豆・麥等の農産あり、また東北部は金・銀を産する求玉山の鐵礦に當る。三等道路南川に

沿ひて東西に通ずるも交通便ならず。  
【上里面】 朝鮮慶尙北道豊泉郡の北端。南は下里面・龍門面に接し、西は開慶郡東豊面に、北は忠清北道丹陽郡大南面に、東は榮州郡鳳巖面に各界す。東西約一〇軒、南北七軒内外あり。小白山脈の山地にて、兜率峰(一三二四米)の山嶺は面内に到る高さ五〇〇―六〇〇米程度の山地をなし、ただ乃城川の支流漢川の上游北部に發し東部を南流して下里面に出で西北部より来る小川を合す。川の谷に幅狭き平地あり、大豆・麥・黍等を出し、また柿の産あり。等外道路各地に通ずるも交通不便なり。

北境と東境に丘陵連なり、又東南境より西北に延びし丘陵は面の中央部に達す。この丘陵の南は西北流する臨津川の支流曲陵川の洪原原にて土地平坦畝田よく拓け、中央丘陵の北にもまた曲陵川の支流に沿ふ平地あり耕地多し。米・大豆・大豆・野菜等を主産物とす。京義街道南郡平地を東南より西北に通じ、面邑春日川里は西部曲陵川の右岸に近く位して、この街道に沿ひ、京義本線金川驛(新洞面内)へは約四軒を隔つるのみにて交通不便ならず。東部に李王家の御墓所豊陵、順陵及び水陵あり。春日川里には面事務所及び市場あり。

シヨールー 昌隆 佳冬庄(臺灣高雄州東港郡)  
シヨールー キュー 小琉球 本島の位置が、今の琉球列島と一帯断續して相連するを以て、之を認めて一群の島嶼とし、概して琉球と稱せり。其後地理的位置の漸く開明せらるるに従ひ自ら之を區別するの傾向を生じ、明代の頃には、今の琉球列島を大琉球と呼び、臺灣を小琉球と呼ぶに至れり。此の稱呼は當時の東洋航海者たるヨーロッパ人にも採用せられ、ベトリス・フランシウスの世界地圖(西曆一五九四年に成る)には Leyde Schier, ムンホーテン、且、この東亞地圖(西曆一五九九年に成る)には Leguas Pequenas と夫々本島に相當する位置に記されたり。  
【小琉球嶼】 琉球嶼、琉球庄、臺灣高雄州東港郡)  
【小琉球燈臺】 臺灣高雄州東港郡の海岸を距る八瀝の海中に浮ぶ孤島、琉球嶼に俗に小琉球と稱せられ、現在一庄を爲し、琉球庄と云ふ)にあり。同嶼は從來航海者の好目標たりしが、更に昭和三年州水産會に於て燈臺を建設し、航路の安全を期す。

シヨールー 上龍田 朝鮮總督府鐵道咸鏡北道咸興郡下等面にあり。  
シヨールー 少林面 朝鮮平安北道寧邊郡の西南部。東は曲流する九龍江によりて寧邊面に對し、東南は延山面、獨山面に、西南は博川郡東南面・博川面に界し、北は鳳山・八院の二面に隣りす。面積約六五方軒。南部に鶴舞峯(二〇九米)、中部に笠嶺山(二四四米)・高峯(二九五米)・天燈山(二八二米)の丘陵いづれも東西に並び、北部にも所々に一〇〇米内外の丘陵起伏す。それら三箇の丘陵地の間に南北に低地ありて東境の九龍江岸の平地に耕地よく拓く。農産行はれて米・大豆・麥・棉花・大麻等の産あり。博川・雲山を繋ぐ二等道路は西北部を東北に、これより分れて寧邊に至る三等道路は中部を東西に通じ、交通不便ならず。

シヨールーシヨール



シヨローシヨロー

を主要なるものとし、松尾里に兩事務所を置く。

【松林面】朝鮮黄海道黃州郡の西北端。

【松林面】朝鮮黄海道黃州郡の西北端。二浦邑・九聖面の北端にて、北は西流して大同江に注ぐ梅上川によりて東半は東海浦水面の西北部、西半は平安南道中...

シヨロク

【昭和中】正蓮寺山、島取、取岩美郡にある山影山の別名。

シヨロク

【昭和中】正蓮寺山、島取、取岩美郡にある山影山の別名。

シヨロク

【昭和中】正蓮寺山、島取、取岩美郡にある山影山の別名。

【昭和中】正蓮寺山、島取、取岩美郡にある山影山の別名。

三ノ

より西北隅川口村に通ず。四圍山地に開かれたるも野尻川沿岸にや狭き谷底盆地ありて田畑開け、米・蕎麥・馬鈴薯等を産す。

【昭和中】千葉縣上總國君津郡の北部。東京灣に臨む。本更津町の東北にて間に巖根村を挟む。東は長浦村、南は根形村、中郷村、西は金田村と隣す。

シヨロク

【昭和中】千葉縣上總國君津郡の北部。

シヨロク

【昭和中】千葉縣上總國君津郡の北部。

【昭和中】千葉縣上總國君津郡の北部。東京灣に臨む。本更津町の東北にて間に巖根村を挟む。東は長浦村、南は根形村、中郷村、西は金田村と隣す。

の亡ぶるや其臣片桐・石見・内藤の三氏此地に隠匿し初めて開墾す。當時坂戸神社の神領にして、文祿三年一村となし市場村と名づけしが元禄元年坂戸の二字を冠せりと。大字神領は徳新前林氏の領地たり。

【昭和中】千葉縣上總國君津郡の北部。東京灣に臨む。本更津町の東北にて間に巖根村を挟む。東は長浦村、南は根形村、中郷村、西は金田村と隣す。

シヨロク

【昭和中】千葉縣上總國君津郡の北部。

シヨロク

【昭和中】千葉縣上總國君津郡の北部。

【昭和中】千葉縣上總國君津郡の北部。東京灣に臨む。本更津町の東北にて間に巖根村を挟む。東は長浦村、南は根形村、中郷村、西は金田村と隣す。

シヨローシヨロー

【昭和中】奈良縣大和國生駒郡の東南隅。郡山町の南方約二軒、奈良盆地北部、矢田山脈の南方に位す。佐保川は東部を西に向つて流れ南境にて初瀬川に合流し大和川となる。盆地の沖積地には水田多く溜池濠溝行はれ、夏季は大和西瓜の特産あり。また水田の間には果樹園散在し桃・梨の栽培盛なり。交通路は奈良盆地特有の直交状をなし、鐵道は大和電氣軌道が法隆寺より来り丹波市に至るものと郡山町より八木町に至るものとが直交して平輪驛・額田郡驛(共に大正四年設置)を置く。

【昭和中】奈良縣大和國生駒郡の東南隅。郡山町の南方約二軒、奈良盆地北部、矢田山脈の南方に位す。佐保川は東部を西に向つて流れ南境にて初瀬川に合流し大和川となる。盆地の沖積地には水田多く溜池濠溝行はれ、夏季は大和西瓜の特産あり。また水田の間には果樹園散在し桃・梨の栽培盛なり。交通路は奈良盆地特有の直交状をなし、鐵道は大和電氣軌道が法隆寺より来り丹波市に至るものと郡山町より八木町に至るものとが直交して平輪驛・額田郡驛(共に大正四年設置)を置く。

【昭和中】奈良縣大和國生駒郡の東南隅。郡山町の南方約二軒、奈良盆地北部、矢田山脈の南方に位す。佐保川は東部を西に向つて流れ南境にて初瀬川に合流し大和川となる。盆地の沖積地には水田多く溜池濠溝行はれ、夏季は大和西瓜の特産あり。また水田の間には果樹園散在し桃・梨の栽培盛なり。交通路は奈良盆地特有の直交状をなし、鐵道は大和電氣軌道が法隆寺より来り丹波市に至るものと郡山町より八木町に至るものとが直交して平輪驛・額田郡驛(共に大正四年設置)を置く。

【昭和中】奈良縣大和國生駒郡の東南隅。郡山町の南方約二軒、奈良盆地北部、矢田山脈の南方に位す。佐保川は東部を西に向つて流れ南境にて初瀬川に合流し大和川となる。盆地の沖積地には水田多く溜池濠溝行はれ、夏季は大和西瓜の特産あり。また水田の間には果樹園散在し桃・梨の栽培盛なり。交通路は奈良盆地特有の直交状をなし、鐵道は大和電氣軌道が法隆寺より来り丹波市に至るものと郡山町より八木町に至るものとが直交して平輪驛・額田郡驛(共に大正四年設置)を置く。

通り大正村の大字田野々と十川村の大字大野を連絡す。本村はもと西上山村と稱せし。昭和三年十一月今上陛下御大典當時現在の昭和村と改む。大字四手にビヤクシシあり。地上一・三米の周囲三・一米。樹高八米、推定樹齢八百年。樹は實壽寺境内にあり、この寺の開基仙心菩薩の手植せしものといふ。安政三年寺の回廊に罹りし時この樹もその厄に逢ひ梢頭枯損す。〔三島神社〕大字四手に鎮座。神社。祭神、大山祇神・鳴宿神・高麗神。例祭、六月三十日、九月三十日。

【昭和村】熊本縣肥後國八代郡の西端。八代町の北約四軒、八代灣に臨む。村内地低平にして田畑廣く拓く。昭和三年千丁村大字昭和を分離獨立す。

【シヨク】 漳和 シヨク ↓中本庄(臺灣臺北州海山郡) 【所安】 シヨク 朝鮮全羅南道莞島郡に屬する島。莞島の南方にある群島にして、所安島(面積二四平方軒)を始め、その西方に蓮花島・南青島・横看島・葛島、その他無數の島嶼の集團より成り、そのうち所安島は恰も盟主の如き觀を呈す。群島は何れも山がちにて頗る特異に乏し。所安島の所安港は所安・蓮花・南青の三大島によりて東北西の三面を繞らし、南方に港門島横はり、港内五米乃至一五米ありて好例の良泊をなす。近海は鱈・鯛・鱈・鮪の好漁場として知らる。

【所安島】朝鮮全羅南道莞島郡の南西部。所安島をその主部とし西南方の者只(港門)島、北西岸に近き鳩島ほか小嶼を含む。西は福狭き水道を隔てて蓮花島・南青島に對し、東に大茅島・佛斤島を望み、郡邑莞島間の南岸を距る西南約一二軒な所安島は南北八軒を越ゆるも東西は狭き部分にて約四軒に過ぎず。中部は狭く幅二〇〇米餘の地峽をなす。島内には高さ二〇〇一三〇〇米の山地起伏し、平地は海岸沿ひに所々に狭小のものあるのみ。麥・稔等の農産と鱈・石首魚・海鰻等の水産あり。者只島南端には四白光、光連距離二五哩の燈臺の設あり。

【シヨク】 書院面 シヨク 朝鮮江原道横城郡の西端。東北のみの郡内の公根面に接し、東南は原州郡好橋面、南は同郡地正面に、西は京畿道楊平郡楊東面・青雲面に、北の小部分は洪川郡南面に界す。西北境に翠智山(七九一米)、中部にも高度約六〇〇米の山地あり南北に延び、その中部山地の北より東と西側に幅狭き谷地ありて耕地拓げ、米・麥・豆類・玉蜀黍・大麻等の農産を出す。横城より来る三等道路は北部の各地を西に通じ楊平郡に出づるも交通は便利ならず。

【シヨク】 所遠面 シヨク 朝鮮忠清南道瑞山郡の西岸中部。泰安半島の西面にて略扇形をなして西に展げ、西は黃海に面す。面積約五九方軒。東北境に鐵馬山(二〇七米)、中央部には大小山(二二一

【シヨク】 汝白灣 シヨク 朝鮮全羅南道の東南部にあり。高麗半島の北東岸と風水半島及び古突山半島の西岸とによりて成れる一大灣にして、灣内一五哩に及ぶ。東北隅に東川流入し、西北隅に一長浦あり、その他灣内頗る屈曲に富み、鮑魚・大汝島・陳地島等大小數十の島嶼群布し、南方の灣口は幅四哩餘あるも狼島・屯兵島等數多の島嶼ありて諸水道に分る。灣の北岸より灣の三分の二は三等以下の淺水地にして、支灣は何れも低灣に干出し、鰻魚又著しきもの少きも、灣岸一帯は鰻魚又は干拓に適し、將來を囑目せらるる北西隅の支灣北岸にある鏡石里(寶城郡鏡橋面)は慶全西部線の夜蘭橋に近く港として稍々見るべきものあり。灣及び附近は鰻魚業を以て知られ、乾鰻の製法感んたり。

【シヨク】 鏡子島會 シヨク 關東州外長山列島の西部。列島中の西端にある鏡子島を主島とし其東北方六一〇軒に横はる大鏡島・小鏡島及び塔連島より成り鏡子島民政支署の管下に屬す。各島いづれも百米級の山嶺ありて、平地少く、墾殖は多くは海岸に沿ふ小低地に發達し、鰻魚を主業とす。主島鏡子島北岸の沙池子屯は會の中心墾落にして警察官吏派出所あり。

【シヨク】 汝白灣 シヨク 朝鮮全羅南道の東南部にあり。高麗半島の北東岸と風水半島及び古突山半島の西岸とによりて成れる一大灣にして、灣内一五哩に及ぶ。東北隅に東川流入し、西北隅に一長浦あり、その他灣内頗る屈曲に富み、鮑魚・大汝島・陳地島等大小數十の島嶼群布し、南方の灣口は幅四哩餘あるも狼島・屯兵島等數多の島嶼ありて諸水道に分る。灣の北岸より灣の三分の二は三等以下の淺水地にして、支灣は何れも低灣に干出し、鰻魚又著しきもの少きも、灣岸一帯は鰻魚又は干拓に適し、將來を囑目せらるる北西隅の支灣北岸にある鏡石里(寶城郡鏡橋面)は慶全西部線の夜蘭橋に近く港として稍々見るべきものあり。灣及び附近は鰻魚業を以て知られ、乾鰻の製法感んたり。

【シヨク】 汝白灣 シヨク 朝鮮全羅南道の東南部にあり。高麗半島の北東岸と風水半島及び古突山半島の西岸とによりて成れる一大灣にして、灣内一五哩に及ぶ。東北隅に東川流入し、西北隅に一長浦あり、その他灣内頗る屈曲に富み、鮑魚・大汝島・陳地島等大小數十の島嶼群布し、南方の灣口は幅四哩餘あるも狼島・屯兵島等數多の島嶼ありて諸水道に分る。灣の北岸より灣の三分の二は三等以下の淺水地にして、支灣は何れも低灣に干出し、鰻魚又著しきもの少きも、灣岸一帯は鰻魚又は干拓に適し、將來を囑目せらるる北西隅の支灣北岸にある鏡石里(寶城郡鏡橋面)は慶全西部線の夜蘭橋に近く港として稍々見るべきものあり。灣及び附近は鰻魚業を以て知られ、乾鰻の製法感んたり。

【シヨク】 汝白灣 シヨク 朝鮮全羅南道の東南部にあり。高麗半島の北東岸と風水半島及び古突山半島の西岸とによりて成れる一大灣にして、灣内一五哩に及ぶ。東北隅に東川流入し、西北隅に一長浦あり、その他灣内頗る屈曲に富み、鮑魚・大汝島・陳地島等大小數十の島嶼群布し、南方の灣口は幅四哩餘あるも狼島・屯兵島等數多の島嶼ありて諸水道に分る。灣の北岸より灣の三分の二は三等以下の淺水地にして、支灣は何れも低灣に干出し、鰻魚又著しきもの少きも、灣岸一帯は鰻魚又は干拓に適し、將來を囑目せらるる北西隅の支灣北岸にある鏡石里(寶城郡鏡橋面)は慶全西部線の夜蘭橋に近く港として稍々見るべきものあり。灣及び附近は鰻魚業を以て知られ、乾鰻の製法感んたり。

【シヨク】 汝白灣 シヨク 朝鮮全羅南道の東南部にあり。高麗半島の北東岸と風水半島及び古突山半島の西岸とによりて成れる一大灣にして、灣内一五哩に及ぶ。東北隅に東川流入し、西北隅に一長浦あり、その他灣内頗る屈曲に富み、鮑魚・大汝島・陳地島等大小數十の島嶼群布し、南方の灣口は幅四哩餘あるも狼島・屯兵島等數多の島嶼ありて諸水道に分る。灣の北岸より灣の三分の二は三等以下の淺水地にして、支灣は何れも低灣に干出し、鰻魚又著しきもの少きも、灣岸一帯は鰻魚又は干拓に適し、將來を囑目せらるる北西隅の支灣北岸にある鏡石里(寶城郡鏡橋面)は慶全西部線の夜蘭橋に近く港として稍々見るべきものあり。灣及び附近は鰻魚業を以て知られ、乾鰻の製法感んたり。

【シヨク】 汝白灣 シヨク 朝鮮全羅南道の東南部にあり。高麗半島の北東岸と風水半島及び古突山半島の西岸とによりて成れる一大灣にして、灣内一五哩に及ぶ。東北隅に東川流入し、西北隅に一長浦あり、その他灣内頗る屈曲に富み、鮑魚・大汝島・陳地島等大小數十の島嶼群布し、南方の灣口は幅四哩餘あるも狼島・屯兵島等數多の島嶼ありて諸水道に分る。灣の北岸より灣の三分の二は三等以下の淺水地にして、支灣は何れも低灣に干出し、鰻魚又著しきもの少きも、灣岸一帯は鰻魚又は干拓に適し、將來を囑目せらるる北西隅の支灣北岸にある鏡石里(寶城郡鏡橋面)は慶全西部線の夜蘭橋に近く港として稍々見るべきものあり。灣及び附近は鰻魚業を以て知られ、乾鰻の製法感んたり。

【シヨク】 汝白灣 シヨク 朝鮮全羅南道の東南部にあり。高麗半島の北東岸と風水半島及び古突山半島の西岸とによりて成れる一大灣にして、灣内一五哩に及ぶ。東北隅に東川流入し、西北隅に一長浦あり、その他灣内頗る屈曲に富み、鮑魚・大汝島・陳地島等大小數十の島嶼群布し、南方の灣口は幅四哩餘あるも狼島・屯兵島等數多の島嶼ありて諸水道に分る。灣の北岸より灣の三分の二は三等以下の淺水地にして、支灣は何れも低灣に干出し、鰻魚又著しきもの少きも、灣岸一帯は鰻魚又は干拓に適し、將來を囑目せらるる北西隅の支灣北岸にある鏡石里(寶城郡鏡橋面)は慶全西部線の夜蘭橋に近く港として稍々見るべきものあり。灣及び附近は鰻魚業を以て知られ、乾鰻の製法感んたり。

【シヨク】 汝白灣 シヨク 朝鮮全羅南道の東南部にあり。高麗半島の北東岸と風水半島及び古突山半島の西岸とによりて成れる一大灣にして、灣内一五哩に及ぶ。東北隅に東川流入し、西北隅に一長浦あり、その他灣内頗る屈曲に富み、鮑魚・大汝島・陳地島等大小數十の島嶼群布し、南方の灣口は幅四哩餘あるも狼島・屯兵島等數多の島嶼ありて諸水道に分る。灣の北岸より灣の三分の二は三等以下の淺水地にして、支灣は何れも低灣に干出し、鰻魚又著しきもの少きも、灣岸一帯は鰻魚又は干拓に適し、將來を囑目せらるる北西隅の支灣北岸にある鏡石里(寶城郡鏡橋面)は慶全西部線の夜蘭橋に近く港として稍々見るべきものあり。灣及び附近は鰻魚業を以て知られ、乾鰻の製法感んたり。

【シヨク】 汝白灣 シヨク 朝鮮全羅南道の東南部にあり。高麗半島の北東岸と風水半島及び古突山半島の西岸とによりて成れる一大灣にして、灣内一五哩に及ぶ。東北隅に東川流入し、西北隅に一長浦あり、その他灣内頗る屈曲に富み、鮑魚・大汝島・陳地島等大小數十の島嶼群布し、南方の灣口は幅四哩餘あるも狼島・屯兵島等數多の島嶼ありて諸水道に分る。灣の北岸より灣の三分の二は三等以下の淺水地にして、支灣は何れも低灣に干出し、鰻魚又著しきもの少きも、灣岸一帯は鰻魚又は干拓に適し、將來を囑目せらるる北西隅の支灣北岸にある鏡石里(寶城郡鏡橋面)は慶全西部線の夜蘭橋に近く港として稍々見るべきものあり。灣及び附近は鰻魚業を以て知られ、乾鰻の製法感んたり。

【シヨク】 汝白灣 シヨク 朝鮮全羅南道の東南部にあり。高麗半島の北東岸と風水半島及び古突山半島の西岸とによりて成れる一大灣にして、灣内一五哩に及ぶ。東北隅に東川流入し、西北隅に一長浦あり、その他灣内頗る屈曲に富み、鮑魚・大汝島・陳地島等大小數十の島嶼群布し、南方の灣口は幅四哩餘あるも狼島・屯兵島等數多の島嶼ありて諸水道に分る。灣の北岸より灣の三分の二は三等以下の淺水地にして、支灣は何れも低灣に干出し、鰻魚又著しきもの少きも、灣岸一帯は鰻魚又は干拓に適し、將來を囑目せらるる北西隅の支灣北岸にある鏡石里(寶城郡鏡橋面)は慶全西部線の夜蘭橋に近く港として稍々見るべきものあり。灣及び附近は鰻魚業を以て知られ、乾鰻の製法感んたり。

【シヨク】 汝白灣 シヨク 朝鮮全羅南道の東南部にあり。高麗半島の北東岸と風水半島及び古突山半島の西岸とによりて成れる一大灣にして、灣内一五哩に及ぶ。東北隅に東川流入し、西北隅に一長浦あり、その他灣内頗る屈曲に富み、鮑魚・大汝島・陳地島等大小數十の島嶼群布し、南方の灣口は幅四哩餘あるも狼島・屯兵島等數多の島嶼ありて諸水道に分る。灣の北岸より灣の三分の二は三等以下の淺水地にして、支灣は何れも低灣に干出し、鰻魚又著しきもの少きも、灣岸一帯は鰻魚又は干拓に適し、將來を囑目せらるる北西隅の支灣北岸にある鏡石里(寶城郡鏡橋面)は慶全西部線の夜蘭橋に近く港として稍々見るべきものあり。灣及び附近は鰻魚業を以て知られ、乾鰻の製法感んたり。

【シヨク】 汝白灣 シヨク 朝鮮全羅南道の東南部にあり。高麗半島の北東岸と風水半島及び古突山半島の西岸とによりて成れる一大灣にして、灣内一五哩に及ぶ。東北隅に東川流入し、西北隅に一長浦あり、その他灣内頗る屈曲に富み、鮑魚・大汝島・陳地島等大小數十の島嶼群布し、南方の灣口は幅四哩餘あるも狼島・屯兵島等數多の島嶼ありて諸水道に分る。灣の北岸より灣の三分の二は三等以下の淺水地にして、支灣は何れも低灣に干出し、鰻魚又著しきもの少きも、灣岸一帯は鰻魚又は干拓に適し、將來を囑目せらるる北西隅の支灣北岸にある鏡石里(寶城郡鏡橋面)は慶全西部線の夜蘭橋に近く港として稍々見るべきものあり。灣及び附近は鰻魚業を以て知られ、乾鰻の製法感んたり。

【シヨク】 汝白灣 シヨク 朝鮮全羅南道の東南部にあり。高麗半島の北東岸と風水半島及び古突山半島の西岸とによりて成れる一大灣にして、灣内一五哩に及ぶ。東北隅に東川流入し、西北隅に一長浦あり、その他灣内頗る屈曲に富み、鮑魚・大汝島・陳地島等大小數十の島嶼群布し、南方の灣口は幅四哩餘あるも狼島・屯兵島等數多の島嶼ありて諸水道に分る。灣の北岸より灣の三分の二は三等以下の淺水地にして、支灣は何れも低灣に干出し、鰻魚又著しきもの少きも、灣岸一帯は鰻魚又は干拓に適し、將來を囑目せらるる北西隅の支灣北岸にある鏡石里(寶城郡鏡橋面)は慶全西部線の夜蘭橋に近く港として稍々見るべきものあり。灣及び附近は鰻魚業を以て知られ、乾鰻の製法感んたり。

【シヨク】 汝白灣 シヨク 朝鮮全羅南道の東南部にあり。高麗半島の北東岸と風水半島及び古突山半島の西岸とによりて成れる一大灣にして、灣内一五哩に及ぶ。東北隅に東川流入し、西北隅に一長浦あり、その他灣内頗る屈曲に富み、鮑魚・大汝島・陳地島等大小數十の島嶼群布し、南方の灣口は幅四哩餘あるも狼島・屯兵島等數多の島嶼ありて諸水道に分る。灣の北岸より灣の三分の二は三等以下の淺水地にして、支灣は何れも低灣に干出し、鰻魚又著しきもの少きも、灣岸一帯は鰻魚又は干拓に適し、將來を囑目せらるる北西隅の支灣北岸にある鏡石里(寶城郡鏡橋面)は慶全西部線の夜蘭橋に近く港として稍々見るべきものあり。灣及び附近は鰻魚業を以て知られ、乾鰻の製法感んたり。

【シヨク】 汝白灣 シヨク 朝鮮全羅南道の東南部にあり。高麗半島の北東岸と風水半島及び古突山半島の西岸とによりて成れる一大灣にして、灣内一五哩に及ぶ。東北隅に東川流入し、西北隅に一長浦あり、その他灣内頗る屈曲に富み、鮑魚・大汝島・陳地島等大小數十の島嶼群布し、南方の灣口は幅四哩餘あるも狼島・屯兵島等數多の島嶼ありて諸水道に分る。灣の北岸より灣の三分の二は三等以下の淺水地にして、支灣は何れも低灣に干出し、鰻魚又著しきもの少きも、灣岸一帯は鰻魚又は干拓に適し、將來を囑目せらるる北西隅の支灣北岸にある鏡石里(寶城郡鏡橋面)は慶全西部線の夜蘭橋に近く港として稍々見るべきものあり。灣及び附近は鰻魚業を以て知られ、乾鰻の製法感んたり。

代にて養玉と有り、然れば此處の征西將軍は他の親王ならざるべからず、又故老物語に「將軍流矢に當て矢玉ふ、其矢さびたればとて所の名を矢玉山と云、其下の川を矢流川と云と有り」と。更に鳥田家の舊記には「懷良親王戦ひ敗れて桃井右京亮侍率にて雲雀山城主大江備中守に據つて再舉の念に及びしが、將軍大友氏時のために敵も潰え、桃井右京亮は戦死し親王亦流矢に中つて此地に薨去在、然るに其矢錆びたれば地名を矢玉山と可ぶ」と見ゆ。以上の諸記は將軍軍を以て五辻宮とし、泰成親王とし、或は懷良親王の墳となすもの如きも、豊前志に「住にし年此墳墓自然毀れぬとて行きて見たる者の物語に、石棺に朱以て納めたるが體骨骸崩れずして容貌など儼然と坐す如く形骸に覆ひ奉られと云へり、數百年を經たれど甚よく納めたる故なるべし」とあるより考ふれば此墳墓は千古の者にて、尙ほ附近に點在せる二三の古墳より見てもこれを吉野朝時代のものとするは誤なるべし。猶ほ後考に俟つ。五辻宮は大日本史に龜山天皇の皇子兵部守具親王をいふとあり、また同書に其終る所を知らずとも見たり。

シヨセー 所産面

朝鮮全羅北道井邑郡の西南部。井邑色の西隣にて、略底邊を北にする不規則なる三角形を呈し、面積約四三方軒。全北平野の西南端部に當り、北地中部に牙升山(四四三米)を第一とし、煙草・棉花・新穀・苧・胡麻・牛・皮・絹布等あり又特産として竹細工品あり。鐵道慶全西部線は面の中央を西北より東南全州府に向つて縱走し、略中央に東山驛ありて全州府へ八・七軒、湖南線里驛へ一七軒、道路は全州府より東山府に至る一道路の横斷せる他、面内平坦にして各線乗合自動車を通じ交通運輸極めて便なり。落着は面内普く分布し其密度頗る大なり。東山里は面の中心に位置し交通の要衝に當り面事務所・警察官駐在所等あり。(助村社)無格社。祭神、天照大神。昭和三年十一月皇土御即位記念として創建す。本殿は神明造割板葺にして高欄を附す。例祭、四月十七日・十月十七日。

シヨタツ 所産面

朝鮮江原道三陟郡の略中部。北は末老面、東は廣谷面、南東は遠徳面、西南は上長面、西北は下長面に隣接す。東西八一四軒、南北二〇軒を越ゆる大面あり。大白山脈の支脈南北に連り、東南端には鷹峰山(一二六七米)、西北端上には徳項山(一〇七〇米)あり、到る處山地をなす。五十川その南部山地に發し、中部の谷を北流して北隣末老面に出で、この各地に多少の耕地ありて墾殖點綴す。農産は麥・大豆・大麻等を産するもその額多からず。交通また便ならず。

東部に望帝峯(二五七米)、東境南部に國師峯(約二〇〇米)等ある外、面内概ね平坦にて香田・畑地廣く、その間所々に小松に蔽はれたる低き草地あり。米・麥・大豆・甘藷等の農産、臥・繩等の製産あり。また北部は金・銀・金銀鑛を産する牙升金山の鑛區に當り。二等道路は北部を、三等道路は中部を東西に貫き、湖南本線井邑驛(井邑色内)に近く交通不便ならず。

シヨセン 舒川

【舒川郡】朝鮮忠清南道一府一四郡の一。道の西南部に位置す。北は保寧郡に、東は扶餘郡に隣り、南は錦江を隔てて慶羅北道に對し、西は黃海に面す。面積三五九平方軒にして、蕪岐郡に次ぎ小なり。北部は車嶺山脈の末端部に當り、山岳丘陵連互し西南に向つて漸次低夷となり、中央以南一帯は展望廣く大平野をなし、灌溉よく行はれて米産豐かなり。河川は悉く西南流し、南境の錦江には水運の便あり。西岸は北部に長軒斗出でて南に庇庇灣を擁するを始めとし稍屈曲に富み海岸線延長九一軒に及ぶ。西部の番夷山(三二九米)は沿岸航行船舶の好目標たり。南部の平野は殆ど舒川水利組合の灌漑地帯内に於て、その面積約四千ヘクタールを占むる外、城内農産盛に行はれ、米・麥・豆類・陸地棉を主産し、苧草・煙草・麻の産も少からず。畜産は牛最も多く、工業にては苧布産は、韓山苧布の名貴

シヨモル

色澤約一〇軒、交通は便ならず。郡の舊社、軒子岩溪上流の山地、大麻里より五二軒の距離にあり。パイワン族中の大麻里番(バカロカ系統)に屬する高砂族の部落。臺東街より大麻里を経て行くを便とす。

シヨヤ 初谷

久部 下内山村(長野縣南佐久郡) 助薬島 下今(朝鮮全羅南道)

シヨヤク 助薬島

朝鮮全羅北道完州郡の東北部。全州府の東北約八軒、面積約九五方軒。嶺南山脈中に位置し、東南境は雙峰(六四〇米)・萬徳山(七六一米)の脈連互し、東北境上の燈燈山(七一二米)の脈は中部を西南に延び一旦低下するも再び西南境上の盤方山(五二六米)に高まり、西北境には西方山(六一一米)・終南山(六〇二米)南北に連りて峻嶒たる山容を示す。萬頃江の支流所陽川東南境の山地に發し、山地を劃りて中部を略西に流れ、南北の山谷より米の諸産を合せ西隣龍道面に出づ。所陽川の谷に沿ひ幅狭き低地あり、米を主として、大豆その他の農産を出し、また東南部山地に高陽嶺山ありて銅・硫化鐵を産す。全州・鎮安間の二等道路中部の川筋に通じ聯合自動車(全州・善州線)の往來あり交通不便ならず。(威風寺)朝鮮佛教。三十一本山の一にして、新羅眞平王二十

りて香田よく拓げ米・麥・大豆・煙草等の農産を出し、九井金鑛ありて、鐵礦は鍾川面にも誇り金・銀を出す。舒川の市街は中央南部の臺地上に位置し郡廳・警察署の所在地にて、また社線朝鮮京南鐵道忠南線の舒川驛(昭和五年開業)あり、郡山・扶餘方面への道路にはバスの便もあり、米・大豆等の農産物を集散し、苧布を産す。西北部の烏石里には忠南線の奇洞驛ありて面内交通便利なり。

一平推古天皇七年(西暦の西暦)に於て、開創四十七代の世勢を承れて今日に至る。堂宇は創建當時のものを得、明治二十六年に住持實達これを重修すと云ふ。大雄殿・七層閣・冥府殿・聖鶴閣等あり。寺實に創建當時の安寂と稱する檜金佛十餘尊を蔵す。

シヨソ 所産面

朝鮮江原道原州郡の北東部。郡邑原州色の東北に接し、西は南西流する嶺江を隔てて好栢面に隣り、北は横城郡横城面・隅川面に、東は寧越郡水周面に界す。面積約八五平方軒。東半部は車嶺山脈に屬する梅花山(一〇八五米)・雄岳山(一二二八米)等の西北嶺の山地なるも、西半部はこの山地より低下する丘陵地となり。嶺江左岸に注ぐ小支流ありて附近に耕地拓げ、米・麥・大豆・棉・大麻等の農産あり。西北部の屯々金山よりは金・銀を出す。原州・横城へ二等道路通じバスの往來行はれて交通不便ならず。

シヨソ 助村面

朝鮮全羅北道完州郡の北西部に位置し、全州府の北西九軒にあり。郡管内十六面中の一。全州平野の一部を占め萬頃江・所陽川・全州川等の諸川の洪瀉地にして土地頗る低平にして地味肥え農産豐かなり。従つて内地人の農産經營に従事する者多く産物は米

シヨラ 諸羅

臺灣南州嘉義郡の古地名。此地方に居住せる平埔蕃族ツロクオン社に因み諸羅の譯字を附したるものにして、東石郡東石庄塩港に近き昔時開闢は和蘭時代築造に係ると傳ふるより推して和蘭人開拓の跡を知り得べきも成功の臺灣を領有するや此地に天興縣を置き、次で鄭經の時州に改め北路按撫司を置く。康熙二十三年清朝臺灣を領有するや嘉義の地を諸羅山莊と稱し、行政區は天興州を廢して諸羅縣とす。時に縣署は現在の北門郡街に置き、康熙四十二年知縣宋永濤の時始めて諸羅山莊の地に木柵城を築きて移る。蓋し漢人の開拓漸く盛にして行政區たるの實相を呈せるものにして、後乾隆五十一年林爽文の亂匪本莊の地を圍み官兵民勇圍結して此を殲けるや、その義を嘉して嘉義と改稱するの諭を賜り、故に現名を受けしものなるべし。雍正元年北路の地に新に彰化縣の設置を見るや諸羅縣の行政區域は、北は虎尾溪より南は曾文溪に至り、東西は海岸より中央山脈を界する間となり凡そその範圍は大正九年地方制度改正前

シヨリ

の嘉義管内のそれに相當す。

シヨリ 所里島

↓南面(朝鮮全羅南道)

シヨロ 鹿路

↓北海道釧路岡白糠郡白糠村の大字。省線根室本線の鹿路驛(明治三十四年設置)を置く。

シヨロ 鹿路

↓白糠村(北海道白糠郡)の大字。

シラ 白川

↓白川

シライ 白井

↓群馬縣群馬郡にありし村。明治二十二年白井井村と改む。

【白井】 千葉縣下總國印旛郡の西端。印旛沼の西方にて手賀沼の南にあり。全

村低き丘陵地にて森林多く、畑地を交ふ。中部には東流して印旛沼に入る小流ありてその流域の細き低地は沼田となす。また西境より北流を経て手賀沼に通ずる小流の流域にも沼田あり。鎮道は村の中央より西方に通じ、東北に向ふものは利根川畔の木下町に通じ(約七軒)、同町に省線成田線木下驛あり。この地はもと白井庄に屬し、東鑑・文治二年三月の條に延暦寺領、白井庄とあるは此處にして、千葉系圖によれば胤正の子胤胤は白井八郎と稱すとあり、これ此庄を司りしものなるべし。

【白井村】 千葉縣下總國千葉郡の東南部千葉市の東方にて間に千城村を挟む。全村丘陵地にて森林多く、東部を北流する

鹿島川流域と、西部を西流する都川流域の狭き低地のみ沼田をなす。東金街道は千葉市より東りて村内を東走し、山武郡東金町に通ず(約七軒)。南隣豊田村に省線房総東線豊田驛ありて村道を通ず。この地は和名抄、千葉郡千葉郷の地なるべし。大字中野は住時酒井定隆遺州より來り此處に築城し里見氏に仕へ武功あり長享年中土氣城に移る。また大字田部田は大須賀胤信の次男この地に住し名を稱して田部田次郎左衛門尉胤秀といふ。村内に明治十五年、明治天皇行幸あらせられし御の中野行幸所、川井御小休所あり、共に指定史蹟たり。(妙興寺) 大字野呂にあり。日蓮宗。長崇山と號す。當宗十四本山の一なり。建治元年、曾谷入道胤崇、日蓮の弟子日合を請じて開創す。第二十一世日講不受不施論を唱へ、萬に徳川氏に忌まれ日向國に流されてより寺運傾けり。

【白井】 甲斐國(山梨縣)の古地名。和名抄、八代郡に白井郷あり、之良井と訓ず。その地今の東八代郡白井河原村・上曾根町・下曾根村・豊富村・右左口村・境川村等に當る。

シライ 白猪

美作國(岡山縣)の古地名。書記欽明天皇の十六年七月、蘇我稻目、藤原等皇等を遣して吉備五郡に白猪屯倉を置かしむと見ゆ。その地今紫かならざるも、續紀和銅六年四月、備前の大庭・鹿島・久米・吉田・豊田・美

多の六郡を割きて美作國を置き、同書天平神護二年十二月に美作國白猪郡大庭に姓大庭氏を賜ひ、また神皇正統記二年五月に美作國大庭郡人白猪郡人等四人に姓大庭氏を賜ふと見ゆ。よりにて想ふに白猪は即ち大庭郡の中にあらしものならんと。舊大庭郡はいま眞庭郡の南部にして白猪は川東村の邊ならんか。同村の大字に大庭あり、郡名の遺稱なるべし。

シライガワラ 白井河原村

山梨縣甲斐國東八代郡の西部。笛吹川中流に沿ひ、甲府市の東南約六軒に位す。面積僅に一、四方軒の小村。土地低平甲府盆地の南邊に位し、南部には御坂藩屋敷ありて山地に續く。村の略中央を笛吹川西流しその沖積地より成り田畑ありて米・麥・馬鈴薯・甘藷等を産す。泉落は南部の山麓に多く發展す。昭和十年度の國勢調査による人口は五二二人にして一方軒の密度は四四人に於て全國平均一八一人より遙に多し。然し大正九年以來殆ど増加せず。此地は和名抄、八代郡白井郷の内にして、近世八代郡小石和筋に屬せり。いま上曾根町・下曾根村と共に組合町村をなし役場を上曾根町に置く。八乙女遺現の後に往古貴婦人を奉りしものと思はるる古墳存す。

シライシ 白石

【白石村】 岡山縣備前國御津郡の南部。岡山市の西方五軒。西は吉備郡吉備町に界す。面積二、九一方軒の小村。全村岡

山平野の西部、彼瀬川右岸流域の低平なる沖積地を占め味味肥沃にして耕作よく行はれ、米・小麥・蕎麥の栽培盛なり。従つて豊茂・花蓮の産は極めて多く古來名あり。岡山市とは往昔より交通頻繁なるため交通路發達す。岡山市より出づる街道は村の中央を東西に走り吉備町を経て倉敷市に至る。この地は四道將軍の一人吉備津彦命の鎮定せられし中心地に據し、のち備前國津高郡津高郷の中に含まれたり。岡山に近く昔より岡山城主の勢力圈内たり。

【白石島】 岡山縣小田郡にある島。神島外村に屬し瀬戸内海國立公園の内に在り。水島湖との交界上に西北・東南に連り鹽飽諸島に續く列島の中部にあり。北は沖白石島・高島を経て神島を望み、南は北木島に對す。北木島との間を白石瀬戸といひ瀬戸内海東・西二潮流の激突する所に於て潮勢最も急に舟行の危險區域となる。東西約二軒、南北約三軒、周圍約一二軒。東岸・西岸南北に丘陵連り西北部最も高く一五・一米なり。北部海岸に低地ありて耕地・桑園發達し、附近海上は櫻鯛の名産地として知らる。東北岸に弘法溪あり、溪中奇石多く山水の觀明頗にして溪上の互岩に空海を祀る。また白石公園・鬼ヶ城・開隆寺あり附近諸島中風光最も勝る。沖白石島は互岩海面に尤立しその色白くして頗る地氣を呈す。夫木・二三、間(か)しな沖の白石しらすとも物

續け安政元年十月に完成することを傳はり。延長四一・四二軒の用水路、内八十箇所の隧道と、高さ水面上二〇米半、幅七米、長さ七三米の一大石橋即ち瀧橋を架設したり。その瀧橋面積九〇ヘクタールに及び、その完成により飲料水にも事欠きし矢部郡民は大に恩恵を被る。用水不要の期には兩側の松を抜きて瀧川へ排水するため二條の飛瀑となり、甚だ壯觀なり。「小松神社」大匠山八合目に鎮座。元暦元年平家の一門と共に逃れ來たりしと傳ふ平維盛の創祀といふ。紅葉の名所として知られ、菅林署のトロに便乘の便あり。

シライウ 白岩

【白岩村】 秋田縣羽後國仙北郡の東部。角館町の東に隣り、東前は岩手縣和賀郡に界す。東境に奥羽山脈の主脈走り和賀嶽(阿彌陀嶽一四四〇米)、朝日嶽(一三七五米)あり、この西方に白岩嶽(一二三〇米)の山嶺南北に連り山脚は西に傾き西部の緩平盆地には斷層崖をなして瀧く。雄物川の一支玉川は東境山地に發し日岩連嶺の東を北流し來る堀内澤を合せ北境を西南に流れ、西部にては對岸の大庭徳山(一八〇米)の急崖下を流れ、また白岩嶽の西南斜面より發する齊藤川は南境を西に流れ山地を出づる所に扇状地を造る。盆地床は耕地拓くも齊藤川流域は降雨時には河水奔流し荒地をなしその沿岸僅に畑に利用せらるる程度なり。

シライ

思ふ舟のなきこがるを

【白石村】 熊本縣肥後國仙北郡の西南部熊本市の西南約四軒、熊本平野の西部に位し、面積〇・六九方軒の小村。この地は沖積平地にして土地低平、氣候温暖、灌溉排水の便よく農作に適し、米・麥の二毛作よく行はれ米を多産す。街道は東西及び南北に通ずるものありて熊本市にバスあり。もと村名はシロイン・シライシ同様讀みしも今は専らシライシといふ。いま並建村・濱田村・島口村と共に組合村を成し並建村に役場を置く。

シライチ 白市

山陽本線の一驛(明治二十八年設置)廣島縣豊田郡小谷村にあり。

シライト 白糸

【白糸】 山口村(山形町最上郡)

【白糸村】 群馬縣後國富士郡の西部。富士山の西麓を占め、一部は富士國立公園に屬す。西は天子ヶ嶽を境に山梨縣西八代郡に、西境は天子ヶ嶽(一三二六米)の斜面にて、その山麓を芝川南流す。東南境に有名なる白糸瀧あり、谷沿に多少の田地ある外は森林をなす。芝川に沿ひ富士五湖方面に通ずる鎮道あり。大字狩宿は建久四年五月源頼朝の富士野の狩獵に館せしところにして、字名は蓋しこれに因むもの。彼の曾我兄弟復讐の事も此邊にて行はれしものなり。地に曾我兄弟を祀る曾我八幡といふ小祠あり。大字内野に宗貞親王の皇子尹良親王の館址と稱

するものあり。「狩宿下馬場」指定天然記念物。頼朝下馬場或は駒止場、駒繋場ともいふ。樹種は赤芽の白山樺にて花の突初は淡紅色を帯びのち白色となり、頗る大なり。花期は四月十日頃。樹幹は地上一米の處にて八・五米、枝葉東西二二米、南北一六米、白山樺の代表五樹の樹野にあり。山上雪解の水が熔岩の罅隙を通じて地中に滲透し熔岩並に其の下の龜塊岩との間に地下水層を成したるが芝川の水鏡じ字谷の岩壁より湧水して瀑布となり、後漸次後退して現在位置となるものなり。瀑の高さ約二〇米、幅約一五〇米、絶壁の全面に数百條の大小瀑布を懸垂し恰も一大珠簾を懸けたる如く日光華嚴瀑の中間瀑布と其成因を同じくして規模更に大なり。芝川の本流は白糸瀧の東に別に普賢瀧(一名普止瀧)となりて懸垂し共に一瀑區を成す、臺上よりの富嶽の風景亦甚だ佳なり。

【白糸村】 熊本縣肥後國上益城郡の東南隅。九州山脈の北斜面を占め録川上流にあり。濱町の南に界し、西は下益城郡、南は八代郡、東前は宮崎縣西臼杵郡、東は阿蘇郡に隣り。面積八七・四八方軒。東南境に九州山脈の一峯三方山(一五七八米)を築いて其西南に高嶽(一五六三米)あり、更に西南の郡の南隅に國見嶽(一七三九米)ありて東南境を限り、それより一山脚は西北に延びて西南境をなし、

西南隅に京の文(一四七三米)あり。その北に目丸山(一三四一)を起して北方へ連嶺延びて西境に峙ち、かく山地南部の三方を以て四方(次第に傾き東南部に天山山(一四九四米)あり。北部は山地谷〇〇米程度の丘陵あり北隅に緩く傾く。川の流域頗る溪谷美に富む。途中白糸と稱する瀧あり。開墾地狭けれど盆地・臺地はよく利用され、農業・牧畜業を主要とし麥・粟・甘藷・大豆また牛・馬等を出し農産も行はる。山地多き爲交通發達せず北部に東西に横切る一路あり。之より分るる一路、北は濱町を結び西は東西隅三方山の峯を傳ひて宮崎縣椎葉村に至る。北隣濱町には東西に走る街道あり。この地は明治十年西南ノ役の古戦場とす。近世附近諸村と共に矢部郷と稱せられ、その中本村及び濱町・御嶽村・下矢部村の四箇村は全く灌溉の用水を得るに途なく水田開發の法をたれたるところ多く村は廣絶の地を築いたり。時に矢部郷の總庄屋市田伴之助なる者用水を彼原川に求めこれを矢部郷中最も豊饒地の多き本村に送らんと計畫せり。然し水路の開鑿は容易なるも、兩岸に堰堤を立てたる瀧川を横切りて對岸に水を導く事は頗る至難なる事たり。その結果瀧を横断する一大石造の堰堤橋を築し、その上部に水管を設けて用水を導かんとし、四年十一月の長期間に互る間全く不眠不休の努力を

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

シライ

山林面積頗る大にして固有林その大部分を占む。全村戸口の約九割は農業に従事す。自作農少なく小作人多く爲に農民は他の副業に専心従ひ生活困難の状態にあり。農産物は米・豆・蕎麦の外に蠶工品の産多く蠶工品は移出するものにて数千萬の額に達し、また馬の産を出て名あり。製炭業は行はるも固有林野の掃下によるため利益意外に少く、用材として他に移送せらるるものもあるも千圓未満の少額なり。省線生保内線角館驛へ四軒強、村内里道のみにて交通の便良好ならず。粟落は山麓又は盆地の扇状地に散在するも一般に等高線に沿ひ南北に長く配列す。本村は明治二十二年町村制實施に當り大字白岩、大字園田大字廣久内を合併して置けるもの。抱返溪谷は大字白岩廣久内にあり、玉川に臨む豊野の地なり、抱返神社あり。紅葉の候風景絶佳なり。大蔵徳山は大字園田にあり冬季スキー場として絶好の地なり。舊跡として前郷山、前山・高屋敷・平城の城址あり。明治戊辰の役、兩軍交戦の巷となる。〔雲岩寺〕曹洞宗。龍潭山と號し、寶徳二年の創建に依り、白岩城主の開基と稱するも詳かならず。許岳玄可和尚の開山なり。〔白岩町〕山形縣羽前郡西村山の東北にあり。南は左澤町との間に高松村を挟み、東北は北村山郡に、西北は最上郡に隣接す。北境には華山火山(一四六二米)聳立し南に延びて大滑山・清水山・黒森山と

白岩

なり、西北境の三合山の山腹東南に延び上ノ山(九二二米)・吹場平山(四四八米)を起し、熊野川は西部を、實澤川は東部を各山谷を劃みて西流し南境を東流する寒河江川に合流し、山地は壯年の地貌をなす。南部の寒河江川沿岸の沖積地はこの扇状地の扇尖に當り東部の山形盆地床に續く。山地は石英粗面岩・安山岩・凝灰岩・頁岩等より成る。この地は半農半商の地にして農家は全戸數九〇五戸に對し六一・一%の五五三戸を占め米(七二六八石)を多産し、草履(六〇二七三八足)の特産あり(昭和十一年十二月現在)。なほ古來牛馬を産し三・六・十の日に夫夫市を開きし所に今も市神を存し形のみなるも猶開市さる、半生鐵山あり、金銀銅鑛を採る。省線左澤線の羽前高松驛(高松村)より分れ西山村に至る社線三山電氣鐵道は山麓に沿うて東西に通じ、白岩・上野・羽前宮内の三驛(何れも大正十五年設置)を置き、寒河江町・左澤町に至る鐵道之に沿うて通じ各バスの便あり。大字宮内は舊名を熱湯と稱し、山王祠あるを以て宮内と稱せるものなり。白岩城主大江頼實文明五年に再建せる山王様現あり。大字半生は寒河江川の支流熊野川溪谷中の落石にして、華山の西麓を斷斷して射折に至る間道通ず。創坑あり、天和二年の發見に係る。大字白岩宇類は華山火山山麓の山村にして、八百米の地に位し、山形縣内には最上高野に

本宮町の東方約六軒。その間に和木澤村を隔つ。南は田村郡に隣接す。土地南部にやや高く丘陵をなす。川は源を此處に發して村の西部を南流して阿武隈川に合するものと、東部を北流して阿武隈川に合するものとあり。村の南部及び西部に寒河江川に合流するものと、西北部を北より西に通ずるものとあり。前者は北方小濱町に、南方三春町に達しバスの便あり。後者は西方本宮町に通ずり。この地の大字龍潭には天正年間、田村清顯が磐を構へ、四本松城の押とせしことあり、大内定綱、時節を伺ひ之を燒打にす。大字白岩は戊辰の亂に小戦のありし地なり。

次いで第二位の高位を占む。華山に集りし修験者の保護にて發生し、寺の盛衰と運命を共にせしが、維新に至り寺との關係薄くなり、水田耕作に轉向せり。されど高位を占むるを以て因作に據はるる事少しからず。他に木炭、鐵の柄及び山菜等を産す。(半生鐵山)本郡重要鐵山の二。鐵區は本町及び西山村に亘る。大字宮内より熊野川の流に沿うて廻ること凡そ一二軒の山中にあり、その北方十部一峠を越えて最上郡大藏村水松鐵山に昇す。附近は主として第三紀砂岩・頁岩・凝灰岩等とこれを買く石英粗面岩より成り、鐵床はそれらを買く鐵脈なれども、一部は母岩中に鐵染し、主として黃鐵礦・黃銅礦・四角鉛礦等より成り、銅礦として採掘せられ、現に古河鐵業會社の經營に屬し水松鐵山と合併施業せらる。(白岩城)城址は二箇所あり。一つは陣ヶ崎にして前九年の役に備え置けられし所と傳へらる。應永年間大江政實始めてこの地を領し築城して此に居りしが、後更に陣屋を築き、稻荷山と稱し此に移りしものなり。戰國の頃は寒河江の大江氏の所領となり、白岩大江家と稱す。後間もなく最上氏に滅され、關ヶ原役後最上義光の弟光興、白岩備前守と稱し、一萬二千石を領し此處に居る。元和八年、最上家改易後は、莊内西井家の弟忠重の居城たりしが、幕府の政治多し、下民の訴願に遭ひ討ち殺され、御家系絶たり維新に

シラエ

東は中海村に接す。面積七・九九方軒の小村。村の東南部に五六十米の丘陵ある外は加賀平野の一部にして水田多し米作を主とす。また加賀表の原料となる關嶺も盛なり。社線白山電氣鐵道小松・鶴川温泉等間の社線(昭和四年設置)・八幡(昭和十一年設置)の二驛を設け、その他二條の鐵道及びこれに通ずる細き道路もあり交通便して便なり。此地古くは和名抄、能美郡能海郷の内に屬す。源平盛衰記にも白江の名見ゆ。明治二十二年町村制施行の際、沖村は若松村と合併して沖松村と改め、白江村は佐々木村と合して白木村と稱せしも、明治四十年以上二村と千針村の内大字金屋を合して白江村と稱す。

「明治十四年御軍陣之地なる御家傳記」の記述を以て自老アイヌ土人の熊祭の状を御覽し給ひしといふ。「白老舊土人部落」白老コタンにあり。海岸に近き場所にして戸數八十餘、人口約三百六十を數ふ。住者メセイイヌなる者一旗を率ゐて來り占居せしと傳ふ。風俗等他地方多數の舊土人部落と同様内地化したるも家屋構造等に舊來の様式を保存せしもの比較的多し。寶物類を觀覽に供し居る家現在四軒あり、何れも室内に爐を設けメサを樹て天井より爐鉤を釣し薪を掛け、床に敷物を敷き、室内に寶物、土俗品を並べて舊時の生活狀態を窺ふに便す。寶物は何れも大同小異にて、大小各種の行器(シントク)・耳環(バツク)・刺繍を施せしアフトレ・陣羽織・弓筒・槍・山刀・太刀その他にて、各種のイナオ・朝花(キケ)にて飾られたる簾・蓑・狐の頭骨等あり。近文部落と並びて北海道に於ける代表的の舊土人部落にして内外人の來訪する者多し。「白老仙臺陣屋址」白老川支流ワトカンベツ川の西側に沿ひ、西端無名の小流を以て限られし間にあり。南方入口に存する土壘址の間を過ぐれば、約二百米にして環狀土壘を繞らせし本壘址あり、濼亦遺存す。安政二年仙臺藩幕府より東蝦夷地白老以東知床岬に至る一帯の地と島嶼の警衛を命ぜられし際に設けられし本陣屋の遺址にして、當時の規模を略々その遺存す。最初本

シラエ

「明治十四年御軍陣之地なる御家傳記」の記述を以て自老アイヌ土人の熊祭の状を御覽し給ひしといふ。「白老舊土人部落」白老コタンにあり。海岸に近き場所にして戸數八十餘、人口約三百六十を數ふ。住者メセイイヌなる者一旗を率ゐて來り占居せしと傳ふ。風俗等他地方多數の舊土人部落と同様内地化したるも家屋構造等に舊來の様式を保存せしもの比較的多し。寶物類を觀覽に供し居る家現在四軒あり、何れも室内に爐を設けメサを樹て天井より爐鉤を釣し薪を掛け、床に敷物を敷き、室内に寶物、土俗品を並べて舊時の生活狀態を窺ふに便す。寶物は何れも大同小異にて、大小各種の行器(シントク)・耳環(バツク)・刺繍を施せしアフトレ・陣羽織・弓筒・槍・山刀・太刀その他にて、各種のイナオ・朝花(キケ)にて飾られたる簾・蓑・狐の頭骨等あり。近文部落と並びて北海道に於ける代表的の舊土人部落にして内外人の來訪する者多し。「白老仙臺陣屋址」白老川支流ワトカンベツ川の西側に沿ひ、西端無名の小流を以て限られし間にあり。南方入口に存する土壘址の間を過ぐれば、約二百米にして環狀土壘を繞らせし本壘址あり、濼亦遺存す。安政二年仙臺藩幕府より東蝦夷地白老以東知床岬に至る一帯の地と島嶼の警衛を命ぜられし際に設けられし本陣屋の遺址にして、當時の規模を略々その遺存す。最初本

シラカ

陣屋を勇擧げ置き出陣陣屋を根拠、國後、

陣屋を勇擧げ置き出陣陣屋を根拠、國後、

シラオ

シラオカ 白岡 東北本線の一驛

シラガ 白鹿・白髪

三四八

標高六〇四米。山嶽火山岩より形成せら

シラカカ 白方

シラカカ 白方

シラカカ 白方

三四九

に白方は白子を誤りしもの、廣戸村大字

シラカカ 白方

シラカカ 白方

シラカカ 白方

三四八

には先史時代並に歴史時代の遺跡多く、

シラカカ 白方

シラカカ 白方

シラカカ 白方

シラカ

叙す。承和二年采女す、年六十二。のち

シラカ

シラカカ 白方

シラカ

シラカカ 白方

シラカ

シラカカ 白方

も村内に傾斜し、荒川は此の標合を東流す。西部は荒川の扇形部に當りや平野あり委園多し。山地は概ね森林繁茂す。...

七〇二米)の連山あり、東北には三ヶヶ山(一七六四米)、西北には茂ヶ岳(一八四一米)、南部には日照岳(一七五一米)あり、全く山岳重疊し山間の僻地をなし、...

村は特に大家族制が行はるるを以て知られ、いま大字御母衣、平瀬等にこの風習残る。戦國中内ヶ島氏保木郎組の歸雲山城に居りその威權中に振ひしが天正十三年の地震にて山城崩壊し、城主氏理を始...

高原に連りて日本アルプスとなる。粟高は之等山地を越ふ白川流域平地に點在す。氣候は寒冷、概ね十一月中旬雪を見...

用に充つるは一階のみにして二階以上は「つし」と稱す。つしの床は竹、藪等にて作りし網にしてその上に幾つかの板を渡し歩行に便ならしむ。...

經濟と異らざるに至る。なほ分家を禁止し他家への出稼を抑制し出來得る限り多量の労働力を自家に蓄積し來りし家族規模も自ら崩壊の過程に入らざるを得ず、...

關西本線より南方約二軒に離れあり。古くは和名抄、鈴鹿郡神戶郷に屬す。村名は白木、小川、萱山の部落を合併し町村制施行の際、白木、小川の各一字を取りて命名せられたるもの。...

シラカワ 白河 關西本線中、岩手縣の古地名。和名抄に陸奥國磐前郡白河郷あり、之具加波と訓す。今この地何處なるか詳ならず。...

の鶴島縣岩代國東白川・西白河・石川・村田諸郡に互る地域が其地ならんといふ。奈良時代に至り養老二年陸奥國の白河・石川・會津・安積・信夫の五郡を割きて更に石川國を設くに當り其の中に入る。

【白河(郡)】陸奥國(磐城、鶴島縣)の舊郡名。古くは白河國といひ、續日本紀養老二年の條に陸奥國白河郡以下五郡を割きて石川國を建つとあり、郡名始めて見ゆ。聖武天皇神龜年中石川國を廢するに及び陸奥國に復す。和名抄は之良加波と訓じ大村・丹波・松田・入野・鹿田・石川・長田・白川・小野・松戸・小田・藤田・屋代・常世・高野・依上の十六郷を置きて延元年中更に東北郡を以て高野郡を置き三郡とせしむ、江戸時代に至り寛文年中高野・石川二郡を白河郡に併せて白川郡と改む。元禄年中白河・石川二郡を復し高野を白川に改めまた三郡となりて明治に至る。明治十三年白河郡を西白河郡、白川郡を東白川郡と改む。

【白河(縣)】明治二年八月七日磐城國白河郡白河に置きし縣。同四年十一月二日廢して二本松縣に併す。二本松縣は同月十四日治所を信夫郡鶴島に移し、鶴島縣と改稱す。

【白河關】往古多即ち勿來(カミ)の關と相違んで陸奥の出入口を扼したりし關門。承和二年の大政官符に陸奥國の解文を引きて、舊記を檢するに觀を置きて以來今に

るも、本町の東市二軒、古關村(大字)は白河關のありし處なりと云はるるの地に發源する細流に白川と呼ぶものあり起因せるが如く、成務天皇の朝既に白河國の置かれしを見れば、その由来頗る遠しと云ふべし。而して此地は凡そ白河國の中心地たりしものか。白河關は承和二年を過る四百年即ち允恭天皇の朝、反郡常なき蝦夷の南下を防遏せんがため設けられしものと云はれ、これを以て此地の開発の一端を窺ふを得べし。大化改新の後は陸奥國に入り白河郡となり神龜五年には陸奥國の請に應じて白河軍國を置きしことあり、軍國の所在地はこの邊か。和名抄に白河郡白川郷とあるは本町及び白坂村・西郷村の邊に當る。白河郷は郡家のありし處なるべし。平安時代の末に白河莊を建つ、初め白河領と云ひて藤原信賴の知行地なりしが、のち平重盛これを領す。鎌倉時代には結城氏その地頭職となりて、彌山(大沼村)に居を構へ、のち町内の小峰城に移り戦國時代に及ぶ。江戸時代には丹羽氏小峰城を改修して鎮城とし、近世の白河城市の基礎を築く。のち樂翁即ち松平定信城主となるや治政見るべきもの多く、町の面目も遂に一新せりと傳ふ。更に本多・阿部の諸氏城主となり幕末に至る。戊辰の役、三月、官軍將に會津を討伐せんとするや、會津兵これを守り大いに激戦あり、今に町内所々にその遺跡を存す。明治の初年

四百餘歳」とあり。年代を案ずるにほぼ允恭天皇の御代の頃に當る。仁徳天皇の御代に上毛野田道の蝦夷を征するあり。また雄略天皇が宋朝に遣はし給へる國書に我が皇威發展の次第を述べて、「東毛人を征する五十五國」とあるによれば、當時既に我が國家の經營は關東地方に及び其の北境に白河・菊野の兩郡を置き、夷人の出入を警戒せしものなるべし。而も格律その名を載せず、犯人の處分に不便あるが故に、承和二年陸奥國司請うて之を長門の關に準じ、嚴に行人を檢案するに至る。其後、元慶四年に至り陸奥守首上して曰く、關門禁あり其の來るや久し。而も頃年遊蕩の輩情に任せて往還り吏民を相擾す、嚴制を加ふと雖習俗未だ難し。望み請ふらくは官裁して、内外の官人、及び諸司諸家の雜色等、公事に就くに非ずして法を犯し濫りに入る者は其の身を禁錮し、即ちもつて首上せん。但毎月結番し、一分一人を差して關門を守らしめ、若し脱漏を致さば見任を解却し、以て將來を懲さん」と。大政官符を奉じて請を容る。ここに關門とは白河・菊野の兩關にして、一分とは國司・史生の謂なり。以てその勸懲の嚴なりし狀を察すべし。然るに平安末期の混亂時代には、國家の統治弛みて白河も何時しか荒廢に委せしもの如く、西行法師奥州修行の際ここを過ぎて、白河の關屋を月の福る影は人の心を止むなりけり」と、其の

シラカ——シラカ

には白河縣を置き、のち郡役所の所在地たり。明治二十二年町制を布き以て今日に至る。「白河城」新舊二城あり。その舊城は即ち文治五年源賴朝の陸奥藤原氏を平げるや、此地を結城朝光に與へ、朝光は下結城にありて之を治め、孫祐廣の代に正應二年この地に下り、本郡大沼村字彌山郷を營めを以て初とし、南北朝の世に、南朝の忠臣結城宗賢の居城は實に當城にして、義長親王、北畠親房、顯家等の東下西上の際、常に駐在せし所なり。その城を所謂新城たる小峰城、即ち今の白河城址の地に移せしは何時頃なるか詳かならざるも、永正年中の文書に小峰三河守なる者あれば、恐らくはこの頃彌山より移せしものか。小峰氏は白河結城氏を稱し義親の時、天正十八年豊臣秀吉の小田原北條氏を討ち、奥羽の地平定に歸せる時、禮を致さざるの罪により除封せられ、關一致を討す。のち徳川氏の時に至り寛永六年丹羽長重この地に封ぜられ、城郭を修め奥羽の重鎮となる。同二十年丹羽氏は岩代の二本松城に封ぜられ、松平(藩原)忠次に治し之より慶安二年本多忠義、延寶九年松平忠弘、元祿五年松平直恒、寛保二年松平定賢等々々封ぜらる。松平定信は定賢の孫なり。定信の子定永の時、文政六年榮名に移り阿部正權十萬石を以て此地に封ぜられ、子孫相傳へて幕末維新に至る。明治元年糧倉に轉封となり爾後藩主を置かず。戊

辰の役に會津・仙臺・磐城、二本松等の兵當城に據つて西軍を防ぎ、激戦數日、五月一日城陥り、伊地知正治この城を守る。後藤・奥羽の兵遣せしも遂に復する能はず、此役に附近の村落多く兵燹に罹れり。城址のいま残存せる部分は方約三百米、主として本丸、二ノ丸の遺址にして、石垣・濠等を存し、主要部の規模は舊はる。本丸の入口清水門址に「小峰城址」なる石柱あり。また八幡臺と呼ぶ最高所は明治九年東北御遊幸の際の御野立所にして石標建てらる。此處より白河の市街一望に俯瞰され、遠く郡領格の全景近くは阿武隈川の上流を眺め、附近に樓閣多し。「立教館址」白河驛の北約二百米、稻田の中に若松の生せる土臺及びその附近即ちこれなり。立教館は松平定信が藩士子弟の教育を獎勵せし處にて、のち阿部氏これを修道館と稱へ、廢藩まで存在せり。中に學舎・講堂・弓道場・槍劍柔道場・萬池・中門・文庫等を備へたり。「明治天皇白河行在所」指定史蹟。字野内にあり。明治九年奥羽御遊幸の際六月十三日牧馬を集め觀覽あらせられたる處。「明治天皇白河行在所」土藏造、圓明寺町の角倉放翁内にあり。土藏造、離屋にして、明治十四年明治天皇山形・秋田二縣及び北海道御遊幸の際、同年八月七日及び十月六日御遊幸の際行在所となし給ひし處。「南湖公園」指定史蹟・名勝。白河驛の南二軒、社線白河鐵道南湖

東北境に富士見山(四三七米)の山嶺、中部には月待山、南部に小丸山の丘陵何れも東西に連り、その間に細長き低地東西に連り、阿武隈川の上支谷津田川は中央月待山に連る丘陵の東部を切り富士見山の南麓を東に流れ、月待山の南麓に南湖を濶(此川こより發す。南北の兩低地は沖積層より成り地味豊沃、灌漑の便よく田畑開け米穀・藁を産し製絲工場あり曠遊業も行はれまた石材を出す。古來白河の馬體として其名著はれ、今は秋季二回馬市あり全國より幾多の馬商出入す。東北本線は中央丘陵を迂回して通じ白河驛(明治二十年設置)を置き、驛前より東南白川郡鶴島町に至る社線白河鐵道を分岐し、白河白河驛・南湖驛(共に大正五年設置)・登町驛(昭和四年設置)を置く。國道陸羽街道は東北本線に並行し走り放射狀に縣道を分ち石川行・磐倉行・牧ノ内行・須賀川行・津川行・大田原行・龜倉行・旗指行・甲子温泉行等のパスを通す。市街は中央丘陵の北側にありほぼ東西に長く延び、阿部氏の城下町として下であり、其後も阿部氏の城下町として奥州街道上の要地なりしのみならず、東南は鶴倉町を経て水戸市に通じ北西は會津に通ずる交通上の要衝を占め、市況大に榮え廢藩の後も政治教育の地方的中心として重きをなせしも、交通系統の變遷に伴ひその後の發展は緩慢となる。白河の名は何れの時代より始りしや詳ならず

III

柱に書き付けたりとあり。ついで建治三年一廻上人ここを過ぎて西行の過去を偲び、「遊く人を彌陀の響に滿らさじと名をこそとわれ白河の關」と、再び關屋の柱に其の名を留む。而して一廻上人發起僧には、守る人もなく荒廢したる關屋の狀を描出せるなり。白河關の遺蹟に就きては兩説あり、「一は舊陸奥街道によるものにして、鶴島縣西白河郡白河町の南方約二里、白坂村大字白坂にあり。一は古代の奥州街道と推定せらるるものにして、前記白坂の東南約一里五六町、同郡古關村大字旗指にあり。寛政十二年白河城主松平定信(樂翁)は碑を立てて後者を其の遺蹟と定む。從ふべきに似たり。延喜式の驛路、下野郡須賀川驛より、陸奥白河郡野野原に過す。和名抄那須郡黒川郷あり、今の野野原の邊なるべく、其の西境黒川を挟んで黒川と稱する部落あり、鶴掛村に屬す。古への東山道は是より東北に進み、恐らく野野原寄居より東折して、白河郡古關村旗指に達せしものなるべく、和名抄同郡小野郷あり、雄野驛の所在にして、今の古關村東部の平坦地城はその名稱に相當するもの如く、黒川より寄居を経てここに至る約五六里、はば三十里(今の驛)に一驛といふ制に合ふ。而して其の兩驛の中間なる山陸の旗指の地に、白河關は設置せられたるものならん(同前)。

【白河町】鶴島縣岩代國内白河郡の中部。東北境に富士見山(四三七米)の山嶺、中部には月待山、南部に小丸山の丘陵何れも東西に連り、その間に細長き低地東西に連り、阿武隈川の上支谷津田川は中央月待山に連る丘陵の東部を切り富士見山の南麓を東に流れ、月待山の南麓に南湖を濶(此川こより發す。南北の兩低地は沖積層より成り地味豊沃、灌漑の便よく田畑開け米穀・藁を産し製絲工場あり曠遊業も行はれまた石材を出す。古來白河の馬體として其名著はれ、今は秋季二回馬市あり全國より幾多の馬商出入す。東北本線は中央丘陵を迂回して通じ白河驛(明治二十年設置)を置き、驛前より東南白川郡鶴島町に至る社線白河鐵道を分岐し、白河白河驛・南湖驛(共に大正五年設置)・登町驛(昭和四年設置)を置く。國道陸羽街道は東北本線に並行し走り放射狀に縣道を分ち石川行・磐倉行・牧ノ内行・須賀川行・津川行・大田原行・龜倉行・旗指行・甲子温泉行等のパスを通す。市街は中央丘陵の北側にありほぼ東西に長く延び、阿部氏の城下町として下であり、其後も阿部氏の城下町として奥州街道上の要地なりしのみならず、東南は鶴倉町を経て水戸市に通じ北西は會津に通ずる交通上の要衝を占め、市況大に榮え廢藩の後も政治教育の地方的中心として重きをなせしも、交通系統の變遷に伴ひその後の發展は緩慢となる。白河の名は何れの時代より始りしや詳ならず

【白河町】鶴島縣岩代國内白河郡の中部。東北境に富士見山(四三七米)の山嶺、中部には月待山、南部に小丸山の丘陵何れも東西に連り、その間に細長き低地東西に連り、阿武隈川の上支谷津田川は中央月待山に連る丘陵の東部を切り富士見山の南麓を東に流れ、月待山の南麓に南湖を濶(此川こより發す。南北の兩低地は沖積層より成り地味豊沃、灌漑の便よく田畑開け米穀・藁を産し製絲工場あり曠遊業も行はれまた石材を出す。古來白河の馬體として其名著はれ、今は秋季二回馬市あり全國より幾多の馬商出入す。東北本線は中央丘陵を迂回して通じ白河驛(明治二十年設置)を置き、驛前より東南白川郡鶴島町に至る社線白河鐵道を分岐し、白河白河驛・南湖驛(共に大正五年設置)・登町驛(昭和四年設置)を置く。國道陸羽街道は東北本線に並行し走り放射狀に縣道を分ち石川行・磐倉行・牧ノ内行・須賀川行・津川行・大田原行・龜倉行・旗指行・甲子温泉行等のパスを通す。市街は中央丘陵の北側にありほぼ東西に長く延び、阿部氏の城下町として下であり、其後も阿部氏の城下町として奥州街道上の要地なりしのみならず、東南は鶴倉町を経て水戸市に通じ北西は會津に通ずる交通上の要衝を占め、市況大に榮え廢藩の後も政治教育の地方的中心として重きをなせしも、交通系統の變遷に伴ひその後の發展は緩慢となる。白河の名は何れの時代より始りしや詳ならず



シラカ

を現はす。丹波長重は寛永五年... 白河に移り十萬石を領して東北の重鎮となり、同十四年歿す。

の草創に係る。初め如信常國風化の途、本郡北平山村の東山山麓、北平山の池を埋め一字を削し奥ノ坊舎と稱す。

富士川軍の段に、平家方にて多氣美幹の使者を捕へて關東の種子を奪ねたるの答に、常陸白河の名出づ。

をなす。庄下の膏産は、主として農家に於て副業的に營まるとのにして水牛・黄牛・豚等の飼養行はる。

西

シラカ

の孔障より瓦斯は泉と共に噴出し水火山源の美觀を呈す。重源元が「在邑治以南左臂玉雲山之後、小山屹然、下有石罅、

石川の支流西北に流るその流域に炭田ありて米麥を産し山地よりは薪炭を出す、道路北部を東西に走り東は東北境の平石

の便あり。此は炭産中流の名産地にして、一に柳河半紙ともいふ。

新

十二人を何れも武蔵國に居らしむと見、え、更に續紀淳仁天皇の天平寶字二年八月に歸化新羅僧三十二人、尼二人、男十九人、女二十一人を武蔵國の閑地に移して、是に於て新羅國を置くとありて郡名初めて見ゆ。本郡は後改めて新羅郡とせしむ。其の改稱の期詳かならず。延喜式民部省式には既に新羅郡あるを以て、改稱は蓋し貞觀以後延喜に至る間にあるべし。→新羅(郡)

【新羅】朝鮮古國の一。西曆前第三世紀の頃、南部朝鮮辰韓十二國の一として存在せし新羅國が核子となりて發達せし國なり。始祖は前一世紀の人、朴赫居世にて、居西干(辰骨にて王の義)と號し、國を徐羅伐と號す。姓を朴と稱するは、卵より生れし人にて、その卵の大きき瓠の如く、辰人、瓠を朴と云ひしところより生じたるものといふ。其地は大體今の慶州郡附近一帶を含み居りしもの、如く國號は徐伐・徐羅伐・斯盧・斯羅等と稱せられ、何れも同義を表はす文字にして邑里の義なり。第二十二代智證王の四年(五〇三)に新羅と定めらる。國都は約一千年間慶州以外の地に移されざりき。王號も居西干・次々雄・尼加今・麻立干等と稱し、何れも辰語の王または貴人の稱と思はるるも、これも同じく智證王の四年に王と稱するに至る。新羅王室は朴氏の外に昔・金の兩氏ありて五十六王の内、朴氏十五、昔氏八王、金氏三十八王あり。

昔氏の祖昔解は多婆那國(其他、肥後五名といふ)の出生にして卵より出生したる人といはれ、金の祖金閼智は新羅王城なる金城の西、始林の樹に掛り居りし卵より生れしといふ朴赫居世同様の傳説あり。この三姓骨族といひて一種の血族的王種の團體となり、歴代相繼承し、國の大事は和自と稱する骨族の會議によりてすべて決定せられたり。この新羅・高句麗・百濟と共に遼々國力を養ひ來りしが、これによりて金海の加羅國その壓迫に堪へかねて日本に救ひを求め、よりて第十七代奈蘇王の時(紀一〇九三年頃)神功皇后、日本に服屬し居りし任那安奉のため親征せらるに至る。これより後、新羅は日本及び高句麗に質を遣はして漸く國の存在を維持し來りしが、北方高句麗の壓迫により、百濟と共に力を合せて高句麗に當ること百年、この間大いに國力を養ひ高句麗の地を略取し、第二十四代眞興王の時その二十五年に南北朝の北齊に使者を遣はし、樂浪郡公新羅王といへる封爵を受け、尋で隋と交通せるなど、支那と直接交渉するに至るまで發展す。なほ加羅諸國の東北部をも占領、次いで洛東江の流域に出で次第に力を南方にのばせしため、百濟も新羅に好を通ぜざるを得ざるに至り、遂に西紀五六二年に加羅諸國を滅ぼし、建國以來六百年を認て半島中原に於ける主の地位を占むるを得たり。第二十二代智證王の時以後大いに

支那の文物制度を輸入し、州郡縣の制度を定め、次の法興王の時に佛法始めて高句麗より入るや國家鎮護の法として大いに尊奉せられ、國費にて寺院を建築するなど佛教美術の異常なる發達を見たり。また新羅の美術工藝は半島古今を通じて及ぶものなく、現存する佛像、寺院建築その他の發掘品によりて當時の佛を知るを得。かくして第二十四代眞興王の時に至り著々統一事業の根柢をつくる。當時の國土、東は日本海岸より西は黃海岸に至り、南は慶尚南道の大部分、西北は臨津江の邊に達す。この後の百年間に於て高句麗・新羅・百濟三國の興亡の運命決せらる。新羅は唐の封爵を受けて大いに款を通じ、その衝に當りて金春秋即ち第二十九代太宗武烈王立つに及び、宰相金東信と力を合せて百濟討滅を実現す。更に次の文武王三年、唐は新羅國を唐の州郡となし、雞林都督府を置き、文武王を雞林大都督となす。同王八年唐と力を合せて高句麗の平壤城を圍む、高句麗の寶藏王白旗を持ちて降参するに及び遂に一統の業成る。唐、これらの地を己れの領土として都督・州・縣の制を布きしが、三十三代眞聖王三十四年に大同江以南の地を新羅に屬せしむ。この時代は、新羅の最盛時たり。文武王、神文王以後、唐を宗主國として仰ぎ朝貢怠ららず。第三十六代眞德王の時代より衰運に向ひ、眞德王を執して自ら立ちし眞公具相、即ち第

三十七代眞德王以後、王位の争ひ絶ゆる時なく、一方内亂亦絶えず、國民二百年の國家安寧に馴れ佛事と遊樂に耽るなど君民共に自ら墓穴を掘るの有様なりき。五十一代眞聖女王に至り玉の業行修まらず、婁區政を専らにせし時、新羅王室と稱する弓裔なるもの新羅の東北部を從へ松岳(開城)の人王建(後の高麗太祖)來りて亦共に事を圖り、國を後高句麗と稱し新羅をも服屬せしめんとせり。又同じ頃全羅・慶尙の諸縣を降して眞寶之を後百濟と稱し、再び三國時代を實現せんとす。かゝる内憂外患にも新羅復興の力なく、中央の命國內に行はれず、從つて高麗に通ずるもの多くなり、五十四代眞明王二年に後高句麗の王建、王弓裔に代りて立ち國を高麗と號し、開州(開城)に都して王と稱し國勢盛んなりしため、王之に使者を遣す。かゝる時、次の眞景王の四年後百濟の眞室王は都に侵入し、王に逼りて自刃せしめ大いに拉撃を行ひ玉弟金傳を立て、教順王となす。これ新羅最後の王たり。其後、王建は眞寶と號ひて大勝を得、新羅の諸郡次第に高麗に降りしため天命の然らしむるところとなし、同王九年國土を擧げて高麗に降り、始祖より五十六王、九百九十二年にして(西紀九三五年)滅亡す。

シラキノオークノウラ 新羅邑

久浦 新羅國(阿山縣)邑久

國言す。邑久新羅邑久浦に長さ二三三尺已下一丈二尺以上の大魚五十二隻漂着す。皮膚きこと紙の如く眼は朱に似たり。位く鹿鹿の如く故老未だ嘗て聞かずと見ゆ。新羅邑久浦はその位置確かならざりも、凡そ今の半島附近の海に當るか。牛窓港の背後の海岸の地名に即榮あり。これ新羅の遺稱ならんか。

シラキヤマ 白木山 省嶺縣嶺の

一(嶺)明和四年設置。嶺高縣高田郡三田村にあり。

シラキ 志樂村 京都府丹後國加佐郡

の東部。新羅島町の東に接し、西北部は新羅島町の東南岸に面し東は福井縣若狭國大飯郡に界す。北東部の三面低い山地に圍まれ東北隅に火山青葉山あり。東境に源流する小流中部を西に流れ、その兩岸に低地ありて耕地よく拓け、米の産地をなす。又麥を産し養蠶も行はる。若狭街道は中部を東に通じ、東城吉坂峠を越えて大飯郡に出で省嶺小嶺嶺またその北方を東西に通じ、東北部に松尾寺(大正十一年開鑿)あり。村は附近町村と共に舞鶴要衝地帯の一部を占む。古くは志樂郷に作る。和名抄に加佐郡志樂郷と見ゆ。中世は志樂荘に作り、西大寺領たり。莊名は建久六年の記文にも見ゆ。(金剛院)大字鹿原にあり。眞言宗東寺派。鹿原山と號し天長六年眞如法親王草創に係る。天安年中文德天皇水田五百五十町を賜ふ。爾來歷朝の御崇信極めて厚かりき。いま

シラキー——シラサ

寺後西南の山頂に眞如親王の遺骨を埋むといふ傳あり。堂宇中三重塔等は三間三層、椀皮葺、室町時代の建立と推せられ手法雄勁にして形勢壯重、内部の佛壇・格柵等の彫刻等特に美麗と稱し現に國寶たり。寺寶中、紺本着色藥師十二神尊像(鎌倉期の作)、木造阿彌陀如来坐像(藤原期の作)、木造若長天立像、木造多聞天立像、同金剛力士立像、同執金剛神立像、同深沙大將立像は何れも國寶に指定さる。(松尾寺)大字松尾にあり。眞言宗醍醐派。青葉山と號し西國三十三所第二十九番札所たり。慶雲年間唐僧眞光の草創に係り慶雲年間以後歴朝の勸進道場たり。のち織田氏の兵火に罹り一山悉く烏有に歸せしが、細川幽齋は本堂を再建す。其後漸次諸堂の復興成り、現に當宗中、本寺格にして寺勢隆昌たり。寺寶中、紺本着色普賢延命像一幅、同孔雀明王像一幅は共に國寶たり。御詠歌「そのかみは鏡代へぬらん便りをば千年をここに松の尾の寺」

シラクラ 白倉 新屋村(群馬縣)

シラコ 白子 埼玉縣武藏國北足立郡

の南端。朝霞町の西南に隣り、東南は東京市板橋區に隣る。武藏野の荒川に臨む臺地上に位し二〇—三〇米のこの臺地は東京市の板橋臺に連る。若き谷はこの臺地を開析し、僅に各處に水田あるも畑地多く、且つ耕作物は東京市に近接するを以て東京市場向のものを作り漸次郊外的

景觀を加味しつゝ、まゝに農産物は麥・米の外に人蔘・牛蒡・漬菜及び澤庵を多産し東京市場に出荷す。社線東武鐵道の東上線(池袋—寄居(比企郡)間)は臺地上を通じ、新倉驛(新倉村)成増驛(東京市板橋區成増町)に近く、川越街道これに沿うて走りパスを通ず。この地は和名抄、新羅郡志樂郷(一に志木、志木ともいふ)の内なるべく、近世は新羅郡野方領願澤庄に屬す。大字上新倉はもと新羅村と稱し、のち新倉と改む。文保の頃吉良氏の所領、小田原北條氏の頃は太田大膳亮・川村某・千葉氏の所領、徳川氏の世となり板倉四郎左衛門勝重の領地となり、板倉氏移封の後、川崎平右衛門代官となりて支配せし地なり。此の地に新羅王居跡と稱する所あり、新羅武藏風土記によれば牛房山の上に平地あり、昔、新羅の王子京より下向の頃、こゝに居住せしといふとあり。大字白子はもと上下の二村に分れ、天正の頃は共に伊賀の人の給地に賜はりし地なりと云ふ。寛文四年野村彦大夫、元祿三年細井九兵衛、享保六年寛播守等の檢地あり、のち川崎平右衛門の支配せし地といふ。

シラサカ 白坂村 福島縣岩代國西

白河郡の南西部。北は白河町、東は古淵村、南は栃木縣那須郡に隣す。南東部は標高五五〇米にして、北に向ひて傾斜し原野をなす。河川は殆ど見るべきものなく、たゞ南方縣境を黒川の西北に流るゝ

を見るのみ。此市に名高き白河町に近く、牧馬多し。東北本線は村の西部を南北に通じ、白坂驛(大正六年設置)あり。此線の東に平行して舊陸羽街道通じ、北方白河町に、南方廣野町に至る。この地は和名抄、白河郡白川郷の内にして舊奥州街道の宿驛たり。本村と白河城の間なる皮籠原(草籠にも作る)は永祿三年、會津の兵と那須勢の戦ひし地にして、慶長五年には會津勢と徳川勢、近くは維新の際に會津兵と官軍の激戦地たりし地なり。明治天皇、明治九年、奥州御巡幸の際、及び同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際、此地に御小休あらせられしことあり。其太平記白石町(二)に「折へし生首を、そつと埋めて心の印、建て、腰より矢立を出し、筆の立所も星明り、奥州白坂の町はづれ明神の義、一國一ヶ所の首塚と、印にとめて過ぎ行く後」、「地明神社」陸羽街道に南面し祠二つあり、古の下野・陸奥の國境の兩側に並びて祀られたり。北は陸奥の人の祭れるものにして、兩者を合し二所明神と稱す。江戸時代には奥羽越三國の諸大名が江戸往還の途次に必ず参拜せりと。(橋次兄弟の墓)治承年間、羽州寶澤の商人、橋次・信高兄弟、砂金を交易して京都より故郷に歸らんとして此地に至り、強盜のために殺害せらる。里人之を憐み、厚く葬り碑を立て、いま墓石三基、高さ踏石共に一・三六米、

文字源流す。

シラサト

白里町 千葉縣上總國山武郡の東南端。九十九里濱の一部にて太平洋に臨む。九十九里濱沿岸平地の一部を占め東北境を龍龜川流る。東部は水田多く西半及び海岸附近は畑地をなす。海岸は單調にて砂濱をなす。漁業を主産業とし農業これに次ぎ米・麥・藁の産あり。縣道は南北に通じ、又これと分れて西走するものは、西方大瀨町に通じ(約七軒)同町に省線房總東線大瀨驛ありて、東金線の分岐點をなす。この地は近世、山邊郡に屬し、維新前代官の支配地たり、昭和十年町制を布く。近年海岸は海水浴場として著はる。「稻生神社」大字四天木に鎮座。祭神、豐受姫命。古來、富村の郷守として崇敬せらる。例祭、陰曆九月二十九日。

シラサワ

白澤

【白澤】 秋田縣雄勝郡駒形村にある。雄山。雄重要嶺山にして銅を出し、昭和九年に於ける鐵産額は銀四四五五、枕鐵銅二種なり。

【白澤村】 群馬縣上野國利根郡の南部。利根川の支流片品川の北岸にあり。沼田町の東方にて間に利根村を挟み、南境を西流する片品川の谷を隔てて赤城山を望み、北境に南名山(一〇六八米)ありて南方に傾斜し、西部及び南部には此地ありて田畑開け、特に片品川岸近くには桑園

多く米・麥・藁を産す。沼田街道は沼田町より南に沿ひて北走し、尾瀬沼方面及び奥日光に通ずる道路となる。村内に岩室發電所あり。利根川水系片品川洋川を利用し、出力は八、六六〇キロワット(最大一、一〇〇キロワット)なり。

シラサワジユク

白澤宿

【白澤山】 上越國境に峙つ一峰。尾瀬ヶ原の北西方約七軒、群馬縣利根郡水上村と新潟縣北魚沼郡湯之谷村との境上に峙つ。標高一九五三米。

シラス

白砂山

【シラス】 群馬縣吾妻郡六合村と新潟縣南魚沼郡三國村と長野縣下高井縣平穂村・埴村に位す。標高二一四〇米。北東斜面より白砂川(吾妻川支流須川の上流)發源して南流し、南西斜面より魚ノ川(信濃川の一上支)源流して北流す。登路は南麓花散温泉より通ず。

シラスカ

白須賀町

【シラスカ】 群馬縣吾妻郡六合村と新潟縣南魚沼郡三國村との間にあり。東は新居町・菅津町、西は愛知縣に界す。濱名湖西方山脈の南端の一部を占め、海岸へ緩傾斜をなす丘陵上にあり、草原をなす部分多く牛の牧畜行はる。田地も所々にあり、米作行はる。東海道に沿ひ住時の一驛をなせり。又之より西南へ一條の道路分岐し伊良湖方面に至る。此地は和名抄、濱名郡郡内村に屬せしもの

如し。中世以降東海道の一宿驛として知らる。東海道名所圖會に「白須賀」云々

井まで壹里廿六町、また白菅とも書す。須賀は東國の俗語に、鼠砂の聚たる所をいふ、洞窟と書くべし、實は助字なり、横須賀、蜂須賀もこれに同じ。此宿初めは汐見坂の下にあり、元禄年中津湯して此所へ移されしなり、今も元白須賀といふ所ありて立場なり」とあり。しかし白須賀(白菅渡)の名蹟書に見ゆるも、これは此地にはあらざるべし。町の東方に湖見坂(見坂)あり。南は水天一色千里際漚なく、白帆去來船の飛ぶに似てしかも東天遙かに芙蓉の秀峰を仰ぐ。明治天皇東幸の際には此坂に風聲を駐めさせ、初めて大洋を覽そなはせ給へりといふ。名寄「湖見坂松吹わたす浦風にしまの浪の花やちるらん」富士紀行「今ぞ早ねがひみちぬる鹽見坂こころひかれしじよにながめて 足利義教」丹波興作侍夜の小室節「思ひの君待ち受け、解く前垂の赤坂や、吉田、二川、白須賀ちよいと越えて、手御所あるか振袖に、十この新居、今切、舟に召さく」(神明神社) 大字白須賀字元街に鎮座。祭神、天手力雄命、天照皇大神、萬幡千々姫命。一に内容と稱す。もと本白須賀の地に鎮座ありしが、明應以來屢々海濱に遷はれ、元禄十年現地に遷す。江戸時代末印領四石六升八合を有す。社地を神倉山といふ。例祭、十月十四日。

シラセ

白瀬

【シラセ】 白瀬 陸奥國磐城・福島縣の古地名。和名抄磐城縣に白田郷あり。調を聞くも志良多と誤るべし。今この地雙葉郡久之濱町・廣野村・木戸村の邊に當る。

シラタ

白田

【シラタ】 白田 陸奥國磐城・福島縣の古地名。和名抄磐城縣に白田郷あり。調を聞くも志良多と誤るべし。今この地雙葉郡久之濱町・廣野村・木戸村の邊に當る。

シラタカ

白鹿

【シラタカ】 山形市の西方約一五軒。山形縣西置賜郡白鹿村と東置賜郡吉野村と南村山郡柏倉門村と東村山郡作谷澤村の境界に峙り標高九八六米。山麓は礫石安山岩とその集塊岩より形成せらる。山頂部には巨樹繁茂す。茲に虚空藏堂あり。よつて山名を一に虚空藏山と稱す。虚空

シラツカ

白塚村

【シラツカ】 白塚村 三重縣伊勢國河内郡の東南部。伊勢海に臨み南方津市との間に栗原村の小村を挟む。西北部は一身田町と界す。伊勢平野の沖積地を占め土地低平、海岸線は殆ど直線形をなす。西部に水田拓げ東大半は桑を栽培し養蠶業盛にして繭の産額多し。また水産も盛にて鱒・烏貝(加工品として販賣する事多し)の漁獲物あり、其他、近年商工等も發達し來り、特に機械工業行はる。社線伊勢電氣鐵道西部を南北に走り、その東、村の中央を一道路これと並行に貫き西隣村を村境近くに伊勢街道南北に通じ南方津市方面に至る。もとは白土・白洲・白塚と種々に書きしもの如し。口碑に古へ一面に貝殻を以て蔽はれし時、白土又は白塚と云ひ、白洲貝とは大洪水ありて、一面砂土に蔽はれ、他に一物も見ざる時にその名起り、其後、何れの世

礦業には山形方面及び南西麓なる西置賜郡栗原町方面よりの登山者多し。この山の北方部は曾て大爆發せし址にして、互岩累々たる爲に數箇の洞窟點在し、又數箇の小火山の隆起を見る。山形市よりこの山の北方部を越えて荒砥町に至る道路を狐越街道と云ひ、同じく山形市より山元村小自府を經てこの山の南方に通ずる山道を小瀧越と稱す。

シラタ

シラツ

シラタガワ

白田川村

【シラタガワ】 白田川村 高知縣土佐國高岡郡の東部。南は海に臨む。東南角を伊弉と云ひ一に田崎ともいふ。北は火打山脈の分水嶺に當り、西北の佛ヶ森(六八八米)をはじめ七〇〇米の山岳連立して南方に山脚を伸し、南岸に狭き平地をびらく。東岸は海岸に平行して山地連立し東麓は直ちに海に臨む所あり、また急崖下に狭小なる砂濱地を作る所もあり。西部を南流する蛇川流域に多少の沖積平地ありて耕作行はる。山地からは用材・木炭を出すが盛んならず。沿岸の聚落は殆ど漁村にして鰯・鯖等の漁獲多し。沿岸を通り東隣佐賀村と西南方の中村町を繋ぐ縣道あり。上川口村落は縣道に跨り蛇川の河口にありて特色をなす。此地は後醍醐天皇第一皇子尊良親王の御配流所として知らるる有井の庄に當る。正慶年中天皇蒙塵の際に當り親王は土佐に遷され本郷入野郷に假居し給ひしに、或る時、杜鵑の聲を聞き京都を追懐し「鳴けは聞くきは都の戀しさに此里過ぎよ山ほととぎす」との歌を詠じ給ひしより、爾來、鶴多郡には杜鵑の音を絶つに至れり。今の村内字中津はもと杜鵑

シラタキ

白瀧

【シラタキ】 北海道北見國紋別郡遠輕町の大字。省線石北線の白瀧驛(昭和四年設置)あり。

シラタ

白瀧

【シラタ】 愛媛縣伊豫國喜多郡の西北部。長濱町の南、東北は伊豫郡に界す。四國山脈の西端海に盡きる所を切つて東南より西北の方向に流る藍川下流の地を占め、村内山岳重疊し、北境には靈神山(九

シラツク

シラツク 臺灣新竹州竹東郡の舊社。竹東街の東方山地にあり。アタナル族マリアン諸島の最近に移住形成せし部落。願路は竹東街より約二四軒の路、或は新竹市より關西を経て至るを便とす。

シラツク

シラツク 臺灣新竹州竹東郡の舊社。タロコ峽奥の山地にあり。アタナル族タロコ蕃に屬する高砂族の部落。

シラツク

シラツク 白坪 熊本縣鹿野郡にありし村。昭和六年熊本市に入る。

シラツク

シラツク 白土 また白戸にも作る。陸奥國(磐城・福島縣)石城郡の地名。義經記に治承四年源頼朝伊豆に兵を擧げ石橋山の合戦に敗れて安房に來りし時馳せ參ぜる武士の中に常陸國よりとして、しらと・行方・志田・東條・佐竹諸氏の名をあげたり。このしらは常陸にはあらずして陸奥の内なり。いま石城郡飯野村の大字に南白土・北白土あり。これ白土氏の居りし所なるべし。

シラトリ

シラトリ 白鳥 陸奥國(陸中・岩手縣)の古地名。和名抄、膽澤郡に白鳥郷あり、諸本は白鳥を白馬に作り、高山寺本は之を脱す。その地今の膽澤郡前澤町の邊なるべく、

シラツク

前澤町の大字白鳥は郷の遺稱なるべし。延喜式に胆澤郡白鳥郷五戸とあるは此地なり。

白鳥

白鳥 茨城縣常陸國鹿嶋郡の中部。北浦の東岸にて東は鹿嶋に臨み、西は北浦を隔てて行方郡津波村に對す。全村低き窪地をなして畑地多く所々に林を交へ北浦沿岸には低地ありて水田をなす。東部は鹿嶋浦の一部にて單調なる砂濱をなす。鐵道は北浦沿岸を南北に通じ北は北浦北岸の津波町に達す(約七軒)。同町は社殿鹿嶋宮鐵道の終點にて津波驛あり。西隣津波村との間に渡船の便あり。此地古くは和名抄、鹿嶋郡白鳥郷及び同鹿嶋郡伊島郷に分屬せしもの如し。風土記に白鳥里と見え、中世は白鳥庄と稱し附近諸村を總べたり。大字は小幡市たり。新志に據れば此の故城は馬場氏の族、札氏の築くところにして、子孫世々居城す。札氏等は書を能くせしめて、天正十九年佐竹氏のために攻められこれより札氏亡ぶといふ。(願泉寺)大字大藏にあり。臨濟宗妙心寺派。大藏山と號し俗に穴寺といふ。往昔常陸大塚平忠幹の岡基に傳り惠光和尚を請じて開山とす。のち寛政せしを北條高時再興し寺田若干を附す。北條氏滅亡のち漸次衰頽せしが、天正年中、鏡山和尚大いに堂宇を興す。爾來法燈連綿たり。本尊釋迦如來立像(木造)一軀は所謂三國傳來の釋迦像と

白鳥

稱するものにて現に國寶たり。(覺林寺)曹洞宗。中房山と號す。本郡新宮村壽徳寺未なり。文治四年地頭中房式部大輔平秀幹の岡基に傳り開山を遺傳和尚とす。(大徳寺)大字阿玉にあり。臨濟宗妙心寺派。寶光山と號す。慶長年中領主菅野左京進大義開基し、玄仙和尚を請じて開山とす。正徳二年喪上、翌三年再建。明治六年再び喪上。近時再建せらる。

【白鳥村】 埼玉縣武蔵國秩父郡の東北部。荒川の東岸。皆野町の北に位し、東は大里郡に隣る。全村皆山地にて中央に五三九米の山あり、更に南部の山地に續き西及び北は荒川の谷に向ひて傾斜す。傾斜地には桑畑拓け、谷底には水田あり。生業は養蠶業にして繭の産多く、米・麥等の産これに次ぐ。山地には森林多し。川に沿ひて鐵道あり皆野町に通ず。また社殿秩父鐵道線は荒川の對岸を横口村より野上村を経て、村の西南端を掠め皆野町に通ず。横口村内に樋口驛、野上村内には野上・長瀬・上長瀬の各驛あり。この地は近世、秩父郡白鳥庄と呼ばれし處。白鳥庄は白鳥七郎大夫武平の九男、同三郎左衛門尉貞俊等、七氣系圖に見ゆる人の住せし地なるべし。大字岩田の城山に天神山城址あり、城は藤田右衛門佐重利の築きし城にして、藤田氏は上移氏に屬し、天文年中より北條氏に屬し、のち氏康の六男、藤田氏を繼ぎ藤田右衛門佐氏光と稱す。

シラツク

稱するものにて現に國寶たり。(覺林寺)曹洞宗。中房山と號す。本郡新宮村壽徳寺未なり。文治四年地頭中房式部大輔平秀幹の岡基に傳り開山を遺傳和尚とす。(大徳寺)大字阿玉にあり。臨濟宗妙心寺派。寶光山と號す。慶長年中領主菅野左京進大義開基し、玄仙和尚を請じて開山とす。正徳二年喪上、翌三年再建。明治六年再び喪上。近時再建せらる。

白鳥

【白鳥村】 埼玉縣武蔵國秩父郡の東北部。荒川の東岸。皆野町の北に位し、東は大里郡に隣る。全村皆山地にて中央に五三九米の山あり、更に南部の山地に續き西及び北は荒川の谷に向ひて傾斜す。傾斜地には桑畑拓け、谷底には水田あり。生業は養蠶業にして繭の産多く、米・麥等の産これに次ぐ。山地には森林多し。川に沿ひて鐵道あり皆野町に通ず。また社殿秩父鐵道線は荒川の對岸を横口村より野上村を経て、村の西南端を掠め皆野町に通ず。横口村内に樋口驛、野上村内には野上・長瀬・上長瀬の各驛あり。この地は近世、秩父郡白鳥庄と呼ばれし處。白鳥庄は白鳥七郎大夫武平の九男、同三郎左衛門尉貞俊等、七氣系圖に見ゆる人の住せし地なるべし。大字岩田の城山に天神山城址あり、城は藤田右衛門佐重利の築きし城にして、藤田氏は上移氏に屬し、天文年中より北條氏に屬し、のち氏康の六男、藤田氏を繼ぎ藤田右衛門佐氏光と稱す。

白鳥

【白鳥村】 千葉縣上總國市原郡の南部。西は君津郡久留里町、東より南は夷隅郡に隣す。全村丘陵地に於て西境に大蔵山あり。他にも約二四〇米の山地多く森林あり。村の中央は丘陵の裾合にて養老川北流し北の一部に田地あり。米・木炭を主産す。川に沿ひて鐵道あり。これに沿ひて社線小浜鐵道東南に走り、村内に月崎驛(大正十五年設置)、上總大久保驛朝生原驛(以上いづれも昭和三年設置)を、置く。この地は中古、高麗郷と稱し、徳新前には大岡氏・黒田氏の領地たり。(寶林寺)大字朝生原にあり。曹洞宗。富士山と號す。永祿七年里見義興の女陣坂、戦殺せし亡夫の書投を形ふために尼となりて本寺を創建し、善陽和尚を開山とす。

【白鳥山】 靜岡市の北東方約二九軒、富士川の右岸に峙つ山。靜岡縣麻原郡内房村と山梨縣南巨摩郡萬澤村との境上にあり。標高五六八米。寶永四年の大地震の際、この山崩壊し河を塞げりとの説あり。【白鳥】 東海道本線の貨物驛(大正五年設置)。名古屋南熱田區にあり。【白鳥村】 香川県讃岐國大川郡の東部。東は白鳥本町、西は三本松町に接し、北は播磨灘に臨み、海上約四軒に白鳥一子島あり。海川は村の中央を南北に流れ、東西南には山岳丘陵起伏し、東部には愛宕山、西部には秋葉山、三ヶ峯高まり、地勢北に向つて低く、河川には平地發達し、海川は淺流をなす。山林三〇八町・田

シラツク

【白鳥村】 千葉縣上總國市原郡の南部。西は君津郡久留里町、東より南は夷隅郡に隣す。全村丘陵地に於て西境に大蔵山あり。他にも約二四〇米の山地多く森林あり。村の中央は丘陵の裾合にて養老川北流し北の一部に田地あり。米・木炭を主産す。川に沿ひて鐵道あり。これに沿ひて社線小浜鐵道東南に走り、村内に月崎驛(大正十五年設置)、上總大久保驛朝生原驛(以上いづれも昭和三年設置)を、置く。この地は中古、高麗郷と稱し、徳新前には大岡氏・黒田氏の領地たり。(寶林寺)大字朝生原にあり。曹洞宗。富士山と號す。永祿七年里見義興の女陣坂、戦殺せし亡夫の書投を形ふために尼となりて本寺を創建し、善陽和尚を開山とす。

白鳥

【白鳥山】 靜岡市の北東方約二九軒、富士川の右岸に峙つ山。靜岡縣麻原郡内房村と山梨縣南巨摩郡萬澤村との境上にあり。標高五六八米。寶永四年の大地震の際、この山崩壊し河を塞げりとの説あり。【白鳥】 東海道本線の貨物驛(大正五年設置)。名古屋南熱田區にあり。【白鳥村】 香川県讃岐國大川郡の東部。東は白鳥本町、西は三本松町に接し、北は播磨灘に臨み、海上約四軒に白鳥一子島あり。海川は村の中央を南北に流れ、東西南には山岳丘陵起伏し、東部には愛宕山、西部には秋葉山、三ヶ峯高まり、地勢北に向つて低く、河川には平地發達し、海川は淺流をなす。山林三〇八町・田

白鳥

【白鳥村】 香川県讃岐國大川郡の東部。東は白鳥本町、西は三本松町に接し、北は播磨灘に臨み、海上約四軒に白鳥一子島あり。海川は村の中央を南北に流れ、東西南には山岳丘陵起伏し、東部には愛宕山、西部には秋葉山、三ヶ峯高まり、地勢北に向つて低く、河川には平地發達し、海川は淺流をなす。山林三〇八町・田

【白鳥村】 香川県讃岐國大川郡の東部。東は白鳥本町、西は三本松町に接し、北は播磨灘に臨み、海上約四軒に白鳥一子島あり。海川は村の中央を南北に流れ、東西南には山岳丘陵起伏し、東部には愛宕山、西部には秋葉山、三ヶ峯高まり、地勢北に向つて低く、河川には平地發達し、海川は淺流をなす。山林三〇八町・田

シラト

二四五町・畑五八町歩、地味肥沃、純農地にして、村民の大部分は農業に従事す。米(十四萬圓)・麥(十萬圓)を始め、(約三萬圓)・卵(八千圓)・蠶草(約二萬圓)・松茸(約五千圓)を出す。水産盛ならずとも鯛・鯛・鱈・鱈など約六千圓の收穫を示し、また海川口より白魚を産す、織物(綿帆布類)・莫大小手袋製造も白鳥本町と共に行はれ、織物約九十萬圓、手袋二千圓の產額を示す。本村は讚岐糖業の元祖山岡慶吉の出生地として砂糖は重要産業をなせしが現今衰頽して年産額四千圓に過ぎず。區道脇・冬尾線は海川に沿ひて南北に貫通し、三本松より阿波の鴨島町間を連絡し、昭和十二年春開通自動車を通じ得、三本松・福榮間には定期自動車の往來あり、區道二十二號線は村の北部を東西に走り、また省線高橋線も略同所を走り、三本松並に白鳥驛に近く、また三本松・白鳥兩港にも隣り交通不便ならず。本村はもと和名抄大内郡白鳥郷に屬す、明治十二年二月郡區改正、白鳥・湊二村成立、同十八年には白鳥・湊兩村合併、白鳥村外一箇村と稱し、同二十三年町制實施に當り白鳥村と改稱し、白鳥・湊の二大字を置く。海川の灌漑する平地とて早く開け、丘陵には先史・原史時代遺跡に富み、白鳥神社(白鳥本町)の末社村内に分布す。殊に田中神社はもと白鳥大神宮と稱し、縣社白鳥神社の舊地なりと傳へ、向良神社は

シラト

砂磔神と稱し、向山周慶を祀る。寺院には榮國寺(淨)・東照寺(言)・千光寺(言)等あり、龍燈松・高松寺址・天然記念物・龍目松など名跡少からず。(白鳥のうばめがし)指定天然記念物。大字白鳥にあり。區道の南方約二百米のタヅメ池の下方に立つ。根元の西側は道路に面し、低地なる故地盛をなして石壁を築く。幹は地上一米未満のところに二分し、南北の二支幹となり、分岐部の幹圍約六米、樹高約一〇米。【白鳥山】 鶴島山麓の一峯。宮崎縣西諸縣郡飯野村と加久藤村との境上にあり。標高一三六三米。山の東方に火口湖なる白鳥池あり、その北東方に飯岳(一三〇一米)峙つ。

シラトリ

【白鳥山】 鶴島山麓の一峯。宮崎縣西諸縣郡飯野村と加久藤村との境上にあり。標高一三六三米。山の東方に火口湖なる白鳥池あり、その北東方に飯岳(一三〇一米)峙つ。

シラトリ

物に假指定せらる。平地は一帶の沖積地にして、砂質地多きも地味肥沃、中央を一溪流北流すと雖水利宜しからず、數箇の溜池を備へ灌溉に供す、故に農耕に適し、米・麥・繭等を産出す。本町には省線高橋線が町の中央を東西に走り、讚岐白鳥驛(昭和三年設置)を置く。また高松・徳島間を通ずる道路も町の中央を通り、長尾・引田兩町間には定期自動車の往來もあり、白鳥灣には大阪商船の汽船寄航、高松・徳島・大阪間を連絡し、交通便利なり。當地はもと和名抄、大内郡の四郷の一たる白鳥郷の一部にして、松原・伊座・藤原の三村を含み、各庄屋を有し、市街部は天領として、猪熊・ト部兩家をして管せしめ、また間所を置き特殊の發達を遂げしが、維新後間所は廢せられ、第十三大區一小區松原村と稱し戸長を置き、明治四十三年一月に至り町制を布き白鳥本町と稱し、松原・伊座・藤原の三大字に區劃せしものにして、以前は特殊の經濟關係を有し、工業比較的盛に行はれ、製糖・製鹽・醬油並に酒造醸造など著しかりしが鹽田は廢せられ、現今にては新に莫大小手袋を始め、竹細工(八千圓)・製藥など起り、殊に手袋は年産額四十六萬圓に達し、全國産額の八割を占むるの盛況なり。されど副業として尙農業を棄てず、家内工業の盛なるに比し強固なる農村生活を維持し居れり。(白鳥神社) 大字松原に鎮座。縣社。祭

シラト

神、日本武尊、兩道入命、弟橘公命、創建年代詳ならずも、蓋し玉孫の祭祀に係るものなるべし。古事記傳には「源平盛衰記に日本武尊白鳥に化して讚岐國に至り白鳥明神となるといへり、今も白鳥村に白鳥大明神あり……この計にいみじく大なる白鳥の昔より今に住めり、長さ七尺許り……土人の傳へたるは日本武尊この鶴に乘りて此地に來ませりとの説なり云々」と見ゆ。中世、兵亂により一時衰微せしがもとの高松藩主松平頼重の崇敬して稍や面目を改む。もと八幡宮とも稱せり。社寶中、太刀一口は國寶に指定せらる。例祭、十月四日。(白鳥の松原) 縣社白鳥神社社殿の後方にあり。境内にあるものは東西約八百米、南北約二百米にして、北門より松原の東端まで約二百米なり。松は黒松を主として赤松混生し、幹の大なるもの周囲三米餘に及ぶ。境内の松原に接して北方の海岸まで白鳥町有の松原あり。悉く黒松にして末だ矮小なり。松原の前は遙に小豆島の東部に面し、松原の兩端の後方に丹生村の北山を望み、その北方に馬の鼻山長く海に突出し、前面に島嶼點在し、風光頗る佳し。

シラト

【白鳥村】 大分縣豊後國直入郡の西部。大野川上流の地に於て久住山南麓を占め竹田町の西方約九軒。北部は久住町に隣り西は熊本縣阿蘇郡に界す。北方に聳立つる久住山(七八八米)の南斜

面の地にて全體に東南方へ掃野を引きて... 三津、幅一〇一六津。北は三角瀬戸...

シラヌイ 不知火海

【不知火海】九州の西岸にあり、九州本土と宇土半島・天草島に囲まれし海にて八代海・八代海ともいふ。長さ凡そ六...

にては沖合の干潟にて一種の貝を漁る者... 【不知火村】熊本縣肥後國宇土郡の東南部...

歴史演習部の北端。樺太東海岸の中央部に... 【不知火】九州の西岸にあり、九州本土と宇土半島・天草島に...

シラヌカ 白糠

【白糠郡】北海道釧路支庁管内。白糠、白糠の二村に分る。...

部なり。カラシヨ山は白糠村より私設軌道敷かる。省線根室本線海岸野を東西に走り白糠、鹿路二驛(明治三十四年設置)を置く。...

シラネ 白根・白峯 【白根村】 熊本縣代官伊達郡の北西部... 【白根山】 日光火山群の雄峰。草津白根山と區別し、日光白根山とも云ふ。...

山岩より形成せられ、三角點は二五七八米に置かる。山頂部には大火口を存せず小爆裂火口(直径三〇米一〇〇米)數箇あり。...

尻沼に出づ。丸沼より小川に滑りて下り片品川との合流片品村を越えて上越線沼田より約七軒、自動車便あり。

【白根山・白根山】 日本アルプス(赤石山脈)の北部に連なる白根(白根山)の支脈。北岳(最高峰にして、三一九〇二六米)の三峰より成立し、北より南に伸び、白根(根)三山と稱せらる。山體秩父古生層より構成せらる。東側は山梨

温泉は南東方約七軒、須川の右岸にあたる。基底は珪岩及び新第三紀層より成り山體は輝石安山岩およびその熔岩流、碎屑物などより形成せらるる成層活火山なり。南北二箇の火山より成り、南に位置するを本白根山(二七六六米)、北に傾くを白根山(二六二二米)と呼び、共に秀麗なり。本白根はむしる熔岩臺とも稱すべし、白根は不完全なる截頭圓錐形火山なり。後者の山頂には巨大なる火口あり。東西に長き楕圓形を呈し、長径八〇〇米短径四〇〇米、口底に三箇の火口湖を存し、中央なる湯釜(最大にして直径約三〇〇米)、西方なる湯釜、東方なる湯釜と稱す。湯釜には酸性の熱水湧き、黄青色の水を流し、湯釜・水釜には黄濁の冷水を流す。湯釜の西部には硫黄を混する泥土堆積す。この火山は明治年間屢次活動し、昭和二年十二月にも爆發あり、山頂の南部に爆發火口あり。その中最大なるもの二箇相連して環形をなし水を溜へこれを湯池と稱す。省線信越本線新井

北西すれば遠峰附近より笠ヶ岳(二〇七六米)、赤石山、岩雲山の山麓の連りを望み、東面すれば奥日光、奥上州の高山巨峰を眺め、西東方に赤城・榛名の名山を見渡し、南方に淺間の噴煙を指し、奥望甚だ雄偉雄偉なり。登山は遠峰の北面側なる無ノ湯方面より行ひ得らる。山麓の緩傾斜面は近年スキー場として利用せられつつあり。「里はまだみぢの秋を時知らぬ白根に今朝は雪ぞふりける近衛山公」

シラハ 白羽

和名抄に夷漢語白羽郷あり、その地名今詳かならざるも夷漢語西畑村の邊に當るか。一に浪花村の邊なりともいふ。

シラハギ 白萩

【白萩村】 富山縣越中中新川郡の中部早月川上流一帯の地。北は下新川郡に、南は大日嶽連峰を境に立山村に界す。東境及び南境は立山火山群の一部にして、主峰銀嶽(三〇〇三米)をはじめ、奥大日嶽(二六〇六米)、大日嶽(二四九八米)、早乙女嶽(二二五八米)、赤谷山(二二五八米)、嶺又山(二二七八米)等の高山連なり、いづれも村内に傾斜し早月川、千石川等の分水嶺をなす。此等二川はいづれも西北に流れ、富山平野に出づ。全村殆んど森林にして木材を主産し、木炭も少からず。早月川上流には發電所もあり。交通は西南部に數條の山道あるのみにて

他は頗る不便なり。大字伊折の地は中部山岳國立公園の内に屬す。中世は弓庄の内に屬す。弓庄は一に揖斐庄とも書す。【白萩川】 富山縣中新川郡白萩村にある川。早月川の上流。日本アルプス立山連峰の高峰仙人山(二六一七米)の西斜面に發源して西流し、立山より源流する立山川とペンペ島附近にて合し早月川となる。谷底に滑り銀嶽(二九九八米)の登山路あり。

シラハタ 白旗

【白旗山】 源氏山(神奈川縣)

【白旗山】 赤松村(兵庫縣)

【白旗村】 熊本縣肥後國上益城郡の西南

那。中流の中流の右岸に滑り、熊本市の東南約一軒、御船町北部中央に侵入す。東半北部は一五〇—二〇〇米程の山地をなし東半南部及び西半は陸川流域の沖積低地をなす。緑川南境に滑り西北流す。主産業は農業・養蠶業にして米・繭・麥・粟種を産す。西北方熊本より来る道路川の北岸に沿ひ東南方へ走り一道は東部山麓を御船町より東南に向ひて東南隅にて前者を連絡し、熊本より走る社線熊延鐵道東部を西北より東南に走りて下早川(大正十二年設置)あり。大字早川には早川城址あり。當城は建長五年邊遠近江守秀持の築城にかり、村名早川を以て氏とし、阿蘇家に屬す。天正中に至り佐々成政に仕へ、のち邑を失ひ熊本に移るといふ。(早川縣島神社) 大字早川に

シラハマ 白濱

【白濱村】 千葉縣下總國匝振郡の南端。九十九里濱の一部を占め太平洋に臨む。西は山武郡に隣り。中部には水田多く北部は畑地をなして林を交へ、東南部の海岸附近に畑地あり。米・麥の多きも、生業は漁業とす。海岸は平直にして砂濱をなす。鰻道は村の中央を東北に走り、またこれと分れて西北に向ふものは山武郡横芝町(約四軒)に通じ、同町に省線武本横濱芝驛を置く。この地は和名抄、匝振郡幅間郷の地なるべし。大字木戸に木戸岩址・木戸降屋址あり。また附近は海水浴場として知らる。

白濱町

千葉縣安房國安房郡の南端。太平洋に臨む。殆ど丘陵地にして南部の海岸に細長き低地あり。西部及び東の一部に水田ありて他は畑地をなし米・麥の産あるも漁業を生業とす。海岸は磯濱をなし西部に野鳥崎突出し野鳥崎燈臺(明治二年設置)あり、一に白濱燈臺ともいひ、燈臺四白光、毎二十秒に一閃光、光速距離一七哩、無線電信所を併置す。夏季は海水浴場としてよく知らる。海岸に沿ひて縣道あり、北方前山北條町より來り、東北千倉町(約六軒)に通じた省營

白濱

自動車北食水線通ず。この他前山北條町との間に省營自動車線あり。この地は長尾村と共に和名抄、安房郡白濱郷の地にして、昭和八年町制を布く。本町は嘉吉の戦後、里見義實結城を脱し、始て此國に入りし所にして、實に里見氏發祥の故地なり。宇青木の地に其城址あり。文安二年、義實の築く所なり。のち稻村に移れり。明治元年本町正納、駿河田中城より、封を水州に移し、城を富村長尾に築き、長尾藩と稱し、同三年十一月、北條に移りて城廢せり。里見八犬傳、九ノ二一「法師も里見の寶貨箱、八行の懸、打出の籠、羅漢笠、隠れなき、名を顯せたる天下の、悄悄隠れば上總なる磯山傳ひ水長島、安房の白濱崎々と、明けゆく時候に風情で、港口に船は果るなるべし」(杖球院) 曹洞宗。三峰山と號す。文安三年國主里見義實の開基に係り、往時は國主の養老院として有名な大刹たりしも、里見家斷絶してより漸次衰頹に傾き、今は漸く寺名を保つに過ぎず。(福壽院) 曹洞宗。明安山と號す。本郡國府村延命寺末たり。永正十四年里見義成の創建に係り萬載是期和尙を開山とす。

白濱

安房國(千葉縣)の古地名。和名抄に平群郡白濱郷あり、之長波萬と訓す。近喜兵衛省式の安房國、白濱驛馬五疋とあるは此地にして、郷にして驛を兼ねたるものなるべし。その地今の安房郡保町田の邊なるべし。

本村は明治二十九年濱崎村の大字白濱を分割し新たに建てたもの。...

見ゆる安里も此地なり。中世は松原庄と云ひ石清水八幡領たり。...

して、古來ここに船橋や堤防等ありしこと「橋場」なる名の残り居るところより...

り流下する白川西に流れ、流域に東西に狭長なる低地あり。流域低地には水田あり...

シラヤマ 之良夜麻 萬葉集に見ゆる地名。之良夜麻は白山にして、恐らくは越の白山、即ち加賀の白山を稱せしものなるべし。...

風の習なへとも子が眞實のあること多し。シラヤマ 白山 白山村 岩手縣陸奥國磐前郡の東南部。...

此地は明治九年上麻生・淵・日呂木の三箇村を合併して稲置村とし下麻生・白山の二箇村を合併して白山村と稱せし。...

大谷流。弘仁六年弘法大師の創建と傳へる。見取大師の苗裔善徳なる者越前に來り...

東國へ向ひし時、途に難航し宗良親王の船は此の濱に着き、やがて井伊谷城に入りたまふ。「春日神社」大字白羽に鎮座。惣社・祭神、武妻神命・経津主命・天兒屋根命・萬幡比賣命。寛永十五年濱松城主高力某、元禄九年西尾藩邸守社殿を再建す。江戸時代を通じて朱印領五石、例祭八月二十二日。

シラン

【芝蘭街・芝蘭新街】 ↓士林街(臺灣臺北七尾郡) 臺灣臺北州の古地名。初め三貂・基隆・金包里の三堡をも包括せり。淡水廳志に「芝蘭堡、東北接噶瑪蘭界、西北臨海」とあるによりて知らる。現士林街士林の前身たる芝蘭街を主地とするより後名出づ。光緒元年前記三堡を分立し、十四年更に一・二・三の三堡に分つ。一堡の區劃はいま七尾郡下士林街の内、大字和尙洲中洲埔を除いたる全部に、内洲庄の内、北勢湖・内洲・新里族の三大字を合したる地域に相當し、二堡は北投庄全部に士林街の内、大字和尙洲中洲埔を合したる地域、三堡は淡水郡下、淡水街・三芝庄の各全部に石門庄の内、大字下角(金包里堡)を除きたる殘餘を合したる地域に相當す。大正九年十月地方官官制改正に依りて廢せられ、前記諸街庄に分割せらる。

シリウチ

【尻内】 青森縣三戸郡上長苗代村の大字。東北本線の尻内驛(明治二十四年設置)あり、青森八戸線・社線五戸電線に接続す。 【シリウチ 知内村】 北海道渡島國上磯郡の南端。渡島支庁管下。渡島半島先端の西尾郡に位置し、津輕海峡に東面し、約三八軒の東北對岸に函館市を望む。面積一九六・九平方軒。西北嶺山支離との境は特長岳(六八五米)・セツ岳(九五七米)・觀岳(六八五米)その他の群峰屹立し、西部は山地に蔽はれて高く、南端また五〇〇—七〇〇米の山地錯るも夫々海岸に向ひて低下し沿岸に平野を展く。湯川・コモナイ川・チリチリ川等西部及び南部山中より發し兩山地間の中央にて合流し村心を東に流れて海に入る。流域及び河口に堆積平野ひろげ、河口に知内の聚落發達す。北方より來れる地方穀類、福山街遺川添ひに通じ、東萊の街村あり。重内・中ノ川の諸川また河口に海岸堆積平野を形成し、海岸線極めて平滑なり。福山町より木古内驛(北隣木古内村)間のパスの便あり。漁業を主産業となす。産物には昆布・鮭・馬鈴薯・大豆・木材あり。湯川流域に知内温泉の湧出あり。この地は明治十四年迄は松前郡に屬せり。同三十九年二級町村制を布く。應永十一年荒木大學この地に藥師堂を建つ。 【シリウチ 時裡澳】 同上。馬公街(臺灣) 渡島國島田郡の東南部。渡島支庁管下。

シリキシナイ

【尻内内村】 北海道渡島國島田郡の東南部。渡島支庁管下。に茅沼山、市尾村、俱知安町、狩太村に亘る岩壁登陸路あり、南尻内村・熱郭村に跨る大金銀銅嶺山、黒松内村の來馬銀嶺山、大江村の松別銀嶺山、山等は何れも主要嶺山なり。工業には本道唯一の製粉工場たる日本製粉會社小樽工場が小樽製粉にて稱へ居るも、他は何れも家内工業若しくはそれに近き小工場にて、瓦斯・コークス・製炭・石油・製粉・木製品・金屬製品・竹製品・靴製製品・革製品・清酒・醤油・味噌・沃土等を主要生産品となす。省線前本線は渡島支離より入りて黒松内、俱知安、余市等を過りて石狩支離に接し、同線の小樽村より省線岩内線、黒松内村よりは社線岩内線と連絡し、俱知安町より分岐する省線京極線、更にそれより分岐する社線岩内線は共に鐵道富士野野の開拓に貢献せり。沿岸地帯は天保因荒以降内地人の安住を見たも、内陸は俱知安町にて明治二十六年の開村に過ぎず、その後の入移民にて漸次發展し來りしものにて、沿岸に渡部・磯部・磯谷・岩内・磯谷・高島等の漁業聚落發生し、内陸の鐵道沿線に黒松内、狩太、俱知安、京極等の農業聚落發達す。後志支離はもと小樽・岩内・壽都の三支應管轄區域一國と室蘭支離(今の釧路支離)管轄區域の一部狩太・流野の二村を合し、明治四十三年支離を置く。後志國の大部分なる壽都・

シリベシ

【後志支離】 北海道十四支離の一。北海道本島の西南部に位置し、東は石狩支離、南は釧路・渡島及び檜山の三支離と境し、北及び西は日本海に臨む。面積四二七六方軒。本支離は渡島半島の基部に當り、その自然的狀態は東北地方と略一致す。東部は蝦夷富士火山群(釧路または後志火山群とも呼ぶ)地域に屬し、その主峯なる蝦夷富士(或は後志方羊蹄山、一八九三米)を冠し、昆布岳・岩壁登(硫黄山)・雷冠山・余市岳等の諸火山噴起し、日本海に楕圓形に突出せる積丹半島もまた火山性臺地にて積丹岳聳立す。その西部に壽都より長萬部へ南北に貫く狭長なる構造低地帯あるも、更にその西部に接する渡島山地の北部は、主として第三紀層及び火山岩より成るも、所々にそれ等の基底をなす古生層及び花崗岩をも露出せる五〇〇—一二〇〇米の壯年の開析されし中起伏の曲陸地塊をなし、太平山(一一九一米)は此地域の主峯たり。河川は短小にして尻別川を最大とし、余市川・松林川・朱太川・太平川等を主たるもの

シリベシ

【後志支離】 北海道十四支離の一。北海道本島の西南部に位置し、東は石狩支離、南は釧路・渡島及び檜山の三支離と境し、北及び西は日本海に臨む。面積四二七六方軒。本支離は渡島半島の基部に當り、その自然的狀態は東北地方と略一致す。東部は蝦夷富士火山群(釧路または後志火山群とも呼ぶ)地域に屬し、その主峯なる蝦夷富士(或は後志方羊蹄山、一八九三米)を冠し、昆布岳・岩壁登(硫黄山)・雷冠山・余市岳等の諸火山噴起し、日本海に楕圓形に突出せる積丹半島もまた火山性臺地にて積丹岳聳立す。その西部に壽都より長萬部へ南北に貫く狭長なる構造低地帯あるも、更にその西部に接する渡島山地の北部は、主として第三紀層及び火山岩より成るも、所々にそれ等の基底をなす古生層及び花崗岩をも露出せる五〇〇—一二〇〇米の壯年の開析されし中起伏の曲陸地塊をなし、太平山(一一九一米)は此地域の主峯たり。河川は短小にして尻別川を最大とし、余市川・松林川・朱太川・太平川等を主たるもの



シリハ——シリシ

龍及び函館等の五支離置かるるや、小樽、高島、忍路、余市、古平、美園、積丹、岩内、古宇の九郡は札幌本廳に、幾餘の八郡は函館支廳に分轄され、明治十三年郡役所を開闢するや、小樽(小樽・高島・忍路・余市)、古平(古平・美園・積丹)の二郡は岩内(岩内・古宇)の三郡役所は前者内に、久遠(久遠・奥尻・檜山・太樺)二十四年(檜山)に編入、

シリベツ 尻別

【尻別岳】北海道本島西南部の一大山。銀夷富士の東南に位し、海拔一〇七米、その西南の麓負山(七一五米)、東南の麓別山(九九四米)と共にトロイデ型を呈し、これ等の西南には留邊郡を主部落とする留邊原野が広がる。【尻別川】北海道後志支廳管下の河。後志川ともいふ。有珠火山群の北部に源を發して西流し、銀夷富士の裾野を北に大迂回して東俱知安村、俱知安町を過ぎ、狩太村附近より再び方向を西に轉じ、磯谷村にて日本海に注入す。流路延長一四三軒、流域面積一六五五平方軒。

シリヤ 尻屋崎

シリヤ 尻屋崎 千島火山群の一峯。千島列島樺太島の南西岸突出部に聳立する圓錐火山にして、標高一七七二米。山頂部に北方に開く火口を有す。西曆一七三七年より一八五九年に亘り數回活動せり。

シリシ 士林街

シリシ 士林街 臺灣臺北州七星郡二街三庄中の一。臺北市の北側に位し、大體東北より西南に延びたる細長き地形を爲す。東は大嶺峠を以て基隆郡金山・萬里二庄に界し、南は汐止街・内湖庄・臺北市に接し、西北は七星山及び其の餘派を以て北投庄に界し、西南は淡水河を隔てて新莊郡洲子庄と相對す、南方内湖庄との間に大崙尾山聳え、北及び東は山岳丘陵相連り、此等の山地は皆内の大部

シリ

分を占め、漸次西南に傾斜す。河川の主なるものは淡水河(西南境)、基隆河(下流)、雙溪川にして、基隆河は關渡(Keelung)に於て淡水河に合し、後者との間に莊子・漢洲底・和尙洲中洲浦の三大字の立地する大デルタを形成す。雙溪川は街の東部、大字坪頂に發源し途中數多の小溪流を合して東南流し、大字洲尾に至りて基隆河に注ぐ。平野は街の西南部、此等河川の流域に展開し、臺北平野の一部をなす。廣袤東西七八五四軒、南北一四二九一〇軒、面積六四八七方軒(四方里餘)管内は山地大部分を占むるも、果樹園及び其他の畑として廣く開墾せられ田圃面積各一千二百甲前後にして、産業は農業を首位とし、住民の過半数は農業者なり。農産物は平地にては米・蔬菜類、甘藷(生食用)を主要なるものとし、山地よりは柿・柑橘・パイナップル其他の果物類を多く産出す。農家の副業として豚・鶏及び其他の家畜の飼育盛なり。大字七段(北嶺山地)には街經營の放牧場を有す。該牧場は總面積一千餘甲歩を有し、農閑期に於ける耕牛の預託を受け、約千頭を收容することを得。若者は耕牛の生産をも圖らんとする計劃なり。他に長春畜産株式會社經營の乳牛牧場ありて臺北市に牛乳を供給す。工業は臺灣製紙株式會社の工場を除けば工場概ね小規模なるも、麻織・小刀製造・椪糖製米・製茶その他の工場多く、紙・粗製茶・麻

置く。本縣は上下兩車の交又點に當り、三十分毎に臺北及び淡水・新北投方面へ發車す。道路の内、臺北—淡水間—士林—金山(基隆郡)間は指定道路にして、共にアスファルト舗装を施され(但し前者は北投、後者は草山まで)、前者には局營バス、後者には巴自動車會社經營の臺北—草山—北投循環バスの便あり。なほ士林—關天母温泉(三角埔)間には天母バスを運轉す。大字士林は本街の中心地に於て小市街を形成し、街役場・郡警察課分室・郵便局・公學校・信用組合・製紙會社・小賣市場・公會堂・驛等ありて、早晩臺北市に編入せらるるの運命を有す。今その沿革を見るに、清の康熙末年(順治)北投庄)地方に在りし編建の漳州・泉州人は進みてモオシ・オアン(毛少翁)といへる平埔蕃族の土地(毛少翁なる蕃族は今の大宇社附近にありしも、地殼の變動及び水流の關係により河底に埋没せりといふ)を獲得して開墾し、八芝蘭林 Pechalan と名づく。もと平埔蕃族のバツナイアムに宛てたる近音譯字に、林野を意味する林の字を添へたるものにて温泉の湧出するに基きて名づけられたる一帯の地名なりしを、即ち取りて一部の稱となす。その街緯の初めて形成られしは雍正二年九月にして、初め竹を圍らし、十餘の小草店を建て、名づけて店仔街といへり。五年には店屋を増建せられ、そ

シリシ

の八芝蘭林に在りし市場なるを以て八芝蘭林街と改稱し、乾隆六年には街界に神農宮を建てられ、のち地名を略して八芝林 Pechalan とし、かくして附近一帯を開拓せられ、八芝蘭街は中心市場の姿を爲し、乾隆の末年頃より芝蘭街と呼ばれ、その位置は現市街の北方、大字福徳洋方面なり。次いで咸豐元年、漳泉人の分類械闘あり、爲めに街界悉く泉州人に燒かれ、九年新に南方なる基隆河岸に一市街を建て、芝蘭新街と名づけ、舊市街を舊街と稱す。當時又呼びて士林街といふ。蓋し士林は、古來學者を多く輩出し、風に文士の叢地たるの稱を寓し、芝蘭の口語音ナイアを讀音ナイリムに轉じ更に近音の佳字を宛て士林となせるものなり。(其後原住の街民により舊街の故址に肆店を再建せられしが、同治六年の地震に過半崩壊し、爾來衰頹して現時は全く廢墟に歸す。大正九年現行制度實施に伴ひ、大字士林となり、我が領臺後事務署又は支廳の所在地たり。大字雙溪には士林水源地、福徳洋には臺北水道開山貯水池及び中央研究所農産部の園藝試驗支所あり。本街は和尙洲中洲埔(もと芝蘭二堡に屬す)を除き、他はもと總て芝蘭一堡に屬し、同堡の大部分を占め、且つその中心をなせり。帝國領臺後數度の變遷を経て大正九年十月に至り、自治制施行と共に、清領時代より存続せし堡は廢せられ、舊士林區の一部大直を臺北市に割

分を占め、漸次西南に傾斜す。河川の主なるものは淡水河(西南境)、基隆河(下流)、雙溪川にして、基隆河は關渡(Keelung)に於て淡水河に合し、後者との間に莊子・漢洲底・和尙洲中洲浦の三大字の立地する大デルタを形成す。雙溪川は街の東部、大字坪頂に發源し途中數多の小溪流を合して東南流し、大字洲尾に至りて基隆河に注ぐ。平野は街の西南部、此等河川の流域に展開し、臺北平野の一部をなす。廣袤東西七八五四軒、南北一四二九一〇軒、面積六四八七方軒(四方里餘)管内は山地大部分を占むるも、果樹園及び其他の畑として廣く開墾せられ田圃面積各一千二百甲前後にして、産業は農業を首位とし、住民の過半数は農業者なり。農産物は平地にては米・蔬菜類、甘藷(生食用)を主要なるものとし、山地よりは柿・柑橘・パイナップル其他の果物類を多く産出す。農家の副業として豚・鶏及び其他の家畜の飼育盛なり。大字七段(北嶺山地)には街經營の放牧場を有す。該牧場は總面積一千餘甲歩を有し、農閑期に於ける耕牛の預託を受け、約千頭を收容することを得。若者は耕牛の生産をも圖らんとする計劃なり。他に長春畜産株式會社經營の乳牛牧場ありて臺北市に牛乳を供給す。工業は臺灣製紙株式會社の工場を除けば工場概ね小規模なるも、麻織・小刀製造・椪糖製米・製茶その他の工場多く、紙・粗製茶・麻

行ふ。昭和五年一月神前に芝山巖社を建立せり。惠濟宮は改築三年前の再建にして、開漳聖王・文昌帝君・觀音佛祖を併祀し、古來文人の此處に會して詩を賦し、文を揮りし處。莊嚴にして天然の風光美と相俟ち譽絶に富む。明治二十八年七月總督府學務部事務所及び公學校の遷移とも云ふべき學堂に充用せられ、次で國語學校・同校の附屬學校・芝蘭公學校と三十七年十一月まで順次に校舍に充用せらる。斯の如く芝山巖は臺灣教育發祥の地なれば、昭和八年十一月臺灣史蹟天然記念物調査委員會に依り、惠濟宮と殉難諸氏の碑とを併せ史蹟として指定せらる。尙同丘の森林は處女林にして同委員會により同時に天然記念物として指定せられ學術上貴重なる地域なり。(反經石)士林驛の北方約四軒、草山街道の右側十數歩の田圃中にあり。短徑一米、長徑二米大の岩石にして、試みに石上に磁石を置けば磁針回轉して反對の方位を示す。(聖人の瀝)士林驛より東北約十一軒、雙溪川の上流、雙溪宇内雙溪に在り。高さ約十米、幅約四米、四時水量多く、壯觀を極む。近時ハイキングに來る者多し。

シリシ

【士林街】臺灣臺北州七星郡の西部にある街。東は埤頂庄、西は沙山庄、南は竹塘・大城の二庄、東北は員林郡に夫々界す。西北部に住時季節風に因りて生じたる多くの低き砂丘あるは、土地平坦、

シリ

シリシリン

地味概ね肥沃にして、水稲・甘藷・甘藷等の栽培に適す。住民の約四分の三は農業者にして、大字二林を除く外は純然たる農村部落なり。管内の大部分は元來所謂海埔地帯に屬し、土地砂質にして、季節風期に於ける飛砂は微甚を極め、西北部沙山庄との隣接地帯即ち舊趙甲・萬合・山寮の各大字方面殊に甚だしく、往時大砂嵐を形成し、季節風の襲来により砂嵐は北より南に漸進的に移動し、爲めに耕地も一朝にして砂質化し、家は埋没する等、農作物は勿論、衛生方面に於ても被害頗る大なるを以て明治三十三年以來諸種の困難を排し飛砂防止保安林を特設指定せしより、爾來引續き砂防造林を實施し來り多大の効果を挙げたり。米・甘藷・甘藷・落花生其他諸種の農産物の生産頗る大なり。畜産は畜牛・豚(肉豚・仔豚)・家禽等にして、殊に養豚は農家副業の首位を占め、農家經濟の有力なる一支柱をなす。大字二林には三三公司醸成造酒事務所及び之が經營に係る製糖工場あり。工業は該工場を除けば、規模概ね小にして舉げて算ぶべきものなし。商業は大字二林の市街に於て行はれ、殆んど地方消費を對照とする小取引に過ぎず、最も主要なる商品は鹽貨類にして、穀物・魚類・肉類等之に次ぐ。大字二林には卸市場及び消費市場を有す。教育方面に於ては尋常小學校一、公學校三を有し、本島人兒童の就學歩合は甚だ低く、男女平均三〇%に達せざる状態なり。これは地理的關係上民度の低きに因るものにて、不就學者多きに鑑み社會教育の振興に依り一般民心の啓蒙に努むべく、都教化聯盟の下に青年團・國語講習所等を設置し、國民精神の涵養・國語普及等に多大の努力を拂ひつゝあり。衛生状態は地理的關係上土地低濕なる爲め、良好なりといふを得ずマラリアの發生多く、加ふるに冬季に於ける季節風の微甚は保健上乃至衛生上に大なる害を及ぼし、飛砂に起因するトラホームの罹患率高く、看過すべからざる状態にあり。昭和八年三月以來管内に三箇所の治療所を設け、無料にて治療を爲しつゝあるも、民度の低きと衛生觀念の薄きとにより、所期の効果を見る能はざる憾みあり。金融機關は二林信用購買利用組合の外、二林振業會社・二林商事公司・二林金融公司等あり。交通は比較的便利にして、變水港製糖株式會社經營に依る私設鐵道は大字二林を終點とし、東方竹崎・淡洲・北斗等を經、田中驛に於て鐵貫線に連絡す。道路は指定道路(北斗・二林間)・二林(淡洲間)をはじめ、産業道路・保甲道路よく備はり、近接諸主要地との間に各々聯合自動車の便を有す。大字二林は郡の主要北斗街を西に距る一七軒。もと神務署又は支廳の所在地にして、本郡西部の中心地たり。海乾隆末年以來漸く發達して、一市街を形成し、之より先に發えたる三林港(現

沙山庄溝子堀の前身)の商勢は當地に移りて支配せらるることとなり、道光初年に三林港の喪失するや、更に西北一里なる香林港(現沙山庄沙山の開かるるありて、物貨の吞吐口となり、二林は依然當地方の集散市場たりき。當時附近一帯は落花生及び小麥を産し、製油業盛にして香林港を経て對岸及び鹿港との交通頻繁を極めたりといふ。從つて當時は文教盛にして書房林立し、所謂讀書人多く、嘉慶十六年知縣楊桂森は當地の儒學盛なるを見て、「儒林」と稱讚せしより、轉じて二林なる地名となれりとの説あり。然れども明治初年以後開闢及び水害等の影響を蒙り、住民は多く彫化、鹿港に移轉し、嘗つて一千餘戸を算せし殷盛の市街なりしも、改定當時は僅かに二百戸を過ぎざるまでに凋落せり。近時地方産業の勃興に伴ひ農産物の激増と共に再び發達す。本街の内、萬興・松子・金子崎の三大字はもと二林上堡に、福清・丈八斗の二大字はもと深井堡に、爾餘は總てもと二林下堡に包括せられ、往昔は濁水溪に因りて形成せられたるデルタの一部に屬し、磯礫にして砂礫地乃至は沼澤廣狭の地なりしも、明末鄭氏本島占據の役對岸より渡來移住するもの次第に増加し、一部移民は二林を中心として不毛を拓き、部落を形成して今日の基を開けり。明治二十八年帝國領事以來數次行政上の變遷を経て、大正九年十月に至り、自治制施行と

共に、清領時代より存續し來りし堡は始めて廢せられ、十六大字(もと各々庄と稱す)は一括せられて新に二林庄となり、昭和十三年二月街となる。

【二林】臺灣中州の古地名。一林上堡・二林下堡に分かる。清の康熙六十年代に於て、深井堡・二林下堡の二堡を包括して二林堡を建てしが、雍正十二年深井堡(二林下堡を含む)を分立し、乾隆年間深井堡は更に二林下堡を分立せしめ、二林堡を二林上堡と改稱す。もと平埔蕃族がアオサカ部族のマカトヤン、即ちジナア(二林)社の所在地たりしにより堡名となる。其の區劃は日林部下、埔鹽庄の内、石埤脚・浸水の二大字、淡洲庄の内、溪湖・頂寮・西勢厝・許厝・大突・田中央の六大字及び北斗部二林庄の内、萬興・松子・金子崎の三大字を合したる地域上堡に相當し、北斗部下沙山庄の内、王功・淡寮園・草湖の三大字に、二林庄の内、二林・中西・火燒厝・竹園子・外厝竹塔・梨頭厝・後厝・山寮・萬合・舊趙甲・大排沙の十一大字を合したる地域下堡に相當す。共に我が領臺後依然存續し、大正九年十月地方官制の改正に依り廢せられ、前記諸庄に分割せらる。

シリシリン 志林規島 千島列島中の一。列島の北部、饒夷島の西方にある消火山島。島の直徑約四軒、最高點七四九米。山は圓錐火山にて頂上に西方に開く火口を有す。

シルタニ 落谷越

↓京都市(二一八九頁)

シルトル 知取町 樺太元泊支廳元泊郡の北端。東はオホーツク海に臨み、南は元泊村に、西は泊居支廳に、北は數番支廳に隣接す。西境に西樺太山脈に屬する惠須取山(一三五五米)ありて山脈は南北に走り、その間に火山噴出し鶴城火山群中の釜伏山(一〇八七米)あり、東方に五百乃至六百米の崩山また南北に連互し、更に其東に知取岳(七一〇米)あり。知取川・北邊古丹川等の河川は西境主分水嶺より發し梨嶺式水系をなして東流しオホーツク海に注ぎ、知取川の下流知取岳の南麓を蛇行して東流する所は斷崖絶壁をなし遊仙峡の名にて知られ、河口に知取港あり。山地は白堊系及び第三紀に屬する砂岩・頁岩・凝灰岩・泥灰岩・凝灰岩よりなり、第三紀岩類中には廣大なる石灰層を含み、河川流域は第四紀沖積層よりなる。沖積地には知作農産行はれ、知取港を中心とする鮭・鮭・鱒等の漁獲も多く、製糸・石炭の産も多し。此線樺太鐵道は海岸に沿うて走り東樺太支廳・北樺太支廳(昭和二年設置)・樺丹支廳・大鶴取支廳(昭和五年設置)を置き、北方數軒に達する街道これに沿ひまた海上の東海岸鐵路の寄港地たり。この地の露領時代に於ける状態は詳ならざるも、此附近は南林地帯にして知取川河口の北岸平地に僅に五十六戸の露人居住し、農牧狩獵に

從事す。この外海濱に極めて少數のアイヌ人散在し、漁獲をなし居たる一農村に過ぎざるもの如し。明治三十九年領有以來漁業期に邦人渡來し、同四十二年露艦を設け居留及び敷置に至る中間地帯として移住者漸く多きを加ふ。主として夏季は漁業に冬季は狩獵を以て生計を樹て、川崎船又は大船を以て海岸に沿うて各方面との連絡を保つに至る。大正五年當時露は工場地としてその調査所をシルトル(大字知取)に設置せられ、同八年シルトルを東知取と改稱し部落總代を置き始めて本町の基礎を確立す。同十二年東知取村を設け、當時の人口四五〇人。翌十三年富士製紙の工場設けられ、同時に知取炭礦の開採を見るに及び來住者漸増、同十四年北樺太撤兵により、亞港より約一、二〇〇人の移住者等ありて著しき發展をなし、同十五年町制を布く。いま警察署あり。(知取炭礦) 大字知取にあり。礦區面積約六〇〇ヘクタール、年産約十五萬噸。大正十三年開採し、樺太礦業會社の經營に屬す。炭層は東海岸上部夾炭層群に屬し、走向北二三度東、傾斜急にして上部に於ては西に、下部に於ては東に約七〇度なり。主要炭層は厚さ〇・六乃至三米のもの六層あり。現在二番層(二・三米)・三番層(一・三米)及び四番層(一・五米)の三層を採行す。水準以上は廢入坑道、水準以下は斜坑により何れも炭層

の方向に開採して各層に達し、それより炭層の走向に沿ひて主要坑道を設け、その上部に於て之と平行に中切坑道を掘進す。炭質は低度揮發炭に屬し不粘結性にして、出炭の殆ど全部は知取製紙工場用として使用せられ、冬季は僅に市中央庭用として販賣せらるるにすぎず。

【知床半島】 樺太島の東南端部をなす一半島。北海道本島の知床半島及び樺太島の北知床半島に對し中知床半島と呼ぶこと多し。↓中知床半島

【知床村】 樺太大泊支廳長濱郡の南部。樺太島の東南端中知床半島の南端部を占め、北は長濱村に界し、東はオホーツク海に、西は亞底灣に臨む。中知床山脈は半島の脊梁をなし釣鐘岩山(四七三米)・三角山(二五七米)・知床山(重嶺山)等聳又南端は中知床岬となる。山脚は直に海に迫り海濱に注はれて多くは海崖をなし東北海岸に皆別湖あり。皆別湖より北に砂嘴發達し皆別湖は僅に開き海に開く。皆別川・乳根川は東に流れ、彌満川は西に流れるも沖積地の發達著しからず。山地は古生代の磁岩・砂岩粘板岩・輝綠岩・灰岩・石灰岩等よりなり、之に火成岩・蛇紋岩の如き火成岩を伴ひ夾炭層を含み、致岩の如き火成岩を伴ひ夾炭層を含み、その岩質一般性狀は北海道の古生層と同様に砂金・砂白金を産するも、其量は極めて少く單獨採行の價値少し。海岸線は頗る單調にして東岸に皆別・乳根が、

シルタニ シレット

南の方角半島基部まで約一〇〇軒、西はオホトツク海に臨み、東は根室海峡を隔てて阿寒島に相對す。殆ど全部が所謂知床阿寒火山部の礫石安山岩よりなる。中央分水嶺は海拔六〇〇—一七〇〇米、標津岳(一〇六一米)、サマツケアザリ岳(一〇六三米)、斜里岳(一五四五米)、海別嶺(一四一九米)、遠野別岳(一三三二米)、碓氷山(一五六三米)、羅臼岳(一六六一米)、知床岳(二五四四米)は特に秀で、何れも休火山なるも、碓氷山は數度の噴火の記録を有す。半島の東北半部は山間直ちに海に迫り三〇—一〇〇米の海崖をなして海に臨み、西南半部は二〇〇—三〇〇米の海崖より漸次階段状をなして海に濱す。河津は何れも短小にして東北半部にては瀑布をなして海に注ぐもの多し、この地域の基盤たる第三紀層は海間に若干露出するに過ぎず、第四紀層の亦部分極めて少し。從つて耕すべき平地乏しく、人煙稀少の地帯を大部分を占む。近海は鱈・鱒・鮭・鮪・鰈・大鱈・鮠・昆布等の海産物豊富にて、東海岸の羅臼、海別、西海岸の遠野別等の漁業發達し、殊に羅臼は本半島第一の漁港にして漁期に遠内外より多數の出稼人集る。陸上交通は至つて不便なるも、分水嶺には北半の碓氷山、知床岳間の峠(二九四米)及びその頸部の忠類川、斜里川との分水界をなす峠とありて古來土人の交通路となり、殊に後者は重要にて伊茶仁、斜

里間をつなぐ根北鐵道の豫定線路となり、海上交通は漁期に於てのみ發達機船・帆船等の運航頻繁なり。

【知床峠】北海岸本島の東北端をなす峠。北緯四四度二分、東經一四五度二〇分。オホトツク海に突出せる知床半島の先端を占め、東は根室海峡の北北西角に當る。半島の分水嶺をなして急に下り、海拔二〇米の海岸段丘となり、直に海崖をなして海に終るも、その延長に淺地見られ、その上は急傾なるも、東西の兩側は一〇〇米の等深線の海岸線に近く迫るに從つて深海となる。附近には定住者なし。

【知床】室蘭本線の一路(明治四十二年設置)。北海道振興國自老郡自老村にあり。

シロ 白島 (若松市(福開郡))

シロ 城 (三奈木村(福開郡))  
シロガハラ (四郎ヶ原(北見郡))  
シロ 口 (美唄市(厚保村))

シロ 山 (伊賀山塊に屬す)

シロ 山 (伊賀山塊に屬す)  
シロ 山 (伊賀山塊に屬す)

シロ 山 (伊賀山塊に屬す)  
シロ 山 (伊賀山塊に屬す)

シロイ

宗妙心寺。菅茶山と號し、天正十三年仙臺重信片倉小十郎景綱の開基に係り、開山を天心智觀和尚とす。爾來宗風大いに興り、末寺十三箇寺を統ぶるに置る。現に八箇寺を存す。

【白石嶺】明治二年八月七日磐城國刈田郡白石に置きし嶺。同年十一月二十一日縣廳を伊具郡角田に移して角田縣と改稱。四年十一月仙臺縣(後に宮城縣)に併す。

【白石町】佐賀縣肥前前井島郡の東部。佐賀市の西南約一二軒、東は福富村に南は北有明村に隣接す。有明海の北部に注ぐ六角川の沖積地にして土地低平、灌溉排水の利多く水田卓越し米を多産し裏作に麥を作り、養蠶も盛に行はる。省線長崎本線東部を南北に通じ福治驛(昭和五年設置)を置き、縣道は北部を東西に走りバス通す。西部の大字甘治の聚落は街村式聚落をなし、この地方の中心地として商家並び、本村に縣立佐賀農學校を設け、昭和十一年、福治村を白石町と改稱す。

【白石】熊本縣葦北郡大野村の大字。肥前縣白石驛(明治五十年設置)あり。

【白石】熊本縣葦北郡大野村の大字。肥前縣白石驛(明治五十年設置)あり。

【白石】熊本縣葦北郡大野村の大字。肥前縣白石驛(明治五十年設置)あり。

【白石】熊本縣葦北郡大野村の大字。肥前縣白石驛(明治五十年設置)あり。

【白石】熊本縣葦北郡大野村の大字。肥前縣白石驛(明治五十年設置)あり。

【白石】熊本縣葦北郡大野村の大字。肥前縣白石驛(明治五十年設置)あり。

【白石】熊本縣葦北郡大野村の大字。肥前縣白石驛(明治五十年設置)あり。

【白石】熊本縣葦北郡大野村の大字。肥前縣白石驛(明治五十年設置)あり。

【白石】熊本縣葦北郡大野村の大字。肥前縣白石驛(明治五十年設置)あり。

【白石】熊本縣葦北郡大野村の大字。肥前縣白石驛(明治五十年設置)あり。

【白石】熊本縣葦北郡大野村の大字。肥前縣白石驛(明治五十年設置)あり。

【白石】熊本縣葦北郡大野村の大字。肥前縣白石驛(明治五十年設置)あり。

【白石】熊本縣葦北郡大野村の大字。肥前縣白石驛(明治五十年設置)あり。

シロイ

【白石町】宮城縣磐城國刈田郡の東部。阿武隈川の一支白石川の右岸に當り。郡境に二五〇米餘の丘陵南北に連り西に傾き、西部にも五〇米餘の丘陵あり、西北地を白石川北東に流れ、越河村より北流し來る齊川は東部丘陵の西麓を流れ西北部に於て白石川に合す。白石川及び齊川流域は廣き沖積地をなし耕地よく拓け米、麥の外に麥粉・生絲・蠶繭等を出す。蠶繭は二百年以前の創製に於て製法の精巧と油分を含まざるを特質とし、且つ土地の乾燥は新築に好適なるため益々實績を博す。なほ木炭の集積地として知られ種畜場も設かる。東北本線は中部を南北に貫通し、白石驛(明治三十年設置)を置き、國道羽前街道これに沿うて通じ白石川に沿う縣道も分ち省線白中線(本町・中村・原釜間)・鐵道温泉行・小原温泉行、遠刈田温泉行・七ヶ宿行・齊川行・丸森行等の乗合自動車を通す。この地は和名抄刈田郡坂田郷の内にて片倉氏の城下町として發達し、廣き沖積地、交通の便と相俟ち本郡の中心地をなし、いま警察署・警林署・縣電氣課出張所・縣立中學・同高等女學校あり。なほ附近には白石町の宮城野信夫姉妹の孝子堂・櫻の名所城山公園・併人乙二の墓等あり、白石川の畔には教へ子を教はんとして殉職せし小野さつきの碑あり。【白石嶺】寛治年中、刈田元、源頼義に従軍軍功ありて此地に住す。のち上杉景勝の將甘糟備

高嶺一、八九六米、羅臼山(一、五一八米)等起し、糸魚川流域に至りて低嶺一、一はほぼ北方に走り鉢ヶ岳・雪倉嶺(二、六一一米)、赤男山(二、二〇七米)、朝日岳(二、四一八米)、長嶺山等を起し、ついで山勢次第に衰へ、大ヶ岳(一、五九三米)、白鳥岳(一、二八七米)を経て、北海岸の親不知附近にて日本海に没す。南段は約子岳・鉾ヶ岳(一、九〇三米)、磨ヶ岳(一、六九六米)、大黒岳(一、四〇五米)、五龍岳(一、八一四米)、鹿島ヶ岳(一、八九〇米)等、後立山山脈の高岳巨峰綫として打斷き終に鉾ヶ岳(一、一八〇米)に至る。なほ西南方にも一脈延び旭岳・清水岳・不降岳(一、〇五四米)・百貫山(一、九七〇米)・名創山(一、九〇九米)連り、猿飛附近にて黒部川流域に至る。此山の東方信州側は北アルプス中最も壯絶なる斷層崖をなし、北安曇郡北城の盆地に降る。西側は比較的緩傾斜をなして北西流する黒部の深峽に没し、川を隔てて立山山脈の北方部なる彌文山(一、三七八米)・毛勝山(一、四一四米)・駒ヶ岳(一、〇〇三米)等と對峙す。西嶺尾岳との摺合より黒部川支流黒澤川發源して北西流し、次で南西流す。東斜面には雄大な雪蓋懸り、溶水は北流入の溪河となり、二股にて鉾ヶ岳の東斜面より發し此南方を東方に竝走する南流入の溪河と合し、南東流して糸魚川に落合ふ。南西斜面は羅母谷

シロカ

の淡水の上源地にして硫黄澤・清水谷・中ノ谷・西ノ谷の各水源は相合して西南...

最も一般的なる山なり。冬季は丈餘の積雪あり、陽春四月頃までスキー登山面...

山頂よりは東方に安曇平野を照して妙高・戸隠の諸峯山は遠をなし、更に淺間山より秩父連山・富士の秀峰、南アル...

シロカネ 白銀 奈良市南約四〇軒。下市町の西隅。青野山地中において、東部には白銀岳(六...

す。真水の地間にほろがね町とあり、寛文の地圖には明に本銀町と記す。一丁目より四丁目まであり、北は藍染川に沿...

各社領を寄進し、再び此處開く。文政四年福島の當國に主たるに及び社領大いに減少せらる。のち徳川氏に至り朱印地二...

【城北】大阪府東成郡にありし村。大正十四年大阪市東成區に編入す。【城北村】...

中央に砂嘴を築いて西南より東北の方向に延び、伊勢海に臨む。海岸は北隣玉垣村以北及び南隣栗村以南の海岸と共に...

シロカワ 城川村

國北魚沼郡の西北部。小千谷町の西北に隣す。西境は三百米臺の丘陵連なり、東半は信濃川沖積平野をなし、水田開く。西...

シロキ 白木

【白木嶺】黒澤嶺とも稱す。岩手縣和賀郡湯田村と秋田縣平鹿郡山内村の境界にある峠。最高點(六〇二米)。新國道...

シロコ 白子町

三重縣伊勢國河藝郡の中央東海岸。北方四日市市と南方津市との略中間に位す。伊勢平野沖積地の一部を占めて土地極めて平坦なり。東海岸...

シロカ シロコ

にあり。古幹二本、新幹七八本あり。傍に慶應年間建てられし不磨の碑あり。花は青芽白花單輪にして、花序の穂軸頗る長く、仲春の開花期の外に、他の季節にも多少開花する特性をも有せり。〔觀音寺〕大字寺家にあり。古義眞言宗白子山と號し、高野末たり。榮老年中、藤原不比等の軍前に係り、聖武天皇の勅願所なりと。天正年間兵火に罹り焼失せしが、のち遺骨せられ、今日に至る。本尊觀世音は天平年中、富山附近の鼓ヶ浦海上より出現せりと傳へ安産・子育の靈尊として名遠近に聞ゆ。〔龍潭寺〕大字白子にあり。臨濟宗妙心寺派。瑞雲山と號し、永祿七年江南禪師の開創に係り本尊觀世音尼佛、臨土阿難迦葉〔定制作と傳ふ〕を安ず。寶曆年中白隠禪師當寺に留錫して梵鐘を鑄造す。のち廿一世を経て江船和尚境内に二十一體の弘法大師石像を安置したり。〔悟眞寺〕大字白子にあり。淨土宗。終南山光明院と號し、應永十八年眞覺上人の開創に係り、本尊に蓮麗の作なりと稱する阿彌陀如來を安置す。

シロサキ 白崎

〔白崎〕省縣界越西線の一驛（大正二年設置）新潟縣東蒲原郡三川村にあり。〔白崎村〕和歌山縣紀伊國高野郡の西北海岸。紀伊半島の西端に位し有田郡湯淺町の西南約一〇軒、御坊町の西北約一〇軒にあり。南は海に面す。面積五、九五

方軒。北境に二五〇米乃至三〇〇米の山地連り、西方及び南方へ傾斜して全村山地廣く海岸は屈曲ありて西北端に白崎の突出あり、其西方海上に海鳥島の小島あり。其南は弓狀に東に彎曲して西南端を下山鼻と首ひ、その西方海上に島嶼ありて其一ツを鹿尾菜島と首ふ。その東は東方より北へ圓形に海岸線を造り山地海に迫りて由良港に臨む。海岸に低地乏しきも北部に僅に低地あり。こゝに耕地拓けて水田あり、山地は薪炭を産す。水産も盛なり。一道海岸に沿ひて連り果樹は多く海岸にあり。村名は大引浦の北角、石灰岩より成り雪白色を呈するより白崎と云ひ、之より村名となれるもの。萬葉集九・持統天皇及び文武天皇紀伊行幸の際の歌に「白崎は幸き有りまて大船に眞繩しぬきまたかへりみ」云とあるは此碑を記めるものと云はる。大引に橋の自生地あり。合計九株あり本縣に於て他にこれあるを聞かず。また同地に枇杷の自生林あり、千數百株あるも三十年前伐採せしを以て大樹は概ね四米に過ぎず。大引浦の前面には海鰻島と叫び周囲約二百米、維新前には海鰻群棲して百餘頭に上りしと云ふ。大字吹井に吹井城址あり、龜山城主海川直春の控城なり。

シロサキ 城崎村

福井縣越前國丹生郡の西端に位す。西は日本海に面す。全村山地多く半農半漁の形を示す。住者は茂原、高佐の間に農漁事業が盛大なりしも、のち官製になり今は荒廢せり。白山バスは南條郡武生町より東隣白山村を経て大字米ノ浦に至る。東方に野城山あり、馬場・櫛の迹あり、曆應年間、新波義將の據城せし所。太平記にも「貞治五年新波入道道朝越前へ下着し、總て我身は白山の城に籠り子息治部大輔義將を粟屋の城に籠めて北國を切腹へんと謀せられける」と見ゆ。其後、新田義貞が攻め來り本城を奪取し戦死者が谷に充滿せしより今なほ此の字を死人谷と云ふ。其後、島津忠久も此處に據りし事あり。米ノ浦は古くは鮎三浦と云ひ、のち千飯崎浦・千飯浦と稱せしも寛永元年頃より現名に改む。同區の字佳景ヶ崎は名の如く展望に適し、享保七年額井藩は此處に遠見所を置く。〔西徳寺〕大字野浦にあり。天台宗眞盛派。立法山地藏院と號し、天平寶字二年奉法法師の開創。現堂宇は嘉永六年額井上人の時に建立せりと云ふ。境内に奉法法師・行尊大僧正の廟あり。〔碧岑寺〕大字野浦にあり。眞宗大谷派。菅原山眞龍院と號す。行尊の弟子、行眞の開創。初め天龍寺と號せしがのちに碧岑寺と改め、大治年間、白河法皇の勅願所と定めらる。寶徳年間、十八世行寛、本願寺運如に歸依して現宗に改む。〔寶樹寺〕大字米ノ浦にあり。天台宗眞盛派。放光山と號す。神護堂寛元年、奉法法師の自作の不動明王を安置すと傳ふ。初め金池院と號せり。明徳二年西

シロセ 白瀬村

三重縣伊勢國員辨郡の西北部。伊勢平野の西北隅にあり。西に御池嶽あり。山嶺東に傾斜して西北端鞍掛峠より渾流する町屋川支流北川を流れ、東部は伊勢平野西北隅の町屋川沖積地の一部を占む。東北境は二〇〇米程度の窪地あり。西半は山地にて林業行はれ木炭を産すれど東部低地は開墾され米・麥・蕎麥を産し、また山葵漬の産あり。東南方桑名市方面より阿下喜町をへて北方關ヶ原町方面に至る縣道は東部北側を東南より西北に通じ、又之より分岐する道路は低地の南部を之と並行して東南方へ延び、一方伊吹山脈を越える山路鞍掛峠をこえて近江盆地に至り、一つは御池嶽の南をこえて滋賀縣に出づ。

シロタ 城田村

佐賀縣肥前國時宗郡の南部。時宗町の南に隣り佐賀市の東北約五軒。筑紫平野の北部を占むるため全村地形平坦にして、東境及び中央に筑後川支流の南流するあり。水田拓け米産の産多く又蕎麥を出す。西部に西郷村・城野村を結ぶ街道通じ、城野村にて之より佐賀市に至る道路分れ、また中央を東に走りて三榮基郡三川村方面に至るものあり。省線長崎線神崎驛（北方約四軒）・伊賀屋驛（西方約三軒）に近く交通便なり。此地は和名抄、時宗郡宮所郷の地ならんも、其後の沿革は詳かならず。（高志神

シロツバキ 白椿岳

福井市の南東方約一二軒。福井縣足羽郡上宇坂村・一乗谷村の境界上に位す。標高七一九米。山體は保壽層より成る。

シロトリ 白鳥

岐阜縣美濃國郡上郡の西北部。飛騨高原の南部、屏風山脈の西に走る所にして上保川をこを切り南流し、東北方より牛道川流れ、町の南方にて合流す。この上保川の谷の洪溜地は水田に利用さる。交通路としては上保川の谷には越前街道通じ、近年は岐阜と福井兩縣を繋ぐ越前線開通し、大中驛・美濃白鳥驛（何れも昭和八年設置）を設く。此地は越前への要地にして越前街道は此町にて直角に西に折れ九十九折に浦坂を越えて九頭龍川の谷に出づ。また白川谷に入る要衝

シロシタ 城下

長野縣小縣郡にあり

教寺眞盛當國巡錫の時、住僧その弟子となり爾來現流に屬す。（養泉寺）大字米ノ浦にあり。眞宗眞照寺派。龍雲山寶地院と號し、延暦年中弘法大師の開創にて眞言宗に屬す。中世、慈覺法師中興して眞宗に歸し今に至る。

シロサト 城郷

神奈川縣橘樹郡にありし村。明治二十五年、小机村を城郷郡と改稱せるものにして、昭和二年橘樹市に編入さる。

シロサトイ 白郷井村

群馬縣上野國群馬郡の北部。利根川の西岸。澁川町の北方にあり。全村山地にて西北境に子持山（二九六米）あり。村はその東南斜面を占む。利根川の谷に向ひて急傾斜し、川に沿ひて狭き低地あるのみ。南部はやゝ緩傾斜をなす。山地には森林あり。木材・木炭を出す。川に沿ひて縣道北走し、東落もこれに沿ふ。省線上述線は村の一部を掠め東隣群馬郡南部に敷島驛あり、縣道を通ず。他は交通不便なり。明治二十二年町村制施行の際、上白井・中郷・白井・吹屋・横塚を白井村と改めしも同年上白井・中郷を合併して白郷井村とし、白井・吹屋・北郷・横塚を合併して長尾村を建つ。（子持神社）大字中郷に鎮座。郷社。祭神、木之花佐夜尾賣命・辨荷女之命外七柱。天慶七年の創建と云ふ。例祭、五月一日・二日。〔雙林寺〕大字中郷にあり。曹洞宗。最大山と號す。寶徳二年（一〇二二）に文安四年（一四六

にして白鳥・牧戸間には省線バス白鳥驛が通す。町は越前街道に沿ふ街村にて地方の中心をなす。町の南方牛道川に沿ふ扇狀地の斜面は水田發達するも越前街道に沿ふ部分は原野となり岐阜縣種畜場あり。之は明治四十一一年の創設にて優良種牡馬を原産地より購入し民間畜産組合に委託し、種付期間縣下重要な生産地に之を派遣し、種牡馬の供給を回済ならしめると共に各種牧草を栽培して飼料の研究調査を行ひ牛馬の改良に努む。近時は綿羊を飼養し農家副業として補助的飼育を奨励す。また地元希望により昭和十年よりここに郡上有畜産講習所を併設し、有畜農業者の實地指導を行ひつゝあり。本町は和名抄、郡上郡栗郷郷の内に於て中世は上ノ保と云はれ、更に昭和三年上保村を白鳥町と改め現在に至る。町の北部には郷社白鳥神社あり。藤起に、養老年間奉法大師勅命を奉じ夢内し玉體を加持し奉り、のち道を美濃路に取り白山に登らんとする時、此地に至りて白鳥忽然と飛出し大師を嚮導せりと。大僧即ち白鳥の起れる所に一祠を修したる之を白鳥神社と云ふ。美濃神名記には「郡上郡正六位上白鳥明神」と見ゆ。例祭九月二十二日。喜念坊跡は承久龍後親鸞上人の高弟喜念坊善俊師は伊豆國三島より越前を経て此地に來り一字の寺堂を創立し教義を弘通す。これ本郡眞宗弘通最初の道場にして今は遺蹟跡のみ残る。上

保川の清流白鳥橋附近には河原の美草が聞かれ興味をなす、行人旅客を魅惑する名勝なり。

【白鳥】愛知縣東海郡にありし村。明治三十九年本村は岡崎町と共に廢せられ、岡崎町を置く。

シロトリマエ 白鳥前(シロトリマエ) 徳島本縣の一郡(昭和九年設置)。徳島縣名四郡石井町にあり。

シロニシ 城西 山形縣南村山郡にありし村。明治二十二年本村を廢し、横濱村・飯塚村に分割す。

【城西村】靜岡縣遠江國岡野郡の西部。天龍川の支流水窪川に沿ふ。西北は愛知縣北設楽郡に南は野田郡に界す。全村山地にして、東西に千米前後の山脈ありては中央を水窪川南に曲流す。全村森林繁茂し林業を主とするも各沿には多少の田畑あり。米・茶を作り兼業行はる。また硫化鐵・銅・沈殿銅を産する久根山の一部を占む。遠信を結ぶ秋葉街道水窪川の右岸に沿うて通す。他に一條の山道分岐して傍示峠を越え天龍川の谷に通す。

シロネ 白根村 新潟縣越後國中蒲原郡の西部。信濃川の支流中ノ川の右岸河港として發達せり。一帯に低平にして水溜り、湿地をなす部分多く、沼田をなす外は花卉の栽培地として利用され、チューリップ・ヒヤシンスの球根植物は

東京・名古屋・大阪は勿論近時アメリカにまで輸出さる。東方小須戸町より来る縣道は、河津にて長岡より来る國道に合し、こゝより橋を渡りて對岸に拾ひ新潟市に通す。中ノ川には舟運の便あり。明治五年會津藩藩士渡部博助なる者、徳川幕府の恢復を圖らんとして同志を糾合し亂を作す。初め同志數千人を以て加茂町に至り、轉じて三條町に至りて本願寺御坊に一泊し、更に信濃川に沿ひて下り夜當町に至りて一宿し、進みて平島に至りしが縣吏官兵(兵數二百)と相衝突し、開争數時に及びしが、附和隨行の衆みな逃亡するに及び、遂に潰走し博助は當地に返り潜伏せしが幾何ならずして捕はる。なほ毎年五月の節句に行はるゝ風合戦は此地獨特の奇習なり。これは治水争議の生める名物にして、數疊敷にも餘る大槓高を打揚げ、川を挟みての合戦は頗る壯觀を極む。

シロハ 白羽村 靜岡縣遠江國藤原郡の南端。駿河灣を擁する御前崎の頭部を占め、北は地頭方村を距てて相良町に對し、東は御前崎村に隣り、西北部及び南は海に臨む。中部より東部にかけては自内山の丘陵連なり、南部海岸には砂丘發達し耕地は主に東北部にあり、水田に比し畑地は主として米・麥・粟・茶を産し、漁獲も少からず。御前崎村より相良町に至る縣道は東北部を貫通し、西隣佐倉村に至る街道これより分岐して中部を東西に走る各バスを通ず。古くは和名抄、藤原郡相良郷の内に屬せしか。延喜式に白羽官牧、馬直四千四百六十とあるは此邊にて牧馬ここに公營せられしもの。萬葉・二〇「とへたはか志留波の伊宗と貴の浦とあひてしあらば青も通はむ」とある志留波の伊宗は、白羽の地に於て本村をいひしものならん。遠江國風土記傳・一二「城洞郡。所に以て城洞郡と稱す。牧飼之地也、故有白羽牧官及駒場之稱名。白羽駒馬今屬藤原」。白羽神社。縣社。祭神、天津日高日子穗々出見尊、豊玉毘賣命、玉依毘賣命。安閑天皇元年十一月、當郡既崎(いま御前崎村)に鎮座し給ひ、承和元年三月神靈に依り現社地に遷座すと云ふ。式内社の履織田神社に擬せられも定かならず。元龜元年武田晴信の當國出兵の際、所傳の古文書類、社殿等兵燹に罹り御神體のみ免かる。のち武田氏社殿を再建し朱印若干を附すと云ふ。例祭、四月十日。(岩崎寺)曹洞宗。海岸山と號す。寶徳二年の創建に係り若殿和尚を開山とす。初め眞言宗を祀りしが、文祿二年玄室龍領和尚の現宗に轉す。

シロハゲ 白元 日本北アルプス立山山脈北端部の一峯。白岳(三〇〇三米)の北約三軒に位し、富山縣下新川郡黒部國有林地域と、中新川郡白萩村の境界に跨がる。標高二三八七米。北西麓には赤元・赤谷山嶺。シロハタ 白旗山 千鳥山脈に屬

する一峯。千鳥島傳説鳥南西部に峙つ標高一〇二一米。南西方に白妙山・岩尾山・白瀧山等嶺。西麓面より白瀧川發し、北西流して海に入る。シロヒガシ 城東 京都府與謝郡にありし村。大正十三年宮津町に編入され村名を失ふ。シロミ 城見村 岡山縣備中國小田郡の南部。東は金浦町に界し南は瀬戸内海に臨む。東西に走る鴨方斷層の運動に伴うて中國山地の南部が斷層及び沈降内海に臨む西部の崖上の一地域を占む。從つて南部は急崖をなし一〇〇—一五〇米の丘陵は村を覆ひ西及び北に向つて山勢高まる。北部に於て東西に走る谷あり、南部の三角形の低地と共に耕地をなし米を産す。南部海岸は其の後に隆起の傾向あり崖下に低平なる砂灘地を有す。省線山陽本線は北部低地を東北から西に向つて通過し、これに平行して北側を村道通じ、東方笠岡町と西方福山市を連絡す。茂平は南部海岸の低地にある漁村にして主邑をなし、西南には阿濱および防路の鼻の岬あり。シロミネ 城峯山 熊谷市の西方。埼玉縣秩父郡日野津村・矢納村・吉田町の境上に聳ゆ。標高一〇三八米。山體は秩父古生層より形成せらる。シロモリ 白森 磯房火山群(福島縣南會津郡旭田村と岩手縣郡山郡本村に亘る一火山山群)に屬する山。白森の名を有す

るもの二峯あり。一は小白森と云ひ、この火山の火口址内に噴出せる中央火口丘にして圓錐形をなし標高一五六三米。東は河内川に、西は坂本川に限らる。他峯は大白山と呼び、この火山の南部火口壁を破りて噴出せる塊状火山にして、輝石安山岩より形成せらる。標高一六五六米。この山北方は傾斜をなし、赤木澤を距てて小白森に對し、南方には甲子峠最高點(一三八七米)を経て甲子山(一五四九米)・旭岳(一八三五米)に對す。北麓に磯房山(一三四四米)起る。南東斜面より阿武隈川が源流し、ここに甲子温泉を湧出す。

シロヤ 城山 宇都宮市西野國河内郡の西部。宇都宮市の西北隅にあり。西北境に古賀志山(五八三米)ありて村内に傾斜し、その南麓は平地にて畑地多く、林を交へ、一部に水田あり。村の中央には古賀志山の麓なる多氣山(三七七米)あり。それより東南部にかけては低き丘陵あるも、大體平地にて妻川南流し川沿ひには水田あり。他は畑地をなして所々林を交ふ。宇都宮市より縣道來りて村を横斷し西北に走りて日光方面に通す。又鹿沼街道は南部を西走し湖澤村を経て上部賀部郡沼沼町に通す。省線日光線は村の南西方を廻りて北走し、南隣妻川村に鶴田驛、西方鹿沼町に鹿沼驛あり。また本村及び國本

村・富屋村より産する石を大谷石(大谷は本村大字設計の字名)といふ。建築用として我國の凝灰岩の石村中最も需要多く、その産部毎年數百萬圓に達し、取路は關東一帯に亘る。石切場より鶴田驛へ石材運搬用の鐵道あり、鶴田驛より積出す。本村は石英粗面岩質の粗粒粗結の凝灰岩にして東京市内によく使用せらる。色はやや青味を帯びたる白と暗んど青の二種類にして、俗にミソと稱する木質物腐敗のため生ぜし大穴あるを以て龜殼石の俗名あり。外觀に反して耐久性に富み、容易に風化せず、また耐火性に極めて強し。その化学成分は珪酸に富み、略ど御影石と同様なり。康平年中、宗圓座主下野國守藤原氏時、本村多氣山上に城を築きしを以て一に城山といひ、のち村名となる。(大谷寺(大谷觀音))大字設計にあり。天台宗。天間山と號す。慈覺大師第一の法嗣傳海の開創と傳ふ。坂東三十三所第十九番札所。本尊は岩壁に彫刻せられし有名な千手觀音にして世に大谷石觀佛と稱せらる。除歌「名を聞くも深きみくみの大谷寺新まことのしるしたるかな」(大谷石觀佛)指定史蹟。丘陵の岩窟内壁面に十體の佛像を半肉彫にて現はす。西に面する壁面に千手觀音の立像あり。大谷寺の本尊にして、高さ約四米、平安朝の作風を示せる堂々たる石佛なり。南に面せる壁面に釋迦三尊・藥師三尊及び阿彌陀三尊を彫し、朱

の感念によりて覆はる。何れも立像にして、釋迦像及び文殊菩薩の像はその刀法は雄勁にして姿態の豊麗雄偉なるは平安朝末期作なるを思はしむ。左端にある阿彌陀三尊像は大きく略々釋迦三尊像に同じきも、高さに比して度體肥大に過ぎやや調和を缺けてその中に彫刻せられ、他の三尊像に比して甚だ小さく、その製作亦拙劣なり。壁面の所々に残存せる粘土胡粉彩色は、もと佛像の全面に胡粉彩色の施したる事實を物語る。かゝる磨崖佛は奈良・富山・福島・大分等の各地に存すれども、本所のものに優秀なり。(持寶院)新義眞言宗智山派。多氣山と號し長治二年傳眞法印の開創にして、本尊不動明王は源賴光が大江山東神道治新禱のため圓覺上人の作に係るものにして、もと比叡山に安置せる源義家の奥羽征伐に際し、宗圓之を奉持し、初め宇都宮に御座を建て、安置せしが、長治二年火災に遭ひし爲に當山に之を奉祀せしに至りしと傳ふ。爾來、幾百年不動明王の靈場として世に知られ、賽會當に絶えず。【城山村】 岐阜縣美濃國津郡の南部。東は揖斐川を距てて高須町及び西江村に對す。美濃山脈の東斜面に位し、山麓には斷層崖認められ、奥能附近には小さき扇状地見らる。南部にて揖斐川に合流する津屋川は東境を流れ沿岸は卑濕地にて對岸は根古地輪中・高須輪中等あり。流

城は水田となり扇状地(扇面)に水田の關係上系類となる。山間部には新灰の産を見、南部山崎附近の山麓斜面には炭酸塩和のため本縣唯一の蜜柑の産地となる。交通は斷層崖下に社線多宮急行電鐵兼老線通じ、高田方面より本村に至り、別野驛・美濃山崎驛(共に大正八年設置)を置き、駒野附近扇状地の所は扇端を越り、南方桑名市に通す。此村は和名抄、石津郡山崎郷の地に於て、上野河内は中世には郡庄と云はる。大字上野河内の臥龍山(三四五米)の中腹には臥龍山行基寺あり。淨土宗親西派に屬し、之は天平年間行基菩薩が勸命を奉じて國分寺を立つるに當り此地に遷居し、山形の秀麗なるを以て一寺を草創せしに始る。自ら五佛を彫みて安置す、その始佛莊嚴にして七宝御堂完備せしも延元三年一月北畠顯家上洛の折に土岐頼遠山下に降し、顯家の先鋒結城入道忠成は是を攻め民家に放火しその火山上に及び御堂灰燼に歸せり。元祿十五年高須の圓心寺住持、僧性誓は菩提寺再興の事を藩主松平義行に請ひ、同年冬より起工し、舊山麓を取りて臥龍山行基寺と命名せり。かくて寶永二年七月竣工し、備米松平家の菩提寺となる。本堂には行基の作と傳ふる阿彌陀の石像を安置す。御堂殿は同三年松平義行その父母の靈牌を收めんとて遺誓し、其後歴代の藩主の靈を祀る。行基塚は舊園入定の地と傳へられ、高さ四尺の梵字碑あり。

シロヤ—シロヤ

駒野の城山には駒野城址あり。麓老山地の末端にて下には津尾川を控へ南豊平野を俯瞰し、天然の要害たり。丘上には土

西北方長峰山脈の一時、生石ヶ峰より東南へのびる山地の末端をなし七〇〇米不足の高きに峙ち、西南にも七〇〇米不足の山

シロン

二宿庄 臺灣東南州虎尾部の北部。濁水溪の南に位し、西端街(東)及び崙背庄(西)に依りて挟まれ、南は新虎

物を出す。甘藷は多く蕃薯等に對せられ、農家の常食、及び家畜の飼料に供せらる。畜産の主なるものは豚、家禽にして、之が年産額逐年増加の趨勢にあり。

路縱横に開設せられ交通至便なり。なほ大日本製糖會社の經營に係る鐵道は虎尾より西端に通ずるもの及び本庄中田尾より西方橋頭・沙崙後(共に崙背庄)に通ずるものありて管内に二崙・田尾の二崙(共に明治四十四年設置)あり。本庄はもと西端堡(新庄子・永定厝・港后)及び布喇堡(二崙・惠來厝・大義崙・八角亭・番社・油車・大庄・田尾・三塊厝)に分屬し、住時は平浦番族(ア部族)の古居地たり。漢民族(福建省泉州府晉江縣民)の移住は康熙初年頃(初まり、爾來移民の増加に伴ひ、遂に福建省泉州府照安縣の住人紀姓一族の手に依りて、大宇大義崙一帶に於ける土地の開拓となり、更に坤

遷居各部落の住民も乾隆十年頃福建省漳州府より渡來したる者及び大義崙より轉住したる者なりといふ。明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経て、大正九年十月に到り、清領時代より存続し來りし堡は始めて廢止となり、前記の十二大字(もと各々庄と稱せり)一括せられて新に二崙庄となる。庄役場所所在地大字二崙は郡の主邑虎尾の北方約六軒の處にあり、住時平坦なる原野の中に二崙の丘陵連座し、眺望一奇觀を呈せしより、二崙仔と名づけられしも、大正九年現行制度實施の際、二崙と改稱せられ、公學校・警察官吏派出所・信用組合・西端農會倉庫二崙支庫・大日製糖株式會社臺灣支社經營に係る二崙驛等あり。

見ゆる傳法寺は本村の大字傳法寺なり。村名は明治二十二年傳法村制實施の際寺・米田・潭澤・大不動の四箇村を合し四和合村の意を以て四和村と命名せるもの。「八幡宮」大字潭澤に鎮座。郷社。祭神、豐田別尊。社記に中御門天皇正徳四年南朝利幹の勳績に傳ると傳ふ。例祭、九月十五日。

平地と西北部の山地に分れ、西端の遺蹟(介山(九四一米)・龍吟(七〇七米)より)顯する瀨名川は山王海の小盆地を経て本村のはげ中部を東流、赤石村にて北上川に合す。瀨名川は山地を出で北上川の地溝に入る所に扇狀地を作る。本村の約六五%は新生代地層、即ち西北山地一帯は第三乃至第四紀層より東南の平地も亦この時代に構成せられし地層なり。西北部の山地形成時代は地殼變動の最も激烈を極めし時代に、造山作用が褶曲山脈を形成し新山一帯は輝石安山岩の噴出を見、山王海方面はこれが噴出のなき處より前者は後者より後世に於いて形成せられたるものと思はる。次に東部平地の第四紀層に就いて眺むるに、山地に近き一帯は第四紀中の洪積層にして、瀨名川一帯の地は神代時代による土壌にて第四紀の後世に構成せられたるものなるべし。街道のうち水分・日語停車場線は赤石村の東北本線日語驛より、本村大字稻藪を通り縣社志和稻藪神社に至る。志和・石鳥各線は本村大字上平澤より、村役場・片寄小學校を経て神寶石鳥谷町宇町の北端にて國道に合す。志和盛岡線は本村大字上平澤より水分・不動・嶺山・飯岡の各村を經、見前村にて國道に合して盛岡に至る。東部低地は地味豊沃、灌漑の利よく山王海國營開墾の灌漑工事は縣下に知らる。農産は米産を主とし金産業の大部分を占め年産一萬五千石を上下し、米質

また良好にして砂粒多部に於いて好評を得つてあり。畜産のうち馬は斷然首位を占め(郡下第一)、年々百餘の幼駒を生産す。また山王海を主産地とする本炭も少からず、年産五萬圓に達し、酒の醸造も年産七萬圓内外あり。此地は水承の頃安倍領時が奥羽六郡を領せし頃、本郡西部街道の一邑として名高く、廣平五年源頼義が安倍氏を討ちてより藤原氏の管領となり、藤原季衡の族孫爪太郎俊衡所領の一部となる。文治五年八月源頼朝奉衡を滅ぼすや、俊衡も亦頼朝に降り、其のち延元元年に至り陸奥の國司源義隆守の族、新渡家長が紫波郡を領せしが、天正中源義隆守が南部大夫信直に滅ぼされ、天正十九年九月豊臣氏この郡を南部氏の封内に屬せしめたり。寛文四年南部大夫重信その第南部左衛門直房を八戸に分封するに當り、紫波郡七十五箇町のうち上平澤・稻藪・土館・片寄の四箇村を割き與ふ。明治二十二年前記四箇村を合併して四和村を建てて今日に至る。「八幡神社」郷社。祭神、豐田別尊。社傳によれば、清和天皇貞觀四年山城國男山八幡宮より勧請せしものにて、後冷泉天皇天喜五年源頼義安倍氏征討の時、此山に降し賊魁誅滅を祈願せし以來代々將軍の崇敬する所なりといふ。例祭九月八日。

【四和村】 青森縣陸奥國上北郡の南部。三本木町の東南に隣り、東及び南は三戸郡に界す。西南境に穿ゆる戸來嶽(一一五九米)の山腹は緩やかに西北に向ひて降り、奥入瀬川の支流はこの窪地を浸蝕し若き地裂を示す。窪地は第三紀層より成るも露出少く、砂層・礫層より成る洪積層に覆はる。農産物は米・大豆・粟等を出すも産額大ならず、他に馬・木炭の産あり。溪流沿ひに街道通ずるも險路にて且つ幹線道路なく交通便ならず。水産軍記に天正十九年の春、九戸の左近將監政實、遺心を起し、傳法寺城に押寄せ、傳法寺傳右衛門尉は弓鐵砲にて之を防ぐと

【四和村】 廣島縣安藝國佐伯郡の西部。津田町の西北隅、西より西南は山口縣玖珂郡に界す。面積八一方軒餘の大村。西方の鬼ヶ城山(二〇三二)西南隅の瀨美山(一一〇九)を結めとして村内八百乃至千米の山岳重疊して高峻なる山地形をなし平地殆んどなし。木野川上流は村の南端より發して東流する外は見るべき溪流なし。全村森林地をなすより薪炭の産多く又製紙業行はる。道路は村の南部を横斷して縣道通り、東方廿日市町と連絡す。東部に栗柄の街村あり、その附近には多少耕地を見る。明治二十二年、町村制施行の際奥所山・中道・飯山・栗柄の四部落を合併して四和村と名付く。村内の瀨美山は、夏の安樂堂と稱せらるるのみならず、冬はその山腹の廣大なる傾斜面が廣島近傍唯一のスキー場となる。

【志和村】 岩手縣陸奥國紫波郡の西南隅。東は赤石村、北は水分村に接し、南は神寶石鳥谷町に隣り、西北は山地にて岩手郡柳所村に連る。面積七〇・八四方軒、本郡第一の大村。概して東部の

【紫波郡】 岩手縣一市十三郡の一。盛岡市の南に續き北半は岩手郡に

シワ—シワホ

南は神賀郡に包まれる。面積三九七、四六方軒。西境に南島山(八四八米)・東根山(九二八米)のトイデ式火山屹立し、東部には北上山地の大日向山(四八〇米)・鬼ヶ瀬山(七二四米)・権現山(八二八米)・大野山(七八六米)の諸峰連り、東部山地の西麓に沿うて北上川南流し、西部山地より發する諸流は東に流れて北七川に合し、その山地を出る所に何れも扇状地を作り、南部の瀧名川の扇状地は最も顯著なり。扇面は土地豊沃、灌漑の利多く米の生産額内第一と稱され外に麥・大豆・粟・蕎麥・馬鈴薯等あり。北上山中に大ヶ生金山あり。然し本部は面積小なるに比し人口密度大なるため出稼者多く南部杜氏として知らる。省線東北本線は中部を南北に貫通し、國道陸羽街道その東側を走り他の縣道何れもこれに會し交通便なり。續紀に志波・子波と見え、日本後紀・弘仁二年の條に始て新波郡名見ゆ。蓋し此地は蝦夷の集居なりしもの、ち蝦夷略略が過み延暦二十三年には新波城を築き次いで弘仁二年には新波郡を建つるに至りしものなるべし。されど延喜式・和名抄に郡名見え、延喜神名帳には郡名見ゆれば或は權置の郡なりしものか。室町時代の三管の新波氏は此地の人なり。併し後には郡を建つるに至り拾芥抄新波、寛知集志和に作り、元禄圖以後繁波に作りしが、天保縣帳また志和に復し明治以後また繁波にす。明治元年縣廢し明治以後また繁波にす。明治元年縣廢し

國を割き陸中國を置くに及びその管下に入る。

シワ 標葉山

標葉山 標葉山

シワク 鹽飽諸島

鹽飽諸島 鹽飽諸島

シワグチ 志和口

志和口 志和口

シワチ 志和地

志和地 志和地

シワチ 志和池村

志和池村 志和池村

宮崎縣日向郡北諸縣郡の中部。郡城盆地の北部にあり。大淀川上流の左岸に位置し郡城市の北約八軒。東は高城町、西南は庄内町に接す。西北部に約五〇米の臺地あり、其東・南に大淀川支流丸谷川の淺き谷を挟み略同程度の臺地北部より西南へかけて連り村の中央を占む。東部より南側にかけては郡城盆地の北部をなす平坦地をなし、大淀川東北流し更に北流して南及び東境を限り、北方より来る高崎川は北流して丸谷川を合せ境界線に沿ひて東流し東北隅にて大淀川に合す。村内低地廣く農耕よく行はれ、米その他麥・粟・甘藷等を出し養蠶も亦行はる。北部には竹林多く箱を出したる椎茸もあり。一連中部を南北に貫き北隣高崎村方面より南隣高原村を通る日向街道を給ひ、西部は省線吉野線から分れて西西南流して山田村に谷頭驛あり。本村古くは島津院ノ莊の地にて乾世

志和池城

莊内郡の内に屬す。(志和池城)大字上水流に址あり。創業の年代不詳なるも、もと繁華(北諸縣郡)の領主北原氏の所領にて、北原氏これに守將を置きて守らしめ、郡城と互に相峙す。天文十二年郡城領主北原忠相數千の兵を率ゐて之を攻む。而して遂に本城北原氏の手に屬す。のち元和復武一國一城の令出づるに及びて廢毀す。「野野美谷城」大字野野美谷に址あり。應永元年島津隆興守元久其族椿山香久を以て當城主とす。香久五世の孫安藝守長久に至り大永元年大隅國小濱に遷りし後は、隣郡郡城城主北原忠相の領地となり其將北原右衛門久を以て之を守らしむ。同三年伊東尹浦此城を攻む。翌四年和成りて伊東氏之を領すること八年にして、天文元年北原氏に攻取らる。北原氏領すること十餘年、同十一年北原氏に攻取らる。天正十五年伊集院幸俊、北原氏に代り郡城を領せしとき一時其管下に屬せしが、その子忠貞、主島津氏に叛せし時、有屋田大伏左衛門なるもの當城を守りしが戦死して城陷る、其後再び北原氏郡城を領するに及びて當城亦其所轄となりしが、元和復武一國一城の令出づるに及びて廢毀す。

シワヒメ 志波姫村

志波姫村 志波姫村

宮城縣陸前國栗原郡の東北に、若柳町の西南に隣り、西南は築館町に界す。南部に五〇米内外の洪積層の臺地連り北方に緩く傾き北原平地に接す。道川の上流一迫川は西

シワホリ 志和堀村

志和堀村 志和堀村

廣島縣安藝國賀茂郡の北部。廣島市の東北約二〇軒。東北は豊田郡に界す。西境に沿ひ海抜約五〇〇米の山地南北に連り、北東には海抜七三五米の山地連りて崩山地間に溪谷あり、中央部より南側にかけて三角形に低地開けて耕地拓く。この低地を南よ北流する深流は秋萩村にて三條川に注ぐ。米・麥・蕎麥の産あるも、其領多からず。西南方海田市町と連絡する縣道は村の南部より西南の方向に出で中村・後休の街村を開き、中村より南方に出づる縣道は東南方に出て西條町に到り南境にて堀市の街村を設く。この地は古へ志和郡の北部なり、天文の頃天野隆重の居城たりし時時城の繁華あるに因み村名を志和堀と名付く。

シン 眞面

朝鮮平安北道慈州郡の南部。南は平安南道寧邊郡に界し、東西一〇一二軒、南北約二〇軒の地を占む。妙高山脈の西北斜面に當り、南境上に舞臺山(一七六二米)・天快山(一九二七米)・昆崑峰(一九〇八米)聳立し、舞臺峰より出づる山脈は東境を西北に延びて洞谷山(九八五米)・大岩峰(九七五米)となり、昆崑峰の山嶺は西境を北に連りて芙蓉峯(一四三二米)・靈峰山(六三七七米)を起し眞面川南部に發し東西山脈の中間の谷を西北に流れ、面の西北部にて大屈曲をなして西南流する清川江に合す。殆ど山地なるも眞面川に沿ひ狭長の低地ありて農業行はれ、粟・稗・大豆等を産し、また北部の新羅山より金は、銀を出す。眞面川より元山方面への二等道路は眞面川に沿ひて南北に通じ、滿浦本線熙川驛に達からず交通比較的便なり。

シン 新

【新町】 群馬縣上野國多野郡の東北端。鳥川の南岸。北は佐波郡玉村町、東は埼玉縣児玉郡賀美村と隣す。面積僅に三、八六平方軒。北境を鳥川東流し町の東方賀美村内にて南方より來れる神流川に合す。全町平地にて穀類多く、製糸を主生業とす。中山道は町の中央を西走し聖澤はこれに沿ひて發達す。省線高崎線も亦これに沿ひ、町内に新町驛(明治十六年設置)を置く。此地は中世以降中山道の一宿驛たり。附近一帯は天正十年小田原

シン 眞面

の北原氏と眞面川一益とが遺城を交へし古戰場にして、町内には陣場・實見坂等の地名今なほ存し、陣場は眞面川一益の陣地にして實見坂は首見せし所といふ。また明治十一年明治天皇東北御巡幸の御その行在所となりし地にして、御座所たりし室には質素なる床の間、造欄のものを存し、明治天皇新町行在所として指定史蹟たり。

シン 新

【新町】 三重縣安濃郡にありし町。昭和九年津市に編入す。

シン—シンア

シン 眞面

の北原氏と眞面川一益とが遺城を交へし古戰場にして、町内には陣場・實見坂等の地名今なほ存し、陣場は眞面川一益の陣地にして實見坂は首見せし所といふ。また明治十一年明治天皇東北御巡幸の御その行在所となりし地にして、御座所たりし室には質素なる床の間、造欄のものを存し、明治天皇新町行在所として指定史蹟たり。

シンアカユ 新赤湯

新赤湯 新赤湯

シンアサヒカワ 新旭川

新旭川 新旭川

シンアサン 新阿山

新阿山 新阿山

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

シンアン 新安

朝鮮咸鏡北道慶興郡にありし面。昭和九年四月邑制施行と共に羅津邑と改稱、次で羅津府となる。

三國



シンイ

より分岐して東方に通ず。また京義街道(一等道路)また南北に通じ、元興里より東方三軒の安州(二等道路)岐れ、郡邑の門戸をなすと共に清川江上陸奥地への交通上の要地たり。

振威郡

朝鮮京畿道の西南隅を占む。道管内三府二〇郡の一。西は牙山嶺に瀕し、南は忠清南道に對す。面積四〇七方軒の小郡なり。東北部は山陵起伏し西南に至るに従ひ低夷となり、南部に廣大なる平野横はる。西部にも丘陵嶺も高度は小なり。安城川、北隣水原郡より南流し来り、東北龍仁郡内より来る振威川を併せて南下し、廣大なる河口をつくりて牙山嶺に注ぐ。海岸は屈曲に富むも遠淺にして泊津に乏し。住民の約九割は農業に従事し、米・麥・豆類を主産し、甘藷・馬鈴薯・大根・白菜・甜瓜等の蔬菜も多く、杞柳・莞草の産地多し。副業として養蠶及び果樹栽培等行はれ、蠶・臥の製産盛なり。鐵産は青北面、梧城面に世傳鎮山、浦升面に大栗金山ありて金・銀を出す。郡東部を鐵道京釜本線南北に貫通し平澤・西井里の兩驛を設け、京釜街道これと並走するほか平澤を中心と道路網發達せるを以て交通便なり。行政上、平澤面ほか九面に分ち、郡廳を平澤面に置く。平澤は農業の中心にて、穀物検査所支所・農産倉庫等設けられ、未穀の集散極めて活潑なり。この地は高句麗時代並城驛と稱し忠清道

要

新石場

江戸時代、四場の一。深川越中島、大島川の兩岸にあり、天明二年創始といふ。古石場に對する名稱。新石置場の略。古製三船(新石場)や金子屋がにぎやかさ、げいしやは、奴島八、さみせんが文でよ、歌で五郎治、三味せんが守八、は知りでさよ吉、むめ吉、さ、佃四けんもまたできたろうさ。

新飯塚

筑豊本線の驛。福岡縣飯塚市にあり。もと芳雄驛。明治二十六年設けられ、和十年新飯塚と改稱。

新硫黄島

東京府にある島。硫黄列島の南端黄島の北東三海里の地點(北緯三十四度一六分三十分、東經一四一度三十分)に在る海底火山にして、明治三十七年及び大正三年に噴火す。明治三十七年には十一月二十八日頃噴火し始め、翌々月五日頃其頂部を海面上に現し、翌年二月一日の噴瀾に依れば周圍約五軒、最高點海拔一五〇米。北端に火口を有する橢圓形火山島なりしが、翌三十八年六月頃には殆ど消滅す。大正三年一月二十三日に前同と同位置の海底に於て大噴火を始め、同月廿五日頃頭部を海面上に現し、翌月十二日には周圍約三・八軒。最高點海拔約一三〇米。略々中央に直徑約一八〇米の火口を有するホヤイダ形の火山島を形成せしが、翌年九月頃には殆ど消滅せり。この二回の噴火に依り現出せる火山島は何れも橄欖石普通輝石安山岩質の火山灰・浮石・黒曜岩等により構成せらる。

新市田川

下田川

新市町

廣島縣備後國重品郡の中郡。面積僅に一・五七方軒。町の南隣をほぼ東西の方向に流るる重田川に、北方山地より南下して之に注ぐ支流あり。本町は本支流によつて窪地合流せし廣き沖積平野と附近山地の一部を占む。従つて村内中央は土地平坦沃野をなすため農業盛に營まれ米・麥の産あり、また養蠶も行はる。市街は廣田川北岸の平地にあり北部溪谷の各頂にて東南福山市と西方府中町を連絡する驛道に沿ふ。市街中央より南に川を渡り松永町につく村道あり。西端より北に東城街道出づ。最近は省線福南線と此を通りて交通便なり。北隣の福引村と共に和名抄、品治郡神田郡の地なり。中世の宮内卿の内とす。網引の一宮城は有名なる機山技師の居城にして、此地はその城下町たり。一に江隈の市とも稱せり。明治二十二年新市村とし、明治四十年町制を布く。

新院面

朝鮮慶尙南道蔚山郡の南端。北に蔚山との間に南出する。又、大根・里芋・甘藷・麥・瓜類の蔬菜も栽培せらる。郡下の畜産は、農家に於て副業的に行はれ、牛・豚・山羊の飼養を主とす。水産は、急水溪・八掌溪その他郡下各處に漁用水として設けられたる貯水池より得らるる淡水魚に於て其收穫僅少なり。東部に在る白河・春莊兩庄は、山地多きが故に、木材・薪炭材・竹材等を出し、其副産物として竹・竹皮等を産す。又近年新街街に行はるる養蠶業は、いまだ盛ならざれども、臺灣に在りては、珍らしき産業の一として注目に値す。本郡の工業地帯は、新街・鹽水兩街にして、いづれも製糖業を主とし、新街には、鹽水港製糖株式會社及び明治製糖株式會社の工場を有し、鹽水街には鹽水港製糖株式會社の工場を有し、其他郡下各處に舊式糖廠在りて、郡下の砂糖生産高は莫大なる数字に達す。尙小規模ながら麵粉・製粉・精米・粗糖・醬油・煉瓦・石灰・木製品・菓子等の製造は郡下の各地方に行はる。交通は郡西部に於て著しく發達し、郡の中央部を臺灣鐵道縱貫線南北に貫通し、後進・新街の二驛は本郡管内に在り、また之に並行して縱貫道路通過す。其他鹽水港製糖株式會社の輕便線は、新街より鹽水街に連じ郡交通上重要な役割を有す。又新街街を起點とする大小道路は各街庄に通じ、何れも自動車の便良好なり。本郡の地は、其開拓の歴史古く、明末鄭氏の領土と共に、

新院面

上面を狭み、東は陝川郡に、南と西とは山嶺に界す。面積七四方軒。北地に龍山(九五・一米)、西境南部に鐵馬山(七〇・五米)、南境に保錄山(七九・七米)・巢龍山、東境南部に月女山(八六・三米)等ありて面内到的處山地をなし、黃江の支流砂川、南部山地に發して北流し、中央部に於て西北より来る漢水と併せ、東向して鳳山面に出づ。その兩岸に沿ひて幅狭き低地ありて耕地拓く。米・麥・豆類・大麻等を産するも其額多からず。蔚山・三善間の道路東西に通ずるも交通便ならず。

新院面

朝鮮黃海道載寧郡の南西部。南は海州郡、西北は信川郡に界す。東西は一六軒を超え、南北四一八軒あり。咸源山脈中に在り、北境中部に相峯(四六・二米)、西部に城岩山(四六・八米)あり、南部にも鷲峯(四三・二米)・三峰山(四〇・六米)・大徳山(四四・四米)は東西に連立し、茲に面内は南北の二谷に分かる。谷地の水は共に東流し、東南境下界面との間に、南境を東流する鹽澤川と下界面南部を西北流してこれと合する門岩川の合流を利用して築かれたる安寧水利貯水池に流入す。面内山地多きも各地には耕地ありて米・麥・大豆等の農産あり。面色新院里は東北部の各の出口に在り、社線朝鮮鐵道黃海道(海上海・龍崎浦間)の新院驛(大正十四年開業)あり、下津驛(下津面)への支線を岐

新院面

ち、道路また沙里院、海州方面に通じ交通便利なり。

新院

大阪の町名。現今西區中道に在る。東區の本郷に對して云ふ語。心中宵庚申・中一呼び廻す門の口、御籠寄き御衆で、申し申し、大阪の新院八百屋伊右衛門様からと、御籠の戸明ければ打巻れ、目元しぼよる御籠の二重廻りの抱へ帯し。

進永面

朝鮮慶尙南道金海郡の西北部。西と北は昌原郡に界す。面積三八方軒。南境西部に高度二〇〇米内外の低山性山地あり、その東端は面の中部を東北に延びて一〇〇米内外の丘陵をなすもその他は沿東江下流流域の平野の一部にて土地平坦、灌溉の便よく、農産粟・麥・豆類等の産多し。朝鮮鐵道局京釜本線三浪津驛に分岐する慶全南線東西に通じて進永驛(明治四十一年設置)を置き、馬山府・三浪津間の一等道路また西北部を貫き、これより東南南海色に至る道路を分岐し、いづれもパスの便ありて交通便利なり。

新營

臺灣臺南州二市十郡中の一。本郡は、臺南州の中部に在り、北は八掌溪(八掌溪)を隔てて、東石郡及び嘉義郡に、南は曾文・新化の兩郡に、東は嘉義郡等に、西は北門郡に夫々隣接す。東西三二軒餘、南北一六軒餘の東西に細長き地域を占む。郡の東部に位置する白河、

シンウ

シンウ

シンウツボ

香社兩庄の地は、概ね山嶺にして、枕山・鹿坪山・二尖山等の山々連立し西部は土地平坦にして地味又肥沃なり。郡下を二流する河川は、八掌溪・急水溪の二流にして、八掌溪は嘉義郡等に發源し西流して途中本郡管内山地に源を有する頭前・白水兩溪を合し郡の北端を流れる臺灣海峡に注ぐ。急水溪は、郡下柳骨庄附近に發し同じく西流し、郡の南端を通りて臺灣海峡に突入す。郡管内は既に熱帯圈内に在り、爲に夏時最高温度華氏百十數度に達する事あり。雨期と稱するは、臺灣北部と反對に、五月より九月に到る五箇月間に在りて、風や雷雨・暴風を伴ひ、爲に河川氾濫し、作物の被害甚大なり。郡下の重要なる産業は、農業、畜産、商業・工業にして、就中農業は、郡下住民の生業にてまた甚だ盛なり。管内の灌溉排水の便は、概して良好にして八掌溪・急水溪による他、新營郡水利組合經營に係る埤圳は三大幹線より成り、その延長約十一里、灌溉面積は三十餘甲に達す。農業の主なるものは、米・甘蔗・甘藷・薯蕷・落花生・胡麻・豆類・黃麻・玉蜀黍・麥・アロートル・姜黄等に

シンエ

して、米は後進・白河・柳骨庄に於て産出多し、甘蔗は鹽水街・後進・柳骨兩庄に多産なり。その他の園藝作物として、柑橘類を初め、芭蕉・龍眼・椪仔(マシヨ)等の熱帯果實の産額多し。殊に芭蕉はその産出特に著しく島内各地に移

シンウ

シンウ

シンイシバ

出さる。又、大根・里芋・甘藷・麥・瓜類の蔬菜も栽培せらる。郡下の畜産は、農家に於て副業的に行はれ、牛・豚・山羊の飼養を主とす。水産は、急水溪・八掌溪その他郡下各處に漁用水として設けられたる貯水池より得らるる淡水魚に於て其收穫僅少なり。東部に在る白河・春莊兩庄は、山地多きが故に、木材・薪炭材・竹材等を出し、其副産物として竹・竹皮等を産す。又近年新街街に行はるる養蠶業は、いまだ盛ならざれども、臺灣に在りては、珍らしき産業の一として注目に値す。本郡の工業地帯は、新街・鹽水兩街にして、いづれも製糖業を主とし、新街には、鹽水港製糖株式會社及び明治製糖株式會社の工場を有し、鹽水街には鹽水港製糖株式會社の工場を有し、其他郡下各處に舊式糖廠在りて、郡下の砂糖生産高は莫大なる数字に達す。尙小規模ながら麵粉・製粉・精米・粗糖・醬油・煉瓦・石灰・木製品・菓子等の製造は郡下の各地方に行はる。交通は郡西部に於て著しく發達し、郡の中央部を臺灣鐵道縱貫線南北に貫通し、後進・新街の二驛は本郡管内に在り、また之に並行して縱貫道路通過す。其他鹽水港製糖株式會社の輕便線は、新街より鹽水街に連じ郡交通上重要な役割を有す。又新街街を起點とする大小道路は各街庄に通じ、何れも自動車の便良好なり。本郡の地は、其開拓の歴史古く、明末鄭氏の領土と共に、

シンイ

上面を狭み、東は陝川郡に、南と西とは山嶺に界す。面積七四方軒。北地に龍山(九五・一米)、西境南部に鐵馬山(七〇・五米)、南境に保錄山(七九・七米)・巢龍山、東境南部に月女山(八六・三米)等ありて面内到的處山地をなし、黃江の支流砂川、南部山地に發して北流し、中央部に於て西北より来る漢水と併せ、東向して鳳山面に出づ。その兩岸に沿ひて幅狭き低地ありて耕地拓く。米・麥・豆類・大麻等を産するも其額多からず。蔚山・三善間の道路東西に通ずるも交通便ならず。

シンイ

朝鮮黃海道載寧郡の南西部。南は海州郡、西北は信川郡に界す。東西は一六軒を超え、南北四一八軒あり。咸源山脈中に在り、北境中部に相峯(四六・二米)、西部に城岩山(四六・八米)あり、南部にも鷲峯(四三・二米)・三峰山(四〇・六米)・大徳山(四四・四米)は東西に連立し、茲に面内は南北の二谷に分かる。谷地の水は共に東流し、東南境下界面との間に、南境を東流する鹽澤川と下界面南部を西北流してこれと合する門岩川の合流を利用して築かれたる安寧水利貯水池に流入す。面内山地多きも各地には耕地ありて米・麥・大豆等の農産あり。面色新院里は東北部の各の出口に在り、社線朝鮮鐵道黃海道(海上海・龍崎浦間)の新院驛(大正十四年開業)あり、下津驛(下津面)への支線を岐

要

て、現在本郡は二街四庄の地を管轄す。
【新街】 臺灣台南州新街郡の西部。...

は、製糖業にして、大字新街に施設され
たる製糖製糖株式会社の工場は、一十
噸の製糖能力を有すと云はる。...

ける名稱にして、鄭氏の部將何尊任なる
者この地を漳州人に分ちて開墾せし地
なり。...

新津驛を過ぎ新潟市の新潟驛に至る。全
長三二・九町。群馬、長野兩縣境の碓氷
峠にはアプト式鐵道による運轉をなし、...

積七二万畝。産物の主なるものは産糖・
産米にして、農業に於ては、下淡水・東
港溪に於ける本庄は、近年兩溪兩岸
工事の進捗と共に、灌溉排水及び、...

新開里の全庄、港東上里中の四庄(何れ
も現大字)を合したる區域を、新開里の
名稱の下に一括統一し、高雄州東港郡の
管轄下に置く。...

の。産物は小野田町、高千穂村に歸り
秩父古生層の上に成層せる第三紀夾礫層
にして砂岩、頁岩の互層より成る。...

シンカ 新下面 群馬縣清原郡公州郡
の西北部。面積約九七方町。東部には北
坡上の五女峰(三六一米)よりつづく廣徳
山・九節峰(三五五米)・明徳峰(三三四米)...

花・樟草等を産し、三疊三光金山及び平...

シンカ 新化

【新化郡】 臺灣台南州二十市十郡中の一...

度に達す。郡下産業中最重要なるは、農...

式會社の手により試掘せられしも成功を...

り。鄭氏據臺後、此地方、諸處開屯せ...

には、河川と稱するものを見ざるも、本...

るも、其西部なる大字新化附近は、もと...

り。何れも其沿革古く開基は遠く明末鄭...

シンカイ 新改村 高知縣土佐國長...

シンカイ 新開

【新開村】長野縣信濃國西筑摩郡の西北... 村の大部は山地重疊し、北部は皆ど...

シンガイ 新街

【新街】一名間庄(臺灣台中南投郡)... 臺灣東麓關山郡。新武呂溪の東岸平地に...

シンカイエン

【シンカイエン】新開園(臺灣台中南投郡)... 臺灣東麓關山郡。新武呂溪の東岸平地に...

シンカサワ

【シンカサワ】新鹿澤(臺灣台中南投郡)... 臺灣東麓關山郡。新武呂溪の東岸平地に...

シンカニエ

【シンカニエ】新蟹江(臺灣台中南投郡)... 臺灣東麓關山郡。新武呂溪の東岸平地に...

シンカバ

【シンカバ】新加坡(朝鮮咸鏡南道)... 咸鏡南道。新加坡。朝鮮咸鏡南道...

シンカ

【シンカ】新加坡(朝鮮咸鏡南道)... 咸鏡南道。新加坡。朝鮮咸鏡南道...

時都護府を置かれ、郡政の中心として栄... えた。されど一衣帯水の鴨綠江を以て...

シンカワ

【シンカワ】千葉縣下總國東葛飾郡の西部... 江戸川の東岸にて流山町の北隣にあり...

シンカ

【シンカ】東京市京橋區雲岸島と箱崎島と... の間をいふ。江戸時代、酒問屋と酒蔵と...

シンカン

【シンカン】朝鮮京畿道楊州... 郡の東南部。京城の東北界より約一二...

シンカン

【シンカン】朝鮮忠清南道禮山郡の北部... 略地形をなし、東南と東北の境は柳橋川...

シンカン

【シンカン】朝鮮忠清南道禮山郡の北部... 略地形をなし、東南と東北の境は柳橋川...

シンガン

【シンガン】朝鮮黄海道平山郡のほぼ中央... 部。地は東西に長く二〇軒を超え、南北...

シンギ

【シンギ】新儀村(臺灣新竹縣)の南東部... 湖に臨む。地形不規則なる三角形をなし...

【シンギ】新儀村(臺灣新竹縣)の南東部... 湖に臨む。地形不規則なる三角形をなし...

シンカイ 新開

【新開村】長野縣信濃國西筑摩郡の西北... 村の大部は山地重疊し、北部は皆ど...

シンガイ 新街

【新街】一名間庄(臺灣台中南投郡)... 臺灣東麓關山郡。新武呂溪の東岸平地に...

シンカイエン

【シンカイエン】新開園(臺灣台中南投郡)... 臺灣東麓關山郡。新武呂溪の東岸平地に...

シンカサワ

【シンカサワ】新鹿澤(臺灣台中南投郡)... 臺灣東麓關山郡。新武呂溪の東岸平地に...

シンカニエ

【シンカニエ】新蟹江(臺灣台中南投郡)... 臺灣東麓關山郡。新武呂溪の東岸平地に...

シンカバ

【シンカバ】新加坡(朝鮮咸鏡南道)... 咸鏡南道。新加坡。朝鮮咸鏡南道...

シンカ

【シンカ】新加坡(朝鮮咸鏡南道)... 咸鏡南道。新加坡。朝鮮咸鏡南道...

【シンカ】新加坡(朝鮮咸鏡南道)... 咸鏡南道。新加坡。朝鮮咸鏡南道...

シンキ

の八七米の低地に及ぶ。産業は農・工業を主とし工業にタイヤ地綿布・人造絹織物・扇骨等あり。西近江路、村の西部を南北に貫き之と並行して社線江若鐵道通じ新橋驛(昭和六年設置)を設く。村名は宇多天皇が寛平三年に安曇川下流淺瀬の陸地となりし處を民部少輔元名に賜ひ新儀莊としたるに基くと傳ふるも確かならず。村の大部は比叡本莊(今の大字新田・太田)・比叡新莊(今の大字新莊・北畑)に屬し世々日吉神社の社領たり。江戸時代に入りては大溝藩・關所藩・小濱藩・幕府直轄領等に分領せられ明治に至る。大字安井川字蓮池に式内社大比古神社あり。豊城入彦命・大荒田別命の二座を祭神とし五月十日古式の祭禮を執行す。大字新庄字東町なる大善寺(天台宗眞盛派)の本尊の大日如來坐像(木彫)は傳教大師の作と傳へ、大字安井川字東町なる保福寺の本尊釋迦如來(木像)と共に國寶に列す。史蹟に大字新莊の南東、宇城の内の新莊城址(磯野氏居城)、大字太田に桐寄書院あり。江戸時代初期の勤王家にして儒者たる淺見綱齋(贈從四位)の生地にして、著書等を藏する書院と共にその神靈を祀る太田神社あり。

シンキニュー 新義州

三平方軒。總督府鐵道京義線は九二九米の鐵橋によりて對岸の安奉線に連絡し、歐亞交通の要衝に當り、國境都市、また開港場として極要なる地。市街は略三角形をなし、城内を街路は東北より西南に、西北より東市に走り、井然たる街衢をなす。新義州驛は市街の東北端にあり、驛前より西南一軒餘に及ぶ直線街路の老松町あり、その盡くる所に守備隊、憲兵分隊、道立醫院等あり。其西北の一劃、本町より驛町に至る區域は心臓部にして最も繁華なる商業區をなし、其東北は官衙區にして府廳、地方法院、供託局、警察署等あり、官衙區の附近は諸官舎を始め一般の住宅區となれり。工業區は江岸の带状地域にして江の水運と臨江引込線(新義州江岸線)との便によりて營林廠の大工場を始め製糖製練所・製電所・製紙場・製油場等あり。また検査所、海軍出張所・税關、水産市場等もこの地域にあり。諸官舎はこの外、平安北道廳、稅務署、營林署、新義州無線電信所、平壤專賣局出張所、刑務所、測候所、實業取締所等あり。教育施設には公立の中學校、商業學校、職業學校、高等女學校及び三務學校、日新學校等あり。其他、滿洲國領事館・中華國民領事館・金融組合聯合會・公會堂・商工會議所等あり。まほ驛町には平安神社(高麗社)あり、天照大神・天之子八咫命・高麗別命を奉祀す、五月十日・十一日に例祭を行ふ。(産業) 鴨綠

シンキチモリ

甚古森、瀾山脈の一峯。高知縣安藝郡高松村と徳島縣海部郡木頭村との境上に聳立す。標高一四二二米。山麓秩父古生層より形成せらる。シンキチヨール 新起町(昭和五年設置)。臺灣鐵道縱貫線の一路。朝鮮慶尙南道河東郡の南東部。東は泗川郡西浦面と界し、東南隅は西浦面との間に侵入する辰橋港に臨む。東西は四一六軒、南北約一軒あり。北境に理明山(約四〇〇米)、南境に金藏山(八四九米)の山地あるも、中部は概ね低平にして耕地あり。米、麥、大豆、棉、苧草等の農産を出す。面色辰橋里は中部の平地に位し、東は昆陽、泗川に、西は河東方面に、南は鶯梁津に三等道路を通じ交通不便ならず。

シンキヨール 辰橋面

朝鮮慶尙南道河東郡の南東部。東は泗川郡西浦面と界し、東南隅は西浦面との間に侵入する辰橋港に臨む。東西は四一六軒、南北約一軒あり。北境に理明山(約四〇〇米)、南境に金藏山(八四九米)の山地あるも、中部は概ね低平にして耕地あり。米、麥、大豆、棉、苧草等の農産を出す。面色辰橋里は中部の平地に位し、東は昆陽、泗川に、西は河東方面に、南は鶯梁津に三等道路を通じ交通不便ならず。

シンキヨール 仁橋面

朝鮮黃海道黃州郡の東部。東南は瑞興郡、東北は平安南道中和郡に界す。地は東西に長く一八軒餘、南北五一二軒を出入す。高度二〇〇米の臺地性丘陵、西内三峰山(三四七米)、文秀峰(一九三米)等なりとす。看東面の西北より来る小梅川は北部より西内に入り、東北部より来る龍時川を合せ中部の低地を西南流し、面の西北部より下る二小支流を受け、西南部に至りて黃州川に合す。これら河川の兩岸と西南境の黃州川の氾濫原には各長良の

シンキ

江上流に無盡蔵の大森林地帯を擁し、中流以下の兩岸には廣漠たる沃野横はれるため、精米、製材の兩事業は最も盛にして、又近時製紙業の勃興を見る。工場数は製材一五、木工一八、精米一二、鑄物鐵工一二、水産製造一一、其他四〇に達しその營業者數五一〇〇餘、生産高一八八六萬圓(昭和十年)に上る。營林廠製材所は最大にして四工場を設け、その使用電力七七〇馬力、製材能力は一箇年に原木二五萬立米、製材一七萬立米に達し、實に新義州に於ける製材高の大部分を占む。王子製紙新義州工場は鴨綠江上流のダウヒ・タウシラベ・テウセンハリモミ等を原料として主として包装用紙を製造し、昭和十一年生産高一六三〇〇噸餘、四〇八萬圓に上れり。其他油脂・製粉・金屬工業等や見るべく、特産品には水産加工品の白魚干・鱈製パイプ、柳下駄等あり。(貿易) 交通の要衝を占め且つ港灣整備せるを以て對滿・支・内地の貿易は逐年隆盛に赴き、昭和十年の輸移出高二八、一一八、三八六圓、輸移入四二、八一二、七八三圓、合計七一、九三一、一六九圓、而もその大部は輸出入にして、これを全鮮各港の輸出入貿易額と比較するに、輸出は二五一一三萬圓なるを以て全鮮各港累計六四九〇萬圓の三割九分を、輸入は二九七九萬圓なるを以て全鮮各港累計一〇〇五九萬圓に比しその三分を占め、輸出入共各港に冠たり。輸出

シンキヨールコク 新京極

平野ありて耕地拓け、米・大豆、麥、棉花等の農産を出す。等外道路にて西隣に通過するも交通なほ便ならず。

シンクウ 新宮

北浦の東岸にて東は鹿島港に臨み、鉾田町の南にあり。全村低き臺地にて畑地をなし所々林を交ふ。北浦沿岸には低地ありて水田をなす。東部の鹿島港沿岸は細き低地をなし海岸は單調なる砂浜なり。半農半漁にて米麥を産し、鹿島港沿岸には鱈・鰯・秋刀魚の漁獲あり。北浦沿岸に縣道ありて鉾田町に通じ、町は社線鹿島宮鐵道の終點にて鉾田驛あり。此地は或は和名抄、鹿島郡新居郷の地に當るもの如し。中世以降朝田氏居す。蓋し在名を負ひしもの。世々朝田城にありしが、通稱に至りて天正十九年二月佐竹義宣の爲に太田城に遷移せられ城廢す。村内に無量山西光院(天台宗)及び壽徳寺(曹洞宗)あり。前者は承和三年朝田三郎助吉入道の開基に係り、後者は文治二年朝田太郎平親幹の開基とす。【新宮町】 兵庫縣播磨國揖保郡の北部。姫路市の西北約一五軒。中國山地の南側に接する山地は揖保川と林田川に切られて細長き分岐山脈をなし、本町の西境には之が延び來り、主として流紋岩より成り高度は四〇〇米内外の低丘陵をなす。

シンキ

の重なるものは木材を第一とし絹織物・綿織物これに次ぎ、以下米・魚類・ゴム靴・紺桶等の類にして、輸入は栗を第一とし柿露・石炭・豆類等多くして何れも百萬圓以上、その他製材・糖穀・大豆・硫安・鉄礦・天日鹽等は著し。而して移出は米最も多く一七六萬圓、大豆・黒船・豆粕これに次ぎ合計三一七萬圓、移入は絹織物四七六萬圓にして首位、其他綿織物・毛織物・鐵製品及び機械類・鑛油等や多く合計一八四萬圓なり。(交通) 鐵道京義本線の終點驛たる新義州驛(明治四十四年設置)あり、同驛より新義州江岸線分れて大和町の新義州江岸驛(貨物驛、明治四十四年設置)に達す。又新義州驛に駝龍岩浦を経て多羅島に通ずる社線三七・六軒も近く通せんす。海運は鴨綠江下流によりて海洋に通じ内外各地の諸港に定期航路拓け、滿洲時には千噸内外の汽船を下流に通ずる外、上流は四八〇餘軒の中江橋まで一五〇石積以下の高瀬船及びジャンクを通じ、約一八〇軒の新設鐵橋までは本府命令による淺水汽船(プロペラー船)の定期航行あり。新義州飛行場は東部なる光城面豊西洞にあり、昭和八年三月の開設にかかり、内地又は京城方面より来る日本航空檢査會社の旅客機は此處にて滿洲航空株式會社の新義州・奉天線に連絡し、なほ新義州航空無線電信局・航空標識も設置せらる。(沿革) 此地はもと鴨綠江畔の

シンクウ

町の西には小き分岐山脈を有す。揖保川はこの山脈を南流し、栗栖川は西部分岐丘陵を下りて越部村に入る。この盆地狀の河谷平野には米麥の産あり。この地には南方龍野町方面より美作街道北上し、この新宮驛より左折、栗栖川の谷を上り三日月宿を経て美作國に至る。聚落はこの街道に沿つて發達し、北へは山崎街道通じ穴栗郡山崎町に至る。龍野へは省營電氣バスの便あり。省線新宮は美作街道に並行して走り、町には播磨新宮驛(昭和七年設置)を設く。斯く本町は美作路及び北安東郡への咽喉を扼し交通上の要衝たり。古くは和名抄、揖保郡越部郷の地に於て中世は越部莊と稱す。本町には牙天神社あり、之を新宮と云ひ地名に轉化せしものならん。昭和九年四月町制を布く。【新宮市】 和歌山縣三市の一。縣の東南端に位し、東北は九里峯の勝地を劃して流下する熊野川(別名新宮川)下流を隔てて三市熊野市妻都郡御船村に對し、東南は熊野灘に面し、西南は東牟婁郡宇久井村、西北は高田村に隣りす。面積二三・三平方軒。西北境は千徳ヶ峯・湖見峠等の山地にて那智山の東嶺に連り、山地は東南方に傾斜し、東北部と南部とに平坦地ありて耕地拓く。熊野街道大道路南北に通じ、省線紀勢中線は新宮驛(大正二年設置)に起りて熊野灘に沿ひて南下し、市内に熊野地驛(大正二年設置)及

シンキ

【新義州江岸線】 朝鮮總督府鐵道局京義線の一。平安北道新義州府にある京義本線の新義州驛より西方同府内の新義州江岸驛に至る。全長一・八軒、明治四十四年十一月に開通す。

シンキ

町の西には小き分岐山脈を有す。揖保川はこの山脈を南流し、栗栖川は西部分岐丘陵を下りて越部村に入る。この盆地狀の河谷平野には米麥の産あり。この地には南方龍野町方面より美作街道北上し、この新宮驛より左折、栗栖川の谷を上り三日月宿を経て美作國に至る。聚落はこの街道に沿つて發達し、北へは山崎街道通じ穴栗郡山崎町に至る。龍野へは省營電氣バスの便あり。省線新宮は美作街道に並行して走り、町には播磨新宮驛(昭和七年設置)を設く。斯く本町は美作路及び北安東郡への咽喉を扼し交通上の要衝たり。古くは和名抄、揖保郡越部郷の地に於て中世は越部莊と稱す。本町には牙天神社あり、之を新宮と云ひ地名に轉化せしものならん。昭和九年四月町制を布く。【新宮市】 和歌山縣三市の一。縣の東南端に位し、東北は九里峯の勝地を劃して流下する熊野川(別名新宮川)下流を隔てて三市熊野市妻都郡御船村に對し、東南は熊野灘に面し、西南は東牟婁郡宇久井村、西北は高田村に隣りす。面積二三・三平方軒。西北境は千徳ヶ峯・湖見峠等の山地にて那智山の東嶺に連り、山地は東南方に傾斜し、東北部と南部とに平坦地ありて耕地拓く。熊野街道大道路南北に通じ、省線紀勢中線は新宮驛(大正二年設置)に起りて熊野灘に沿ひて南下し、市内に熊野地驛(大正二年設置)及

シンク—シンク

Table with columns: 種別 (Agriculture, Industry, etc.), 価格 (Price), 百分比 (Percentage). Includes a sub-table for '一人當' (Per person) and '一戸當' (Per household).

後八丁まで通じ交通不便ならず。市は古來熊野川を流下する木材・木炭等の集散地として著はれ、また製材業栄ゆ。現に板・角材・柱・椽丸の加工材木、西洋紙等の製造は市の主要産業にて年額六五〇萬圓を超え、市の生産總額の八七%に達んとす。されば熊野川原には主として熊野川を下る伐業者を顧客とする間はゆる河原町の商店街ありて戸數約一千を數ふ。この商店はバラック式の折疊家屋にて熊野川出水の際に折疊みて水災を免れ、家族は市中の上り家に避難す。工業の外、農産は米・麥・蔬菜・果實、水産に魚類・海藻・水産加工物、鑛産に金銀銅硫化鐵鑛・砂利・花崗岩等あり。また鹽産行はれて鹽・硫磺を出す。市内には丹波城・丸屋・浮島・並等の名勝、

圖表

熊野連玉神社・阿須賀神社・秦の徐福墓等あり。此地は古くより熊野三山の一なる熊野連玉神社即ち新宮権現の所在地として知らる。神武紀に神武天皇熊野御東征の條に見ゆる熊野神邑は蓋しこの地ならんと云はる。中古、熊野黨の根據地たり。天正年中、熊野藩の藩領内氏善の地に城を築き、關ヶ原役西軍に屬して敗亡し一族漸く衰ふ。淺野氏和歌山城に對せらるるに及び、その屬城となる。元和五年、徳川綱宣、和歌山に治するや、其家老水野重伸此處に入部し三萬五千石を領し子孫相繼ぎて明治維新に至る。明治四年廢藩置縣後は行政上幾多の沿革ありしが明治二十二年市町村制實施に際し初めて新宮町・三輪崎村(明治三十九年町制施行)の兩町村を組織し、昭和八年兩町を廢し其地城を以て新宮市を建つ。(佐野嶺山)三輪崎にあり。本邦重要嶺山の一。三〇〇米内外の峻峯に圍まれて、南一方のみ海に面す。海岸は第三紀砂岩及び頁岩より成れり。山地は石英岩より成り、鋪床は其界に近く、南東より北西に延長すること三〇〇米、〇・七一・五米の幅を以て西南に急斜する青色粘土層中を棚状に貫ぬき、主として黄鐵礦及び黃銅礦より成り多少の金銀を含有す。その發見は慶長年間と稱せらるるも實かならず。明治維新後屢々採行せられたるも成功せず、昭和九年昭和鐵業株式會社の經營に屬し、數段の坑道によりて探

を開始し、手選法に一部は機械選礦の上鋼精礦とし秋津野驛より汽車にて津浦に送り、それより船にて廣島縣尾島製鍊所に送る。その産額例へば昭和十年度には四、七一二噸に達す。(熊野連玉神社)官幣大社。祭神、熊野連玉大神・熊野夫須美大神・家津御子大神外十五神。一に新宮権現。延喜の帳大社に列す。社傳に古く右三祭神を神倉山(權現山の舊稱)もと飯盛山・熊成峯・熊踏ヶ峰の地名なりしを今は高倉下命の鎮座せる所を指す名となる)に鎮座せるを、景行天皇五十八年現社地に奉遷すと云ふ。のち右祭神に天神地祇を更に合せ祀り十二の殿宇を營みてより熊野十二社または熊野十二所大神宮と稱せらる。後に本宮の熊野座神社、那智の熊野那智神社を合せて熊野三山と云ふ。中世、神佛習合の砌り神宮また熊野十二所大神宮と稱せられ、神宮寺社傳を記して其勢甚だ盛なりき。貞觀、延喜・天慶の位位を經て終に正一位に陞し。中世には熊野三山の信仰一世を風靡し列聖の熊野行幸屢々なりき。長く熊野詣の風習は中世を盛せり。なほ當社の靈符、熊野牛玉の神符は廣く中世の社會國家の護身庶民除疫の符として尊重され、殊に起請文の誓符として重用せられしを以て名あり。社寶二百八十餘箇中、各祭神の神像を初め百五十餘の國寶指定物を藏す。例祭は十月十五日に執行され、同十六日には御旅前に神樂の演奏あり。每

神靈は先づ神輿に移され、次いで丹波の神幸船に奉遷し、諸手船及び早船に守られて熊野川を遡り、御船島を廻り御旅所に至る。その有様壯快を極む。(阿須賀神社(飛鳥神社))村社。新宮熊野連玉神社の攝社にして熊野三所大神を祀る。社寶の冠・壽輪等はいづれも國寶たり。この社にもと東京飛鳥山にありし飛鳥山神社の元宮たり。例祭十月十五日。(丹波城)宇丹鶴にその址あり。城は元和四年淺野忠吉の起工にかり、翌五年水野重伸工を繼ぎ、寛永年間重良の時増成せり。明治六年に至り毀たれ、現今熊野川に臨み疊を遺存するのみ。(新宮關澤浮島植物群落)指定天然記念物。關澤の浮島として知らる。其形はば方形を呈し東側約八七米、北側約三七米、西側約五八米、南側約八七米、面積五〇〇アル。島の周圍にはもと水を繞らし、之を渡るに舟を要せしも、今は小橋を架し其一部に渡ることを得。地は多く水を含みて柔く踏めば震動し、竹竿を地中に入挿すること約九米に至るもなほ地盤に達せず。一面に移・楊梅・赤松等の樹木發生し根盤深く、またヤマドリゼンマイ、ツツホシダ・ヒトツバ等の如き草類、アイアシ・マコモの如き木本類、キ・ホルキの如き燈心草類、其他種々の水生植物發生す。浮島は本邦暖地に於て稀に見る寒生水藻活野の叢物にしてこれに漸次外圍の土地より暖性の草木侵入し、従前のに

シンク—シンク

存島現有植物群落その大部分を占むるに至りしものなるべく、北地産のヒヨドリゼンマイ、南地産のツツホシダ並びに生育するの奇現象を呈す。植物の種類は七十餘種、杉最も多く、松・楠の大樹四百六十二本に及ぶといふ。(佐野ノ松原)佐野驛附近の海邊にあり。古歌にも名高き所に遺聲をなす。この邊の濱に所謂那智里のよく耐かれしものあり。また宇久井より佐野を經て三輪ヶ崎に至る間の海邊は美しき風景あり、夏は海水浴にて賑ふ。熊野特産の原木船も海邊に多く自生し、夏はその開花見らる。(佐野ノ墓)宇上熊野地にあり。紀州藩徳川祖宣の建てしものにて、李梅溪の筆にかかると徐福之墓なる字を刻行。徐福の不老不死の仙薬を求めんとして我國に渡來せしは史上に見ゆる事蹟なるが、その蓬萊山といへるは富士・熱田・嚴島等の異説あるも熊野が弘く信ぜらる。墓の近くにある阿須賀神社背後の山をそれなりと傳ふ。樹木蒼鬱として繁茂し、山形盆の如く自ら仙境の感あり。徐福はこの熊野に來住し捕鯨事業を拓きたりと傳へられ、現在の捕鯨地たる大地浦(大地町)の秦氏の子孫なりといはる。(神倉山)市の西隔宇籠現山に在り。礎道約五百四十級を登り頂上に至れば、熊野連玉神社の攝社にて高倉下命を祀る神社あり、眺望良し。神武天皇の登臨せられしといふ、天竺府は此山なりと傳ふ。また高倉下命が御靈

を得て神武天皇に獻じたりと傳ふる説傳たり。毎年二月六日御燈祭といひ、數多の白衣の參詣者松明に火を點じ先を争ひ石段を駆け降る祭事あり。(宗應寺)曹洞宗。東陽山と號す。往昔は嶺輪寺と號し新宮権現の神宮寺にして、天台・法相の兼學なりき。聖徳太子の創建に係るといふ。天正年間堀内氏、秀山和尚を迎へて中興の風となし、寺領三百石を寄せしが、のち石田三成に當し熊本に奔る。慶長六年淺野右近大夫寺領百石を附す。同十一年其子出雲守早世して當寺に奉る。依りて其法名に因みて寺號を改め靈屋軒五十石を附せり。(本廣寺)日蓮宗。惠雲山と號す。慶長年中日等上人の開基に係る。此地もと新宮周防守の部址なり。延寶六年水野土佐守菩提所と定む。

【新宮】鳥取縣岩美郡にありし村。大正六年高野村と共に廢し、その地域を以て小田村を置く。【新宮村】關西國廣野郡の北部海岸。關西市の東北約一軒。古賀町の西南に接す。面積八・七六方軒。東隅及び西南隅に約一〇〇米程の小丘陵ある外は全村土地平坦なり。海岸線は東北より西南に連り平直にして新宮濱と言ひ北部に砂丘を見る。西南部には磯崎鼻の突出ありて軍洞を破り其北に海川の清流海に入る。耕地面積廣く米を多く産し、麥・甘藷等も出し、水産業も行はる。舊鹿兒島街道中央を經斷し其東に省線鹿兒島本線

走り北方約二軒に古賀驛、西南方約二、五軒に白鳥驛あり。西部砂丘の内側に社傳多湖鐵道汽船の新宮港驛(大正十四年設置)あり。村内に住吉明神の祠あり、那珂郡の本祠に對して新宮と稱す。蓋し村名はこれに起因するものか。ジングージ 神宮寺町 秋田 縣羽後國仙北郡の中部。大曲町の西北約二軒、雄物川に沿ふ。南境に大平山(縣神山三八八米)巖山脚の雄物川に流くる所に神宮寺(二八一米)ありて急崖を向け、北部は低き丘陵連なりこの中間を雄物川は玉川を穿れて西に流れやや廣き氾濫原をもち河岸に小段丘陵發達す。雄物川はもとこの地にて流を行なせしものにて、北部丘陵の南麓にその河跡湖あり。今なほ河中に多くの小島あり湖狀をなして流る。この神積氾濫原は土壌肥沃にて古來農耕發達し本町全面積の半は水田區域にて米作本位の農業經營をなす。農家戸數の八分の一は自作農にして他は小作農なり。米は仙北米にしてその品質良好なるを以て著はれ東京市場にも出荷多く、他に小豆・馬鈴薯・牛蒡・胡瓜・大根・茄子等あり。醸造も盛にして清酒は三十萬圓、醬油は五萬圓に近く、北部丘陵に秋田種馬所ありて良馬を産し、また木材は製材約五萬圓も行はるるも原木のまま移出するもの多し。農林本線は雄物川の北岸を通じ神宮寺驛(明治三十七年設置)を置き、國道羽州街道これに沿

圖表

シンクミ 新組村

新潟縣越後國古志郡の北部。越後平野の南方に横たわり、川溝状平野をなす。高度は十八米位にて、多くの川は天井川をなして自由曲流し、大抵低地をなす。北境には谷田川蛇行しつづ、東部へ流れ、第三紀層より成る越後山塊より出る支流は合して筑後川となり、村の中部を北流し筑後川に合流す。西部には栖吉川の用水等ありて灌漑に便し、土地低平なれば水田拓け、所収越後米の産出多し。能登には、タモシの木を植ふし特殊景観あり。信越本線、村の西南部を通過し、押切驛(中之島村)に近し。明治戊辰役には戦場となれり。

シンクマ 新車

シンケルマ 新車

大阪府和泉國泉南郡の中部。和泉山脈の北斜面に位置し、北の佐野町との間に南中通村を隔て大阪湾に近し。和泉山脈北斜面の一山麓、南境に約四〇〇米の高さに東西に横たわり、下る数條の谷を造りつゝ、緩傾斜し西境に笠山(七六米)あり。北部は大坂平野西南部沖積低地の一部を占め土地平坦にして所々に湖沼散在す。河川は東北境を西北に向ふ櫻川井あり、北部にて西に折れ北關南中通村に出で、西北傾斜にて西部を西北流する支流の水を合せて北に向ひ約二軒先にて大阪湾に注ぐ。大阪湾斜面の地にて土地肥沃なれど氣候乾燥し爲に灌漑用水を造りて耕作に便し、米等を産す。又近年工業も行はれ綿布を出す。社線阪和電線北部を横断し新車驛(昭和五年設置)あり。紀州街道は西北境を僅かに掠めて東北より南方へ走る。この地古くは和名抄、日根郡賀美郷の内なり。江戸時代は幕領たり。また淀君の侍女にして大阪落城の見聞記、即ちお菊物語の著者お菊は此地の人なりともいふ。

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

【新溪面】

朝鮮黄海道新溪郡の首邑。面の略中央部に位置す。北部と中部には高さ二〇〇米位の丘陵東北より西南に連り、その間を古河より来る龍成江の支流新溪川蛇行曲流して西面に出で、南境にも高度一〇〇米位の丘陵あり、中部の丘陵との間に幅や狭き低地を挟み新溪川西南流して渠面に出で、龍成江の支流古新恩川に合す。新溪・龍成川に沿ふ低地に主として畑地拓け、大豆・粟等の農産あり。新溪の市街は面の西部、新溪川の右岸に位置し、西と北に丘陵を控へ、南は南川、西は新幕、東北は谷山方面へ道路を通じてバスの往來あり、交通上の要點を占む。郡廳の所在地にして、陰曆二・七日に市場開かれ生牛・雜貨・薪炭・粟・米等の取引行はる。

ジンケ

仁溪面 朝鮮全羅北道淳昌郡の中央より稍北に位置し、郡邑淳昌に北隣す。老年期の丘陵性山地略と域内を埋め平地極めて少く、耕地は丘陵面及び斜面に主として發達す。従つて灌漑の利に乏しく、主に畑作農業行はる。産物は大豆・大麻を主とし棉花・樟草・麻・苧麻等あり。淳昌光州間の三等道路は面の中央を南北に縦貫し聯合自動車を通ずるは特等なく地方的外路線に過ぎず。粟落は比較的南部に多く芝山里・中山里・支北里・甲洞里・加成里・馬吃里・細龍里等を其主要なるものとす。而して郡邑淳昌に近き甲洞里に在り。

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

産す。又近年工業も行はれ綿布を出す。社線阪和電線北部を横断し新車驛(昭和五年設置)あり。紀州街道は西北境を僅かに掠めて東北より南方へ走る。この地古くは和名抄、日根郡賀美郷の内なり。江戸時代は幕領たり。また淀君の侍女にして大阪落城の見聞記、即ちお菊物語の著者お菊は此地の人なりともいふ。

シンケ

【新溪面】 朝鮮黄海道新溪郡の首邑。面の略中央部に位置す。北部と中部には高さ二〇〇米位の丘陵東北より西南に連り、その間を古河より来る龍成江の支流新溪川蛇行曲流して西面に出で、南境にも高度一〇〇米位の丘陵あり、中部の丘陵との間に幅や狭き低地を挟み新溪川西南流して渠面に出で、龍成江の支流古新恩川に合す。新溪・龍成川に沿ふ低地に主として畑地拓け、大豆・粟等の農産あり。新溪の市街は面の西部、新溪川の右岸に位置し、西と北に丘陵を控へ、南は南川、西は新幕、東北は谷山方面へ道路を通じてバスの往來あり、交通上の要點を占む。郡廳の所在地にして、陰曆二・七日に市場開かれ生牛・雜貨・薪炭・粟・米等の取引行はる。

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

シンケ

獨立し、乾隆年間更に二林下堡を分立せり。此の地方の荒埔一帯は之を深坑仔と稱せしより、最初深坑仔堡と稱せしが、近世の轉訛により深坑仔の文字を用ひしもの、如く、乾隆二十九年に成りし臺灣府志(續修)には、或は深坑仔堡、或は深坑仔堡とあり。而して道光十二年に成りし彰化縣志に、一定して深坑堡と見ゆ、我が領臺後依然存續し、大正九年十月地方官々制の改正に依り廢せられ、前記諸庄に分割せらる。

新光面

新光面は、朝鮮全羅南道咸平郡の西北部。東西約八野。南北は四一五野なるも、中部の突出部にては一、二野を越ゆ。西境に君遊山(四〇三米)・老翁山(一八三米)・東境にも高度二〇〇米臺の山地あるも、中部には咸平川上流に沿ふ低地ありて耕地拓け米麥・豆類・棉花・苧麻等の農産を出す。咸平・靈光間の三等道路中央東部を南北に通じ交通不便ならず。

新港

新港は、臺灣臺南州嘉義郡の北西端。北港・牛稠兩溪の間に位し、東は溪口・民權二庄に連り、北は北港溪を隔て、北港郡と相對し、西は大東石郡に隣接し、一部は北港溪を隔て、北港郡と界す。南は牛稠溪(朴子溪の上流)を隔て、東石郡と相對す。本庄は嘉義平野の一部にして南北に河川の流るゝあり、管内は一望坦々たる平野を展開し地味肥沃なり。地勢上天恵に新する

新港

新港は、臺灣臺南州嘉義郡の北東部に位し、南北に長し海岸に面せる地域にて、西は海岸山脈を以て地は花露港(臺南府)及び臺東廳關山郡に接し、北は花露港(臺南府)・南は臺東郡に接し、東は太平洋に面す。平地は海濱の狭長なる僅少の地域にして、大部分は山岳地帯なり。交通は臺東より自動車道路の設けられ、一路海岸に沿うて北上し、新港より遠く花露港に達する。當郡に於ける中心都市は新港にして海濱による交通の便もあり。行政區劃としては長濱庄・新港庄・都標庄の三區劃に分せらる。住民は大部分高砂族中のパンツア族(アミ族)に屬するものにして、農務皆主として米作を行ふ。彼等は自給自足の原始生活の域を脱せず未だ生産をなすに至らず。その他福建人・廣東人・熟蕃人・内地人の居住者あるも何れも近年の移住によるもの。

新港

新港は、臺灣臺南州嘉義郡の北東部に位し、南北に長し海岸に面せる地域にて、西は海岸山脈を以て地は花露港(臺南府)及び臺東廳關山郡に接し、北は花露港(臺南府)・南は臺東郡に接し、東は太平洋に面す。平地は海濱の狭長なる僅少の地域にして、大部分は山岳地帯なり。交通は臺東より自動車道路の設けられ、一路海岸に沿うて北上し、新港より遠く花露港に達する。當郡に於ける中心都市は新港にして海濱による交通の便もあり。行政區劃としては長濱庄・新港庄・都標庄の三區劃に分せらる。住民は大部分高砂族中のパンツア族(アミ族)に屬するものにして、農務皆主として米作を行ふ。彼等は自給自足の原始生活の域を脱せず未だ生産をなすに至らず。その他福建人・廣東人・熟蕃人・内地人の居住者あるも何れも近年の移住によるもの。

新港

新港は、臺灣臺南州嘉義郡の北東部に位し、南北に長し海岸に面せる地域にて、西は海岸山脈を以て地は花露港(臺南府)及び臺東廳關山郡に接し、北は花露港(臺南府)・南は臺東郡に接し、東は太平洋に面す。平地は海濱の狭長なる僅少の地域にして、大部分は山岳地帯なり。交通は臺東より自動車道路の設けられ、一路海岸に沿うて北上し、新港より遠く花露港に達する。當郡に於ける中心都市は新港にして海濱による交通の便もあり。行政區劃としては長濱庄・新港庄・都標庄の三區劃に分せらる。住民は大部分高砂族中のパンツア族(アミ族)に屬するものにして、農務皆主として米作を行ふ。彼等は自給自足の原始生活の域を脱せず未だ生産をなすに至らず。その他福建人・廣東人・熟蕃人・内地人の居住者あるも何れも近年の移住によるもの。

新港

新港は、臺灣臺南州嘉義郡の北東部に位し、南北に長し海岸に面せる地域にて、西は海岸山脈を以て地は花露港(臺南府)及び臺東廳關山郡に接し、北は花露港(臺南府)・南は臺東郡に接し、東は太平洋に面す。平地は海濱の狭長なる僅少の地域にして、大部分は山岳地帯なり。交通は臺東より自動車道路の設けられ、一路海岸に沿うて北上し、新港より遠く花露港に達する。當郡に於ける中心都市は新港にして海濱による交通の便もあり。行政區劃としては長濱庄・新港庄・都標庄の三區劃に分せらる。住民は大部分高砂族中のパンツア族(アミ族)に屬するものにして、農務皆主として米作を行ふ。彼等は自給自足の原始生活の域を脱せず未だ生産をなすに至らず。その他福建人・廣東人・熟蕃人・内地人の居住者あるも何れも近年の移住によるもの。

新港

新港は、臺灣臺南州嘉義郡の北東部に位し、南北に長し海岸に面せる地域にて、西は海岸山脈を以て地は花露港(臺南府)及び臺東廳關山郡に接し、北は花露港(臺南府)・南は臺東郡に接し、東は太平洋に面す。平地は海濱の狭長なる僅少の地域にして、大部分は山岳地帯なり。交通は臺東より自動車道路の設けられ、一路海岸に沿うて北上し、新港より遠く花露港に達する。當郡に於ける中心都市は新港にして海濱による交通の便もあり。行政區劃としては長濱庄・新港庄・都標庄の三區劃に分せらる。住民は大部分高砂族中のパンツア族(アミ族)に屬するものにして、農務皆主として米作を行ふ。彼等は自給自足の原始生活の域を脱せず未だ生産をなすに至らず。その他福建人・廣東人・熟蕃人・内地人の居住者あるも何れも近年の移住によるもの。

新港

新港は、臺灣臺南州嘉義郡の北東部に位し、南北に長し海岸に面せる地域にて、西は海岸山脈を以て地は花露港(臺南府)及び臺東廳關山郡に接し、北は花露港(臺南府)・南は臺東郡に接し、東は太平洋に面す。平地は海濱の狭長なる僅少の地域にして、大部分は山岳地帯なり。交通は臺東より自動車道路の設けられ、一路海岸に沿うて北上し、新港より遠く花露港に達する。當郡に於ける中心都市は新港にして海濱による交通の便もあり。行政區劃としては長濱庄・新港庄・都標庄の三區劃に分せらる。住民は大部分高砂族中のパンツア族(アミ族)に屬するものにして、農務皆主として米作を行ふ。彼等は自給自足の原始生活の域を脱せず未だ生産をなすに至らず。その他福建人・廣東人・熟蕃人・内地人の居住者あるも何れも近年の移住によるもの。

新興

新興は、臺灣臺南州嘉義郡の北東部に位し、南北に長し海岸に面せる地域にて、西は海岸山脈を以て地は花露港(臺南府)及び臺東廳關山郡に接し、北は花露港(臺南府)・南は臺東郡に接し、東は太平洋に面す。平地は海濱の狭長なる僅少の地域にして、大部分は山岳地帯なり。交通は臺東より自動車道路の設けられ、一路海岸に沿うて北上し、新興より遠く花露港に達する。當郡に於ける中心都市は新興にして海濱による交通の便もあり。行政區劃としては長濱庄・新興庄・都標庄の三區劃に分せらる。住民は大部分高砂族中のパンツア族(アミ族)に屬するものにして、農務皆主として米作を行ふ。彼等は自給自足の原始生活の域を脱せず未だ生産をなすに至らず。その他福建人・廣東人・熟蕃人・内地人の居住者あるも何れも近年の移住によるもの。

新興

新興は、臺灣臺南州嘉義郡の北東部に位し、南北に長し海岸に面せる地域にて、西は海岸山脈を以て地は花露港(臺南府)及び臺東廳關山郡に接し、北は花露港(臺南府)・南は臺東郡に接し、東は太平洋に面す。平地は海濱の狭長なる僅少の地域にして、大部分は山岳地帯なり。交通は臺東より自動車道路の設けられ、一路海岸に沿うて北上し、新興より遠く花露港に達する。當郡に於ける中心都市は新興にして海濱による交通の便もあり。行政區劃としては長濱庄・新興庄・都標庄の三區劃に分せらる。住民は大部分高砂族中のパンツア族(アミ族)に屬するものにして、農務皆主として米作を行ふ。彼等は自給自足の原始生活の域を脱せず未だ生産をなすに至らず。その他福建人・廣東人・熟蕃人・内地人の居住者あるも何れも近年の移住によるもの。

事。中和より大内江岸の瑞源里(海陽里)に至る三等道路南端を東西に通ず。両事務所は中部の上三里にあり。

新興

新興は、朝鮮咸鏡南道中部の郡。道管内二府一六郡の一。地形南北に長く、面積二一七五平方里に餘る。東北西の三面は高山峻嶺により圍まれ大部分山地をなし東北郡は殊に險峻にして、最北に赴戦嶺山脈に屬する北水白山・白山(二二七九米)・有麟山等あり。東北隅の布沙峰西枝たる禁牌嶺(最高點一六七六米)より山脈西走して明安峰(一八〇九米)・赴戦嶺(最高點一四四五米)・白巖山(一七四一米)が郡中央部を東西に連りて南北の二斜面に分ち、北は赴戦江となり、鴨綠江に注ぎ、南は城川江となりて日本海に朝す。西して北半は蓋馬高原の一部たる赴戦高原を成し、南半は比較的低下にして城川江の兩岸には狭長なる沃野拓く。高原上の赴戦江上流には一人造湖(赴戦湖)あり。周圍約八〇軒、これ即ち朝鮮農業肥料會社の貯水池にして、これより南に水路を導き、インクラインを以て白岩山を越え、山の南方に第一より第四に至る四大發電所あり。發電力二〇一三七五キロワットに及ぶ。耕地面積は田一九〇〇ヘクタール、畑二五〇〇ヘクタールにて畑多く、住民の七割は農業に従事す。而して赴戦高原は火田民によりて多く粟・高粱等栽培せられ牧牛行はる。主産は燕窩(六・四萬石)・粟(三・六萬石)大麥

新興

新興は、朝鮮咸鏡南道中部の郡。道管内二府一六郡の一。地形南北に長く、面積二一七五平方里に餘る。東北西の三面は高山峻嶺により圍まれ大部分山地をなし東北郡は殊に險峻にして、最北に赴戦嶺山脈に屬する北水白山・白山(二二七九米)・有麟山等あり。東北隅の布沙峰西枝たる禁牌嶺(最高點一六七六米)より山脈西走して明安峰(一八〇九米)・赴戦嶺(最高點一四四五米)・白巖山(一七四一米)が郡中央部を東西に連りて南北の二斜面に分ち、北は赴戦江となり、鴨綠江に注ぎ、南は城川江となりて日本海に朝す。西して北半は蓋馬高原の一部たる赴戦高原を成し、南半は比較的低下にして城川江の兩岸には狭長なる沃野拓く。高原上の赴戦江上流には一人造湖(赴戦湖)あり。周圍約八〇軒、これ即ち朝鮮農業肥料會社の貯水池にして、これより南に水路を導き、インクラインを以て白岩山を越え、山の南方に第一より第四に至る四大發電所あり。發電力二〇一三七五キロワットに及ぶ。耕地面積は田一九〇〇ヘクタール、畑二五〇〇ヘクタールにて畑多く、住民の七割は農業に従事す。而して赴戦高原は火田民によりて多く粟・高粱等栽培せられ牧牛行はる。主産は燕窩(六・四萬石)・粟(三・六萬石)大麥

新興

新興は、朝鮮咸鏡南道中部の郡。道管内二府一六郡の一。地形南北に長く、面積二一七五平方里に餘る。東北西の三面は高山峻嶺により圍まれ大部分山地をなし東北郡は殊に險峻にして、最北に赴戦嶺山脈に屬する北水白山・白山(二二七九米)・有麟山等あり。東北隅の布沙峰西枝たる禁牌嶺(最高點一六七六米)より山脈西走して明安峰(一八〇九米)・赴戦嶺(最高點一四四五米)・白巖山(一七四一米)が郡中央部を東西に連りて南北の二斜面に分ち、北は赴戦江となり、鴨綠江に注ぎ、南は城川江となりて日本海に朝す。西して北半は蓋馬高原の一部たる赴戦高原を成し、南半は比較的低下にして城川江の兩岸には狭長なる沃野拓く。高原上の赴戦江上流には一人造湖(赴戦湖)あり。周圍約八〇軒、これ即ち朝鮮農業肥料會社の貯水池にして、これより南に水路を導き、インクラインを以て白岩山を越え、山の南方に第一より第四に至る四大發電所あり。發電力二〇一三七五キロワットに及ぶ。耕地面積は田一九〇〇ヘクタール、畑二五〇〇ヘクタールにて畑多く、住民の七割は農業に従事す。而して赴戦高原は火田民によりて多く粟・高粱等栽培せられ牧牛行はる。主産は燕窩(六・四萬石)・粟(三・六萬石)大麥

新興

新興は、朝鮮咸鏡南道中部の郡。道管内二府一六郡の一。地形南北に長く、面積二一七五平方里に餘る。東北西の三面は高山峻嶺により圍まれ大部分山地をなし東北郡は殊に險峻にして、最北に赴戦嶺山脈に屬する北水白山・白山(二二七九米)・有麟山等あり。東北隅の布沙峰西枝たる禁牌嶺(最高點一六七六米)より山脈西走して明安峰(一八〇九米)・赴戦嶺(最高點一四四五米)・白巖山(一七四一米)が郡中央部を東西に連りて南北の二斜面に分ち、北は赴戦江となり、鴨綠江に注ぎ、南は城川江となりて日本海に朝す。西して北半は蓋馬高原の一部たる赴戦高原を成し、南半は比較的低下にして城川江の兩岸には狭長なる沃野拓く。高原上の赴戦江上流には一人造湖(赴戦湖)あり。周圍約八〇軒、これ即ち朝鮮農業肥料會社の貯水池にして、これより南に水路を導き、インクラインを以て白岩山を越え、山の南方に第一より第四に至る四大發電所あり。發電力二〇一三七五キロワットに及ぶ。耕地面積は田一九〇〇ヘクタール、畑二五〇〇ヘクタールにて畑多く、住民の七割は農業に従事す。而して赴戦高原は火田民によりて多く粟・高粱等栽培せられ牧牛行はる。主産は燕窩(六・四萬石)・粟(三・六萬石)大麥

新興

新興は、朝鮮咸鏡南道中部の郡。道管内二府一六郡の一。地形南北に長く、面積二一七五平方里に餘る。東北西の三面は高山峻嶺により圍まれ大部分山地をなし東北郡は殊に險峻にして、最北に赴戦嶺山脈に屬する北水白山・白山(二二七九米)・有麟山等あり。東北隅の布沙峰西枝たる禁牌嶺(最高點一六七六米)より山脈西走して明安峰(一八〇九米)・赴戦嶺(最高點一四四五米)・白巖山(一七四一米)が郡中央部を東西に連りて南北の二斜面に分ち、北は赴戦江となり、鴨綠江に注ぎ、南は城川江となりて日本海に朝す。西して北半は蓋馬高原の一部たる赴戦高原を成し、南半は比較的低下にして城川江の兩岸には狭長なる沃野拓く。高原上の赴戦江上流には一人造湖(赴戦湖)あり。周圍約八〇軒、これ即ち朝鮮農業肥料會社の貯水池にして、これより南に水路を導き、インクラインを以て白岩山を越え、山の南方に第一より第四に至る四大發電所あり。發電力二〇一三七五キロワットに及ぶ。耕地面積は田一九〇〇ヘクタール、畑二五〇〇ヘクタールにて畑多く、住民の七割は農業に従事す。而して赴戦高原は火田民によりて多く粟・高粱等栽培せられ牧牛行はる。主産は燕窩(六・四萬石)・粟(三・六萬石)大麥



鎮座。地社。祭神大己貴命・事代主命。豊城入彦命。弘安年中、時の社守木村宮内は紀伊和歌浦なる衣通姫命・玉津島原明神を勧請して此地に勧請し、皇孫玉津島明神と稱へしに創まると傳へ、慶長十五年本多正純の所領となるや、當國二荒山神社の祭神、國造神豐城入彦命を奉祀し、諸神を合せ改めて總領守宗現神社と稱す。境内大木鬱蒼、四圍田圃に接し、風致可なり。例祭、十月十日。

【新合村】 熊本縣肥後國天草郡天草下島の東南部。村内地多し西北北に行人岳(普賢岳四七七米)あり、其西南に眞岳(四六六米)ありて西境を限り東南方へ傾斜し、東境には二〇〇—三〇〇米の山地東北より西南へ連り西北境へ傾斜し、中央に谷を造り下田川その間を西南流し、南部にて西北へ方向を轉じて西隣一町田村に出で、南方へ向ひ約五軒にて内浦に注ぐ。總本山村にして主産物は米・麥・蕎麥・甘藷なり。其他大炭・仔牛・用材の特産あり。北方本渡町方面より来る鐵道中央の谷を貫きて南方深町方面に至り南部にて之より分れ下田川筋に沿ひて西北へ延びる一道路及び中部にて分岐し東南方海岸へ走るもの等あり。明治十年津留・市瀬・平床の三村を合併せし際新合村と名づけ、町村制實施の際更に立原村と合併す。兩し今は一概にシンコと稱す。住古村郷の形を成せしは室町時代の末葉にして、立原村庄屋たりし木多家の祖舟

鳥權大左衛門忠宗、天文の頃立原に來りし時は隣縣より移住せる僅少の人家あるのみにて、津留村は元和・寛永の頃住民戸數三十九ありと。而し江戸時代に至り住民の繁盛につれ、各部落に庄屋を置き行政を司らしむるに至る。村内に四郎塚といふものあり。これは切支丹一揆の死亡者を葬りし塚なる故に天草四郎の名を附せしものならん。

【新郷村】 熊本縣肥後國天草郡の西南。阿賀野川の右岸にあり。南及び西は川を距てて河沼郡に對す。越後山脈の東斜面に屬し、村の東北部は標高約七〇〇米にして西南に傾斜す。使川は此の山地に出でて時々西流し、阿賀川に合す。阿賀川は村の南境を西流し、村の西南部に於て流路を北方に變じ、先行性流路となりつつ、村の西境を北流す。使川流域には水田拓け西境には桑園あり。また山地には森林あり。總本山村にして米・蕎麥・薪炭を出す。道路は村の中央を時々東西に通じ、東方省線磐城西線山形線へは約九軒あり、西方河沼郡郡村には鐵橋を架す。この地に天文年間、豪族武藏氏の宅あり、戊辰の際に戦場なり。【新郷村】 熊本縣肥後國天草郡の北部。北は阿賀川を隔て、耶麻郡山形村・山形村に、東は只見川を隔て、千原村に相對す。地勢東部及び南部に稍々高く北方阿賀川及び東方只見川に相對す。阿賀川は

村の北境を大風曲をなして西流し只見川は東境を北流して阿賀川に合す。沿岸に水田・畑地拓く。農業を主とし米・麥を産し林業これに次ぎ材木・木炭を出す。道路は村の中央を時々西北より東南に通じ西北方省線磐城西線山形線へは約二軒東南方省線津浦線西線へは約五軒。此地は近世、河沼郡野澤組に屬せり。千原村と新合村をなし牧場を本村に置く。【新郷村】 茨城縣下總國龍岡郡の北西。古河町の南隣にて利根川・渡良瀬川合流點の東岸にあり。西は渡良瀬川を隔てて埼玉縣北埼玉郡に隣り、南は利根川を隔てて埼玉縣北埼玉郡栗橋町と相對す。全村平地にて畑地多し所々に林を交へ中部に水田あり。農業を主とし米・麥を主産し特産物に南瓜あり。陸羽道は栗橋町より利根川を經て來り村内を東北に走りて古河町に通ず。省線東北本線これに沿ふ。村内に驛なく古河町に古河驛を置く。大字鴻巣に公方御所址と傳ふところありて、池沼に舟出せる丘陵に土壇溝郭の遺址を存す。古河公方成氏の別館のありし所と傳へ、これより船にて小島丘陵の岸に沿ひ城に通ひしものならんといふ。また大字中田に江戸幕府の時制橋ありて房川御番所と稱し古河侯の御邸め場たり。房川は一に坊前ともいひ、栗橋の渡津につかざる名なり。

【新郷村】 埼玉縣武藏國北足立郡の東南部。鳩ヶ谷町の東隣にあり。北は安行村、

東は草加町・谷塚村、南は東京市足立區と接す。面積六・七二米方軒の小村。全村平地にて南半は水田多し北半は畑地をなす。農業を主とし米・麥を主産す。また東京市場に出荷の便よく其めに蔬菜の栽培盛んに行はる。縣道は鳩ヶ谷町より來り村の中央を東走して草加町に入り陸羽道に合す。また南走して東京市に入りるものあり。草加町に社總東武本線草加驛を置く。村内に日本放送協會關東支部放送所あり。この地は近世、足立郡谷古田領に屬し、徳川氏關東入國後は幕領にして、代官の支配地たり。元禄八年に檢地あり。【新郷放牧所】 大字赤井邊にあり。日本放送協會關東支部の放牧所に於て愛宕山演習所より有線にて連絡し、電力十軒、波長三四五米にて放送す。空中線は高さ五五米の自立式鐵塔二基(間隔九〇米)の中間に丁型に懸架せる二線及列のものなり。放牧機は英國マルコム無線電信會社製にて、總取單輪は鐵石式受信装置にては晝間六〇軒乃至一二〇軒、夜間は五〇軒の地點に及ぶ。【峯ヶ岡神社】 大字峯に鎮座。祭神、息長帶日賣命・品陀和氣天皇・帶仲日子天皇。江戸時代には朱印領三十石を有す。古來谷古田領の總領守にして、もと峯ヶ岡八幡宮といひ、大永七年再建、今の社殿は元禄十年の建立に係る。例祭、九月十五日。

【新郷村】 埼玉縣武藏國北埼玉郡の北部

利根川の南岸。忍町の東方、羽生町の西方にあり。北は利根川を隔て、群馬縣邑樂郡と相對す。面積八・三九平方軒。全村平地にて東境を利根川の分岐會野川南流し水田多し北部のみ畑地をなす。絶然たる農村にして米産多し。縣道は忍町より來り北走して橋を渡り對岸佐賀村を經て館林町に通ず。又東走して羽生町に通ずるものあり。社總秩父鐵道は羽生町より來り村の中央を西走して忍町に通じ村内東部に新郷驛(大正十年設置)を置く。この地は近世、埼玉縣高橋領に屬し、大字上新郷・下新郷はもと一村にして五保團には新郷村と稱せしが元禄の改定團には上下の二村に分る。上新郷は元和の頃は板倉周防守知行し、寛永十年より松平五左衛門の知行所となり、その一部を享保年中に瀨名傳右衛門に分與し、のち松平・瀨名兩氏の子孫嗣いで知行す。下郷地は正保の頃は戸田藩右衛門の知行せし地なり。

シンコ

仁興面 朝鮮成鐵南道永興郡の東部。東西約一二軒南北一〇軒内外、略菱形をなし面積約一一五方軒を有す。西北部と東境には山地あるも西南部は永興湖に注ぐ龍興江下流の沖積平野の一部を占め、東北部は北流して金津江に注ぐ支流の流域にして共に土地平坦、耕地よく拓く。米・麥・大豆・粟・黍等の農産多く、また西北部山地には興平金礦をはじめ仁興・旺盛金山ありて金、

銀・銅・亜鉛を産し、興山・香峰・中川、旺上等の金礦よりは金・銀を出す。鐵道成鐵線西南部より中部を北上し北部の旺上里に旺盛驛(大正八年設置)を置く。

シンコ

神興村 福岡縣筑前國宗像郡の西部。西部は津屋崎町及び福岡町に接し支海邊に近く、北部は東郷町に隣り、東に二七・一米の許斐山ありて南部に低き陸地を延ばし西北部には一五〇米程の丘陵ありて南方へ緩漫に傾斜し兩者の間は淺谷をなす。農業は米・麥・甘藷・粟・蕎麥を産す。瀨尾見島街道中央を南北に貫き、其東に省線鹿兒島本線走りて北方約〇・五軒に東郷驛あり。西南方約一軒に福岡驛あり。この地古くは和名抄、宗像郡津丸郷の地にして大字津丸は蓋しその遺稱とす。

シンコ

新神足村 京都府山城國乙訓郡の南部。北は向日町南は大山崎村に隣り、西は海印寺村に接し、東は久世郡没町に接す。面積五・七二方軒。地は京都盆地の西邊を占め、相武天皇平安遷都前の長岡京の中心に當り、土地低平。耕地よく拓け米・麥・蔬菜を産し、所々に竹林ありて筒竹の皮を産す。京都市より来る西園街道中央を縱斷し西南方約三軒にて山崎の驛路を過ぎ西南方の大阪灣北岸諸郡市を連ぬ。省線東海道本線東に之と並び神足驛(昭和六年設置)あり。また西部には社總京阪電氣鐵道南方へ走りて長岡天神驛(昭和三年

設置)を置く。この地は長岡天神宮の所在地として知らる。神足・馬場・藤原寺・調子・友阿・岡田の部落を合して新神足村と名づく。東寺古文書に正和三年庚辰莊とあるも此地なるべし。延喜式、乙訓郡神足神社あり。藤原寺城址あり。應仁の亂山崎合戦の時本陣を置けり。(長岡天神宮)(見返り天神) 神社。祭神、菅原道真。菅公筑紫へ左遷の途次、親交ありし宇多法皇の侍臣藤原別れを惜しみて公の影像を寫し、その墓去後に建祠せしを當社の創建なりと云ふ。一説に菅公左遷に隨伴せし其區の中小路宗則、西小路祐仲、東小路祐房等は公の薨去後、その舊領たりし此地に一祠を建てしを以てその創建とすと云ふ。この新祠は先の新祠と同一人なるや否や詳かならず。とまれ當社は公の没後、その知人または臣下に依つて御建せられしものなるべし。應仁の亂後明應年間と文政・慶長の文とに社殿の再建あり。天和年中、此地は八條院の所領に屬せし故に親王家の御崇敬深く、延寶四年に社殿を御改修せらる。なほ元禄以後は朝廷を初め親王家の他に公卿の崇敬厚きものありき。例祭、十月九日。

シンコ

新興里 朝鮮總督府鐵道湖南本線の一驛(大正三年設置)。朝鮮全羅南道長城郡北一面にあり。【シンコイワ】 新小岩 省線總武本線の驛(昭和三年設置)。東京市葛飾區

【新郷村】 埼玉縣武藏國北埼玉郡の北部

シンコ

新五色 山上村(山形縣) 新虎尾溪 虎尾溪(山形縣) 新金剛 新金剛(山形縣) 新座 新座(群馬縣) 神西 神西(群馬縣) 深才村 新海縣越後國三島郡の南部。大體西山の東南斜面と信濃川の沿邊原より成り、西山は第三紀末層に日本海方面からの擠壓力により強く壓縮されし第三紀層の褶曲山脈にて、信濃川は東の東山と西山との間の向斜又は向斜に沿うて起れる地溝帯を流る。東境には信濃川網流をなして北流し、南境には信濃川北流し源を合流す。此等の川は何れも天井川をなし平野部は凡そ低湿地にて水田拓け、園はゆる越後米の産多し。丘陵地には針葉樹多し。社總長岡鐵道は信越本線來迎寺驛(來迎寺村)に分岐し北上し、本村に深澤・上高岡・才津(何れも大正十年設置)、有栗(昭和九年設置)、西長岡(大正五年設置)を置く。

シンコ

神在村 岡山縣備中國吉備郡の南部。高梁川右岸の沖積地を廣く占め、北・南・東は平地よりなり、西南は小田川斷層線の北端に沿ふ一〇〇—一五〇米の山地の東端にて起伏に富む山地よりなるも耕地として開拓さる。農産盛んにして備前米及び粟・蕎麥・大豆及び柿・桃、

型等の果實を出す。高梁川にて昇する東...

シンサイ 神西村

鳥根縣出雲國... 川下流の南岸にあり。西は西濱村を隔てて日本海に近し。

シンサイバシ 心齋橋筋

大阪市

シンサカ 新坂村

廣島縣備後國... 石部の北部。浦水町の北に接す。開作川を用うけて準平原化する高さ約五〇〇米の山地より成り谷は淺く廣し。

シンサワ 新澤村

奈良縣大和... 國高市部の西部。奈良市の南方約二十二軒、龍門山塊の北斜面を占め山麓線は屈曲し、一五〇—一六〇米の高度を示し、片状花崗岩の丘陵地たり。

シンサン 新山

鳥根縣磐城國... 【新山町】 鳥根縣磐城國雙葉郡の西部。東は太平洋に面し、東西約一三軒、南北約二・五軒の狭長なる形をなす。

道に平行して省線管線通じ、北隣長家... 村長塚村への便あり。此地は和名抄、標葉部標葉郡の地なるべく、大字部山は郡家の遺跡なるべし。

シンシ 新市庄

臺灣臺南州新化郡... 西部新化街の北に接す。管内は土地平坦にして地勢上掘記すべき變化なし。

も稱す。是地を以て、交通は便利長く、臺灣鐵道員線及び臺灣縱貫道路は、何れも本庄の東部を南北に通過し、管内にも自動車の運行よし。

シンシ 穴道

鳥根縣出雲國... 【穴道町】 鳥根縣出雲國八東郡西部。穴道の西南岸に面し南は大原郡加茂町に接す。穴道地帯の南端部を占め北は地帯の一部に水を流へたる穴道湖に面し全村一〇〇米—二〇〇米程度の低地地帯の丘陵起伏す。

シンシ 新山

鳥根縣磐城國... 【新山町】 鳥根縣磐城國雙葉郡の西部。東は太平洋に面し、東西約一三軒、南北約二・五軒の狭長なる形をなす。

を以て、交通は便利長く、臺灣鐵道員線及び臺灣縱貫道路は、何れも本庄の東部を南北に通過し、管内にも自動車...

新。湖岸は五〇・五軒にて深度六・九米。...

に昇し、東は海に臨む。西部には海岸山...

シンシ 新侍島

仁旨面 朝鮮忠清南道瑞山...

シンシ 荏子面

部の西北部。麗州郡島の北部に位置し...

シンシ 新樹島

朝鮮慶尙南道泗川郡三浦邑に属する島...

シンシ 新津村

北海道石狩郡の東南隅。札幌市の東北約三十軒...

シンシ 新島村

千葉県下鴨川町に属する島。...

シンシ 新島原

東京都の古地名。大體今の京橋區新島町の邊なるべく...

シンシ 信州

信濃國の略稱。...

シンシ 信州街

信州街の略稱。...

に昇し、東は海に臨む。西部には海岸山...

耕地は向々に拓け畑作を主とし、...

シンシ 新樹島 朝鮮慶尙南道泗川...

シンシ 新島村 千葉県下鴨川町に属する島...

シンシ 信州 信濃國の略稱。...

月二回に開場する定期市は郡内に八箇所あり一ヶ年の売上高三五〇萬圓に達し、特に晋州市場は有名にして陰曆二、七日に開かれ農産・畜産・水産・雑貨の總売上高三二四萬圓に及ぶ。交通は總督府鐵道慶全南線、郡中央を東西に走りて晋州に達し、近く更に西、順天に至りて全羅南道と本道を繋ぐと、道路は晋州を中心にして馬山、南は三千浦、西は全州(全北)西南は河東に何れも二等道路を通じ、其他自動車を通ずる路線、大邱・宜寧及び郡内各地に至り、又南江には舟楫の便あるを以て交通便なり。行政上、晋州邑及び一八面に分ち、郡廳を晋州邑東風町に設く。本郡の地は往古、咸安・昌原・金海諸郡と共に任那の一中心にして、三韓時代には辨韓の一城たりしが如し。のち百濟は一城を築き居烈城(一名居烈)と稱し、高麗の重鎮たりしが、新羅文武王の時併吞せられ之に州を設かる。神文王に至り居烈州を分ちて晋州總管を設き、景德王の時改めて康州と名け、高麗王再び臨州となす。高麗太祖に至りては康州と改め、成宗は收を置き晋州と改稱す。李朝の太祖之を晉陽府に陞し、次で晋州と改め、節度使を置き定海軍と號し山海道を隸せしめしが、顯宗改めて安撫使となし八牧の一として牧使を置き、のち之を廢して觀察使を設く。宣宗に至り壬辰(文祿)の大戦あり、合浦(いま馬山府)と馬山)の警備、兵火に罹るや、兵曹を

此地の龜石城に移し節度使を設く。のち復た觀察使に改め其下に郡守を置き、日韓合併に及び今日に至る。麗末、慶尙南道廳を此處に置きしも大正十四年四月釜山府に移す。當初本郡は面積甚だ廣大に過ぎしを以て、四境の一部をそれ、(四城・咸安・泗川・南海・昌原・河東・山清の各郡に移属せしめ、五〇面となりしが、大正二年府郡廢合に際し、夫火谷・楸河の二面を割きて泗川郡に併せ、咸安郡の上寺・下奉・上奉の三面を本郡に合せ、之を廢合して十九面となし、更に昭和七年七月晋州面を昇格して晋州邑となし、一邑十八面となる。

【晋州邑】朝鮮慶尙南道晋州郡の首邑。郡の中央部に位し洛東江の支流南江の曲流部に防り、面積一五・四方軒。北に飛鳳山(一三九米)・東に玉峰山を負ひ、南江を跨ぎて南江平原の中央にあるを以て古く南鮮の政治・經濟・交通の中心となり嘗ては慶尙南道廳を置かれし處。今も朝鮮鐵道局慶全南線終點晋州驛(大正十四年設置)は、邑の南端大正町に設けられ、南江に架せられたる晋州橋によりて江北の日出町と連絡し、また南方には泗川・三千浦、東南方には固城、西南方には河東、西北方には山清・咸陽・居昌、北方には陝川、東北方には宜寧等の地方的郡邑を控へ、それらと自動車による交通上の輻輳をなし、米・棉花・新穀・海産物等の集散地をなし、蔚風・西風・野菜の産も名高く、市況繁盛なり。郡廳・警察署・地方法院支廳・專賣支局出張所・米穀検査所出張所等の官衙の外、各種の學校・工場・會社等あり。晋州附近は三韓時代の辨韓十二國の一たる古淳國(古淳是國)にて、後古陀伽耶(居陀・子春)として任那諸國の一部となり、繼體天皇の御代遂に百濟の領土に入り、更に天智天皇の二年百濟滅亡して新羅に歸し、居烈州(居陀州)となり、また晋州・康州等と改められしが後、朱雀天皇の承平五年遂に高麗の地となる。開國天皇の永觀元年(高麗成祖の二年)はじめて晋州と改められ、國內十二牧の一となる。李朝時代に入りては晋州牧を設かれしが、明治二十八年(李大王高宗の卅二年)晋州府となし觀察使を設け、翌年慶尙南道觀察使の管所となり、明治四十三年(純宗の隆熙四年)の日韓併合後、大正十四年三月まで慶尙南道廳の所在地たりき。(晋州城)一に龜石城。百濟時代の居烈城なり。のち高麗朝の末、麗末麗せる倭寇防禦のため修築され、長慶天皇の天授五年(禰王の五年)に成りしもの、蔚風・玉峰・望晋の諸山に圍まれ、南は巖々たる懸崖の下、南江に臨み、嶺南第一の堅城と稱せらる。文祿・慶長の役の激戦地の一にして文祿元年十月細川忠興(長谷川秀一)・不村常陸介重忠の軍これを攻めしも晋州牧使命時敏よく守りしため攻め六晝夜力

盡きて昌原に撤退す。秀吉赫怒してこれが再攻を命ず。翌年日明兩軍間に和議起り我軍京畿撤兵を開始せしも、なほ晋州城の攻略策を捨てず、慶尙南道沿海諸地に分屯せし諸軍は宇喜多秀家・毛利秀元を大将とし、加藤清正・小西行長等先鋒とし黒田長政・小早川隆景・備前直茂・島津義弘等は軍を率ゐて六月晋州に向ひ途に咸安・宜寧等の朝鮮軍を撃破し、二十一日晋州城に迫り、東北西三面より之を包圍し總勢五萬騎と號す。晋州牧使命時敏・副將千益と共に約二萬、遊藝の士民を合し凡そ六七萬を以て之を守る戦八日城遂に陥りしも、朝鮮側としてかく善戦せし例は殆ど他に求め難く、我軍の苦戦亦その例を見ざりし大攻防戦なり。【龜石城】晋州城の遺址はいま晋州公園となる。その南端南江に面する巖上に建つ古建築。高麗朝の末期(長慶天皇の天授五年)牧使、金仲光等の創建に係る。倭寇及び文祿の役に兵變に罹りしを後水尾天皇の元和四年(光海君の十年)再建し、後廢改修を加ふ。一に狀元樓また南將臺と稱せられ、砲臺の上に建ち碧瀾に臨み、回顧の展望雄大、嶺南の冠絶とよばる。【西將臺】南山町にあり、南江に面する巖上に屹立する城址にして文祿の役最初に陥落せし處。(晋州神社)無格社。祭神、明治天皇。大正六年五月十四日、朝鮮總督府令を以て神社創立のことを官許せらる。例祭、四月十四日。(國魂寺)

西晉東北にあり。三百餘年前の建立に於て、海印寺末に屬す。(義谷寺)鳳山町飛鳳山の中腹にあり。約千二百年前建立せられしものにて海印寺末なり。

何れに交通上主要地帯なるかを示す。新羅はもと甲州街道の抄帳町村に於ける第一驛驛として發生し、しかも昔梅街道亦この道分に於て分枝す。元祿十一年新驛を立て内藤氏の邸ありしに因み内藤新驛と名づく。いま車に新驛を以て呼ばる。日本橋・銀座・丸の内一帯を第一の都心とせば、新驛一帯は西都へ大膨張せし地域に對する第二の都心と見るべきものにして、百貨店・映画館等ここに集まり將來への發達は以て期すべきものあり。山手線と中央線とに交叉し、其他小田原急行電鐵、京王電鐵、西武電鐵等亦この地を中心として放射狀に發達せしこと、當地交通・商業隆盛の因をなす。また此地は遊里として有名。古く遊驛が存在せしも、享保の始め廢止せられ、明治九年(即安永元年)に再興を許され、明治五年十月四日、一旦遊女の解放を命ぜられ、同六年十二月廿五日日貨座敷設置が許可せられ、同七年一月廿九日開店、今日に至る。但し今日は表通りより轉居を命ぜられ北裏へ移轉す。船美車駕鹿子「四谷新驛、此驛土はやう／＼今春じやうじゆし、しば品川三田あるは深川所所より入込、いまだ風俗きまならず、大ていは品川をまなぶ、しかし人がらおよばず」梨園策「西の方をながめて日、あのまつすぐに一すじ見へたる家並こそ馬ふんの中に色ありとらたわれし新驛也、いにしへは大はんじやうの地にして、其まかんなりし

頃はいづは麻しきなど圓へし家には、ちうかをかたばら引て火の廻りいふてとをりし大家いくらも有けるが、中比しさい有てたへはてたり、然るに此ごろ又々たへたるをつぎ、すたれたるをおこしてよふ／＼きかんになんんとす」

如來を安ず。參覽として慈明堂を見下す。海印九通を説す。

仁州面 朝鮮忠清南道牙山郡の西北端。東は靈仁面・豐時面に隣り、南は西流して柳橋川に合する曲橋川を以て新昌面・仙掌面と界し、西は柳橋川口を隔てて唐津郡唐川面・新平面に對し、北は牙山灣の東奥に注ぐ安城川を挟みて京畿道水原郡西南部の丘阜を望む。面積約五七方軒。東境中部に靈仁山(三三六米)峙ち、その山側東部に低下し、また東北部に笠岩山(二〇七米)あり、東部と中部は丘阜起伏するも、北部・西部と南部の曲橋川北岸には平地ありて耕地よく拓く。農産に米・麥・大豆・小豆等あり。また西北部は泥地廣くその一部は鹽田に拓かれ鹽を産す。三等道路北部を東西に横切り、牙山(靈仁面)方面に通ずるも交通なほ便ならず。

【新昌面】朝鮮咸鏡南道北青郡の東南部。南は日本海に臨む。面積約四七方軒。東北境には砥石峰(三二九米)其他の丘陵性山地もあるも、西南半部は南大川の三角洲に屬し、南大川河口の右岸に五〇米臺の臺地ある外は概ね低平にして耕地拓く。農産に米・麥・大豆・玉蜀黍・粟・馬鈴薯・大麻等を出し、海面は明大魚その他好漁場なり。元山會寮間の一等道路と鐵道咸鏡線は北部を横ぎり後者の新昌驛(昭和二年設置)あり、驛より南大川口右岸の新昌港へは約六軒を隔つ。港は近海航路船の寄港地にて北青郡の海口をなし鴨綠江上流地方との商取引の關門に當り大豆・玄米の外麗漬・明女子の移出多し。昭和十一年西隣青海面を合併す。(甯慎古郡址)新昌驛と新昌港の間、南大川

【新昌面】慶尙南道南州の古地名。現在の臺南市大字鹽埕の地に當り、鄭氏時代一里を設けて新昌里となし、清領以後もこの地方を存續し、大正九年十月地方制度改正まで我國領臺後も存す。鄭氏の明永曆十九年鹽田を設けたるを以て鹽埕と稱したるものにして、現在に於ても臺南市の西南海岸地區鹽埕の中心なり。

【新昌里】慶尙南道南州の古地名。現在の臺南市大字鹽埕の地に當り、鄭氏時代一里を設けて新昌里となし、清領以後もこの地方を存續し、大正九年十月地方制度改正まで我國領臺後も存す。鄭氏の明永曆十九年鹽田を設けたるを以て鹽埕と稱したるものにして、現在に於ても臺南市の西南海岸地區鹽埕の中心なり。

新宿 東京市四谷區内にあり、正しくは内藤新宿町と稱す。山手線の新宿驛(明治十八年設置)は淀橋區にあり、昭和七年大東京の成立まで所謂郊外に屬し、新宿驛南と新宿町とは東京の外縁地域としては最も繁華の地に、中央の銀座につぐ盛り場にして俗に山手銀座の稱を以て呼ばる。従つて省線新宿驛は我國の鐵道驛中、省線・社線を通じて昇降客數第一にして之によりて新宿が如

【新宿】東京市四谷區内にあり、正しくは内藤新宿町と稱す。山手線の新宿驛(明治十八年設置)は淀橋區にあり、昭和七年大東京の成立まで所謂郊外に屬し、新宿驛南と新宿町とは東京の外縁地域としては最も繁華の地に、中央の銀座につぐ盛り場にして俗に山手銀座の稱を以て呼ばる。従つて省線新宿驛は我國の鐵道驛中、省線・社線を通じて昇降客數第一にして之によりて新宿が如

【新宿】東京市四谷區内にあり、正しくは内藤新宿町と稱す。山手線の新宿驛(明治十八年設置)は淀橋區にあり、昭和七年大東京の成立まで所謂郊外に屬し、新宿驛南と新宿町とは東京の外縁地域としては最も繁華の地に、中央の銀座につぐ盛り場にして俗に山手銀座の稱を以て呼ばる。従つて省線新宿驛は我國の鐵道驛中、省線・社線を通じて昇降客數第一にして之によりて新宿が如

【新宿】東京市四谷區内にあり、正しくは内藤新宿町と稱す。山手線の新宿驛(明治十八年設置)は淀橋區にあり、昭和七年大東京の成立まで所謂郊外に屬し、新宿驛南と新宿町とは東京の外縁地域としては最も繁華の地に、中央の銀座につぐ盛り場にして俗に山手銀座の稱を以て呼ばる。従つて省線新宿驛は我國の鐵道驛中、省線・社線を通じて昇降客數第一にして之によりて新宿が如

の河畔に位する土城里にあり。周圍約一〇〇米の土塼の跡を存し、遺蹟時代の部は証なりといはる。

【新昌町】朝鮮忠清南道牙山郡の略中央部。略三角形をなし、面積四方野餘。南西境の南部に徳岩山(二六〇米)、中部には鶴城山(一八二米)等の丘陵性山地あり。それに隣り丘陵内に起伏するも、その間所々に小低地あり、特に北境を西流する鶴橋川の南岸には平地廣く、西内至る所耕地よく拓く。米を主とし、麥・大豆・小豆・粟等の農産を出す。面色邑内里(新昌)は西部鶴城山東麓に位し天安・温陽より徳山への二等道路に沿ふ。また社線朝鮮京南鐵道忠清線は西の中部を略東西に走り、新達里に忠南新昌驛(大正十一年開業)を設け交通便なり。

シンシン

新昭村

大分縣豊前國下毛郡の東北隅。周防灘に臨み中津市の東方約八軒。面積九・二八方軒。中津平野の中央を占め地形極めて平坦、南隅に僅かに五〇米程度の山麓部を占むる山地あるのみ。大丸川中央を北流して海に入る。土地低平なれど瀬戸内式の乾燥地なれば所々に湖沼・溜池ありて灌溉に便し米の産あり。其他麥・粟・甘藷を出し又水産行はる。日向街道中部を横断し北部海岸近く西方中津町より東に走る一道路あり、兩者間に省線日豊線東西に通過し今津驛(明治三十年設置)あり。此地古くは和名抄、下毛郡野仲郷に屬す。此

シンシン

新莊

【新莊】臺灣臺北州新莊郡の街。本街は新莊郡の南部に位し、東北部は淡水河を以て雙洲庄及び海山郡板橋街に接し、西は觀音山分水嶺を以て五股庄及び林口庄に、南は海山郡鶯歌庄に接し、面積約三一方軒にして新莊郡面積の約三分の一に相當し、東南方は淡水河の支流たる大料溪は淡水河蓄水池にその源を發して海

地は天正十五年黒田氏中津置封の初め、寄土士民據守せしが、梁山六勝利安擊破してこれを散ぜしむといふ。大字今津は六丸川河口港として小海驛をなす。萬葉集に出づる分間浦は一にこの今津なりとの説あるも眞疑は詳ならず。大字野依に野依烽火台あり。文化二年四月萬葉集平昌高、當時わが邊海の警戒嚴なりしかば領内の各要所に烽火臺を設け警急を報ずるの便に供したり。これは其一なり。

昭和八年櫻洲村・尾紀村を合して本村を置く。(天満神社)大字大丸に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。天曆十年村上帝の御を畏み菅原文時、公の舊跡を尋ねて九州に下向の折此地に社を立つ、これ當社の起源にして爾來當地産土神として尊崇せらる。寛治年間報川院社を建立、延寶七年小笠原長勝また社殿を造營して崇敬す。例祭、四月二十四日。

シンシン

新莊

【新莊郡】臺灣臺北州二市九郡の一。州の西部に位し、東南は淡水河を隔て、臺北市・七星郡及び海山郡に接し、北は觀音山分水嶺を境として淡水河に、西南は新竹州桃園郡に接し、西北は臺灣海峡に臨む。管内は淡水河流域に發達せる臺北平野の一部と觀音山系より成る海拔二四〇米前後の高原地との二區に分たる。即ち西方高原地一帯は水利の便あり、從て土地乾燥相帯にして水田に適せず概ね茶園たるも東方平野は灌溉の便あり、地味頗

る肥沃にして臺北州に於ける米産額の約一割二分を占め、且つ米質佳良なるを以て新莊米の名あり。淡水河口を控して大屯・七星の連峰と相對する觀音山は、五股庄と淡水河八里庄に跨り、海拔六〇〇米餘の圓錐形死火山にて、また觀音山系より成る低山性丘陵は起伏連互し、高原地帯を形成して臺灣海峡に臨み、南方は新竹州桃園郡に接す。新竹州大溪郡に源を發する大真溪は、本郡の東南を逕流して雙洲庄附近に於て海に注ぐ。本郡流域は河幅約五五〇米にして、平時は水淺く大船を通過せず、下流は水稍々深く小汽船の航行に適す。然れども下流に至るに従ひ河身漸く廣く、年々游漫沙河を生じ一朝降雨至れば激流忽ち氾濫して河身の變動と河岸の崩潰甚しく、年々水害を蒙るこの勢がからず。本郡の河川多くは船の運行に適せず。本郡の河川多くは約二四軒の間舟楫の便あり。また源を大窠坑に發する五股溪は管内の中央を南北に流れ、五股庄・成子寮に於て淡水河に合す。延長僅かに八軒餘に過ぎざるも湖の滿干により舟楫の便を有す。本郡の人口は六二、八六四人(昭和十一年調査)にして約半数は農にして西工至千三百戸あり。産業の大宗たる農業は米二、五一〇五、〇八六萬圓にして作付面積九、〇〇〇甲、收穫高一三九、〇四七石なり。粗製茶は夏・秋の摘採量最も多く、年産一〇八、八四四圓にして甘藷・大豆・落花生等合して九一、二一五圓、蔬菜及び柑橘・芭蕉類の果實生産は一六九、四〇三圓、甘蔗は四、二七五圓にして此等農産額

の増大に努め、新莊信用組合は此が經營振興に資せる結果商・工方面の進展を見つゝあり且つ本街農産振興に永年功績あるは後村水利組合の存在とす。本水利組合の設けられたるは清領當時の乾隆十一年張必榮なる者、淡水河より用水を引き自己所有の田に灌溉せるに始り、此を張厝埔と呼び、同じく乾隆十八年劉如林なる者本街の中に別に圳路を設けたるを劉厝埔と呼ぶ。張厝埔は早くよりその灌溉を區域に現在の雙洲庄の三重埔及び三重埔方面に擴張せしむ、明治三十四年後村圳と改稱、同四十二年劉厝埔を合併、大正十二年改めて後村水利組合を設立し、その灌溉區域は新莊郡下の五股庄・雙洲庄は勿論、東に隣接せる海山郡の板橋街、鶯歌庄の各一部をも含むに至る。現に組合員數二千三百七十五名にして水路の幹支線總延長約八四、七〇〇米、灌溉甲數三五七五甲餘にして、水源は前記の海山頭字榮橋頭附近の塔寮坑の淡水河に合流する地點の本源地を始め、大窠坑・五股坑溪等に水源を求むる大窠口・水礁・公館上中下の各圳を支援とするものなり。

教育方面は新莊尋常小學校、新莊・山脚各公學校及び頭前・西盛の分教場に於て初等教育を行ひ、本局人子弟の就學率は五〇・一九にして、學校以外に本局人教化施設として國語講習所・青年團・教化聯合會を組織す。新莊郡役所・街役場の所在地にして、近接各地の交通連絡

生等合して九一、二一五圓、蔬菜及び柑橘・芭蕉類の果實生産は一六九、四〇三圓、甘蔗は四、二七五圓にして此等農産額

は農産道路との併により自動車交通にして鐵道は對岸の海山郡板橋街を通過し、本街は臺北市と僅に一二軒を隔つるに過ぎざるも、往昔の賑盛なる街勢を維持し得ざるは實に此に原因を有し、現在は一農村區たるの實狀に在り。過去にては本街は清領當時より我國領有後も大正九年地方制度改正に至る間は興直堡に屬し領臺後本街を新莊街と書しが、後大正九年再び清領當時の新莊に改めしもの。本街地はもと武勝堡(ブーラッ社)なる平埔蕃族の一社在り、漢人が此地に移住し來れるは清康熙の末年にして雍正十年には漸く一街を形成するに至りしを以て新開地の村莊なるの故を含めて新莊と呼び、且つ現在の海山郡一圓の地たる海山郡の動脈たる大料溪の淡水河に合流する地點に當るを以て、海山口の別名を有し、興直堡の中心地たると共に亦海山堡開拓の進歩點たりしもの。雍正十一年、此地が淡水河の水軍管内に屬し、乾隆中葉には、商船次第に淡水河を通航して新莊に集り、物資の集散は本街を中心として淡水河の支流たる大料溪・新店兩溪沿岸の樞樞・海山・大窠各堡の地に屬せし現在の臺北市・板橋街・鶯歌庄・三峽庄・大溪街等の商賈行爲の根據地となり、中港街の名は當時の新莊街が北部臺灣に於て占めたる地位を物語るものにして、海山口と稱し、或は中港街と叫ばれる本街も嘉慶の末年、沿岸河底の游漫

淡水河等五箇各郡との連絡全く完成し、臺北新莊間は三十分以内にて往來し得、産業上にも多大の便利を興ふ。本郡の管内は清道光年間設けられし興直堡の一區に相當し、觀音山系の西方丘陵地は龜崙嶺(海山山尾)と稱し、此地に漢人の遊入せるは康熙の末年にて先住の平埔蕃武勝郡社の熟蕃より土地を購得し次第に移住し、當時に於ける淡水河口の基點たる八里登(現在の淡水河八里庄)より水陸兩路を以て此地に來り、雍正五年楊道弘・林天成なる者、合同出資し開墾全区を以て、始め興直庄と稱せり。興直の名の起原は「地勢平坦其直如矢、若葉成田、設有市鎮、必有大興氣象」の意に採れるものと云はれ、同十年には新莊街の地漸く盛にして翌年には龜崙嶺を越て桃園方面との交通路開け新莊街は北部臺灣唯一の物資集散地として榮えしが、道光十四・二十兩年の饑饉・廣東兩省民間に分類械闘と稱する黨派的紛争の生ずるや、廣東省民は所有地を賣却して此地を離れ、中壠郡方面の高臺に去るに至る。

【新莊街】臺灣臺北州新莊郡の街。本街は新莊郡の南部に位し、東北部は淡水河を以て雙洲庄及び海山郡板橋街に接し、西は觀音山分水嶺を以て五股庄及び林口庄に、南は海山郡鶯歌庄に接し、面積約三一方軒にして新莊郡面積の約三分の一に相當し、東南方は淡水河の支流たる大料溪は淡水河蓄水池にその源を發して海

山郡との境界を画し、河幅漸く現時土砂の堆積甚きたため大船を通過せず、往昔此地に物資を集散せる狀を再び見る能ざるも、なほ幾分舟楫の便あるは本河の特色とす。且つ西北方に觀音山系の低山丘陵の連綿せるを除き概ね肥沃なる平野にして、河川を利用して水利灌溉の施設と相俟ちて水田の發達著しく米産額は新莊郡の約三分の一を占むる状態に在る。管内を新莊・西盛・頭前・中港街・海山頭・鶯歌・樹子寮・埤角・山脚・楓樹脚・大窠坑頭・田心亭・興華・崎子脚・貴子坑・下埤角・十八分坑・頂埤角の十八大字に分ち、人口一八、八九人(昭和十一年調査)、人口の過半数は農業従事者にして、農産の第一生産額を占むる米は、蔬菜種及び在來種を合して作付面積約一九七〇甲に對して九六・六萬餘圓に達しその餘の農産物としては茶の一、七六七圓、甘蔗一六、二三五圓、蔬菜及び果實の七一、五〇〇圓、甘蔗二、六〇〇圓、家畜の屠殺額は豚・水牛・山羊等にて一六四、〇五七圓に、達し更に工業は豆腐及び精米の他は何れも小規模なる家内工業の範圍に止り、捐資及び精米の一、五九二、三〇〇圓を始め、餘の一三、〇〇〇圓、二、三〇〇圓を有す。その間に昭和四年設立の新莊街業會は一、五五八名の會員を擁し、田畑合計一、八六一甲餘、小作契約に移せる部分は九五二甲に達し益々農産額

の増大に努め、新莊信用組合は此が經營振興に資せる結果商・工方面の進展を見つゝあり且つ本街農産振興に永年功績あるは後村水利組合の存在とす。本水利組合の設けられたるは清領當時の乾隆十一年張必榮なる者、淡水河より用水を引き自己所有の田に灌溉せるに始り、此を張厝埔と呼び、同じく乾隆十八年劉如林なる者本街の中に別に圳路を設けたるを劉厝埔と呼ぶ。張厝埔は早くよりその灌溉を區域に現在の雙洲庄の三重埔及び三重埔方面に擴張せしむ、明治三十四年後村圳と改稱、同四十二年劉厝埔を合併、大正十二年改めて後村水利組合を設立し、その灌溉區域は新莊郡下の五股庄・雙洲庄は勿論、東に隣接せる海山郡の板橋街、鶯歌庄の各一部をも含むに至る。現に組合員數二千三百七十五名にして水路の幹支線總延長約八四、七〇〇米、灌溉甲數三五七五甲餘にして、水源は前記の海山頭字榮橋頭附近の塔寮坑の淡水河に合流する地點の本源地を始め、大窠坑・五股坑溪等に水源を求むる大窠口・水礁・公館上中下の各圳を支援とするものなり。

教育方面は新莊尋常小學校、新莊・山脚各公學校及び頭前・西盛の分教場に於て初等教育を行ひ、本局人子弟の就學率は五〇・一九にして、學校以外に本局人教化施設として國語講習所・青年團・教化聯合會を組織す。新莊郡役所・街役場の所在地にして、近接各地の交通連絡

せる結果商船碇泊の便を失ひ、その實勢力を對岸艇艇に奪はれ、こゝに新莊街は...

定額の見生胡蝶帳なる者乾隆二十六年學租を設けて義學を興し、己の舊宅を供し...

き廟宇の缺けたるに依り地蔵庵を奉祀し同時に前記無縁枯骨を奉祀し、大衆若...

シンシヨ 眞城村 岩手縣陸奥、豐澤郡の東部。北上川の西岸に沿...

シンシヨ

に非常に介る。【新上】朝鮮咸鏡南道完平郡春柳面の大字。咸鏡本線の新上驛(大正八年設置)あり。

【新上】朝鮮忠清南道公州郡の西北端。地は南北に長く、西より北は嶺山郡、牙山郡に界す。面積六九方軒餘。車嶺山脈の地にて金嶺山(五七四米)、法華山(四六四米)...

シンシヨ

【新庄】山形縣最上郡中央に在る盆地。横手盆地・山形盆地・米澤盆地と共に奥羽地方中央凹地帯に於ける盆地の一。

東方の山地より流入し、山脈の扇状地深く山地に入り込み、爲に新庄町を中心とする放射形を爲す。指首野川と北方野原の砂礫原を堆積せる泉田川とは上流合して土内川と呼ばれ、仁田山部落の東にて二分す。前者は水量多く不濁流なるも後者は途中にて淵川となり、増水時に僅に流水を見るのみ。これ升形川の侵蝕復活せる結果、支流指首野川と泉田川上流の截頭となり新庄現象を示すに至る。扇状地の扇端近くは水田拓き扇尖以上は黒色粉末状の腐植質土を顕く分布し、野原(或は萩野原と呼ばれる)は大正末年の軍艦前には軍馬補充部の支那ありて軍馬を育成せしむ、其跡いまは縣營開墾地として第一回七十數戸、第二回四十戸程の移民を入れて理想的自作農村の計畫實行中なり。盆地内は一般に積雪多く、冬期は北西風卓越す。奥羽本線は中部を南北に貫通し、省線陸羽西線を西に分岐し、国道羽州街道また南北に貫通し、沿道には古き松木あり。

【新庄町】山形縣羽前郡最上郡の中部。新庄盆地の中部、最上川の一分支形川に沿ふ。東境に奥羽山脈に属する第三紀層の赤坂山(二〇二七米)、大森山(五九一米)聳え、山脚は急崖をなして盆地に臨み西部にも白米内外の丘陵連なり、指首野川・戸前川は南部にて合し升形川となり西に流れ、中部はこの指首野川・戸前川の複合扇状地にて扇面の水波は伏流性を帯ぶるも、扇端には地下水湧出し殊に城址の壕は湧出著し。この地は高地・低地の面積ほぼ等しく、これに反し城東の羽州街道に沿ふ地帯は高地にて所謂山の手をなす。盆地床は田畑よく拓け米・藁・漆酒を産し、米・木材等物産の集散地にてまた家内工業的に、或は小工場に於て製糸業、醸造業、草履表、製材・糊札・焼物等の製造行はれるも工業は一般に不振なり。奥羽本線は中部を南北に貫通し新庄驛(明治三十六年設置)を置き、之より省線陸羽西線を分岐し、国道羽州街道また南北に通じ、縣道其他の街道を放射状に出し、茶屋町行・金山町行以上降雪多最時は休止。賦折温泉行のバス通じ、交通至便なり。かく交通の要地を占め又城下町として發達せし所に、城西の低地は人家少きも羽州街道に沿ふ五日町・十日町等は都心をなし繁盛を極め、近時南本町これに代りつつあり。古來新庄盆地の中心都邑として一盆地一中心とも云ふべき好位置にあるも、近隣地域の生産少く且つ交通不便なるため物資の活潑なる移動は望む可からざる状態なり。野菜類を主とする夜市並びに朝市開かれ都心より約五軒以内の地、特に畑作を主とする大字十日町宇中山及び萩野村大字泉田附近のもの多く集り、馬市も年五回開かれ特に春は約八〇頭、秋は百頭餘集るも近年小國向町の馬市に壓迫されつつあり、

盆・正月の大都市には藤・菫等を取引す。此地はまた降雪かなり多く冬季間の市内交通には極く利用され、東山公園にては十二月月中旬より三月までは一未除の積雪ありて、スキー練習場の好適地たり。この地はもと沼田と云ひ、最上氏の一族日野將監の居りし處と傳へ、元和八年、戸澤政盛は常陸より轉封し、この地の北一六軒の眞室川村に據りしが、寛永二年こゝに移り、六萬八千石を食み、古城氏によつて建築し新庄城と名付く。蓋し眞室の新庄として此名を附せしものか、或は新庄は新城の意か。城址鳥居忠政の設計になるといふ。爾來十世に傳へ、戊辰の役、戸澤氏は一旦奥羽同盟に入りしも八月に至り官軍に降じ、ために庄内藩に攻められ城市共に焼亡す。不定位後、朝廷その功を賞し一萬五千石を加賜せらる。明治四年七月藩を廢して縣とせしが十一月山形縣に併す。維新後は郡役所の所在地たり。明治二十二年町制施行。町内には最上稱善場・警察署・區裁問所・役務署・中學校・高等女學校等あり。城址はいま最上公園となり、園内には縣社戸澤神社・向天滿神社・相模社・何武館・戸澤氏の廟所瑞雲院等見るべきもの少なからず。【戸澤神社】大字小田島に鎮座。縣社。祭神、平維盛・戸澤政盛・同正官。維盛は舊新庄藩主の祖にして戸澤政盛は初代の藩主なり。明治二十六年八月舊藩住民の創建に係る。その景観は郡内祭祀中の

第一たりき。大正三年一月、維新當時の藩主贈二位子爵戸澤正實を祭神に加列すること許可され、同五年八月に無格社より縣社に列せらる。例祭、八月二十四日。〔天満神社〕大字小田島に鎮座。祭神、菅原道真。寛永五年八月の創建。舊藩主戸澤家累代の氏神なり。往昔、同家の秋田仙北郡角楯より常州松岡に轉封し、其時同所に遷座し奉り、更に元和八年戸澤右京大夫政盛の常州より新庄郡内に來住し、寛永五年同郡内に遷座勸請せり。例祭、七月二十五日。〔神明社〕大字沼田に鎮座。祭神、天照大神。創建年代詳ならずも、もと常那金山町に鎮座ありしを元禄十四年現地に遷座すとす。例祭九月十六日。〔八幡神社〕大字金澤に鎮座。祭神、祭神、應神天皇・少彦名命。例祭、七月十五日。〔圓満寺〕字小月野にあり。新義真言宗智山派。小移山古群院と號し、もと山城醍醐三寶院末に屬す。現存の御堂は寶曆十三年領主戸澤正謀の再建に係る。戸澤氏寺領百五十石を附し其新願所となす。〔松嶽寺〕天古宗。高岳山慈願院と號す。上州新加院末にして戸澤家菩提所五ヶ寺の一たり。初め日蓮宗を奉ぜしが、延寶二年現宗に改め宗廟法印を以て中興となす。〔瑞雲院〕大字十日町にあり。曹洞宗。向陽山と號し、永享二年戸澤上總介家盛の開基にして九草竹鶴和尚なり。舊寺領百五十石を有す。境内に戸澤氏

累代の墓あり。〔新庄町〕富山縣越中上野川郡の北部。富山市の東隣。面積五・二六方町。富山平野の時中央にあり。灌漑の便より水田拓く。また附近町村と共に賣藥業に携はる者多し。北陸道及び縣道の交錯點に當り、交通の要地として發達せる町なり。社總富山電氣鐵道の西新庄・東新庄(共に昭和六年設置)の驛を置く。この地古くは和名抄、新川郡志麻郡内に屬す。三州志に據れば近世は鳥部と稱せられ、松倉城の支堡ありし地にして大田新城とも稱せらるるとす。〔新川神社〕新庄に鎮座。祭神、大己貴命・大新川命。國史現在社。例祭、四月十九日。〔新庄村〕京都府丹波國船井郡の東南部。大堰川の左岸に沿ひ龜岡盆地の北側に位し、國郡町の東方約四軒。北部及び南部は山地をなし東北境に四七三米の諸木山あり南部には茂ノ森山(一九五米)あり中部は西北方より東南方へ開ける龜岡盆地北端の低地を占め東南部に廣し。西境には大堰川南下し茂ノ森山麓を繞り境界線に沿ひて東南方へ向ふ。其沿岸に狭小なる低地あり。低地は農地帯にして未嘗の産地。また養蠶も行はる。大堰川の西に沿ひて通ずる山陰街道より一遺分れて富村東南部に入り來り、山陰街道の西方を走る省線山陰本線の八木驛は東南約二軒にあり。この地古くは和名抄、船井郡船井郷の地に當るが如し。大字船井は

船井の轉訛か。〔船井神社〕大字船井に鎮座。祭神、衣筒男命・底筒男命・武甕槌命等七柱。延喜の縣圖書の小社に列す。又保延年間大和奈良より春日四社の神を合祀すとす。國司その他の崇敬篤く、所謂新庄五箇村の産土神たり。別當を安城寺といふ。天保六年再建す。〔新庄〕大阪府西成郡にありし村。大正十四年大阪市東淀川區に編入す。〔新庄町〕奈良縣大和國北葛城郡の西南隅。奈良市の西南約三二軒。高田町の南にあり。西部は大坂府南河内郡に相接す地形は西に生駒地嶽の嶺なる金剛山脈に(葛城山脈とも云ふ)連なり、奈良盆地に斷層崖を向け地勢をなす。此山地は片狀花崗岩・花崗片麻岩より成り、葛城山あり。東半部は奈良盆地にて沖積層より成り、太田川は葛城山に發し東北流し北關野村に入り、高田川も同じく葛城山に發源し北流し東關野村を経て高田町に至り、葛城川は南關野村(南葛城郡)より來り東境を北流し河津に大和川に注ぐ。此等の諸川は概ね灌溉に便にして溜池も多し。盆地内には米・麥・西瓜の産あり。交通網は條里制に支配され直交狀に井然とし市街も甚だ目状なり。鐵道は東部に省線山陰線通じ、大和新庄驛(明治二十九年設置)を置き、また西方金剛越に社總南河内電氣鐵道走し、南和新庄町驛(昭和五年設置)を置き、交通は便なり。この町附近は和名抄、葛下郡高野郡の地

にして、中世は布施郷と稱す。足利時代は高山基國が大和守護をして、この附近七萬石を高山氏家臣布施郷頭行種支配せり。のち永祿年間船井郡屬富國守護と稱するに及び布施氏滅亡し桑山氏之に代り徳川時代には奈良奉行の治下となり、享保年中柳澤氏郡山に移封するやその封邑となり、延寶八年以來永井氏一萬石の城主となり、後陣屋を南葛城郡の櫛羅に移す。大正十二年八月には町制を布く。金剛地嶽葛城山脈には布施城址あり。之は布施氏の居城にして船井氏の族に亡きる。新庄には新庄城址ありて、慶長五年桑山氏は和歌山より轉封され此地に一萬三千石を食み城を築きしもの。のち延寶五年に故ありて封祿を一千二百石に削られ松原村に移れり。大字船井には信堂縣址あり。今の専明寺の地に於て、里人之を城山と呼び恐らく布施氏の據るものなるあり。これ頃口御殿にして、清享天皇皇女飯豐青皇女之墓とす。次に大字柿本の阿米には紀信正の墓あり、名は眞濟高峯山神護寺の住持にて、高僧の譽高く隱居し此地に來り入寂す。また柿本には柿本人麿の墳あり。人麿の墳所は所々にありて此地に生誕せし事は事實、徳木町の八人神社は歌壇にして、明石は不詳、此地に終焉せしものならんか。大字大屋慶雲寺には布施行種、行國、行重の墓ありて、行種は葛下郡二屋城主にて十二萬

石を領せり。町は下市街道に沿ひ商業も盛にして女學校あり。〔淨願寺〕大字寺口にあり。淨土宗。行基の開闢と傳ふ。領主布施氏の崇仰厚かりしが、元龜年間布施氏居城陷落に際し、兵火に罹りて諸堂宇炎上す。のち圓圓小堂を建立して火中に残れる地蔵尊を安置す。延寶元年新舊は堂宇を再興し、現宗に改め、以後阿彌陀佛を本尊となす。〔置恩寺〕大字寺口にあり。古義真言宗。草創年次、沿革共に不詳。現に同宗高野末たり。觀音堂安置の本尊十一面觀音立像一軀は國寶。〔新庄村〕和歌山縣紀伊郡西牟婁郡の西南海岸。田邊灣頭にあつて西北は田邊町に接す。全村山地起伏し東北隅には二六六米の高嶺山あり。海岸線は屈曲に富み島半島の突出及び小灣入あり、又島嶼多く散在し神島・高島等あり。海岸北部に小低地あり。村に米麥の産もあれど山地多きため村民の生活對象は多く海上にあり。北部に紀伊半島の海岸を繞る熊野街道ありて東南に通じ、又其東に之と並び省線勢西線走り紀伊新庄驛(昭和八年設置)あり。〔鳥巢半島の泥岩と脈〕指定天然記念物。瀬戸前山の泥板岩と脈と同じく第三紀層を貫きて噴出せる水成岩脈。大なるは幅二米餘に及ぶも小なるは幅僅に二釐と出でず、之等多くは鳥巢半島西側に露出せる沿海の低き隆起海壇上に長く其の水平断面を現すも、隆起にはその垂直断面を現すものも少からず。

總數無數百條に及べり。岩脈の主方向は東北―西南なるも南―北の方向を取るものも亦少なからず、隨つて之等兩方面の小岩脈の互に交叉せるもの頗る多し。〔神島〕指定天然記念物。全島原始林に蔽はれ珍種なる植物・化石など多し。中にワンジヤ(和名は「マカズラ)の大樹は日本本州中紀伊國のみある熱帯の蔓性植物なり。昭和四年六月聖上陛下御探集のため御上臨あらせらる。(東光寺)臨濟宗妙心寺派。梵天山と號し、寛文元年龍泉和尚の開創に係り、本尊に華光玉座の釋迦如來を安置す。地は海岸の高丘にあり、風光絶佳第二の紀三井寺の稱あり。〔新庄〕岡山縣淺口市にありし村。明治三十八年新庄・里見の二村を合併して里庄村を建つ。〔新庄村〕岡山縣美作國眞庭郡の西部。南は備中國阿賀郡の上郡郡村に、西は伯耆國日野郡の根野町に隣す。面積六七方軒餘の大村。中國山地の一部にあつて高距離約八〇〇米の所にあり、起伏緩かなる高臺狀をなす。北に金谷山(一一六四米)、西北に毛瀬山(一一一八米)の高峯聳え、東境中央に笠ヶ山(九七五米)あり。村の中央より東南へ新庄川流れて高野約五〇〇米の谷を開く、谷は深く廣く拓け肥沃な耕地をなす。米・麥、繭の産あり、また附近の山地は到る所牧場をなし多數の牛を牧畜す。津山市より來る出雲街道は村の東南隅より川に沿ひ谷を縫ひつゝ、

西境の中央に向ひ四十曲峠を越え伯耆國に出で米子市に行く。大字新庄は街村にて新庄川に沿ひ谷底平野の中心をなし、附近には牧場より拓け南北に通ずる村道もこのを通り交通の要地をなす。此地古くは和名抄鳥部郡美甘郷の内に屬す。承久三年五月、陸奥國津波の途次、風聲この地を通過あらせらるるや、野草荒涼の間に一條の舊版の通路は都に通ひし舊道など聞しめし給ひ「みやこ人誰ふみそめて通ひけん向ひのみちの懐かしきかな」との御歌ありたりといふ。村民これが跡址を永久に傳へんと欲し、碑石を立て御歌を碑面に刻し、更にその所以を叙せし碑文を刻す。云く「承久之變、後鳥羽上皇狩り隱岐也、自美作入伯耆、駐驛于中山、此即是云有御製歌、當時聖驛在外、進景思京、寔哀所感可想、行人吊古、低回不能去者良有以也云々」と。増鏡に「三日月の中山にて、昔後鳥羽院の仰せられけむこと、おほし出るさへうかりける例なり、傳聞く昔語りぞうかりける、昔ふりぬる三日月の盡しなど見ゆる中山は即ち今の四十曲なるべし。〔新庄村〕廣島縣安藝國山縣郡の東北隅。大朝町の東。北は石見國邑智郡田所村に界す。中國山脈に屬す高臺なる山地より成り、北に唐代山(八一四米)東に榎子ノ目山(八九七米)西南に火ノ山(七〇五米)及び數百米餘の山岳聳立し、東西兩山地の間及び中央部に於て谷を拓き、谷は高

距約三〇〇―三五〇米の所にあり、深く廣く開けて良好なる耕地を開き、谷の水を集めて山川が西北より東南に流る。農産物として米を産すと共に山地より木材及び木炭を出し、又牧牛行はる。現在乳牛は約百頭を算し漸次増加の傾向を見らる。川に平行し低地の南部に縣道通り、西方石見國の濱田町と南方廣島市を連絡す。字新庄村は主色をなし街村にして北に村道を出す。古くは和名抄、山縣郡宇岐郷の地なるか。もと吉川氏の城下町。小倉山上にその城址あり、小倉山は一に紅葉山ともいふ。正和二年吉川親高、駿河より移りて此地に築き、歴世古傳して威を當國に振ふ。經高の裔孫興經に遷りて嗣絶え、毛利元就の子、元春その養子となる。天正十四年元春卒し、三男廣家嗣ぎ、出雲高田城二十一萬石を領す。關ヶ原役後、除封せられ、其子廣正、毛利氏の封内に於て岩國六萬石を給せられ、當城廢す。江戸時代は石見國濱田に出づる街道の山驛をなす。新庄八幡宮は吉川家の歸神にして當時は廣大なる社領を有し、今に中ノ宮・宮迫等の字名を存す。宮迫には總社天燈門神社あり、手力男神を祀り、例祭、十一月一日とす。明治二十二年、新庄・宮迫、岩戸の三部藩を合併して新庄村を建つ。〔新庄村〕山口縣周防國玖珂郡の南端を占むる農村。柳井町の西にあり。村内は從丘陵起伏し、河川も大なるものなく、村

城の大部分平野にして耕地に富む。産業は農業を主とし米の産額多く、副業に蠶及び麻また少からず。交通は省線柳井線本村の南方を通過す。村名の新庄は古くは柳井新庄と呼ばれ、もと柳井に属せし新立の開墾地なれば新庄と稱すといふ。江戸時代には岩國藩の所領に属し、明治十一年より翌十二年五月に至る間、余田村及び古岡村と合して一村なりしが、同十二年に分離して獨立の一村となる。神社は宇宮の下に土徳石八幡宮あり。佛寺としては宇宮尾の欣慶寺、宇大祖の積善寺、宇上尾の高林寺や知られ、そのうち高林寺は天文十三年、積善寺は慶長十九年の開創にかゝる。

シンシヨ

【新城村】 青森縣陸奥國東津輕郡の西南部。東北は青森市との間に柳井村を挟み、東南は津軽郡に、西北は西津輕郡に隣接す。西北境に鷹ノ岳(四七四米)、馬神山(五四九米)聳え、山腹東に延びて土筆山(二二五米)を起し、南部には女蛇山(一五四米)、鷹ノ山(一七四米)あり。これら山地を浸蝕する諸流は集りて新城川・天田内川となり東北に流れて青森灣に注ぐ。東北部は青森平野の一部にして河川及び湖池等の灌溉の便よく、水田開墾、臺地には畑地もありて米・雑穀・苹果を産し、なほ青森市の接續村として野菜・果樹は益々發展しつつあり。同市より國道(利根街道)新城川沿ひに通

じ、大津湖(一〇八米)を経て弘前市に至り、各バスを通じ、奥羽本線はこれに沿うて津輕新城驛(明治二十七年設置)・鶴ヶ城驛(昭和八年設置)を置く。舊藩時代は油川組に属し明治五年より第一大區三小區に屬し、明治二十二年町制施行と共に現在に至る。大字石江村には明治十四年九月九日明治天皇御臨幸の際の御休憩所跡並に大正四年十月特別大演習に於ける大正天皇の御野立所跡あり。記念碑を建つ。また新城驛の東二軒にスキー場あり、戸建山附近の一本松は樹齢五百年と推定され、また八幡宮境内の栗は徑二米、高さ三五米にして樹齡三百年以上といふ。

シンシヨ

【新城村】 鹿兒島縣大隅國肝屬郡の西北部。高嶺山脈の西斜面に位し櫻島の東南方約一三軒にして鹿兒島灣に臨む。北は垂水町に隣り東は鹿屋町に接し南は花岡村に界す。高嶺山脈の一帯(約一八二米)東北境に聳立し南方へ峯を連ねて東境を限り御岳より西方に横岳(一一〇二米)・白山等の峯を延ばして北境に連り西南方へ傾斜す。西海岸は西北より東南に連りて東調、低地乏し。海岸近くは耕地は米を産し其他薯・粟・甘藷等を出す。街道西海岸に沿ひて南北に走るものあれば交通不便なり。村名は垂水新城の謂にて、村内に舊伊知地氏の館址あり。(神貫神社)大字神貫に鎮座。郷社。祭神・草創ともに詳ならずと鹿州神社考に享祿

三年勧請開祀とあり。何れも九月九日。【新城】 臺灣總督府鐵道宜蘭線の一驛(大正九年設置)。臺灣臺北州蘇澳郡蘇澳庄にあり。【新城面】 朝鮮平安南道寧邊郡の東南部。西は徳化面、北は大興面に隣り、東は咸鏡南道定平郡高山面に、南は同水興郡宜興面及び徳徳面に界す。舊の新昌・錦城二面の合併して成りし面。東西八軒餘、南北四軒内外あり。嶺林山脈の山地にて東境に連日峯・白山・香爐峯・洞水山等何れも一七〇〇米を凌ぐ高峯北より南に連立し、西境にも永舟山(一五三二米)・白山(一七二四米)聳え到る巖山地をなす。大同江の上流西北部の谷を西南に流れ、東部に發する嶺城江中部の谷を西流してこれに會し西隣徳化面に出づ。河谷の狭小の低地に聚落ありて大豆・粟・稗・麥等の農産を出す。道路また谷を越ひて四隣に通ずるも、何れも兩境の坂路を越ゆるを以て交通便ならず。西北部大同江・錦城川の合流地點に位する昌義里を面邑とす。

シンシヨ

【新城村】 新莊村 高知縣土佐國高岡郡中部。東は須崎町及び須崎町と土佐灣に面し、南は久禮町に界す。火打山脈の東斜面の海に臨む所にあり。村の中央に高野約四〇〇・三〇〇米の山岳東西に走りて海に臨みその南斜面と南境の三百米餘の山嶺との間に平地あり。北部山地との間には新莊川西方より東流

して廣き沖積平地を展き須崎灣に注ぐ。溫暖なる氣候と肥沃なる平地には田畑よく拓けて耕作盛に行はれ米を産す。山地は牧場をなす所もあり林産物を産す。東隣須崎町の影響にて新莊川流域は蟹も行はれ活況を呈す。須崎町より来る縣道は、一は海岸傳ひて南下し久禮町に、一は川に沿うて西隣上分村に通ず。新莊川河口右岸の角谷は主邑をなす。此地古くは和名抄高岡郡海部郷の地なるべし。吉野朝時代に佐伯氏の據りし岡本城址あり。もと下分・下郷・安和の三箇村に分れしも明治廿二年合して本村を置く。(新莊岡本城址)字岡本にあり。吉野朝時代佐伯經貞(俗稱堅田小三郎)等の據守せし城址にして、稱應前後の佐伯文書に其の事蹟見ゆ。興國三年九月南黨の諸將花園宮の麾下新田總打入道・金澤左近將監等と共に堅田岡本を岡本城に改め、國貞の子彌三郎を殺せり。岡本の高き約八〇米、一の丸・二の丸を有し、山上に空濠の跡數箇所あり。地勢高く聳え四方俯瞰の景に富み、今以て要害の地たるを想見するに足る。高岡郡の花鳥島の起源はこの城址より始まりしとの傳説あり。また高岡郡に於ける佐伯・堅田・緒方の諸姓皆この岡本城に關係ありといふ。(元亨院)大字下分にあり。曹洞宗。龍吟山と號す。永正年間津野利部少輔元實の開基に係り、開山を印宗和尚とし、中興開山を性海和尚とす。住持寺領五十石を有

シンシヨ

し、風指の巨瀾たりしが維新後大いに衰頹す。【新所原】 省線東海道本線の一驛(昭和十一年設置)。静岡県濱名郡新所村にあり。【新城町】 愛知縣三河國南設楽郡の南部。豊橋市の東北約一五軒。南には豊川を距て赤石山脈に續く。古生層の弓張山脈走り、豊川は日本の内外帯の境界をなし、本町附近にも河岸段丘を作りて西南に至る。此谷は洪積層を以て埋められ、新城町は段丘上に立地す。大體段丘面は桑畑に、段丘下低地は水田に利用さる。本町は伊那街道に沿ひ、豊川鐵道は之と並行し、新城驛(明治三十七年設置)を置く。此地は和名抄、設楽郡賀茂郷の地に當るが如し。新城とは野田新築の意味にして、もと大野田と云ひしが野田城が武田勢に引渡さるるに及び菅沼定實ここに新城を築く。新城址は東入舟にあり、南面絶壁にて豊川を望む。天正三年奥平信昌の築城にかかり翌年ここに移りしが、天正十八年池田輝政の臣片桐半左衛門在城し、そのち慶長五年代官島山牛之助ここに移り、同十一年水野分長此地に封を受け、次いで子元綱に至り正保元年上野國安中城に轉封され、慶安元年菅沼定實丹波國龜山城より移封され爾來七千石の陣屋となる。明治維新の際其子孫左近衛將監定長の歸郷するに及び廢城となる。豊川北岸の地に櫻淵の名

シンシヨ

跡あり。南面には瓦葺屹立、斷崖絶壁をなし、屋上は森を隔て廣漠たる山野に臨み、崖下は深淵青雲を湛へ、奇岩怪石亂立して實に風景絶佳の地たり。寛文二年時の城主菅沼謙津守定實は區下に命じて櫻淵を築かめしめしり櫻の名所となり櫻淵と稱するに至れり。本町は豊川に臨み、所謂設楽谷の咽喉を扼し、地方的中心をなし、舊南設楽郡の都衙のありし地にして、今も警察署・女學校・農藝學校・區裁判所・役務署・土工區事務所・郵便局・帝室林野局出張所等の學校官衙あり。【新津村】 静岡県遠江國濱名郡の東南部。濱松市の西南。南は遠江灣に臨む。面積九・九五方軒。天龍川デルタの西南部に占め、海岸は砂濱にて白羽濱と稱さる。農業を主産業とし、米作の外促成のメロン・胡瓜の栽培、砂地に甘藷の栽培行はる。その他水産業・牧畜も行はる。濱松市へは二軒、バスの便あり。この地古くは和名抄、豊智郡野田郷に屬せしもの如きも、その後沿革は詳かならず。

シンシヨ

水營はその番兵の屯營所ありし所。交通上重要な地點にして、大武庄より約二〇軒の地にあり、順路は湘州より行く便とす。【新菅牟田】 省線朝野線貨物驛(大正四年設置)。福岡縣鞍手郡宮田町にあり。【新須磨】 新川町(愛知県) 朝野京畿道長瀨郡の西南部。面積約九四方軒。北境に華藏山(五六〇米)あり、山脚南に延びて面の北部は山地をなす。東境北部に盤龍山(二四一米)、中部に大徳山(二三七米)、南部に白鶴山(二二九米)等の低山性山峯ありて、その支脈各々西南に延びて高度一〇〇米内外の丘陵となる。これらの山地及び丘陵地の間に三條の幅狭き低地を挟み、小流西南に流れ、いづれも面の西南境を東南に流るる砂川(臨津江の支流)に入る。これらの低地には番田・畑地ありて米・麥・大豆・棉・大麻の外、人蔘・馬鈴薯等の農産あり。京義街道は南境に沿ひて東西に通じ、北部を除けば面内の交通不便ならず。

シンシヨ

部を測し耕地よく拓く。農産に米・麥・大豆・小豆・棉花等を出し、北部は金・銀を産する大浦金山の鑛區に當る。三等道路西北部を横ぎり交通必ずしも不便ならず。【新西面】 朝鮮平安南道道西郡の西部。西は西朝鮮灣に面す。東西約一三軒、南北四一八軒。南境東部に雲龍山(三五六米)峙ち其麓西に延びて南境中部の一五〇米を凌ぐ丘陵となり、北境にも鶴峯(二二四米)の丘陵連るも、中部より西部沿岸一帯は土地頗る平低にして番田畑地また多し。海岸は屈曲に富むも、多くは砂濱にて且つ沖には無數の亂岩散布するを以て舟楫の便なし。西方四軒の海に二鴨島の屬島あり。農産に米を主として麥・豆類・棉花・果實等を出し、沿岸に鹽田拓けて鹽を産す。龜瀝里は中部花山峯(一〇五米)東麓の平地に位し、面事務所・警察署等あり、西南廣梁灣方面より東北嶺山方面への二等道路に沿ひ交通不便ならず。

シンシヨ

【新西面】 朝鮮江原道鐵原郡の南部。鐵原邑の西南隣にて、西南より南と東南は京畿道鐵川郡により界せらる。面積一二三方軒。面の東半部は東境を南北に連ぬる寶蓋山(七二四米)・地蔵峰(八七七米)・高臺山(八三三米)等の山地、西半部も北境に天徳山(四七七米)・夜月山(約四八〇米)等あり、その山加二〇〇一三〇〇米の丘陵となり、ほぼ

シンシヨ

【浸水營】 臺灣臺東郡の地名。臺東郡大武庄より高雄州湘州郡湘州街方面に通ずる中央山脈横断道路の謂はゆる浸水越道路に面する要地なり。浸水越道路は古く清朝時代より開通され、嘗ては西部・東部を陸路連絡する南方に於ける唯一の道路たり。浸

シンシヨ

【森西面】 朝鮮全羅南道長城郡の西南部。面積約五七方軒。北西隣に大浦山(五九三米)峙ち、東南部に高さ一〇〇米を凌ぐ丘陵地あるも其他は全南平野の北部に當る平坦地にして、古幕院川の上流は中部を、黃龍江の支流は東

シンシヨ

【新西面】 朝鮮江原道鐵原郡の南部。鐵原邑の西南隣にて、西南より南と東南は京畿道鐵川郡により界せらる。面積一二三方軒。面の東半部は東境を南北に連ぬる寶蓋山(七二四米)・地蔵峰(八七七米)・高臺山(八三三米)等の山地、西半部も北境に天徳山(四七七米)・夜月山(約四八〇米)等あり、その山加二〇〇一三〇〇米の丘陵となり、ほぼ



シンセー—シンセ

南北に延び、東部山地と西部丘陵との間に略南北に長く低地あり、漢江の支流東漢川南流して漢川郡に出づ。この平地に耕地開け、農産に米、麥、豆類及び雜穀あり。鐵道京元線と漢川、鐵原、金化を繋ぐ二等道路南北に通じ、前者の大光里驛(大正元年設置)ありて交通不便ならず。面の東南部なる寶蓋山は森林美濃澆美に富み、新綠、紅葉の景勝地、山中に古刹深源寺あり。

シンセーセン 新成川

地昔府鐵道平元西部驛の驛(昭和六年設置)。朝鮮平安南道成川郡三徳面にあり。

シンセカイ 新世界

新居 新居(臺灣台南州新居郡) 新居(臺灣台南州新居郡) 新居(臺灣台南州新居郡)

シンセキ 新関村

新関村 新潟縣越後國中津原郡の中部。西には第三紀層の礫曲山地たる東山の低丘陵地を控へ、東部には阿賀野川の低地あり。この丘陵地は背斜層をなして所謂新津油田と稱せられ石油の産出が多く、阿賀野川は東境に多くの川島を造り北流し、南五里町方面より早出川が北流し之に合流し、また能代川は丘陵下を深谷を刻みつつ曲流し北の方阿賀野川に合流す。平野中、早出川以東は阿賀野川の曲流部にして砂地をなし畑・桑畑多し。能代川流域にも相當園見られ他は水田となる。交通路は雙越西

線村を南北に通過し、バスの便もよく津より五里方面に至る。柏崎領越後國新風土記に據れば、大字小口の若宮崩しは何れの頃なるか詳かならざるも、土人觀香山境内より觀を掘出せしが、これ若宮の崩所なりとて、其所に小堂を建立す。其後、此邊より太刀五十三振を掘出せしが、之も其處に埋めて石塔を建てたり。然しその若宮とは何人たるや詳かならずといふ。

シンセキ 神石郡

神石郡 廣島縣備後國四市十六郡の一。北は比婆郡に、西は甲奴郡に、南は東品郡・深安郡に界し、東は備中國後月・川上の兩郡に隣す。面積三七九・一七方町。開拓をうけ平原化せる中國山地の一部を占め郡内は丘陵起伏し平地少し。北部の帯津川及び山地の水を集めて東城川は東流し川上郡に入り成羽川となり高梁川中流附近に注入す。南部の水を集むる小田川の上流は東に轉し後月郡を流れて後、高梁川下流に注ぐ。耕作は概して不振なるも牧牛をもつて閑え所謂神石牛とて名高き良種を出す。油木町は牛の取引盛にして郡の中央部にあり、廣島縣神石支廳の駐在所として主邑となす。從つて郡内交通も此町を中心として開け、北は東城町に、南は福山市に、東南は井原・笠岡二町に至る縣道あり、其他、村道は四方に出でて交通頗る便なり。書紀天武天皇二年の條に備後の國可龜石郡にて白鹿を得之を獻じて宮郡

シンセツ 榛接面

朝鮮京畿道楊州郡の東北部。京城府の東北界を去る東北約二〇方町。東西一二方町内外、南北六一三方町あり。東部に錦山(八一四米)の山嶺南方に延びて西側に急傾斜をなし、西境には蘇利峰(五三〇米)の嶺南方に連る。その東側を玉宿川南流して前麓面に出づ。兩岸には狭長の平地ありて番田拓け、東西の傾斜面には畑地ありて米・麥・大豆・蔬菜類等の農産を出す。面の西北部に李朝世祖の光陵あり、境内廣く樹木繁茂し深山の趣を呈し、陵城の一隅にその菩提寺たる奉先寺あり。京城府に遠からざるも交通は便ならず。

シンセン 信川

信川郡 朝鮮黄海道西部の郡。道管内一七郡の一。面積七九〇平方町餘。西部に南部は九月山嶺及び其の支脈連互し、特に西部に於て峻峻にして、九月山(九五四米)・雲山(四八七米)等聳立し、九月山は特に顯著にして朝鮮四岳の一とせらる。東北部一帯は謂はゆる安岳平野にして東北方載奉平野に連り、地味肥沃にして良質の米産地として知らる。

三八

河川は西部に南大川の一支出流して長淵郡に入る外は、西江及びその支流たる九月川・連泉川等、何れも九月山脈中に發源し、前記平野を東に貫きて載奉江に入る。近年水利組合事業發達し、穀信・信川の水利組合最も大にして、その蒙利面積、前者は三八〇ヘクタール餘にて加連・温泉・加山・北部の各面を包含し、後者は二六〇ヘクタール餘にして、信川・温泉・南部・龍門の各面を灌漑す。これ等水利組合工事により、従前に比し根反當收量一・七一二・〇石を増加し、總量に於ては信川組合の如き四・四萬石の増收を來せり。耕地面積約三・七萬ヘクタール、此うち田は一・四ヘクタールにて、住民の約八割は農業に従事し、また東拓・畜産等の大農場多し。農産物は米最も多く、一九・三萬石、粟・小麥・大豆・小豆等之に次ぎ、特用作物には棉(二七八萬斤)・苧草・檀草・薄荷などあり。烟草は載奉業にして耕作面積三三〇餘ヘクタール、四四萬斤(一四萬圓)を産し、薄荷は特に多く二六・七萬圓にして道内生産の五割以上を占む。蔬菜は馬鈴薯・白菜・蘿蔔等多く、苹果・梨・桃の栽培も盛なり。副業には養蠶の外、豚・牛の飼育、養蠶等盛に行はれ、また吠その他の畜工品の生産少からず。林産も多し。苗木の産あり、工業には蠶製品の外、織物・製糖・製粉等あり。朝鮮黄海道中央を東西に貫き信川を中心と置路

シンセ—シンセ

開よく發達して各路線概ねバスを通ずるを以て、西部山地を除くはかは、交通便利なり。なほ海州郡の翠野驛に發して北走し信川を經、安岳・唐島を繋ぐ鐵道豫家線路ありて工事中に屬す。行政上、本郡を信川邑及び温泉面ほか一三面に分ち郡廳を信川邑社稷里に置く。信川邑は西方の文化と共に古來「野中の八邑」の一たる名邑にして、交通の要衝に當り、農産の集散盛なり。本郡には温泉多く、その主たるものは信川温泉(温泉面温泉里)・連泉温泉(草里面連泉里)・三泉温泉(弓興面三泉里)にして、多くは單純泉なるも連泉温泉はラジウム泉にして放射能作用六・六二マツヘあり、諸温泉とも風光勝れ交通の便と相俟つて浴客多し。沿革、隆熙三年(明治四十二年)もと信川及び文化の二郡を合して信川郡を置き、翌四十二年地方官制により従来の區域を以て新に信川郡を置き現今に至る。もと信川郡は高句麗時代の升山郡にて、高麗朝に至り信州と改め、李朝太宗十三年信州縣に改めち郡となる。もと文化郡は高句麗時代の關口縣にして、のち備州・文城等と改め、高麗高宗の時文化と改め、その邑治は古來今の文武面古縣里なりしも、朝中宗の時、文化面東園里に移せり。

【信川邑】朝鮮黄海道信川郡の首邑。郡の略中央部に位し、面積約二九方町。載奉平野の西南部に位し、東部・中部・西部に小丘阜あるもいづれも一〇〇米に達

せず、到る處耕地よく拓け、米・大豆・麥・棉花等の農産物かなり。昭和十二年邑制を布く。信川(社稷里)の市街は南部の小丘に據り、郡廳・警察署・穀物検査支所・面事務所及び社稷里鐵道黄海線の信川驛(大正十年開業)等あり。安岳・海州方面との交通頻繁にして穀物その他貨物の集散また活潑なり。その東方三軒餘の温泉里に信川温泉あり、平野の中央田圃の中に湧出す。廣漠たる沃野を隔てて北西遙に九月山の翠峰を眺め、東南に長壽山の麗姿を望み野趣遙々たり、西方約一軒に黄海線の信川温泉驛(大正十年開業)あり、京義本線沙里院驛へは約一時間にて達すべく交通の便よし。

【深川面】朝鮮平安北道宣川郡の西部。宣川邑の西北約六方町。東西六一〇方町、南北最長部に一日軒あり。北境に笠峰(五一二米)ありて、その嶺東西に延び北部は山地をなし、西南部にも雲峰山(三六六米)の東北嶺なる丘陵ありて中部の波狀の臺地に續くもその中間は概ね低平にして畑地をなし、東南部は西南流する清江に沿ひて番田よく拓く、農産に米・大豆・粟・玉蜀黍・棉花・大麻等あり。京義本線・京義街道・共に中部を東西に通じ、面邑古軍營洞はその東部に位し、京義本線の東林驛(新府面内)に近く交通便なり。東林洞に高麗の徳宗が北邊の防備として築かしめし東林城址あり、當時は周圍約四軒、高さ三・五米の城壁を繞

シンセン 仁川

仁川郡 朝鮮京畿道の港市。京城府の西方約二〇方町。京城の外港たると共に黄海斜面に於ける樞要の港にして、釜山・元山に次ぐ古き開港場なり。富川郡の西端半島部の大部分を占め、江華灣に突出し、三面海を繞らし、東境は富川郡文島面に接す。東西約一〇方町、南北約八方町、面積二七・一平方町。(地勢)東南境はやや高く文島山(二三三米)等連りて西北方に傾斜し、中央部に一〇〇米臺の壽風山あり、その間處々に耕地拓け、地勢概して凹凸傾斜に富む。市街は西部の半

島内に興せし、その中央部に於て東西に横はる山根丘陵(七五米)は自ら市街を南北の二區に分ち、その西南面より海岸に至る間は内地人街をなし、東北一帯は朝鮮人街をなす。海上には前面約一軒に月尾島・小月尾島あり、近くに沙島ありて何れも突堤によつて結ばれて内港を劃し、永宗・龍遊・大舞衣・紫月・靈興・大阜の諸島は遙に灣口に並列して自ら外港を形成す。規模雄大、天興の港灣なれど潮水干満の差一〇米に及ぶ不便あり。併し開門式築港完成以來は大船を繋留し得るに至る。なほ東北岸には有名なる朱安鹽田にして、南部の嶺島附近の鹽田と共に、朝鮮有数の製鹽地帯を成す。(氣候)七、八月平均氣温二二・二五度、十二、一、二月の平均氣温乃至零下三度、年平均一二二〇〇托にしてその五割は七月以降下。(産業)工業を第一とし精米・紡績・製粉其他の工場生産盛なり。精米工場數一六を數へ、一日の製粉能力約一萬石、年産額二四〇萬圓、其他衣米五三二萬圓、碎米八九萬圓にして、石技機械も完備し、精米は仁川白米の名を以て鮮内勿論内地・滿洲國等へ輸出せらる。紡績は年産額七四一萬圓、東洋紡績會社工場最も大にして紡機三萬餘機のほか織機千三百臺を有し織物をも行ひ、製粉は豊國製粉・日本製粉兩會社の工場を始め大小の諸工場あり、其他製油・染色・酒

三八

産(清酒一〇九萬圓、燒酎一一八萬圓)・製材(七三萬圓)等盛にして、昭和十年度の工場生産額四、七九一萬圓に及ぶ。また畜産は約七〇萬圓あり、ハム・ソーセイヂの製造行はる。水産業は一箇年の水揚高は四三萬圓に達し、その消費地は仁川・京城大部分を占め、また浦鮮・櫻蝦等の製造盛なり。北部の櫻町海岸と南部の日出町海岸とは廣大なる鹽田あり。前者は即ち朱安鹽田にして、明治四十二年全鮮に對してここに官營の天日製鹽場を設けたるに始まり、面積一三二〇ヘクタール餘、従事人員二六・五萬人、昭和十年年度生産量約一一七〇萬担にして、全鮮生産高の三分の一強に當る。〔貿易〕仁川港は朝鮮の中央を後背地をなすを以て對内地及び支那大陸との海上運輸上の好位置にあり、従つて對支貿易額は全鮮諸港に冠たり。仁川港は明治十六年一月の開港に係り、翌十七年の貿易額僅に五十六萬圓なりしが、其後、逐年伸張し大正七年の貿易額は四、四七三萬餘圓を算するに至り、船渠竣工の直後、大正八年は吞吐貨物六三萬餘噸、貿易額九、〇九八萬餘圓に躍進せり。大正十一年に一度開突破、爾來進展を續け、昭和十一年度は輸出七二七五萬圓、輸入一五八九一萬圓、計二二一六六萬圓にして開港以來の最高記録を示現せり。外國貿易は昭和十年に於て輸出五九六萬圓、輸入一、五八七萬圓、計二、一八三萬圓にして、

取引内は支那を第一とし、關東州・北米・合衆國・英吉利これに次ぐ。輸出品は米及穀類も多く、人参これに次ぎ、以下乾蝦・藥劑・蠶臥・大豆等に於て、輸入品は機械類・藥劑・支那麻布・小麥粉・天日鹽・肥料等なり。内國貿易は昭和十年年度に於て移出六、〇三七萬圓、移入二、一九一萬圓、合計一八、二二七萬圓にして、仕向地は大正を第一とし、東京・神戸・名古屋之に次ぎ、仕出地は大正・神戸・東京・門司・名古屋・下關・横濱各港の順なり。而して移出重要品は絹糸(二、六七五萬圓)・支米(一、四七九萬圓)・大豆(五四八萬圓)・鐵(一、六九萬圓)・生牛・牛皮・藥劑・貝類等、移入重要品は綿織物(八、一三萬圓)・機械類(七、三三萬圓)最も多く、其他、洋紙・織物・鐵板・綿織物・自動車及同部分品・絹織物・鐵安其他の肥料等に於て何れも二百萬圓以上なり。右のうち仁川白米の市内生産は朝鮮輸出白米の代表として、約五石に近く、實に朝鮮白米の約半、約百餘萬石に達し、昭和十年年度は約一、九〇〇萬石に達し、その五割以上は大正(全鮮輸出高の約二割)を占め、仁川港は大阪・釜山・神戶・東京の肥料等に於て何れも二百萬圓以上なり。右のうち仁川白米の市内生産は朝鮮輸出白米の代表として、約五石に近く、實に朝鮮白米の約半、約百餘萬石に達し、昭和十年年度は約一、九〇〇萬石に達し、その五割以上は大正(全鮮輸出高の約二割)を占め、仁川港は大阪・釜山・神戶・東京の肥料等に於て何れも二百萬圓以上なり。

線水仁線(狭軌)、水原より南の西南海岸に沿うて走り松島・仁川港の兩驛を設く。道路は一等道路京仁街道、京仁線路と並走して京城に通ず。なほ海運につきては仁川港の項を見よ。〔市勢〕官署の主要なるものに、府廳・税關・穀物検査所支所・地方法院支廳・專賣局出張所(一)、海港検疫所、總督府觀測所・稅務署、道立醫院、少年刑務所、富川郡廳、府貿易館・英國領事館等あり。其他、商工會議所、京畿道水産會、京畿道漁業組合聯合會、金融組合等設けられ、學校に公立の中學校・商業學校・高等女學校等、言論機關に朝鮮毎日新聞社及び各新聞社支局、社會施設としては公會堂・府立圖書館、同職業紹介所、公設運動場・陸軍俱樂部、仁川開港等あり。衛生施設よく備はり特に上水道は京城府の養老津に水源地を設け、約三〇軒の送水鐵管によりて松林町山頂の配水池を通じて府内一圓及び永安浦に給水するものにして、給水可能人員一四萬人に達す。〔沿革〕往古高句麗時代、買召驛と稱し、新羅景徳王の時郡城と改め東津郡の領縣となる。高麗顯宗九年、樹州に屬し、次で慶源郡・慶源府となり、李朝に於り太祖元年仁州と稱し三代太宗十三年始めて仁川と名け都となす。當時の仁川と稱せし地はその區域甚だ廣く、北は富川、東は始興、南は安山の各部に接し西は江華郡の島嶼を包含しその邑は現仁川府を隔つる東西約の文島

山麓(いま富川郡文島面)に位せり。現仁川府は開港前まで清物浦と稱する一漁村に過ぎざりしが、明治十六年一月開港と同時に府治を移し、仁川と改稱す。その後明治二十七年及び三十七年兩度の戦役は著しく當港の發展を促進し、遂に今日の繁盛を極むるに至れり。開港と同時に韓國政府は通商衙門を設置し仁川府使をして通商衙門監理を兼攝せしむ。我國はここに領事館を設けしが、明治三十九年理事廳と改め、同四十三年之を廢し仁川府廳を置く。次で大正三年三月府郡聯合に際し管轄區域を市街地のみを縮少し、その面積六・七方軒となりしが、昭和十一年十月隣接せる富川郡多朱面並に文島面の一部を併合し、現在の境域を定め、面積は二七・一方軒、即ち從來の四倍強となれり。明治十七年事大黨・獨立黨の争闘起るや京城の日本領事館は清兵に朝鮮住民の一部の爲に放火せられ當時の公使竹添進一郎は難を仁川に避け更に日本全權の來るを待て陸兵と共に此地より上陸し、十八年一月京城に於て兩全權會合、漢城條約を締結せり。明治二十七年東學黨の亂起るや清國は六月牙山に兵を派す。我方之を以て天津條約に違背すとなし兵を仁川に進め、仁川より京城へと進出す。而して其結果豊島神の戰となり日清戰役の發端開かる。同年八月立見旅團、同九月山縣有朋大將の率ゐる第一軍仁川に上陸す。明治二十七年

國軍艦を仁川に擱置して示威強弱をなすや、我國は軍艦千代田を以て威留民の警備に任ず。二月六日我が國支那艦、同八日千代田以下、瓜生少將の率ゐる高千穂、浪速・新高・明石等の諸艦海外に現はれ、高千穂・千代田は運送船を擁護しつつ木越少將の率ゐる四艘大將を仁川に上陸せしむ。翌九日瓜生司令官が敵ワリヤト艦長宛に發したる通告により露艦ワリヤト・コレツト出港し八尾島沖に於て砲火を交ふるや兩艦煤沈し、敵は全く敗滅せり。明治四十年九月明治天皇は皇太子嘉仁親王を韓國に御遊幸の御せあり、十日親王は有栖川大將宮を御同伴、文武大官を隨へさせられ、軍艦香取に御搭乗、鹿島以下四艦供奉し、十月十六日仁川に御着、韓國皇帝仁川驛へ御出迎ひ遊ばされ、京城に向はせられ、二十日御謁見、韓國皇太子(李垠)と御同車、御召列車にて仁川御着、御歸航の途につかせられたり。〔經濟物産(仁川市街)〕市街の中央にて東公園の最高處(宮町)に鎮座。祭神、天照大神・明治天皇。明治十六年仁川開港後在留邦人の増加に依り同二十二年伊勢皇大神宮の御靈代を奉遷遷座す。舊藩仁川大神宮、御祭十月十一日。神社に接して天満宮・金比羅神社あり。〔仁川別院〕寺町にあり。眞宗大谷派。明治九年、當地居留民の懇請により本山より布教使を遣ひ、一民家を以て布教所に充つ。當初釜山別院に屬して仁川支院と稱

せしが同二十一年受字を假設し、のち改めて京城別院の支院たり。同三十二年現地に於て受字を擴張し仁川別院と公稱し今日に及ぶ。〔月尾島〕市街の西方約一軒にあり、周圍四軒餘。幅三間のコンクリート突堤道路を以て市街と連絡す。島の最高點一〇五米、東に急斜し、西側に緩かなり。南方半軒餘を隔つ小月尾島(燈臺あり)にも同じく突堤道路を以て通ず。西端に海港檢疫所、南端に通信局五新築造所、東岸に水産試験場あり。北岸一帶は公園にして、湖灣・海水浴場・プールを設け、其他天然植物園・鹿苑・キャンプ場・公設運動場等の設備あり。櫻木・臨園等多く、また山嶽愛宕神社よりの展望大、西側の山腹に花房井戸あり。小月尾島は巨砲戰役に露艦ワリヤト・コレツトの二艦附近にて煤沈したるを以て有名にして、突堤西側は今水上飛行機着水場となる。月尾島遊覽者の爲に京仁線は京城驛より一日十三回往復運轉をなす外、仁川驛及び海岸町よりベスの便あり。〔西公園〕市街の中央、鹿峯山丘陵にあり、全港の風光を一眸の中に收む。嘗て各國居留地會の經營に成りしものにして、大正三年各國居留地の撤廢と共に府營となる。頂上に朝鮮總督府觀測所・府立記念圖書館・仁川園、中腹に仁川中學校等あり。又頂上に明治二十七年二月仁川沖海戦に功ありし軍艦千代田の前橋を樹立す。

〔仁川港〕朝鮮京城東海岸の港灣。明治十六年一月開港の當初に天然の地形を利用して貨物の積卸をなせるに過ぎざりしが、同二十六年に至り海面の埋築及び突堤の築造等多少の設備を施し、爾後貿易の進展に伴ひ明治三十九年以降六箇年の續續事業とし海陸連絡設備其他之に附屬する工事を施行、同四十五年完成せり。其後政府は明治四十四年以降十二箇年の續續事業として開門式築築を築造す計書を樹て、大正十二年竣工、更に昭和四年に至り二四萬圓を投じ結果南側の築船岸及び海陸連絡に之に伴ふ陸上設備工事に着手、昭和十年三月完成す。かくて現在築船内の築船岸は四五〇噸三隻、二〇〇噸五隻を同時に繋留し得るも、その一般荷役能力は年八〇萬噸を出でず、進歩の進展に伴ふ能はざるを以て、昭和十年度より九箇年の續續事業として工費九二二萬圓を以て第二築船の築造に着手せり。その計畫の概要は現在築船に隣接して最大八〇〇噸級の船舶出入に可能なる開門を設け内港の水面積を六二・五萬平方米とし、三〇〇一八〇噸級の五隻を同時に繋留し得る築船岸八〇〇米を築造す外、四三萬平方米の土地を埋築し必要なる陸上設備を整へんとするものなり。現在の開門は全長一九六・七米、開渠の長一五四・二米、幅員二一・八米、側壁の高一四・五米にして、四、五〇噸級の航洋船舶は隨時築船内に入出

し得、開門岸は上下二階所あり、鐵製壁にして、一階の高は一〇米、電氣裝置によりて開閉す。側壁の下部には船渠及び渠室と内港とを別個に連絡する水孔塔渠を築造し制水壁を設けて渠室内の水位を人為的に昇降せしめ船渠と内港との連絡を斷る。船渠は長四五四・五米、幅二一・八米、水面積九一七二平方米、水深最低八・三米、最高一〇・六米にして、築船内築船渠は渠底より頂上までの高さ一一・八米、總屯數四五〇噸級の汽船六隻又は二〇〇噸級の汽船一〇隻を繋留荷役するを得、なほ東岸岸及西岸の一部は沿岸通行の小船舶をして利用せしむ。陸上設備としては陸面上層六棟三一・二坪、並に鐵道局の上層一三三・八坪あり。構内鐵道は築船渠に沿ひ一線、背面九線を敷設し、延長六・三軒あり、三〇噸浮裝起重機外三基の起重機を設け貨物積卸の用に供す。而して埋地中、市街地に最も接近せる部分、その有效面積約四ヘクタールは市街擴張地區及び私設倉庫用地に充用す。本港は築港竣工以來、全く面目を一新し、黄海・忠清・京畿各道の物資は直接ここに集散し、西鮮唯一の良港なり。その定期航路は大阪仁川線(二六四回)・大連仁川線(二〇二回)を始め、天津仁川線ほか九航路あり、入港貿易船は昭和十年年度汽船一、四六八隻、一五七萬噸、帆船四四八隻二・七萬噸に達し、海外旅客は對内地・支那・沿岸を

シンソ—シンタ

併せて入約一萬五千人、出約一萬四千人に及ぶ。港口東水道に島崎燈臺、同じく港口に八尾島燈臺、港内に小月尾燈臺あり。其他、港口・海岸に燈臺、柱燈塔標五、導燈二を設備す。

仁川海岸

京仁線の貨物驛（大正十一年設置）。朝鮮京畿道仁川府港町にあり。

新倉

【新倉】朝鮮平安南道順川郡の東南部。郡邑順川を距る東約一五軒。南北に長くして約二四軒に近く、東西は六一二軒に出入す。もとの密田（北部）・新倉（中部）・龍化（南部）三面の地を含み、北部は北大峰山脈支脈の山地深く、最高處は一〇〇〇米を超え、東南流して成川郡に出づる成川後川の源流をなし、中部の東半には四〇〇米の山地あり、長鮮江これに發し、その西を西南流して成川郡に出ず。南部の西境には崇峻山（六八四米）峙ちて東北に傾斜し、山地の水は北西流して長鮮江に合す。面積廣きも山地多し。大田河に沿ひて幅狭き低地あり、農業ははれて大豆・米・麥・粟・蕎麥等を産し、山地よりは杭木を出す。平元西部嶺山より來りて南部を買き新倉驛（昭和四年設置）及び修徳の簡易驛（昭和六年設置）を置き、また平壤より東遼方面への二等道路中部の面邑新倉里を経て東北に走り交通不便ならず。

新倉

【新倉】朝鮮平安北道昌城郡の中部。東北境には雙峰（一九一・米）、丹楓山

シンソ

（一一五九米）あり、西南界上には舞舞峰（九九七米）峙ち、西内にも南部に李哥徳、西部唐洞山等七〇〇—八〇〇米の山岳あり。山地多し、大寧江の支流昌城江西北部坂下を發して中部を南流し、東西山地よりの諸水を容れて大倉面へ出づ。これに沿ひて幅狭き低地あり、粟・大豆・蕎麥等を産し、畜牛行はれ、新完・新安洞・和豐・完豐等の鐵山ありて金・銀・磁石を出す。昌城・青山間の二等道路南北に通じ、これより雲山方面への道路を分岐し自動車を通ずるも、他は峻坂多しして交通不便ならず。

シンソ

【シンソ】新村。朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛（大正十年設置）にして龍山驛の接續點。朝鮮京畿道高陽郡京城府にあり。

シンタイ

神代

【神代村】秋田縣羽後國仙北郡の北部。角館町の東北に隣り、東北は田澤湖との間に生保内村を挟む。旗手盆地の北邊に位し西北境に院内嶺（七五一米）・大影山（六三七米）聳え、山脚は西南に延び東南部玉川岸に小影山（五五八米）あり。西南部角館町との境界附近に第三紀層の五〇米内外の丘陵地あり。堆積物の一玉川は東南境を西南に流れ、北境山地に發する小流は玉川の一支榑木内川に合し山地を出づる所に扇状地をつくる。西部低地はこれ等復合扇状地よりなり扇地・荒地等未だ存するも水田よく拓け、農業

物を第一とし米・大豆・蕎麥を産し近時麥の栽培も行はれるに至り、林檎・柿の栽培も角館町及び附近への出荷を目標に經營し、馬は古來名馬の産を以て知らる。山地廣きを以て木材・木炭の産も多く木材は村内にて製材せらるること少く原木のまま他に移出せらる。奥羽本線の大曲町より分岐する生保内線は縣道角館街道に沿うて通じ、神代驛（大正十三年設置）を置きまた角館町にバスを通ず。（抱返り）小影山の西南麓にある抱返神社より夏瀬温泉（白岩村）をすぎ、生保内村に至る玉川峽流の脚聲。神代驛より八木澤口までは日曬、祭日には林間軌道の手押しあり、其よりは徒歩にて生保内驛に出づ。峽中は奇岩多く瀑布懸り、急流・深淵あり、兩側の山には松・杉・楓・つつじ・楓・檜・蕨など密生し特に秋季の紅葉は清流と相映え、絶佳をなす。

【神代村】東京府武蔵國北多摩郡の東南部。東京市の西隣。南隣柏江村・調布町を隔て、多摩川に近く村の南部をその小支流東南に流れ附近は水田及び一部沼田をなす。他は畑地多し少し林を交ふ。農業を主とし米・麥・蕎麥を産す。甲州街道は村の中央を西走して調布町に通じ、社線京王電氣鐵道線また之に沿ひ、村内に仙川驛・金子驛・榮時驛を置く。この地は近世多摩郡府中領に屬し、幕領・知行所・寺領・私領入り交りし地なり。大正深大寺には天台宗の深大寺あり、深大寺の南に古城址あり、扇谷上杉家の土、藤波川禪正ここに居りしといふ。大字佐須は柏江郷と稱せし地なり。大字金子は古へ金子十郎家忠の居住せる地なりといふ。東側に金子太郎・金子與一・金子源八・金子平左衛門尉等の名見ゆ。皆一族なるべし。（青淵神社）大字深大寺に檀座。郷社。祭神青沼馬押比賣命。創立年代詳かならずと雖も、式内の小社青淵神社これなりといふ。別當を深大寺といひ、維新の際廢せらる。住古社前に五町餘の池ありしが、後田地となるといふ。例祭九月十八日。（虎柏神社）大字佐須字宮田に鎮座。郷社。祭神大歲御祖神。例祭九月十二日。（深大寺）大字深大寺にあり。天台宗。淨岳山昌樂院と號す。天正五年此地の長者某、滿功を請じて開創すと傳ふ。住持殿調伏の數顯著しかりしにより朝廷より淨徳七色を賜はるといふ。寺寶中、釋迦如来倚像一軀は奈良期作品中の優秀にて現に國寶たり。

シンタイ

新泰仁面

【シンタイ】朝鮮全羅北道井邑郡の北部。全北平野の一部にて東津江その南西境をなして西北に流れ東北半部に低き台地ある外至る所低平にして水田よく拓く。農業盛に行はれ米・麥・大豆・棉花・大麻等を産し、叭・繩等の副産あり。湖南本線東部を發して西事務所の所在地、新泰仁里に新泰仁驛（大正元年設置）を置き、三等道路は台地の西南部に沿ひて東南より西北に通じ安

通便なり。もと龍化山といひしを昭和十年今の西流に改む。

シンタカエ

新高江礦山

筑豊炭田中部の炭礦。その礦區は直方市より鞍手郡木屋瀬町に亘り、昭和十年度に於ては塊炭（約四萬三千圓）・粉炭（約七萬二千圓）・切込炭（約二萬二千圓）・粗炭（約三千圓）にして、いま重要礦山たり。

シンタカオ

新高尾村

群馬上野國群馬郡の東南部。高崎市の東北隣にあり、面積五・六六平方軒の小村。全村平地にて南半は水田多く北部は桑畑をなす。村民の生計は農業に便存し米・蕎麥を主産物とす。高崎市より南橋市に通ずる國道は、村の中央を東北に走り、省線兩毛線又これに沿ふも、村内に驛を置かず。東隣東村に新南橋ありて上越線を分つ。本村は古くは和名抄、群馬郡高名郷の内に屬せしも、其後の沿革は詳かならず。明治十一年明治天皇北陸東海御巡幸の御、九月三日この地に御小休遊ばさる。

シンタカユ

新高湯

【新高湯】群馬原村（山形縣）  
【シンタケサキ】新竹崎。臺灣總督府鐵道阿蘇山線の一驛（昭和七年設置）。臺灣台南州嘉義郡竹崎庄竹崎にあり。

シンタチ

信達村

大阪府和泉國泉南郡の町。泉山脈の北斜面に位し大阪府岸野町の西南約五軒。面積九・七九方軒。南部は和泉山脈北斜面に西

シンター—シンチ

シンチ

新地村

福島縣雙葉郡相馬郡の北部。東は太平洋に面す。阿武隈山地の北部にあり。村の西境には山脈連り、鹿島山（四三〇米）はその一峰をなす。土地西部より次第に東方に傾斜し海岸は平野となる。鹿島山等西部の山脈は東西の分水界をなし、短小なる河川はこの山地に出でて東流し太平洋に注ぐ。海岸の北部は砂濱をなし、南部は臺地海にせまる。北部の釣御濱は海水浴場として名あり。魚・鰻・鮎を産す。海岸より約〇・五軒に。線富磐線南北に通じ、新地驛（明治

シンチ

新智面

朝鮮全羅南道莞島郡の略中部。新智島を本島とし、東方の穴島・葛島、南方の外鹿島・長島等の小島を含む。西は莞島、北は古令島、助島、東は生日島に對し、南方に青山島を望む。新智島は東西一三軒、南北は最廣部に六軒餘あるも、西部は縮れて僅に一軒未満の地峽部をなす。高さ二〇〇米の山地起伏し平地少く、海岸は出入に富むも海崖をなすか干潟地に陥むため

シンチ

新知

愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年、外二村と共に廢され、新たに八幡村を置き、大正十一年町制を布く。

シンチ

新智面

朝鮮全羅南道莞島郡の略中部。新智島を本島とし、東方の穴島・葛島、南方の外鹿島・長島等の小島を含む。西は莞島、北は古令島、助島、東は生日島に對し、南方に青山島を望む。新智島は東西一三軒、南北は最廣部に六軒餘あるも、西部は縮れて僅に一軒未満の地峽部をなす。高さ二〇〇米の山地起伏し平地少く、海岸は出入に富むも海崖をなすか干潟地に陥むため

シンチク

新竹

【新竹】臺灣五州三廳の一。臺灣島の西北部に位し、東は次高山・桃山等の嶺嶺重疊せる中央山脈によりて臺中州に境し、西は臺灣海峽に臨み、南は大安溪の溪流と大雪山・小雪山等の山脈を以て臺中州に境し、東北は臺北州に隣接す。（地勢）一般に高雄にして山地臺地に富み、東方より漸次西方に傾斜して海洋に臨み、その間廣闊なる平野比較的少く、諸川何れも中央山脈を分水嶺として南東より西北に貫流す。東西最長約五五軒、南北最長約八一軒にして地形は稍長方形を成す。本州の東部は所謂中央山脈の峻峰連繫し次高山を始め千米以上の高山三十有餘を算し、殊に次高山・大雪山・大霸尖山・桃山・小雪山等は三千約乃至三千九百米にも及び二千米以上三千米未満の山地八に達す。州下河川の主なものは東方に連る中央山脈にその源を發する淡水河・頭前溪・鳳山溪・後龍溪等の諸川にて、何れもその源近くして水急急なるのみならず、下流は河幅徒らに廣大にして支流多く灌溉に利あるも舟楫の便なく



十四年中港の南條溪以南を劃き、以て二十一年臺灣割讓に至る迄は、行政改革の實行と對蕃策勵時代に相當す。明治二十八年我國領臺後は同年五月臺北縣新竹支廳、同三十年六月新竹縣、同三十四年新竹廳と數次の制度改正を経て大正九年十月州制を施行せらる。清領當時より我國領臺後大正九年地方制度改正に至るまで、縣・支廳時代共にその下に堡制を設けて現在の市街制に相當する制度とせしめ、雍正元年淡水廳設置より乾隆中葉に至る間は現在の新竹州の地區たる竹塹堡と臺北州の地區たる淡水堡の二堡制たりし、以後同治九年までは淡水堡を廢して桃園・海山・興直・芝蘭・大加臘・石碇・泰山・提接の八堡に分ち、竹塹堡は現在の新竹市及び中壢・新竹・竹東三部を含む竹塹堡以下中壢・後壠・花東・大甲の五堡制に改め、茲に十三堡制となり、同治十年より光緒四年に至る間は此を竹北一・二堡・竹南一・二・三・四堡の六堡制に、光緒十五年新竹・苗栗分縣に伴ひ新竹縣下の堡は竹北一・二堡に竹南一堡の三堡制に、光緒二十一年には更に名稱變更を行ひ區域現行のまま竹塹・竹北・竹南堡とし、明治二十八年帝國領臺となるや光緒十五年分縣當時に選つて竹北一堡・竹北二堡・竹南一堡の名稱に變更す。かくて大正九年地方制度改正となり州制の施行するや、舊新竹廳の全部及び桃園廳の大部と臺北廳の一部

を併せたるものにして、州廳を新竹市に置き州下を一市八郡に分ち、更に八郡を五街三十七庄に區劃したり。即ち八郡とは新竹市及び新竹・中壢・桃園・大溪・竹東・竹南・苗栗・大湖なり。

【新竹市】臺灣新竹州の市都。本州の中央部に在り、新竹州廳の所在地なり。本市は從來臺北・臺中兩市の中間都市として新竹州の中心たるの位置を有するに過ぎざりし、州下各地に埋藏される礦物資源の開發漸くその積に致きし現在、果然近代工業化の趨勢に押されて産業都市の資格次第に高まり、近く大新竹出現の曙光見ゆ。即ち附近より産する石油及び無盡蔵の天然瓦斯により、ガソリン・カーボンブラックの製造、且此等燃料資源の研究機關の施設は新竹市に集中せられ今や本州の石油及び天然瓦斯は非常時燃料國策と關聯して異常なる關心を聚めつつあり。昭和十二年州に設けられたる資源開發調査會に於て、鋭意立案研究に従事し、前述の燃料資源に加ふるに磁砂・石灰石・鐵・金・ジュロン等の工業資源を有し、更に附近に埋藏、量數僅微と稱される石炭あれば、その前途は實に洋々たるものあり。現に新竹市東郊に磁砂を原料とし天然瓦斯を燃料とする大規模なる硝子製造工場、其他鐵安裝造工場・石灰工場・合成石油工場等相次いで建設せらるるに及び、從來の農産資源の集中に加へ、此等新興工業製品及び既成工業の製

糖・製油・製茶工業の産業は悉く本市に集積せらるゝを以て、北西僅か六軒の舊港の築港計畫を擱て將來州下産業の輸出移出港たらしむ可く努力中にて、海岸線及び山手鐵道・重要指定道路・産業道路の完成と輸送機關の電化に伴ひ本格的發展を期待する。農産は米一〇七萬圓、蔬菜一〇萬圓、甘蔗一三萬圓、甘藷六萬圓、茶一萬圓等にして、工産は砂糖の九七萬圓を始め、煉瓦及び瓦の九萬圓、通草紙二二萬圓、帽子七萬圓、白粉三萬圓、製麵七萬圓、木製品一四萬圓等を有し、畜産にては水牛・黄牛・養種牛等一、〇六三頭、鶏・鵝・鴨等五九・一七四羽にて、此間各種産業組合十組を以て發展を促進し、市内四ヶ所の消費市場及び魚菜・家畜市場を以て一般消費者及び卸商に日用品の供給を行ひ、消費市場の賣上約六萬圓、魚菜市場は二〇萬圓、家畜市場は四六萬圓に達す。本市は清領當時に於て竹塹社(チクツアム)なる平埔蕃の居住地たり、明治二十一年竹塹社の鄭氏に叙し討伐を受くるや、閩人王世傑、此間鄭氏の運働に功あり、竹塹の荒蕪を開拓するを許されしを漢人進入の最初とせらるるも此は康熙四十年代以後の事なるべし康熙三十年より四十年代に新竹附近の地に往來する者は熟番と交易する通事・社商の外には兵員及び護衛を附したる旅客のみにして、王世傑は竹塹社番より土地を割きしめし後、泉州移民數百人を率ゐ

られ、新竹市に於ては昭和十年本領遺跡地を整理すると共に標木を建てし之を標示す。〔牛埔勢御營地〕新竹神社境内にあり。明治二十八年鄭久親王征臺の際八月八日御營地遊ばされし地。翌二十九年三月記念碑を建て御遺跡を表示し、其保存を計る。昭和八年史蹟に指定さる。〔孔子廟〕市の中央に在り現在正殿を有するのみ。清嘉慶十五年閩粵總督方維甸が臺灣を巡歴するに方生子張黃・郭菁英・王仕俊等捐集して學宮を設立せん事を請ひ、總督は巡臺志願をして調査審議せしめ、道光四年同知吳性誠の時成を告ぐ。同九年同知李慎彝は名官・鄭賢・昭忠・節孝の四祠を増建し、同十一年十七年再度の捐造を以て廟宇二六アール地基六七アールを以て牲所・圍墻等を完成す。〔北郭園〕北門郊外に在り。清咸豐元年當神廟用錫が創築せる別墅にして彼が一代の豪華を傾けし名園にて、林泉の粹、亭榭の奇を極め、林古梅の滑園と並び稱せられたるが、現在荒蕪甚し。傍に徑一、二米深さ約〇・九米の「井井泉」と名づくる井あり、清水滾々として湧き成豐乙効効力と稱す。〔城隍廟〕北門町に在り、乾隆十二年淡水廳同知曾日瑛の建造に係り、同五十七年同知資業義これを重修し、嘉慶四年同知清華は後殿を捐造し觀音佛龕を祀る。其後數次の改修を経て大正十三年經費約十六萬三千圓を以て起工し完成す。二月十七日、七月十五

日、八月十五日、十一月二十九日を例祭日とし、七月十五日は最も盛大なる祭典日とす。〔關帝廟〕南門町に在り、中央に關羽・左旁に關平、右旁に周倉の神位を安置す。乾隆四十一年同知王右爵の主唱によりて建造し、同治十年紳民捐修し右側に馬軍廟を建て左側に觀音佛龕を祀る。領臺の當初、本廟は軍隊の宿舎に充用され、馬軍廟は廢して民家となり、現在本廟のみ一部分道路に削られたるまゝ存す。いま關帝大帝は六月二十四日、關平は五月十三日、周倉は正月十三日を祭典日とす。〔竹蓮寺〕西門郊外に在り。清康熙の末年、竹塹の移民が一小祠を設け觀音佛龕を祀りしに始り、のち葉戸王世傑その租穀及び基地を寄附し乾隆四十六年に莊徳なる者廟宇を創建し竹蓮寺と稱す。〔靈泉寺〕金山面に在り、地名を取りて金山禪寺とも稱し觀音佛龕を祀る。清乾隆五十年鄭・陳・蘇の三姓の者隘防を設けて此地を開拓せし時、小茅を建て佛龕の庇護を乞ひ香蓮庵と稱せるが始めにて、のち咸豐三年廟宇を創建し隘坑の口に清泉あるより靈泉寺と改む。〔新竹城〕清領當時現在の新竹市街地を凡そ城内とする城郭を築きありしも、今は東門に當る遺蹟門を存するのみにして、市區改正の進行と共に悉く撤去せらる。新竹城と稱せるは光緒元年竹塹を新竹と改名せる時以後にして、舊ては竹塹社に因む竹塹城を以て呼ばる。雍正元年淡水

在の市内及び水田・崙子等を開拓し、王世傑は社番との交易を爲し、近郊各地も次第に開墾するに至る。雍正元年淡水廳を新に設けらるるや、同廳の中心地たる竹塹の地は廳治の所在地に至り、同十一年淡水廳同知徐治民は新竹を遺植して城墻となせるは竹塹城建設の始めにして、その區劃は現在の新竹市街の中心部の狭小なる地區なりしが、乾隆初年に及び戸口漸く増加し、竹塹街を形成し、同二十一年、始めて廳署が城内に設置され(現郡役所の位置)漸く現在の市街の範圍に達し、次で嘉慶九年竹塹城の改修全くなり、光緒元年淡水廳を廢して新竹縣設けられるに至りしが此は竹塹の竹字に新の佳字を加へたるものなり。〔新竹神社〕縣社。大國魂令・大己貴命・少彦名命の三柱を一座とし、北白川宮能久親王を一座として崇祀す。境内は松樹鬱蒼として森嚴格なりなく、新竹市を眼下に眺め臨る眺望に富む。(新竹御會所址)西門町二丁目にあり。御會所所に充てられしは紳士林述夫の邸宅滑園にして、其の父古梅、道光年間同知の構構にして、鄭久親王の御使用ありし建物に泉池に臨み二層樓裏吟閣にして、其階上を御寢室に充てせられたり、明治二十八年征臺の際宮殿下には御寢病室設けられ、こゝにて八日間力めて御病癒ありしを以て御病狀漸く輕快を見るに至れり。其遺址は今故住宅遺蹟となりし、昭和八年史蹟に指定せ

物はイワシ、ツウダカツア、フカ、その他合して九六、七〇〇圓にして此に水産美祿のカキ、ボラ、レンヒイ其他にて二三、九八〇圓とす。その他魚干、鱈、鱈海苔等の水産製造は一五、〇〇〇圓にて今後発展の餘地を有す。郡下の交通は縦貫鐵道の通過せざる新堀、關西兩庄を含み各庄を結ぶ延長約一〇〇軒の主要道路に對し自動車運行線は八七軒餘に達し産業交通上に資する所多し。本部の地は清領當時及び我國領臺後大正九年地方制度改正に至る間、舊藩・六家・香山の三庄は竹北一堡に、紅毛・關西・關西の四庄は清領三十四年代より漢人の通事。社商となりて現在の新竹市近傍に在りし竹繁知(テタツアム)なる平埔蕃族と交易を行ふもの多く、同五十年の嶺南福建省州府同安縣の人、王世傑(竹繁港(舊港))より上陸して新竹市近郊の開拓に従事したるは漢人移住の最初にて、此間の事情を察したる清國政府は雍正元年に彰化縣大甲溪以北の淡水水廳の一廳を新設して管轄せしめ、爾後漢人の移住開拓盛んにして、殊に廣東省民の移民を大多數とした時に福建省民も移住を企て、當時竹北一堡及び二堡の紅毛・湖口の兩庄方面全庄に漢族の進入を見たるも、山地に近き關西・新堀兩庄は稍遅れて乾隆の中葉より道光年間には廣東省民を主とする移民はあり、その原因は多くをその隘害を蒙る

による。  
**シンチドー** 眞池洞(眞池洞) 朝鮮總督府鐵道平南線の一驛(明治四十三年設置) 朝鮮平安南道龍岡郡池袋面にあり。

**シンチユー** 神中鐵道(神中鐵道) 私立鐵道。神奈川縣にあり。横浜市神奈川區にある東海道本線横濱驛より保土ヶ谷區を過ぎ都筑郡・鎌倉郡の諸町村を経て高座郡に入り海老名村厚木中新田口驛に通ず。全長二六・四軒。軌間一・〇六七米。省勢と連帶運輸。横濱驛にて社線東京横濱電氣(京濱電氣)に、厚木驛(海老名村)にて社線相模鐵道に接続す。

**シンチョー** 新町(新町) 市。↓市原(東京市) 神通川(神通川) 岐阜縣の飛騨郡より富山平野に下り富山灣に注ぐ。流域として飛騨高地の北部斜面の大部分を包摂す。宮崎より發する宮川は高地盆地を過ぎ谷間に於て小島川を合せ高麗川に合流し神通川となる。高麗川は赤松岳の北の斜面より發し、上流に平湯温泉の谷、下流に船津の谷を持つ。飛騨高地を流下せる神通川は船津以下は富山平野の川として緩傾斜の扇狀地を流下す。流域約一五〇軒。高麗川の谷には越中東街道が蟹寺・船津・杉崎間に通じ、宮川の各には蟹寺・落合・杉崎間に越中宮街道あり、古川・高山間は一線と成りて越中街道と稱す。蟹寺より船津を経て富山に達する間に流中の間に船津

御街道と稱す。富山より高山への交通運輸はこれ等の街道によりて行はる。街道としては越中東街道が主として使はれしが、鐵道開通後は越中西街道の通ずる谷に沿うて延長しつつあり。河川の東岸湖は港にて、富山を経て津津まで川舟が通ずるも、近時は鐵道開通し、富山・津津間の舟運は全く衰微し、富山・東岸湖間のみ利用さる。富山流域の中心は高山、高麗川の流域の中心は船津、神通川流域の中心は富山なり。

**シンテン** 新店 臺灣臺北州文山郡の庄。淡水河の一分流新店溪の東内に跨る。東南隅に大桶山、西端に獅子頭山・竹坑山、南端に加九嶺等隆起として聳え、此等群峯の餘脈・分派管内に重疊して起伏連綿し、新店溪は南部山間に於て北勢・南勢の二派を合し、途中更に多數の小分流を合せつゝ庄の中央部を北流して、終に深坑・中和兩庄の境界をなし、末は淡水河に注ぐ。平地は河溪の流域及び北端の小部分に僅かに展開す。地勢上平野に乏しく、水田少なきも山地は逐年茶園として開發せらる。主要農産物は米・茶・蔬菜類・柑橘類等なるも、全概より見れば米産に乏しく茶葉を以て主産となし、茶葉公司・製茶工場頗る多く、年産額十三萬七千餘圓に達す。茶は所謂文山銘茶として名譽高く、従来烏龍茶・包種茶を主として製せし、近時紅茶の栽培に積極

せられ、頗る紅茶製法の勃興を見、逐年盛況に向はんとする趨勢にあり。礦業としては石炭の探採あるも、産額多からず。水産業としては新店溪に於ける鮎・鱈・鱈等の淡水漁獲物あり、殊に鮎は著名にして新店鮎を以て稱す。林業は管内の山林原野實に田畑總面積の二倍以上に及ぶ廣汎なる地帯を擁し、木材・竹材・薪炭・樟腦等を生産し、大字龜山の山地には九州帝國大學の演習林ありて工業は製茶業及び製糖業を主要なるものとす。なほ新店溪の上流は水力發電に利用せられ、小粗坑・龜山の二發電所あり、扇尺(大字直潭の内の一小巷)は、新店の上流約六軒の所にあり、小聚落に過ぎざるも、清領時代には富方面に於ける蕃地統治上の要地たり。其の附近に峻坂あり、仲文坂といひ、もと後藤民政長官の命名に係る。山地に於ける交通は概ね不便なるを免れざるも、平地は道路備はり、庄の中心地新店は臺北市との間に臺北鐵道株式會社經營の私設鐵道及び大坪林の二驛(何れも大正十年設置)及び郡役所前驛(昭和六年設置)・大坪公學校前・七股の二驛(共に昭和十一年設置)を置く。なほ關陽地方との間に大道開墾工事中なり。本庄の内、龜山・平潭の二大字はもと舊地に屬し、朝鮮の四大字安坑・大坪林・直潭・直潭はもと文山(清領時代には香山)と稱す)に包含せられ、

大字を古語門外野史に引かれ、大正十四年(一九二五年)に於て、國庫陸軍省に於て當りて走り草加町にバスを運じ、西北部にも街道走りて鳩ヶ谷町に至る。  
**【新田】** 省縣委員長の一驛(明治二十九年設置)。京都府久世郡大久保村原野にあり。  
**【新田村】** 大阪府攝津郡三島郡の西南部。豊中市の東に隣り大阪市北境より北へ約四軒の距離にあり。面積五・三七方軒。全村丘陵起伏して南方に臺地狀に緩く傾斜す。南部に僅かに平地あり。西北境には一・二米の烏栗山あり。全村農業を營み米作を行はる。また竹林も所々にありて竹を出す。其他果樹・野菜の産もあり。一小路中央を東西に横斷し東は山田村、西は豊中市に通じ、東南方約四軒餘に省線東海道本線吹田驛あり。村名の示す如く流川べりに沿ふ新田にして、沿革の特記すべきものなし。寛永三年武州代官間宮三郎左衛門の指圖に依り小畑與右衛門なるもの開發せりと傳ふ。  
**【新田】** 朝鮮總督府鐵道北鮮東部線の一驛(大正九年設置)。朝鮮咸鏡北道鍾城郡南山面にあり。  
**シンテンバル** 新田原 省線日豊本線の一驛(明治三十年設置)。福岡縣京都郡津村にあり。  
**シントー** 津東面(津東面) 朝鮮京畿道長湍郡の南東部。東より南は臨津江の下流に沿ひ、江を隔て、津川郡及び坡州郡

は清領時代の遺蹟を有し、北は漢陽府に對し二百里の舟程あり、乾隆の初め頃より開墾せられ、新店の街跡は道光年間には形成せられたり。明治二十八年帝國領臺以來、數次、行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、自治制施行と共に、清領時代より存続し來りし堡は廢せられ、安坑・大坪林・直潭の四大字(もと各々庄と稱せり)と合して新店に新庄となり、其後更に舊地より龜山・平潭の二大字を區域内に編入し、六大字となりて現在に至る。(新店界線) 大字店新にあり。新店溪の一部にして水速緩やかに對峙を演へ、緩慢たる懸崖深淵に臨み、老幹水面に影を映して翠碧に迫り雲霧去來し、文字通り山雲水明、小水聲の稱あり。烏栗臺北より僅に八軒、清遊の野瀆にして、舟遊・水泳・釣魚・キヤムプ・ハイキングに來る者頗る多し。  
**【新店界線】** 臺灣臺北州にある川。臺灣北部の大川、淡水河三大支流の一。上流は更に北勢派・南勢派の二支流に別る。北勢派は關西・基隆郡界の山地に發源し白雲林庄(文山郡)に入り、結寮寮溪・余瓜寮溪を併せ、更に其の西隣石碇庄(文山郡)を經由し、新店庄(文山郡)の東南隅、大桶山北麓に至る。南勢派は遠く中央山脈の山中に發源し、橋板溪その傍無數の大小溪流を合せつゝ、北流して同じく大桶山北麓に至り、北勢派と合流し、新店溪となる。新店溪は新店庄の中央を

シンテ——シント

皇朝開拓して之を北流し河川の北端に於て一堡を築き、深坑の文山郡、中河(海山郡)二庄の間を流過して臺北市水源地附近に至り、漸次西轉し、間もなく再び北に轉じ、萬華(臺北市)の手前にて、淡水河に注ぐ。新店溪の特色とも云ふべきは、此の河に淡水河と殆んど一直線をなし、上流に於て數條の平行山脈を殆んど直角に切斷する峡谷たることなり。從つてその峡谷は幅員狭く、時に舟入メアングをなし、且つ山脈を切る部は險峻なる峡谷をなし、瀾あり瀾あり、また飛瀾ありて上流河川の特色を遺憾なく發揮し兩岸の壁立及び深潭と共に、該溪の奇景として廣く知らる。淡水河志に於ては大崩溪と共に、基隆河を北流と稱するに對し、南流と稱せらる。水深淺きと陸上交通の發達せる關係上、現在に於ては舟運に利用せらるること少きも、夏季は納涼の舟遊に達す。また鮎の名産を以て知られ、溪畔に臨む新店・川崎町(臺北市)の如きは川魚料理を以て有名なり。  
**シンテン** 新田 臺灣臺北州文山郡の庄。淡水河の一分流新店溪の東内に跨る。東南隅に大桶山、西端に獅子頭山・竹坑山、南端に加九嶺等隆起として聳え、此等群峯の餘脈・分派管内に重疊して起伏連綿し、新店溪は南部山間に於て北勢・南勢の二派を合し、途中更に多數の小分流を合せつゝ庄の中央部を北流して、終に深坑・中和兩庄の境界をなし、末は淡水河に注ぐ。平地は河溪の流域及び北端の小部分に僅かに展開す。地勢上平野に乏しく、水田少なきも山地は逐年茶園として開發せらる。主要農産物は米・茶・蔬菜類・柑橘類等なるも、全概より見れば米産に乏しく茶葉を以て主産となし、茶葉公司・製茶工場頗る多く、年産額十三萬七千餘圓に達す。茶は所謂文山銘茶として名譽高く、従来烏龍茶・包種茶を主として製せし、近時紅茶の栽培に積極



シンナ—シンネ

し南境に沿ひて白川西流す。全村耕地とく拓け米・麥を多く産し副産に炭鉱行はる。特産物にはラミー・薺毛・薄荷の産あり。北隣大津町を東西に走る省線豊肥線ありて東北隅をかすめ北方約二軒に肥後大津驛あり。村名内は往時竹迫氏の里、中原部員始めて本郡に下向し、陣屋を設けしより起るといふ。

シンナカサト 新中里嶺山

津南面 朝鮮京城道長淵郡の南端。東より南は臨津江の下流を繞らして坡州郡に對し、西は臨津江の支流砂川を境として開豊郡に隣る。面積四八方軒餘。中部略東西に高さ八〇米内外の丘陵地ありて東西、北に三〇一四〇米の高地ある外は一般に低平にして田畑よく拓け、米を主とし麥・豆類・棉・大麻等の産産豊かなり。熱帯府鐵道京畿本線北部を略東西に走り、西北部の長淵に長淵驛(明治四十一年設置)を置き、驛よりは東北色内里(郡内西)を経て高浪浦・九化にバスの便あり。長淵(東馬里)は郡政の中心にして郡廳・警察署その他の官衙置かる。

シンナン 新南

【新南面】 朝鮮京城道長淵郡の南端。東南は新興郡及び咸州郡に、西南は平安南道寧遠郡に界す。東西二五軒内外、南北一四一四軒の廣大面積を占む。西ゆる蓋馬高峯の一部にて、南境には赴慶嶺山

脈略は東西に連りて五峯(二〇〇四米)・慶峯(一三三四米)・馬峯山(一七四五米)等並え、東北境には五峯につづく北山(二〇七〇米)・三徳峰(一四四九米)となり、西境には嶺林山脈支脈の東白山(二〇九六米)・門嶺山(一八五二米)・徳洞山(一六五三米)南北に連り、以上の山峯はいづれも中央部に向つて比較的緩く傾斜し高度一〇〇〇米内外の高峯をなす。長津江は南境西部に時つ馬峯山の西北谷に發し、始め東流のち北折してこの高峯の中部を北流し所々に卑濕地をつくり中南部に出づ。山地多く土地高く気温低く、農産は粟・燕麥・馬鈴薯・大豆等に過ぎざるも、礦産に富み徳洞・下碓・長生・圍洞・元興・大林・嶺林・西昌・九龍等の諸嶺山ありて金・銀、白山嶺山よりはタンクステン産す。咸興・慈城間の二等道路は南境の黃草嶺(二二〇〇米)を越えて長津江に沿ひ、南北に通ずるも交通は不便なるを免れず。(下碓嶺)礦産は金・銀。本嶺は海抜一、二〇〇米の黃草嶺高原にあり、新興鐵道長津嶺の下碓驛より西三軒。地質は頁岩花崗岩より成り、鐵床はその裂隙を充填せる合金銀石を賦にして、鐵脈の分布極めて多し。鐵石は乳白色石炭脈にして、一般に酸化鐵多きも、少量の黄鐵礦・磁鐵礦・方鉛礦・閃鋳鉛を伴ふことあり。地層は太極山より南下する成層式にて深遠し、礦石は混成岩化法により採掘す。四

シンニ 新尼

【新尼面】 朝鮮忠清北道忠州郡の西部。面積六三方軒餘。南境中部に伽藍山(七〇九米)あり、西北境には車依山(六七九米)ありて北境を東に延び、面の南北二邊はそれらの斜面に山地をなすも、中部には東西に連る低地あり、達川の支流流渡川西部に發して東流し番田嶺を拓く。農産に米・麥・豆類・棉花・煙草等あり。忠州・長淵院間の一等道路中部を横斷し、聯合自動車を通じ交通不便ならず。

シンニシ 新津

【新津面】 朝鮮京城道長淵郡の南端。東南は新興郡及び咸州郡に、西南は平安南道寧遠郡に界す。東西二五軒内外、南北一四一四軒の廣大面積を占む。西ゆる蓋馬高峯の一部にて、南境には赴慶嶺山

シンニシ 新津

【新津面】 朝鮮京城道長淵郡の南端。東南は新興郡及び咸州郡に、西南は平安南道寧遠郡に界す。東西二五軒内外、南北一四一四軒の廣大面積を占む。西ゆる蓋馬高峯の一部にて、南境には赴慶嶺山

シンニユー 新入

【新入炭坑】 福岡縣鞍手郡にある炭礦。筑豊炭坑の中にて我國重要炭山の一。礦區は飯村・古月村・植木村及び遠賀郡中間村に互る。三菱鐵業會社の經營に屬す。地質は下部第三紀夾煤層に屬し砂岩及び頁岩の互層よりなり、主要炭層としては一・五米及び一米の各層を産す。炭層の走向は北七度乃至三七度、西平均一六度、東北に傾斜す。炭質は一坑方面は各層を通し漆黒色の光澤あり、筑豊炭中優良炭に屬するも六坑方面に至るに従ひ品質中位に屬し、何れも不粘結性にして汽機燃料に最適とす。塊炭・粉炭・切炭・粗炭として採掘し、年産約四一萬噸、備夫一〇五人(昭和十年)。

シンニ 新入

【新入】 福岡縣直方市の町名。もと新入村と云ひ鞍手郡の村なりしが大正十五年直方町に編入、昭和六年直方町が市制を布くに及び其町名とす。省線豊本線の貨物驛新入驛(明治三十年設置)あり。

シンネー 新平

【新平面】 朝鮮平安南道龍岡郡の南端。大同江口の北岸に臨み、東は嶺南浦府との間に大代面を挟み、西は食城面との間に廣梁河を挟む。南部に煙臺山(二二五米)・靈雨山(二三九米)等の丘陵西北より東南に緩き、東北境には牛山(國無嶺)西南側の山地あるも中部は概々平坦にして所々に番田拓けて米を産し、西邊の廣梁河岸には番田ありて水日製糖行はる。

シンネ—シンハ

【新南面】 朝鮮京城道長淵郡の南端。東南は新興郡及び咸州郡に、西南は平安南道寧遠郡に界す。東西二五軒内外、南北一四一四軒の廣大面積を占む。西ゆる蓋馬高峯の一部にて、南境には赴慶嶺山

シンバ 陣場

【陣場面】 省線豊本線の一驛(明治三十四年設置)。秋田縣北秋田郡矢立村にあり。

シンバク 新幕

【新幕】 朝鮮京城道京畿本線の一驛(明治四十一年設置)。朝鮮黃海道瑞興郡不周面にあり。

シンバシ 新橋

【新橋】 東京市芝區汐留川に架する橋の名。のち漸次橋を中心とせし一帶の地を新橋と稱するに至る。即ち

シンネー 新平

【新平面】 朝鮮京城道長淵郡の南端。東南は新興郡及び咸州郡に、西南は平安南道寧遠郡に界す。東西二五軒内外、南北一四一四軒の廣大面積を占む。西ゆる蓋馬高峯の一部にて、南境には赴慶嶺山

シンハ 新濱

【新濱】 兵庫縣赤穂郡にありし村。昭和十二年赤穂町に編入す。

シンハカイ 新阪堺電鐵

【新阪堺電鐵】 大阪府西部にあり。大阪市の中央

シンハ 新濱

【新濱】 兵庫縣赤穂郡にありし村。昭和十二年赤穂町に編入す。

シンハカイ 新阪堺電鐵

【新阪堺電鐵】 大阪府西部にあり。大阪市の中央

シンハ 新濱

【新濱】 兵庫縣赤穂郡にありし村。昭和十二年赤穂町に編入す。

シンハカイ 新阪堺電鐵

【新阪堺電鐵】 大阪府西部にあり。大阪市の中央

シンハ 新濱

【新濱】 兵庫縣赤穂郡にありし村。昭和十二年赤穂町に編入す。

シンハカイ 新阪堺電鐵

【新阪堺電鐵】 大阪府西部にあり。大阪市の中央



シンハ——シンフ

部。浪花區内の蘆原橋より起り、大阪...

シンパン 眞番(郡)

漢の朝鮮四郡の一。漢武帝が元封三年(西...

シンパン 新盤港

中山北斗郡

シンパントイ 新磐梯

新磐梯

シンビ 新埤庄

新埤庄

シンハ

の庄。潮洲街の南に位し、東部は善地に...

シンフ

三姉妹にして武名高く、高麗十年に至り...

シンフー 眞風面

朝鮮黄海道

シンフジ 新富士

北海道釧路市の

シンフロ 新武呂

臺灣臺東廳關山郡の舊社。

シンヘー 新平

臺灣臺東廳里壠里

シンヒラノ

義勇軍を編成し、官軍に大に力を併せ之...

シンヒラツネ 新平恒

省線上山田

シンヒラノ 新平野

省線小濱線の

シンフ 新府面

朝鮮平安北道宣川郡

シンフ 仁武庄

臺灣高雄州鳳山

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ 新保村

富山縣越前中上郡新保村の西部。

シンフ——シンホ

部。浪花區内の蘆原橋より起り、大阪...

シンフ

三姉妹にして武名高く、高麗十年に至り...

り。四月十六日例祭を執行す。

【新保】省線北陸本線の驛（大正五年設  
置）。福井縣敦賀郡東郷村にあり。驛の東  
北三・三軒に新保集落あり。

シンホー 新埔

【新埔庄】臺灣新竹州新竹郡の東北部。  
蕃地馬武營より發する風山溪及び其の分  
流は庄の西南部を東西に貫流し、之に沿  
ひたる地は稍平坦なるも、溪の兩岸たる  
南及び北の一帯は丘陵地をなす。土地概  
ね肥沃にして、平地は水利の便に恵まれ、  
米作に適し、山地は、緩傾斜地多く、茶  
樹・果樹（主として蜜柑）の栽培に好適な  
り。大半新埔の市街はもと新埔新街に  
次いで新埔支廳の所在地となり、古來富  
地方一帯の物産集散地たり。商店街を並  
べ、市況活潑にして地方経済の中樞を爲  
す。住民の大部分は廣東族にして、新埔  
市街地在住者を除く外は殆んど農業に従  
事し、純農村部落を形成す。米・茶・柑橘  
類・蔬菜等を主要農産物とし、特に本局  
に於ける柑橘の一名産地にして、所謂新  
埔蜜柑として其の名聲内外に喧傳せられ  
果粒大きく風味絶佳、中部の員林蜜柑と  
並び稱せらる。其の栽培起原古く、約百  
二三十年前、即ち嘉慶年間鹿鳴坑の楊林  
顯なる者、廣東の惠州府陸豐より移植し  
たるに始まるといふ。現に年産約二十萬  
圓に達す。茶も亦柑橘に次ぐ重要産物に  
して、年産十餘萬圓に上り、從來烏龍茶  
として名を知られしが、近年紅茶の製造

に成功し、販路も内、鮮・滿・支及び遠

くは歐米各地に及び、好評噴々たり。茶  
葉關係の團體として茶業改良會・茶業組  
合を有す。農業に依る年生産額百餘萬圓  
に及ぶ。畜産も亦重要産業の一にして畜  
牛・豚・肉豚・仔豚・山羊・鶏その他の  
家禽あり。殊に豚及び鶏を主要なるもの  
とし、當局の指導獎勵により殆んど副業  
の域を脱せしやの觀を呈し、年生産額莫  
大なり。林業は山林面積大なるも有用材  
に乏しき爲め、廣葉杉及び混合林の造林  
實施中にして、現在は主として相思樹林  
なり。林産物は薪炭・用材・竹・竹筴等  
にして、木炭も亦重要産物の一たるを失  
はず、年生産額約六萬圓なり。商業は新  
埔市街を中心とし、諸物資の集散地にし  
て甚だ活潑を呈す。工業は茶の製造を首  
位とし、製糖精米の外、糠・瓦・木製  
品等の製造あり。交通方面に於ては風山  
溪を始めとし、管内に數多の河川溪流あ  
り。加ふるに土地の大半丘陵地帯に屬す  
るを以て、道路・橋梁の整備を期するこ  
と頗る困難なる情態にありしも、近年そ  
の擴張又は新開墾並びに橋梁の架設に最  
善の努力を拂ひたる結果、ほぼ完成を見、  
全く面目を一新するに至る。殊に新埔大  
橋（昭和四年竣工、工費十一萬圓）は橋梁  
中の代表的なるものにして、之が交通上  
に實らせる利便頗る大なるものあり。な  
ほ北埔橋梅庄との間には道路開設せられ  
橋高三・五〇米の山腹を横断行す。臺

竹地方より進みて開きしものに係る。明

治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變  
遷を経て大正九年十月に至り、自治制施  
行と共に、清領時代より存続し來りし堡  
は撤廢せられ、十八大字（もと各々庄と  
稱せり）一括せられ新に新埔庄となり。現  
在に至る。「義民廟」大字枋寮にあり。  
一名袁忠孝と稱し、主神として義民を祀  
る。乾隆五十一年中南部に林爽文の反亂  
あり。官軍敵する能はず。この時廣東人  
義憤して義民軍を組織し、官軍を援助す。  
同五十三年林爽文等その忠誠に感し、職  
死せる二百余名の忠骨を拾ひ、此の地に  
塚を立て、洽く民衆を募り廟宇を建立す。  
其後咸豐九年義民の亂に同じく義を立  
て、死せる忠魂を更に合祀す。明治二十  
八年改設の際、兵火に罹り、祠祀共に廢  
絶せしが同三十二年十月再建す。州下廣  
東人の信仰の中心を爲し、毎年舊曆七月  
二十日中元の祭典には信者雲集し、盛大  
を極む。「新埔遊園地」庄役場の裏にあ  
り。大正十四年の建設に保り山容清絶に  
して眺望絶佳なり。殊に夏季は納涼地と  
して好適なり。

【新埔】臺灣總督府鐵道支線（海岸線）  
の一驛（大正十一年設置）。臺灣新竹州苗  
栗郡新埔にあり。

シンホー 新浦邑

朝鮮咸鏡南道北青郡

の南部。南は日本海に臨み、前面に馬梁  
島を横す。東北境上に覆蓋山（五四一米）  
ありて南方海岸に向つて傾斜す。南岸と

シンホー 新豐面

朝鮮平安北  
道熙川郡の東部。清川江の上流地にて北  
より東北は江界郡に、東南及び南は平安  
南道寧邊郡に界す。東西二〇軒内外、南  
北約三〇軒の廣地帯を占む。狼林山脈東  
境に連り石立山（一七三米）・地魚水山  
（二〇一八米）・狼林山（二〇一四米）を起  
し、妙香山脈は南境を西に延びて水在嶺  
山・天上嶺となり、秋山脈の支脈北西境  
を走りて香草嶺山（一五七八米）・蔚山  
（一一八二米）等となり、西内東部にも概  
峯・破明山・我里山等ありて殆ど山地を  
なす。清川江は北部に發源して西南に流  
れ、東部より南支を合せ峽谷を刻み  
て西隣長淵河に出づ。其川筋に幅狭き低  
地發達して耕地をなし大豆・粟・稗・麥  
を産し、豊富・熙豐の二鐵山ありて金・  
銀を出す。熙川より江界郡雲松洞に至る  
道路清川江に沿ひて通ずるも交通なほ便  
ならず。「新豐溫泉」南洞にあり。溫度  
四八度、湧出量多く、四邊風景に富み、  
特に夏季の好遊勝地たり。

シンホー

シンホー

シンホー 新茅面

朝鮮咸鏡南  
道安邊郡の東部。東は江原道通川郡に、  
南は淮陽郡に界す。東西一六軒内外、南  
北一三・一五軒、面積約二一三方軒。太  
白山脈の北部に當り、東境には黃龍山  
（二六八米）の山嶺南方に連り、西境に  
も高度四〇〇一五〇〇米級の山地、南境  
には將帥峰（九七一米）の山嶺東方につい  
き内また山地重疊す。南大川の支流東

シンホー 進鳳山

朝鮮京畿道開豐郡の東南部。  
【進鳳山】朝鮮京畿道開豐郡の東南部。  
は長淵郡と臨津江の支流砂川を挾む。西  
部に進鳳山（三二〇米）の風南北に連り、  
東南部に進物山（二八八米）あり、その北  
に一〇〇米内外の高度を有する丘阜東西  
に走るもその他は概ね平坦にして、進鳳  
山地の東に南北に狭長の平地、東北部と  
東南部には臨津江の支流砂川の氾濫原に  
當る平地あり、共に田畑よく拓く。農産  
に米・麥・豆類・棉等あり。面邑風東里

シンホー 眞寶面

朝鮮慶尙北  
道青松郡の北端。地西北より東南に延び、  
面積約一〇九方軒。南境中部に飛鳳山（六  
七七一米）ある外、四境みな高さ四〇〇一  
五〇〇米程度の山地を繞らすも、北端英  
陽郡立巖面より来る洛東江の支流半邊川  
中部の低地を曲流蛇行して西南境より吉  
安面に出で、これに沿ふ中部の低地には  
米・麥・大豆を産し、また麻布・綿布を  
出す。面邑眞寶洞は中部の平地に位し、  
南は青松、東は盈徳、西は安東方面へ二  
等道路を通じ、自動車も往來ありて交通  
便利なり。

シンホー 新鳳山

朝鮮京畿道京畿本橋の一驛（大正十五年  
設置）。朝鮮黄海道鳳山郡文井面にあり。  
【シンホーチョー】 神保町  
東京市神田區の西部の町名。表神保町・  
裏神保町・南神保町に分る。住時小川町  
の大字にして、神保某の邸ありしに因り  
神保小路と稱せり。いま書橋商軒を並  
べ書橋街として名あり。御府内備考「神  
保小路、土屋但馬守屋敷前より飯田町の

シンホー

江前（西北部）は鳳山の西北側に位し、  
鐵道京義本線鳳山驛（大正十二年設置）あ  
り、西北開城驛は七・八軒を隔つるの  
みなるも交通なほ便ならず。  
【進鳳面】朝鮮全羅北道金堤郡の西部。  
東隣萬頃面・聖徳面の西方に半島をなし  
て突出すること約一軒、南は東津江口  
の干潟地を隔て、扶安郡東津面を望み、  
北は萬頃江口の泥海を挟みて沃海郡會福  
面に相對し、面積約四五平方軒。東境に  
高さ二〇〇米程度の台地南北に横き、其間  
に峽谷帯をはじめ花山堤・柳源堤等の用  
水池を擁し、半島北端部の北端には所々  
に高さ六〇一七〇米の丘阜あり、最尖端  
部には烽火山（八二米）あり、それらを除  
けは至る所土地低平にて田畑よく拓け、  
殊に南岸の干潟地は近年東津農業會社に  
よる干拓事業完成して新田一九三八町歩  
餘を加へ、東津江の水により灌漑せら  
れ、米の産量多く、また麥・大豆・棉花等  
を出す。東部の加賀里に面事務所あり。

シンホー——シンホ

方へ通ずる小路なり。此小路に昔神保某が屋敷在りしゆへの呼名なりしと云。今たまたま此往來に神保修理屋敷あるを以て、地名の起りといへるは誤なり。修理屋敷は近年に賜はりしといふ。

シンホク 新北

【新北西】朝鮮江原道春川郡の中央北部。略地形をなし、西南は北漢江に、東南はその支流昭陽江によりて限られ、面積約七〇方軒。東北境上に雲山(七八五米)、馬蹟山(六二〇米)あり、西北境には水利山の嶺連り、面の北部・東北は山地なるも、その他は北漢江と昭陽江に挟まれる平地にして耕地よく拓け、米、麥、豆類、棉等の農産物からず、華蜜、畜牛また行はれ、新北嶺山ありて金、銀を出す。春川邑より北、二道道路の一は、北漢江に沿って華川方面に、他は昭陽江岸を隔りて鴨口方面に向ひ何れもバスを通ず。面の南部牛頭山には城壁の趾を存し、附近は美善鳴尊の御遺蹟戸茂梨の町と傳へられ、また東部の柳浦里茂枝洞に銅城址とよばる、遺蹟あり。

【新北南】朝鮮江原道高城郡の西北部。北東は日本海に臨む。世界的名山と稱せらるる金剛山の一部分に當り、西境に崑崙峰、玉女峰、三峰山等南北に連り觀音連峯その他の支脈東方に派出し、豪壯雄大なる山岳美・溪谷美を呈する外金剛の地城を占む。漢水東流して神漢川となり高城面に至りて日本海に注ぐ。山地多かつた

シンボ 新北

だ神漢川筋と海岸には小低地ありて農業行はれ、千佛水筋重石嶺山より水筋・タンダステンを産す。北岸に長筒港の灣入あり北西岸に長筒の漁港あり。近海は鯨・鯨の好漁場あり。鐵道東海北部線金剛山の外側をほぼ南北に通じ、長筒・外金剛の二驛(昭和七年設置)を設け、また元山よりの二道道路これと並行し、美珍里(外金剛驛所在地)より金剛山を横きりて宋里への三等道路を設け、交通不便ならず。長筒は人口約七千三百、沿岸航路の寄港地にして、また江原道漁業組合聯合會・長筒漁業組合・漁民訓練所・金融組合・小學校等あり。その南五軒に温井里温泉あり、新羅時代より盛産を極めたる鹽類泉にして、無色透明無臭、胃腸病・皮膚病に特效あり。鐵道局直營のホテルあり、外金剛驛は多く此地を基點となす。神漢川に臨める神漢寺は新羅法興王六年(一一八二年)説書律師の創建にして、當時の建造に係る三重石塔(高さ約四米)存し、大雄寶殿(李朝末期)は結構壯麗なり。東部、高城邑に近く三日浦の驛あり。金剛山・三日浦

【新北南】朝鮮京畿道楊州郡の略中央部。郡邑郡西面の北に接す。地略方形をなし、東西・南北各々八軒内外あり。西境には南部にある國範峯(七六四米)の山嶺北方に連り、西南隅に峙つ旺方山(七三三米)の山肢は西南境より面の中部を東北に延びて一〇〇米内外の丘地となり、東境に

も高さ二〇〇米の丘陵性山脈南北に横き、面内に東西の二低地をつくる。漢江の支流水平川その東部低地を東北に貫きて水の中に出で、その支流は旺方山北面に發し西部の低地を北流して着水面に出づ。農を主とし米・麥・豆類・棉・蔬菜等を産す。京城・元山間の街道水平川の谷を通じバスの便あり。

シンボ 新北

【新北西】朝鮮全羅南道靈巖郡の北部。東北部は北方に延びて羅州郡の細枝、旺谷・潘南三面に圍まる。面積約四四方軒。東南隅に白龍山(四一八米)あり、西南部東北部にも一〇〇・二〇〇米の丘陵あり、其間に低地ありて中部の平地に連り、農産に米・麥・豆類、棉花を出し美羅も行はる。靈巖・羅州間の二道道路南北に通じ、湖南本線梁山浦驛へは北方約一二軒あるも交通不便ならず。

【新北南】朝鮮京畿道楊州郡の略中央部。郡邑郡西面の北に接す。地略方形をなし、東西・南北各々八軒内外あり。西境には南部にある國範峯(七六四米)の山嶺北方に連り、西南隅に峙つ旺方山(七三三米)の山肢は西南境より面の中部を東北に延びて一〇〇米内外の丘地となり、東境に

【新北西】朝鮮全羅南道靈巖郡の北部。東北部は北方に延びて羅州郡の細枝、旺谷・潘南三面に圍まる。面積約四四方軒。東南隅に白龍山(四一八米)あり、西南部東北部にも一〇〇・二〇〇米の丘陵あり、其間に低地ありて中部の平地に連り、農産に米・麥・豆類、棉花を出し美羅も行はる。靈巖・羅州間の二道道路南北に通じ、湖南本線梁山浦驛へは北方約一二軒あるも交通不便ならず。

シンボ 新北

【新北西】朝鮮全羅南道靈巖郡の北部。東北部は北方に延びて羅州郡の細枝、旺谷・潘南三面に圍まる。面積約四四方軒。東南隅に白龍山(四一八米)あり、西南部東北部にも一〇〇・二〇〇米の丘陵あり、其間に低地ありて中部の平地に連り、農産に米・麥・豆類、棉花を出し美羅も行はる。靈巖・羅州間の二道道路南北に通じ、湖南本線梁山浦驛へは北方約一二軒あるも交通不便ならず。

【新北南】朝鮮京畿道楊州郡の略中央部。郡邑郡西面の北に接す。地略方形をなし、東西・南北各々八軒内外あり。西境には南部にある國範峯(七六四米)の山嶺北方に連り、西南隅に峙つ旺方山(七三三米)の山肢は西南境より面の中部を東北に延びて一〇〇米内外の丘地となり、東境に

【新北西】朝鮮全羅南道靈巖郡の北部。東北部は北方に延びて羅州郡の細枝、旺谷・潘南三面に圍まる。面積約四四方軒。東南隅に白龍山(四一八米)あり、西南部東北部にも一〇〇・二〇〇米の丘陵あり、其間に低地ありて中部の平地に連り、農産に米・麥・豆類、棉花を出し美羅も行はる。靈巖・羅州間の二道道路南北に通じ、湖南本線梁山浦驛へは北方約一二軒あるも交通不便ならず。

シンボ 新北

守等の知行所入り交り、のち野々山、豊浦部二氏の地は幕領となり、其内を伏見金太郎・石丸五左衛門の先祖に賜はり、餘は幕領なりしが享保十七年黒田豊前守に賜はり、残り幕領は文化九年、田中主計・鈴木頼母に賜はり、以上七名の所領入り交れり。大宇忍保は賀茂村の大字金窟の内なりしが、のち分村す。藤島郷に屬す。分村以前は川窪氏の知行所にて、のち谷邊泰安・作道興・黒田豊前守の三氏の知行所たりし。大宇八町河原は徳川氏關東入國の後、小笠原掃部大夫信嶺に賜はり、その後慶長十七年の頃は幕領となりしが、寛永十年高城清右衛門・松平大隅守に分ち與へ、残り幕領は正保年中に諏訪若狭守に賜へり。寛文五年、大隅守の知行所は幕領として元禄十一年に諏訪、若狭に賜ひ、のち續いて高城、諏訪二氏の知行所たり。池上郷社(今城野坂稲實池上神社)大字忍保に傳傳。縣社。祭神、伊吹戸主命。和銅年間の創建と云ふ。延喜式には武藏國四十四郡の一に列せられ、美奈寺これが別當たり。元弘年間に新田義貞、大永年間に齋藤盛光社殿を修營せるも、天正年中神漢川の戦に炎上し同年川窪信俊再建す。その子孫武田信貞は元禄年中に丹州に移り社運傾く。例祭、九月二十九日。

シンボ 新北

【新北西】朝鮮全羅南道靈巖郡の北部。東北部は北方に延びて羅州郡の細枝、旺谷・潘南三面に圍まる。面積約四四方軒。東南隅に白龍山(四一八米)あり、西南部東北部にも一〇〇・二〇〇米の丘陵あり、其間に低地ありて中部の平地に連り、農産に米・麥・豆類、棉花を出し美羅も行はる。靈巖・羅州間の二道道路南北に通じ、湖南本線梁山浦驛へは北方約一二軒あるも交通不便ならず。

シンボ 新北

【新北南】朝鮮京畿道楊州郡の略中央部。郡邑郡西面の北に接す。地略方形をなし、東西・南北各々八軒内外あり。西境には南部にある國範峯(七六四米)の山嶺北方に連り、西南隅に峙つ旺方山(七三三米)の山肢は西南境より面の中部を東北に延びて一〇〇米内外の丘地となり、東境に

シンボ 新北

守等の知行所入り交り、のち野々山、豊浦部二氏の地は幕領となり、其内を伏見金太郎・石丸五左衛門の先祖に賜はり、餘は幕領なりしが享保十七年黒田豊前守に賜はり、残り幕領は文化九年、田中主計・鈴木頼母に賜はり、以上七名の所領入り交れり。大宇忍保は賀茂村の大字金窟の内なりしが、のち分村す。藤島郷に屬す。分村以前は川窪氏の知行所にて、のち谷邊泰安・作道興・黒田豊前守の三氏の知行所たりし。大宇八町河原は徳川氏關東入國の後、小笠原掃部大夫信嶺に賜はり、その後慶長十七年の頃は幕領となりしが、寛永十年高城清右衛門・松平大隅守に分ち與へ、残り幕領は正保年中に諏訪若狭守に賜へり。寛文五年、大隅守の知行所は幕領として元禄十一年に諏訪、若狭に賜ひ、のち續いて高城、諏訪二氏の知行所たり。池上郷社(今城野坂稲實池上神社)大字忍保に傳傳。縣社。祭神、伊吹戸主命。和銅年間の創建と云ふ。延喜式には武藏國四十四郡の一に列せられ、美奈寺これが別當たり。元弘年間に新田義貞、大永年間に齋藤盛光社殿を修營せるも、天正年中神漢川の戦に炎上し同年川窪信俊再建す。その子孫武田信貞は元禄年中に丹州に移り社運傾く。例祭、九月二十九日。

シンボ 新北

【新北西】朝鮮全羅南道靈巖郡の北部。東北部は北方に延びて羅州郡の細枝、旺谷・潘南三面に圍まる。面積約四四方軒。東南隅に白龍山(四一八米)あり、西南部東北部にも一〇〇・二〇〇米の丘陵あり、其間に低地ありて中部の平地に連り、農産に米・麥・豆類、棉花を出し美羅も行はる。靈巖・羅州間の二道道路南北に通じ、湖南本線梁山浦驛へは北方約一二軒あるも交通不便ならず。

シンボ 新北

【新北南】朝鮮京畿道楊州郡の略中央部。郡邑郡西面の北に接す。地略方形をなし、東西・南北各々八軒内外あり。西境には南部にある國範峯(七六四米)の山嶺北方に連り、西南隅に峙つ旺方山(七三三米)の山肢は西南境より面の中部を東北に延びて一〇〇米内外の丘地となり、東境に

シンボ 新北

守等の知行所入り交り、のち野々山、豊浦部二氏の地は幕領となり、其内を伏見金太郎・石丸五左衛門の先祖に賜はり、餘は幕領なりしが享保十七年黒田豊前守に賜はり、残り幕領は文化九年、田中主計・鈴木頼母に賜はり、以上七名の所領入り交れり。大宇忍保は賀茂村の大字金窟の内なりしが、のち分村す。藤島郷に屬す。分村以前は川窪氏の知行所にて、のち谷邊泰安・作道興・黒田豊前守の三氏の知行所たりし。大宇八町河原は徳川氏關東入國の後、小笠原掃部大夫信嶺に賜はり、その後慶長十七年の頃は幕領となりしが、寛永十年高城清右衛門・松平大隅守に分ち與へ、残り幕領は正保年中に諏訪若狭守に賜へり。寛文五年、大隅守の知行所は幕領として元禄十一年に諏訪、若狭に賜ひ、のち續いて高城、諏訪二氏の知行所たり。池上郷社(今城野坂稲實池上神社)大字忍保に傳傳。縣社。祭神、伊吹戸主命。和銅年間の創建と云ふ。延喜式には武藏國四十四郡の一に列せられ、美奈寺これが別當たり。元弘年間に新田義貞、大永年間に齋藤盛光社殿を修營せるも、天正年中神漢川の戦に炎上し同年川窪信俊再建す。その子孫武田信貞は元禄年中に丹州に移り社運傾く。例祭、九月二十九日。

シンボ 新北

【新北西】朝鮮全羅南道靈巖郡の北部。東北部は北方に延びて羅州郡の細枝、旺谷・潘南三面に圍まる。面積約四四方軒。東南隅に白龍山(四一八米)あり、西南部東北部にも一〇〇・二〇〇米の丘陵あり、其間に低地ありて中部の平地に連り、農産に米・麥・豆類、棉花を出し美羅も行はる。靈巖・羅州間の二道道路南北に通じ、湖南本線梁山浦驛へは北方約一二軒あるも交通不便ならず。

シンボ 新北

【新北南】朝鮮京畿道楊州郡の略中央部。郡邑郡西面の北に接す。地略方形をなし、東西・南北各々八軒内外あり。西境には南部にある國範峯(七六四米)の山嶺北方に連り、西南隅に峙つ旺方山(七三三米)の山肢は西南境より面の中部を東北に延びて一〇〇米内外の丘地となり、東境に

シンボ 新北

守等の知行所入り交り、のち野々山、豊浦部二氏の地は幕領となり、其内を伏見金太郎・石丸五左衛門の先祖に賜はり、餘は幕領なりしが享保十七年黒田豊前守に賜はり、残り幕領は文化九年、田中主計・鈴木頼母に賜はり、以上七名の所領入り交れり。大宇忍保は賀茂村の大字金窟の内なりしが、のち分村す。藤島郷に屬す。分村以前は川窪氏の知行所にて、のち谷邊泰安・作道興・黒田豊前守の三氏の知行所たりし。大宇八町河原は徳川氏關東入國の後、小笠原掃部大夫信嶺に賜はり、その後慶長十七年の頃は幕領となりしが、寛永十年高城清右衛門・松平大隅守に分ち與へ、残り幕領は正保年中に諏訪若狭守に賜へり。寛文五年、大隅守の知行所は幕領として元禄十一年に諏訪、若狭に賜ひ、のち續いて高城、諏訪二氏の知行所たり。池上郷社(今城野坂稲實池上神社)大字忍保に傳傳。縣社。祭神、伊吹戸主命。和銅年間の創建と云ふ。延喜式には武藏國四十四郡の一に列せられ、美奈寺これが別當たり。元弘年間に新田義貞、大永年間に齋藤盛光社殿を修營せるも、天正年中神漢川の戦に炎上し同年川窪信俊再建す。その子孫武田信貞は元禄年中に丹州に移り社運傾く。例祭、九月二十九日。

シンボ 新北

【新北西】朝鮮全羅南道靈巖郡の北部。東北部は北方に延びて羅州郡の細枝、旺谷・潘南三面に圍まる。面積約四四方軒。東南隅に白龍山(四一八米)あり、西南部東北部にも一〇〇・二〇〇米の丘陵あり、其間に低地ありて中部の平地に連り、農産に米・麥・豆類、棉花を出し美羅も行はる。靈巖・羅州間の二道道路南北に通じ、湖南本線梁山浦驛へは北方約一二軒あるも交通不便ならず。

シンボ 新北

【新北南】朝鮮京畿道楊州郡の略中央部。郡邑郡西面の北に接す。地略方形をなし、東西・南北各々八軒内外あり。西境には南部にある國範峯(七六四米)の山嶺北方に連り、西南隅に峙つ旺方山(七三三米)の山肢は西南境より面の中部を東北に延びて一〇〇米内外の丘地となり、東境に

シンボ 新北

守等の知行所入り交り、のち野々山、豊浦部二氏の地は幕領となり、其内を伏見金太郎・石丸五左衛門の先祖に賜はり、餘は幕領なりしが享保十七年黒田豊前守に賜はり、残り幕領は文化九年、田中主計・鈴木頼母に賜はり、以上七名の所領入り交れり。大宇忍保は賀茂村の大字金窟の内なりしが、のち分村す。藤島郷に屬す。分村以前は川窪氏の知行所にて、のち谷邊泰安・作道興・黒田豊前守の三氏の知行所たりし。大宇八町河原は徳川氏關東入國の後、小笠原掃部大夫信嶺に賜はり、その後慶長十七年の頃は幕領となりしが、寛永十年高城清右衛門・松平大隅守に分ち與へ、残り幕領は正保年中に諏訪若狭守に賜へり。寛文五年、大隅守の知行所は幕領として元禄十一年に諏訪、若狭に賜ひ、のち續いて高城、諏訪二氏の知行所たり。池上郷社(今城野坂稲實池上神社)大字忍保に傳傳。縣社。祭神、伊吹戸主命。和銅年間の創建と云ふ。延喜式には武藏國四十四郡の一に列せられ、美奈寺これが別當たり。元弘年間に新田義貞、大永年間に齋藤盛光社殿を修營せるも、天正年中神漢川の戦に炎上し同年川窪信俊再建す。その子孫武田信貞は元禄年中に丹州に移り社運傾く。例祭、九月二十九日。

シンボ 新北

【新北西】朝鮮全羅南道靈巖郡の北部。東北部は北方に延びて羅州郡の細枝、旺谷・潘南三面に圍まる。面積約四四方軒。東南隅に白龍山(四一八米)あり、西南部東北部にも一〇〇・二〇〇米の丘陵あり、其間に低地ありて中部の平地に連り、農産に米・麥・豆類、棉花を出し美羅も行はる。靈巖・羅州間の二道道路南北に通じ、湖南本線梁山浦驛へは北方約一二軒あるも交通不便ならず。

シンボ 新北

【新北南】朝鮮京畿道楊州郡の略中央部。郡邑郡西面の北に接す。地略方形をなし、東西・南北各々八軒内外あり。西境には南部にある國範峯(七六四米)の山嶺北方に連り、西南隅に峙つ旺方山(七三三米)の山肢は西南境より面の中部を東北に延びて一〇〇米内外の丘地となり、東境に

シンボ 新北

【新北西】朝鮮全羅南道靈巖郡の北部。東北部は北方に延びて羅州郡の細枝、旺谷・潘南三面に圍まる。面積約四四方軒。東南隅に白龍山(四一八米)あり、西南部東北部にも一〇〇・二〇〇米の丘陵あり、其間に低地ありて中部の平地に連り、農産に米・麥・豆類、棉花を出し美羅も行はる。靈巖・羅州間の二道道路南北に通じ、湖南本線梁山浦驛へは北方約一二軒あるも交通不便ならず。

シンボ 新北

【新北南】朝鮮京畿道楊州郡の略中央部。郡邑郡西面の北に接す。地略方形をなし、東西・南北各々八軒内外あり。西境には南部にある國範峯(七六四米)の山嶺北方に連り、西南隅に峙つ旺方山(七三三米)の山肢は西南境より面の中部を東北に延びて一〇〇米内外の丘地となり、東境に

シンボ 新北

【新北西】朝鮮全羅南道靈巖郡の北部。東北部は北方に延びて羅州郡の細枝、旺谷・潘南三面に圍まる。面積約四四方軒。東南隅に白龍山(四一八米)あり、西南部東北部にも一〇〇・二〇〇米の丘陵あり、其間に低地ありて中部の平地に連り、農産に米・麥・豆類、棉花を出し美羅も行はる。靈巖・羅州間の二道道路南北に通じ、湖南本線梁山浦驛へは北方約一二軒あるも交通不便ならず。

シンボ 新北

【新北南】朝鮮京畿道楊州郡の略中央部。郡邑郡西面の北に接す。地略方形をなし、東西・南北各々八軒内外あり。西境には南部にある國範峯(七六四米)の山嶺北方に連り、西南隅に峙つ旺方山(七三三米)の山肢は西南境より面の中部を東北に延びて一〇〇米内外の丘地となり、東境に

シンボ 新北

【新北西】朝鮮全羅南道靈巖郡の北部。東北部は北方に延びて羅州郡の細枝、旺谷・潘南三面に圍まる。面積約四四方軒。東南隅に白龍山(四一八米)あり、西南部東北部にも一〇〇・二〇〇米の丘陵あり、其間に低地ありて中部の平地に連り、農産に米・麥・豆類、棉花を出し美羅も行はる。靈巖・羅州間の二道道路南北に通じ、湖南本線梁山浦驛へは北方約一二軒あるも交通不便ならず。

横はることを得る天興の良港なり。舞鶴の名稱の起源は古き歴史を有するも、新舞鶴は舞鶴守府開港と共に起りたる名稱にして、即ち領守府を基本とし地域を東西に分ち東を新舞鶴、西を中舞鶴と呼稱す。舊名を踏襲せる舞鶴町は中舞鶴を距る西方約四軒の地點にありても田邊町と稱する特別町なりしが、現在は新舞鶴町・中舞鶴町と共に三町鼎立の状態なり。舞鶴灣は二箇の袋を一括し之を撰り分けたるが如く、恰も鶴の兩翼を張りて舞ふ如き形状をなし、西を舞鶴港東を新舞鶴港と稱す。當港は古來自來濱と呼ばれし漁港なりしが、廻船輸出港としても遠く北海道沿岸と通商を營み來り。明治三十四年舞鶴軍港の設置以來、一般船舶の出入は禁ぜられ商港たるの跡を斷ちしが、大正十一年海軍軍備縮小に伴ふ町是の革新と海軍當局の船舶出入禁止開放とに因り、再び商港として舞鶴港と併立するに至れり。以來港灣設備に努め臨港鐵道の敷設岩壁の修築海底の浚渫と大倉庫・荷揚場の急設等諸般の施設に盡す。本港は本邦商工業の中心地たる大阪及び京都・神戸の三大都市を背後に控へ、濠洲を隔てて滿洲港に對し、東は北陸沿岸を経て北海道・樺太に掛り、西は物産豊饒なる北滿・朝鮮に接し、それらに通ずるに地の利を占め鐵路甚だ近捷なり。朝鮮郵船株式會社・神戸島汽船株式會社・大阪商船株式會社・北國汽船株式會社

社等の船舶、大正十二年以來北海道・朝鮮等の各地と定期航路を續け貨物の集散著しく増加し、昭和五年度より乙種重要港灣に指定せらるると共に、鐵筋コンクリートによる京都府棧橋が架設され一萬噸級の大型船を易々と横付けするに至れり。なほ商港として特筆すべきことは東日本に於ける港灣中唯一の波浪なき港灣にて海軍當局の了解により海水浄水の分譲及船舶修繕等の恩恵あり。本町は陸上に於ても山陰・北陸兩線の連絡驛あり、京阪地方及北陸各地との交通極めて便利にしてなほ海岸に連する臨港専用鐵道は昭和五年四月より鐵道省線となり、新舞鶴港驛を開設し貨物取扱を開始し、交通運搬日盛況を呈しつつあり。町内に新舞鶴郵便局(二等局)・市場(北越(三等局)の三郵便局あり)通信の施設も完備せり。本町は元來軍港を主とする町なりしが、町民の大部分は海軍關係の従業員多之を占め、産業として見るべきものなかりし大正十二年以來漸く産業盛んとなり、現今に於ては製材・製板・製鉛・織物工場・製糖・生絲・鐵工場・煉炭・被服等の製造業増加し、尙無味津干の生産近年著しく勃興し年産額十萬圓に達し將來有望の産業たり。

**シンマチ 新町**  
 【新町】大阪の遊里。寛永年中大阪に散在せし遊女を集め一廓となりたる地。旗本町・佐渡島町(名、越後町)・新堀町・新宮町・九軒町等より成る。現今西區新町通・新町南北通。櫻華漫筆「或人の曰、島原・吉原・新町を三廓といふ事、皆人のしる所也」傾城色三味線・大阪巻「ない銀を遣ひたり、透さへあれば新町に出かけ、阿波座の采女といへる、或奴取の女郎にあひなれ云々」  
**シンマル 神丸村** 石川縣加賀國能登郡の西南部。手取川の支流の上流に沿ふ。南は福井縣大野郡に界す。面積八三・七五方軒の大村。越前・加賀の國境山脈の北斜面を占め、南境に大日山(一三六九米)・大日山(一三二〇米)等あり。東境四境、いづれもその支脈をなし村内に傾斜す。南境大日山より出づる谷川は村内を南西に傾して北流し手取川の支流となる。平地は殆んどなく、山地は森林繁茂し、林産を主とし温泉の産あり。

小松町より来る縣道、大日山を越え勝山町に至る山道及び東端白米村に通ずる花立越・白米越の二條の山道あるも交通便ならず。此地は近世、公邑にして所屬の郷なし。明治廿二年郡立村となる。村内に大藏(高さ九二米、幅一八米)・白藏(高さ五五米、幅一五米)其の他瀑布多し。  
**シンマン 新満面** 朝鮮咸鏡南道滿川郡の西南部。東西約二〇軒、南北約一六軒餘、略楕圓形をなし面積約二四四方軒。摩天嶺山脈南部支脈の山地にて中央北部に望岩山(一四九〇米)、中央部に望岩峰(一〇五七米)、東南境に望徳山(一〇〇一米)等聳りて殆ど山地をなす。大川の上支、一は東北山脈に、一は西部山間に發し、前者は東北の谷を東南に、後者は南部の谷を東方に流れ東境にて會流す。これらの川沿に狭長の各地ありて農耕作は米粟・神・大豆・薯等を産す。貞洞里は望徳山北麓の谷に位し事務所あり。三等道路は南方、咸鏡線の群仙驛(利原郡東面)・東は満川驛(波道面)に通ずるも交通なほ便ならず。  
**シンニ 身淵島** 一南面(朝鮮平安北道宣川郡)  
**シンニナト 新淡**  
 【新淡町】富山縣越中郡射水郡の北海岸。伏木町の東方約二軒。射水川河口の右岸に沿ふ。北は牧野村、東は放生津潟あり。西北は射水川を距て伏木港に接す。面積四・三二方軒・富川郡に属す。富山

車上り四方町を距て社殿越中鐵道の便あり。新淡橋を渡り省縣新淡線に通過す。海岸に沿ひ伏木町に至る縣道も通過す。此地は和名抄、射水郡川口郷の内なるべく、近世は大袋庄に屬し伏木町と併せ新淡と稱せしことあり。中世には六渡寺と稱し、又放生津とも稱し、近世に至り再興して新淡と稱せり。蓋し此地は延喜式の日理湯の地なり。放生津とは、此の湯中古八幡宮領となり、その放生會を行ひしより起る。六渡寺とは、渡海に因み、また六道の語によりて僧院の名に命じ地名にも轉じたるものなるべし。源平盛衰記に六動寺の國府とあるは伏木町の古府なり。今も新淡町の西偏の伏木に對する岸邊を六渡寺と稱す。放生津潟は古の奈吳の浦・奈吳の江にして古へより歌枕として知られ、月・米・衛・鴨・鶴・菰・菅・釣・舟等の名所。萬葉一七、奈吳の海の沖つ白波しくしく思はえむかも立ち別れなば 大目暮忌す 同、東風いたく吹くらし奈吳の海人の釣する小舟漕ぎ 同、見ゆ 家持(放生津城)天文十四年長尾爲景兵を發し、先づ富山縣長を新川郡松倉城を攻めて陥れ、長驅して此城を攻む。たまたま徳大寺大納言實通京師の亂を避けて城中に在り害に遭ふ。永祿六年爲景の子謙信來り攻む。神保長職・惟名春種・江波五郎等連(職)大に敗る。謙信・五郎等の首を梶野に抛し、父爲景の體を斬ず。文祿年間には、前田氏兵臣

山崎比叟をして之を守らしめたり。太平記によれば元弘年間越中の守護名越時有出羽・越後の官軍京都へ攻上るを支へんとて、越中の二條なる所に陣したるに、六渡河に攻落されしと聞き、放生津なる味方の軍兵却て守護の陣に遊撃すと聞えしかば、越中を海中に沈め、上下七十九人二塚城中に自殺すとあり。(放生津八幡宮)大字放生津新町に鎮座。無社。祭神、神天皇。天平年間、國守大伴家持は奈吳浦(放生津の舊名)の湯を愛し豊前守佐八幡宮より勧請し奈吳八幡宮と稱す。正和年間、守護名越氏社殿を造營し神職を附し、神社社領を設け、永祿年間、兵變に罹り古記録賣物悉く灰燼に歸す。のち放生津城主神保氏・前田利長・同利常の崇敬を受く。弘化二年の火災に罹りしも崇教者・氏子等にて再建す。安政四年近衛忠房は神院の額面を奉納す。境内に家持碑あり。例祭、八月十五日。  
 【大聖寺】大字放生津新町にあり。淨土宗。政海大僧都の開基に係る。住古は七堂伽藍整備せる瓦葺たりしが、長享年中中央兵火に罹り、炭上、のち但阿上人に重りて再興す。寺寶として安阿彌・春日等の作阿彌陀木像・弘法大師作觀音菩薩像等あり。(妙蓮寺)大字放生津新町にあり。眞宗本願寺派。初め教習所にして増山城主藤川家の菩提所たりき。文明二年住持蓮如上人に歸依して現宗に改む。  
 【新橋】省縣北陸線の一部。富山縣の

西北部射水郡にありて富山縣界に當り。省縣中越前郡神戶町より分れて東方新淡町大字六渡寺の新淡線に至る。全長三・六軒。大正七年に開通し新淡線にて社線越中鐵道に接續す。  
**シンニヨース 神明津** 愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年他區村と共に廢し長岡村を成く。  
**シンメー 神明**  
 【神明村】富山縣越中郡射水郡の中部。東は神通川を距て富山市に相對す。面積三・六四方軒。神通川の沖積地にして富山平野の中部に位し、地味豊沃、灌溉排水の利多く水田よく拓け、外に富山市に供給する蔬菜を栽培す。富山市に至る街道は村の南東部神通川上に架橋をなしバスを通じ交通便なり。この地古くは和名抄、越前郡川合郷の内にて、近世は富川郷に屬す。  
 【神明村】福井縣越前國今立郡の最北端。北は丹生郡、東は足羽郡に連る。山は千草の生茂れる琵琶山と西南部舟津村との界に三太山あるのみにて、概ね土地平坦豊饒に富し田畑拓け、米作を第一とし茄子・胡瓜等は桃梨等の果物をも産す。また瓦は特に有名にて織物工業も目を逐て盛となる。醸造業としては醬油あり。村名は縣社神明社より生ずといふ。國道北陸道は勝江より入りて水落・岡野を経て新井市に至る。社線福武電鐵は國道

と北行し其の南端に水落の神明社と通じ武生に至る。社線電鐵は東端江より本村に入り福武電鐵の神明驛にて交り水落驛を設け西して越前に出る。昔此地は廣漠たる林野をなし鳥野と稱して北陸道の重要地點をなし陣屋等を置く。即ち木曾義仲の旗陣連(水落の西方)・梶原房之の屋敷跡(田所の東方)・朝倉右京亮の屋敷(東島利)等あり。(神明社)大字水落に鎮座。無社。祭神、天照大神・菅原道成。安原天皇御宇に勧請すと云ふも定かならず。古くは中河村神明山の湯花に鎮座せしが、大治四年越前押領使國貞これを現社地に遷座すといふ。國主代々の崇敬にして、式内同太神社は當社なりと口碑に傳ふ。九月十八日の例祭には參詣人極めて多し。  
 【神明】東京市本郷區弘明社附近の略地名。現在、その三葉地を併稱す。  
 【神明】東京市芝神町附近の略地名。  
 【神明】江戸時代は此處にありし開場所の俗稱として通用さる。今も持合・藝者屋あり。男色樓の地としても有名なり。神明宮の前通は神明前と稱す。古くは神明の前。日本水代藏・五、細工利の半内は芝の神明の前にて紙幣敷ての小間物賣。  
 【神明村】三重縣志摩國志摩郡の南部。英虞郡北部の濱島灣に臨む。面積六・六三方軒。全村五〇米足らずの臺地起伏し南部、立神村との間に東方へ入りこめる濱島灣を抱き、西南部には賀島ありて灣